財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 第359集

泉沢谷津遺跡

昭和59年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告

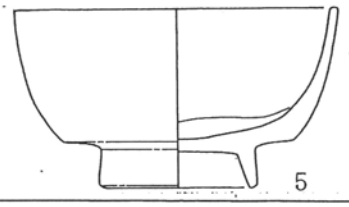
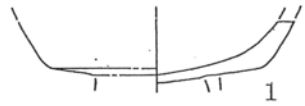
《本　文　編》

2005

群　馬　県　教　育　委　員　会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団第３５９集

泉沢谷津遺跡　　正誤表

頁など	誤	正
《本　文　編》		
P111	第100図－５号井戸－５の図面  	７号井戸－１の遺物番号に
P114	第103図－７号井戸－１の図面  	５号井戸－５の遺物番号に
《遺物観察表・写真図版編》		
P26	５号井戸－５木製品漆椀の記載内容	７号井戸－１の記載内容に
P27	７号井戸－１木製品漆椀の記載内容	５号井戸－５の記載内容に
ＰＬ45	５号井戸－５の写真	７号井戸－１の遺物番号に
ＰＬ46	７号井戸－１の写真	５号井戸－５の遺物番号に

《遺物観察表・写真図版編》Ｐ２に追加

番号	器種	出土状態	大きさ(cm)	①胎土②焼成③色調④残存
８７	深鉢	Ｍ－5Ｇ	底9	①良好②良好③鈍い黄橙10YR④底破片

泉沢谷津遺跡

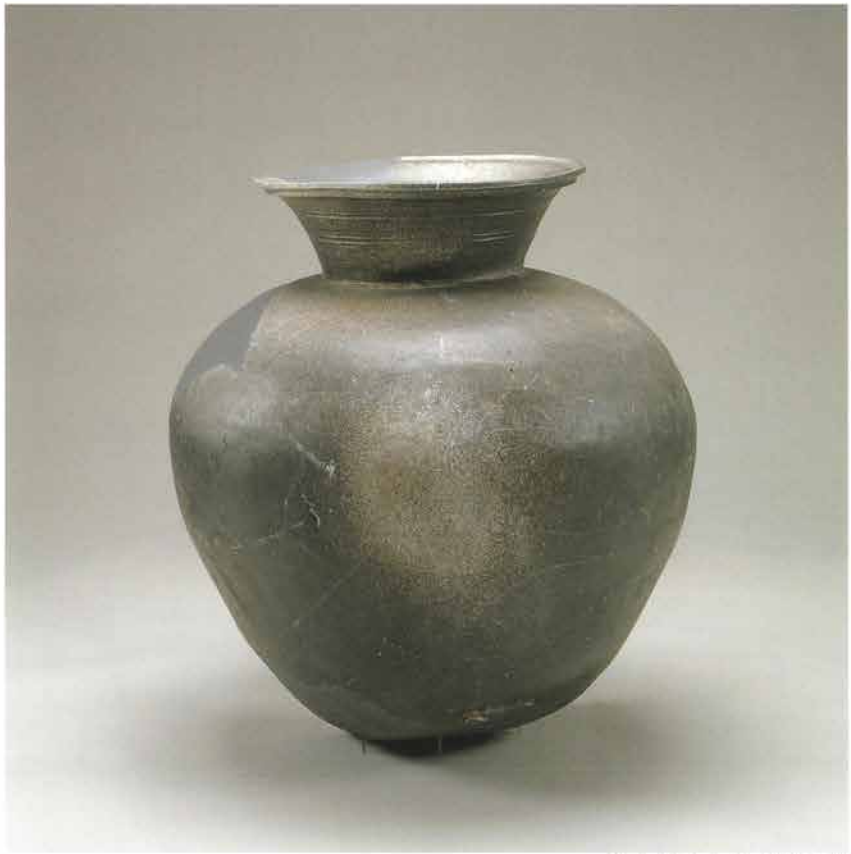
昭和59年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告

《本　文　編》

2005

群　馬　県　教　育　委　員　会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

10号住居出土土器



1号土坑出土須恵器大甕

序

前橋市の東南隅に位置する旧荒砥村の一帯は、荒砥地区と呼ばれています。

この地域では、昭和49年から県営圃場整備事業が行われました。広大な地域におよぶ圃場場整備事業は、群馬県内はもとより、全国でも屈指の対象面積となりました。加えてこの地域は、縄文時代から平安時代にまでいたる大集落、古墳群、未完の用水路『女堀』など群馬県内でも有数の遺跡密集地でありました。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団では、発足したその年の昭和53年度より、荒砥南部地域の圃場整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に係わってまいりました。昭和56年度からは荒砥北部の圃場整備事業に伴う発掘調査にも係わり、本書で報告する昭和59年度の泉沢谷津遺跡にいたるまで、数多くの遺跡調査に携わりました。

荒砥北部の圃場整備事業で発掘調査された遺跡の整理事業は、平成５年度から始められました。本書『泉沢谷津遺跡』では、縄文時代と古墳時代の集落、３基の古墳などを報告いたします。特に、多量に出土した古墳時代の炭化米は、豊富な当地域の埋蔵文化財資料に新たな知見を加えるものとなりました。

『泉沢谷津遺跡』は、荒砥北部地区の圃場整備事業に係わる12冊目の発掘調査報告書となります。そして本書の刊行をもちまして、長年にわたる調査・整理事業に終止符が打たれます。これは、群馬県農業局（旧農政部）、群馬県教育委員会文化課、前橋市教育委員会の皆様のご指導・ご尽力の賜物であります。この間、地元の方々からは一貫して変わらぬご理解・ご支援を頂きました。深く感謝の意を表します。

最後に、本報告書がこれまでに刊行されている他の報告書とともに、地域の歴史解明のため多くの人々によって活用されることを願い、序といたします。

平成17年９月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　高橋勇夫

例　言

1．本書は1984（昭和59）年度の県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う泉沢谷津遺跡の発掘調査報告書である。

2．泉沢谷津遺跡は、群馬県前橋市泉沢町126－3番地を中心としている。遺跡名は、遺跡の所在する町名である「泉沢（いずみさわ）」に、字名の「谷津（やつ）」を付して「泉沢谷津」とした。なお、本報告書の刊行に先立ち群馬県教育委員会が刊行した『村主遺跡　谷津遺跡』の谷津遺跡とは同一の遺跡である。

3．発掘調査は、群馬県農政部、前橋土地改良事務所・群馬県教育委員会の委託により、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。発掘調査時の組織体制は次の通りである。

期　　間　1985（昭和60）年2月1日～1985（昭和60）年3月29日
管理・指導　白石保三郎、梅澤重昭、松本浩一、大沢秋良、神保侑史
事務担当　定方隆史、国定　均、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏
野島のぶ江、吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子
調査担当　石坂茂、飯田陽一、徳江秀夫

4．発掘資料の整理および報告書の作成は、群馬県教育委員会の委託により、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書の作成期間・体制は次の通りである。

期　　間　2003（平成15）年4月1日～2004（平成16）年3月31日
および2005年（平成17）1月1日～2005年（平成17年）6月30日
管理・指導　小野宇三郎、住谷永市、木村祐紀、神保侑史、津金沢吉茂、萩原利通、矢﨑俊夫、右島和夫、中束耕志、西田健彦、植原恒夫、丸岡道雄、宮前結城雄、相京建史
事務担当　高橋房雄、竹内　宏、石井　清、須田朋子、吉田有光、今泉大作、栗原幸代、清水秀紀、佐藤聖行、阿久沢玄洋、田中賢一、今井もと子、内山佳子、若田　誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、松下次男、吉田　茂
編　　集　徳江秀夫、飯田陽一
本文執筆　石坂　茂（4章－2節）、飯田陽一（6章－2～4節）、5章－委託、徳江秀夫（左記以外）
遺構写真　調査担当者　　遺物写真　佐藤元彦
遺物観察　石坂（縄文時代遺物）、飯田（中近世遺物）、徳江（左記以外）
保存処理　関　邦一、土橋まり子、小材浩一
器械実測　富沢スミ江、伊東博子、岸　弘子、廣津真希子
資料整理　桑原恵美子、高梨房江、小菅優子、小池　縁、嶋﨑しづ子、高橋初美、飯田美和
中橋たみ子、松井さえ子、吉川えり子、高橋裕美、宮沢房子、大島　緑、小池益美
委託関係　㈱測研、原沢ボーリング株式会社、㈱パレオ・ラボ、㈱古環境研究所、小川忠博（口絵写真）

5．石材同定にあたっては飯島静雄氏（群馬県地質研究会）にご教示を得た。

6．発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご助言を得た。記して感謝の意を表したい。
井上唯雄、内田憲治、鹿田雄三、関口功一、中束彰子、前原　豊（敬称略）
群馬県農政部土地改良課　群馬県農政部前橋土地改良事務所　荒砥北部土地改良区　群馬県教育委員会
なお、整理作業において事業団職員の岩崎泰一、大江正行、大西雅広、小島敦子、楢崎修一郎、新倉明彦、原　雅信、藤巻幸男から助言を得た。

7．出土遺物および図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財センターおよび財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が保管している。

凡　　例

1．本調査に用いたグリッドは、調査区全体をカバーできるように設定し、５ｍ×５ｍを一単位とした。グリッドの呼称は、北西コーナーの交点をＡ－０とし、西から東方向に向かってＡ、Ｂ、Ｃ・・・、北から南方向に向かって０、１、２、３・・・とし、Ａ－１のように呼称した。

2．本書における遺構番号は、調査時に付されたものをそのまま使用した。

3．遺構図の中で使用した北方位は、工事用の杭を使用したため、真北から東へ２°傾いている。但し、文章中で記載した方位は真北へ修正した値を示している。

4．本書で使用した国家座標は、日本測地系によるものである。

5．遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付すか、遺物番号に縮率を併記した。

遺構図　竪穴住居・掘立柱建物１：60　住居竈１：30　井戸１：60　土坑１：60　溝断面図１：50
古墳１：100　古墳石室１：40

遺物図　縄文土器１：３　その他の土器１：４　陶磁器１：３　石器・石製品１：３　大型石器１：６
小型石器１：１

6．遺物番号は本文・挿図・表・写真図版と一致する。

7．図中で使用したスクリーントーン・インレタは以下とおりである。

遺構図　古墳の床石部分

遺物図　陶磁器の施釉部分

灰釉・透明釉　飴釉　銅緑釉　鉄釉薬

8．面積は、住居の上端をプラニメーターを用いて３回測定し、その平均値を記した。なお、竈部分についてはこれから除いている。

9．挿図中の方位は調査時に使用したグリッドの準拠したものであるが、本文中の軸方向記載で用いた方位には、真北を用いた補正を行っている。

10．遺物の重量の計測にあたっては、10ｇまでは0.1ｇ単位、6000ｇまでは１ｇ単位、20kgまでは50ｇ単位、20kg以上は100ｇ単位の秤を使用して計測した。

11．各地図の使用は以下のとおりである。

第１図　国土地理院発行、20万分の１地勢図（長野・宇都宮）

第２図　前橋市土地改良事務所発行、県営圃場整備事業荒砥北部地区計画概要

第３図　『群馬県史』通史編１付図を簡略化した『荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ』第５図を修正して使用。

第４図・第10図、前橋市発行、昭和49年測図現形図47

第５図　国土地理院発行、２万５千分の１地形図（大胡）

第９図　第129図　前橋市発行、平成10年側図現形図47

目　次

口　絵
序
例　言
凡　例
目　次
挿図目次
表目次

第1章　調査に至る経過
第1節　県営圃場整備事業と発掘調査の経過…1
第2節　調査に至る経緯……3
第2章　遺跡の立地と環境
第1節　遺跡の位置と地形……4
第2節　周辺の遺跡……6
第3章　発掘調査の方法と経過
第1節　発掘調査の方法……13
第2節　調査の経過……13
第3節　遺跡の基本土層……16
第4章　調査された遺構と遺物
第1節　調査の概要……17
第2節　縄文時代の遺構と遺物
（1）竪穴住居……18
（2）土坑……22
（3）遺構外出土の縄文時代遺物……23
第3節　古墳時代の遺構と遺物
（1）竪穴住居
1号住居……33
2号住居……36
3号住居……40
4号住居……45
5号住居……48
6号住居……51
7号住居……54
8号住居……57
9号住居……61
10号住居……64
11号住居……72
12号住居……76
13号住居……79
（2）古墳
1号墳……83
2号墳……89
3号墳……93
（3）土坑
1号土坑……97
第4節　近世以降の遺構と遺物
（1）掘立柱建物
1号掘立柱建物……100
2号掘立柱建物……101
3号掘立柱建物……102
5号掘立柱建物……102
4号掘立柱建物……104
6号掘立柱建物……105
（2）井戸
1号井戸……106
2号井戸……107
3号井戸……108
4号井戸……109
5号井戸……110
6号井戸……113
7号井戸……113
（3）土坑
3号土坑……116
4号土坑……116
5号土坑……117
6号土坑……117
7号土坑……118
8号土坑……118
10号土坑……119
（4）火葬跡
11号土坑……119
（5）溝

1号溝……120
2号溝……122
3号溝……122
4号溝……123
5号溝……123
（6）小穴群……125
（7）遺構外出土の遺物……126
第5章　分　　析
第1節　前橋市泉沢谷津遺跡出土のイネ種子のＤＮＡ分析……128
第2節　泉沢谷津遺跡10号住居跡出土炭化材の樹種同定……130
第6章　成果と問題点
第1節　古墳について……132
第2節　古墳時代集落の消長……134
第3節　その他の遺構について……134
第4節　炭化米について……135
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　泉沢谷津遺跡の位置…… 1
第 2 図　県営圃場整備事業荒砥北部地区と昭和59年度工事区…… 2
第 3 図　群馬県中央部の地形と泉沢谷津遺跡…… 4
第 4 図　泉沢谷津遺跡周辺の地形…… 5
第 5 図　泉沢谷津遺跡周辺の遺跡分布…… 7
第 6 図　縄文時代の遺跡分布……11
第 7 図　古墳時代中・後期の遺跡分布……12
第 8 図　泉沢谷津遺跡調査区の設定……13
第 9 図　泉沢谷津遺跡調査区の位置（調査時）……14
第10図　泉沢谷津遺跡調査区の位置（現状）……15
第11図　基本土層……16
第12図　14号住居……19
第13図　14号住居出土土器……20
第14図　14号住居出土石器……21
第15図　9号土坑と出土遺物……22
第16図　縄文時代遺物出土状況……23
第17図　遺構外出土の縄文土器（1）……25
第18図　遺構外出土の縄文土器（2）……26
第19図　遺構外出土の縄文土器（3）……27
第20図　遺構外出土の縄文土器（4）……28
第21図　遺構外出土の縄文土器（5）……29
第22図　遺構外出土の縄文土器（6）……30
第23図　石器石材グラフ……30
第24図　遺構外出土の縄文時代石器（1）……31
第25図　遺構外出土の縄文時代石器（2）……32
第26図　1号住居……34
第27図　1号住居出土遺物……35
第28図　2号住居……36
第29図　2号住居竈……37
第30図　2号住居出土遺物（1）……38
第31図　2号住居出土遺物（2）……39
第32図　3号住居（1）……40
第33図　3号住居（2）……41
第34図　3号住居竈……42
第35図　3号住居出土遺物（1）……43
第36図　3号住居出土遺物（2）……44
第37図　4号住居……45
第38図　4号住居竈……46
第39図　4号住居出土遺物……47
第40図　5号住居……48
第41図　5号住居竈……49
第42図　5号住居出土遺物……50
第43図　6号住居……51
第44図　6号住居竈……52
第45図　6号住居出土遺物（1）……53
第46図　6号住居出土遺物（2）……54
第47図　7号住居……55
第48図　7号住居竈と出土遺物（1）……56
第49図　7号住居出土遺物（2）……57
第50図　8号住居（1）……58
第51図　8号住居（2）と竈……59
第52図　8号住居出土遺物（1）……60
第53図　8号住居出土遺物（2）……61
第54図　9号住居……62
第55図　9号住居竈と出土遺物（1）……63
第56図　9号住居出土遺物（2）……64
第57図　10号住居（1）……65
第58図　10号住居竈……66
第59図　10号住居（2）と出土遺物（1）……67
第60図　10号住居出土遺物（2）……68
第61図　10号住居出土遺物（3）……69
第62図　10号住居出土遺物（4）……70
第63図　10号住居出土遺物（5）……71
第64図　10号住居出土遺物（6）……72
第65図　11号住居竈……73
第66図　11号住居……74
第67図　11号住居出土遺物……75
第68図　12号住居（1）……76
第69図　12号住居（2）……77
第70図　12号住居出土遺物……78
第71図　13号住居竈……79
第72図　13号住居……80
第73図　13号住居出土遺物（1）……81
第74図　13号住居出土遺物（2）……82
第75図　1号墳出土遺物……84
第76図　1号墳……85
第77図　1号墳横穴式石室（1）……86
第78図　1号墳横穴式石室（2）……87
第79図　2号墳（1）……88
第80図　2号墳（2）……89
第81図　2号墳横穴式石室（1）……90

第82図　2号墳横穴式石室（2）……91
第83図　2号墳出土遺物……92
第84図　3号墳……94
第85図　3号墳横穴式石室（1）……95
第86図　3号墳横穴式石室（2）と出土遺物……96
第87図　1号土坑……97
第88図　1号土坑出土遺物（1）……98
第89図　1号土坑出土遺物（2）……99
第90図　1号掘立柱建物……100
第91図　2号掘立柱建物……101
第92図　3号掘立柱建物……102
第93図　5号掘立柱建物……103
第94図　4号掘立柱建物……104
第95図　6号掘立柱建物……105
第96図　1号井戸……107
第97図　2号・3号井戸……108
第98図　4号井戸と出土遺物（1）……109
第99図　4号井戸出土遺物（2）……110
第100図　5号井戸と出土遺物（1）……111
第101図　5号井戸出土遺物（2）……112
第102図　6号井戸……113
第103図　7号井戸と出土遺物（1）……114
第104図　7号井戸出土遺物（2）……115
第105図　3号・4号土坑……116
第106図　5号・6号土坑と出土遺物……117
第107図　6号土坑出土遺物……118
第108図　7号・8号土坑……118
第109図　10号土坑と出土遺物・11号土坑……119
第110図　1号溝……120
第111図　1号溝出土遺物（1）……121
第112図　1号溝出土遺物（2）……122
第113図　2号溝……122
第114図　3号溝……123
第115図　4号・5号溝と4号溝出土遺物（1）……124
第116図　4号溝出土遺物（2）……125
第117図　小穴群……126
第118図　遺構外出土の遺物……127
第119図　住居の軸方向……134

表目次

第1表　県営圃場整備荒砥北部地区における
昭和59年度埋蔵文化財発掘調査一覧……3
第2表　泉沢谷津遺跡・谷津遺跡発掘調査一覧……3
第3表　県営圃場整備荒砥北部地区に係わる埋蔵文化財発掘調
査報告書一覧……3
第4表　周辺遺跡の概要……8～10
第5表　縄文時代石器の器種と石材……24
第6表　掘立柱建物計測表……106
第7表　炭化米サンプルのサイズ……128
第8表　炭化材同定結果一覧……131
第9表　炭化米　長さ／幅　対比表……136
第10表　炭化米計測表……137

第１章　調査に至る経過

第１節　県営圃場整備事業と発掘調査の経過

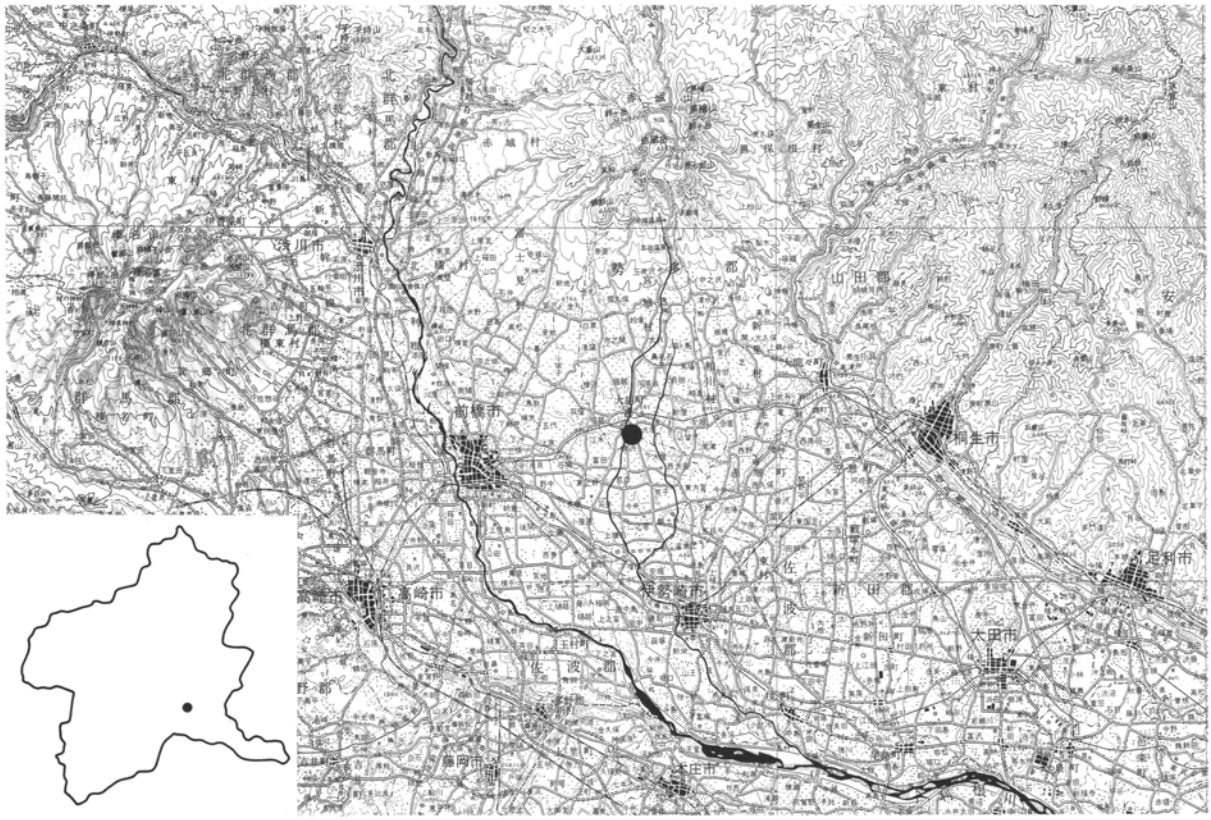
ここに報告する泉沢谷津遺跡は、群馬県前橋市の東南部、旧荒砥村地域で実施された県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴って発掘調査された遺跡の一つである（第１図）。

荒砥北部地区において圃場整備事業が実施されたのは1981（昭和56）年から1991（平成３）年にかけてのことであり、その範囲は前橋市と合併する以前の旧荒砥村地域の内、荒口町、荒子町、泉沢町、下大屋町、西大室町、二之宮町にまたがる地域で、総事業量の対象面積は821haに及んだ。

圃場整備事業の対象地内には多数の古墳群や女堀遺跡をはじめとした周知の遺跡が多数存在し、古くから考古学的に著名であり、注目されてきた地域である。

荒砥北部地区の圃場整備事業が実施されるにあたっては、群馬県農政部と群馬県教育委員会との間で、文化財の保護を前提とした協議がなされた。その結果、埋蔵文化財の包蔵地が圃場整備事業の対象区域から除外することが不可能であり、かつ、事業の実施により埋蔵文化財が破壊される区域においては、事前に発掘調査を実施することとなった。これらの地域における発掘調査は、原則として、新たに計画される道・水路や低・台地の切土部分を対象とすることで合意された。

当該事業に係わる発掘調査は、1981（昭和56）年度から1984（昭和59）年度まで群馬県埋蔵文化財調査事業団が対応してきたが、調査量の増加に伴い、1982（昭和57）年度以降の発掘調査は事業団と群馬県教育委員会が分担した。1985（昭和60）年度以降の調査は、群馬県教育委員会と荒砥北部遺跡群調査



第１図　泉沢谷津遺跡の位置（１／400,000）

第２図　県営圃場整備事業荒砥北部地区と昭和59年度工事区

会に引き継がれ、1991（平成３）年度で終了した。

泉沢谷津遺跡を調査した1984（昭和59）年度は、県営圃場整備事業荒砥北部地区の第２工区、泉沢町・荒子町・下大屋町地内が事業対象地域であった（第2図)。この年は、第１表に記したとおり、本遺跡のほかに群馬県教育委員会が上西原遺跡の調査を実施した。また、群馬県教育委員会は、本調査に先立って圃場整備対象地内の試掘調査を実施している。

本書で報告する泉沢谷津遺跡は、古墳時代から近世までの複合集落遺跡および古墳群の一画にあたる。調査は、切り土部分・新設の道水路部分を対象として実施され、調査面積は、8,300㎡であった。

群馬県埋蔵文化財調査事業団は、調査を実施した８遺跡について群馬県教育委員会の委託を受け1993

（平成５）年度から整理事業を実施し、2004（平成16）年度までに第３表のとおり８遺跡11冊の発掘調査報告書を刊行している。途中に中断を挟んでいるが、本年度がその最終年度にあたる。

第１表　県営圃場整備荒砥北部地区における昭和59年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

工　事	遺　跡　名	調査主体	調　査　担　当　者	面　積	期　　間
２工区	試掘	群馬県教育委員会	徳江　紀・真下高幸・西田健彦 松田　猛	6,200㎡ 前年度含	1984（昭和59）年12月１日 ～1985（昭和60）年１月31日
２工区	泉沢谷津遺跡	群馬県埋蔵文化財調査事業団	石坂　茂・飯田陽一・徳江秀夫	8,300㎡	1985（昭和60）年２月１日 ～1985（昭和60）年３月24日
２工区	上西原遺跡	群馬県教育委員会	徳江　紀・真下高幸・西田健彦 松田　猛	3,000㎡	1985（昭和60）年２月18日 ～1985（昭和60）年３月25日

第２表　泉沢谷津遺跡、谷津遺跡発掘調査一覧表

調査年次	遺　跡　名	調査主体	調　査　担　当　者	面　積	期　　間
昭和60年度	谷津遺跡	群馬県教育委員会	徳江　紀・真下高幸・西田健彦	3,470㎡	1985（昭和60）年10月１日 ～1985（昭和60）年11月２日
昭和61年度	谷津遺跡	荒砥北部遺跡調査会	折原洋一・桐谷　優	7,353㎡	1986（昭和61）年６月18日 ～1986（昭和61）年10月25日

第３表　県営圃場整備荒砥北部地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書一覧（群馬県埋蔵文化財調査事業団編集分）

No	事業団通番	報　告　書　名　称	編　集　者	刊行年月日
1	第178集	荒砥大日塚遺跡	菊池　実	1994（平成６）年３月
2	第193集	荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ	小島敦子	1995（平成７）年３月
3	第203集	荒砥上ノ坊遺跡Ⅱ	小島敦子	1996（平成８）年３月
4	第223集	荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ	小島敦子	1997（平成９）年３月
5	第243集	荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ	小島敦子	1998（平成10）年３月
6	第249集	荒砥下押切Ⅱ遺跡　荒砥中屋敷Ⅱ遺跡	菊池　実	1999（平成11）年３月
7	第265集	荒砥荒子遺跡	中沢　悟	2000（平成12）年３月
8	第304集	荒砥諏訪西遺跡Ⅰ	中沢　悟・徳江秀夫	2002（平成14）年10月
9	第315集	荒砥諏訪西遺跡Ⅱ　荒砥諏訪遺跡	徳江秀夫	2003（平成15）年３月
10	第324集	荒砥宮田遺跡Ⅰ	小島敦子	2003（平成15）年10月
11	第336集	荒砥宮田遺跡Ⅱ　荒砥前田遺跡	小島敦子	2004（平成16）年９月
12	第359集	泉沢谷津遺跡	徳江秀夫・飯田陽一	2005（平成17）年９月

第２節　調査に至る経緯

発掘対象地区は圃場整備事業以前の番地で、前橋市泉沢町字谷津126－３番地を中心としている。前橋東商業高校以南を範囲とした圃場整備事業の北端部分にあたる。調査時の遺跡名は、遺跡地の所在した泉沢町の町名である「泉沢（いずみさわ）」に、字名である「谷津（やつ）」を付して「泉沢谷津遺跡」とした。これは当事業団が荒砥地区の圃場整備事業に伴う遺跡調査の際に、事業名称の『荒砥』を遺跡名に冠してきた方針を変更し、当時事業団で行っていた遺跡名の命名の内規に則したものである。発見届をはじめとする事業団取り扱い文書、年報等の概要報告など一切において前記遺跡名で表記してきた。その後、同一遺跡と考えられる東側隣接地点の発掘調査を担当した群馬県教育委員会は2000（平成14）年刊行の報告書で当該調査区について「谷津遺跡」として報告している。また、1986（昭和61）年に荒砥北部遺跡調査会が、今回報告する遺跡の北側の５箇所で調査した部分についても「谷津遺跡」としてその概要を報告している。このことからすると、遺跡名の使用および認識に混乱が生じる恐れもあるが、従来の遺跡名も生かす形で、本報告の遺跡名については「泉沢谷津遺跡」としたい。調査内容からすれば今回報告の遺跡と群馬県教育委員会報告の「谷津遺跡」で検出された住居、古墳などは同一集落、同一古墳群を形成していたものと考えられる。

第２章　遺跡の立地と環境

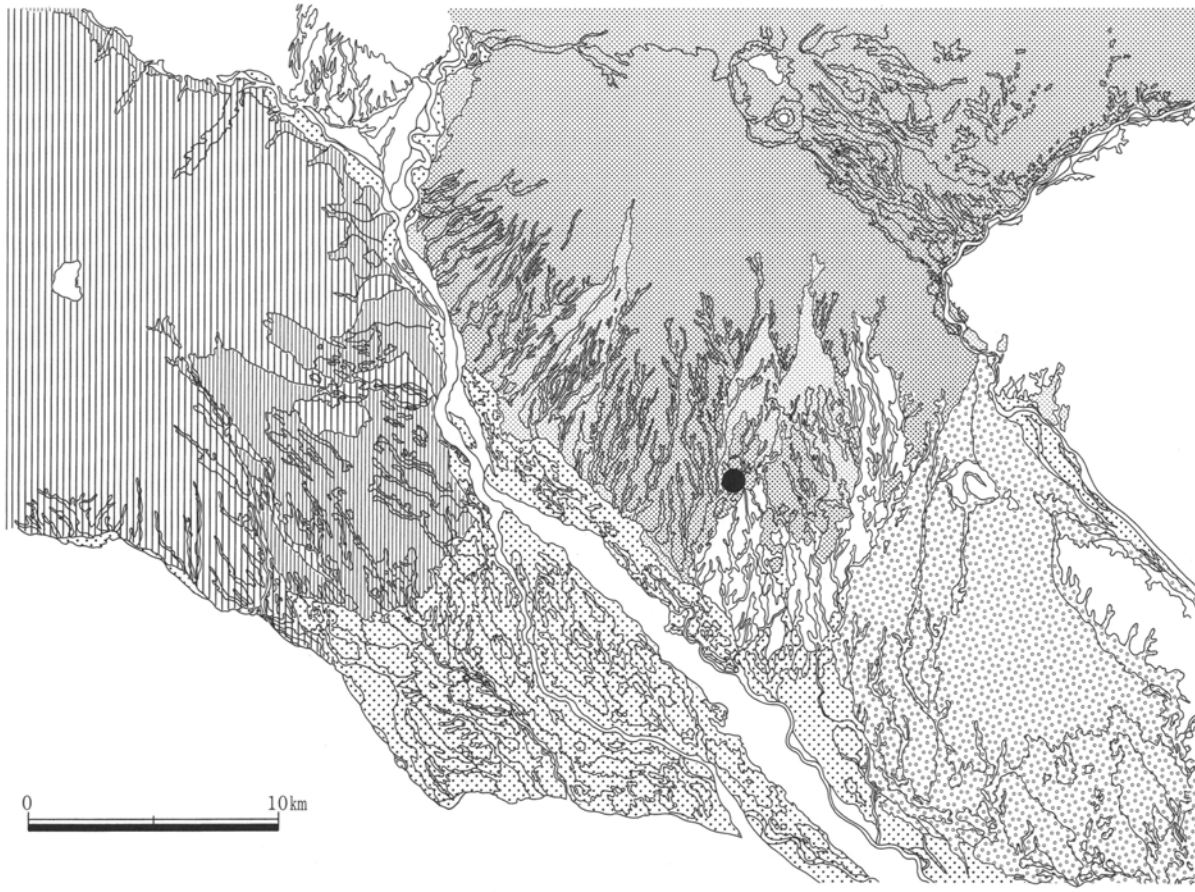
第１節　遺跡の位置と地形

泉沢谷津遺跡は、群馬県前橋市の東南部、泉沢町に位置し、ＪＲ両毛線の駒形駅から北北東に約5.5㎞の距離、私鉄上毛電鉄大胡駅から南方約１㎞の距離にある。

本遺跡は、群馬県の県央部東側に位置する赤城山南麓に形成された火山麓扇状地端部上に立地する。一帯では山麓を流下する荒砥川、神沢川、宮川、江龍川などの河川や台地端部からの湧水により火山麓扇状地に樹枝状の開析が進み、台地と沖積地が複雑に入り込む地形が形成されている。特に荒砥北部地区では帯状の沖積地が発達し、起伏に富んだ地形が広がっている。荒砥川以西は同じ赤城山の山体でも基底に大胡火砕流が堆積する面である（第３図）。

本遺跡周辺の基盤層は赤城山起源の泥流層である。地表面はローム台地の原形面、砂壌土からなる微高地、沖積地に分類される。ローム台地に付随するように存在する微高地は、縄文時代早期から前期にかけて、赤城山の山体が降雨災害等によって崩壊し、河川の運搬作用の結果、流速が衰える山麓端部に再堆積することにより形成されたと考えられている。

泉沢谷津遺跡は利根川の支流、荒砥川の左岸に位置している。北側には旧流路と思われる谷地形が北東側から南西側にむかって広がり、荒砥川につながっている。遺跡付近は南北方向に半島状に延びたローム台地上にあたる。東西両縁には湧水により開析された幅狭な沖積地が延びていて、現状は水田となっている。遺跡地は水田面から５ｍ前後の比高差がある。標高は136～140ｍを測り、南側に向かって緩やかに傾斜している。今回の調査地点はローム台地の中程にあたる（第４図）。



第３図　群馬県中央部の地形と泉沢谷津遺跡

第４図　泉沢谷津遺跡周辺の地形（１／5,000）

第２節　周辺の遺跡

ここでは泉沢谷津遺跡で検出された遺構・遺物を理解するために、周辺の歴史的環境についてふれておきたい。概観する範囲は、荒砥地区とこれに隣接する大胡地区南部、荒砥川右岸の桂萱地区の一部を含めるが、荒砥川以西については現時点では地域内の遺跡分布の在り方を正しく反映させるほどの調査事例がない（第５図）。

本遺跡においては縄文時代中期の竪穴住居を検出した。周辺の遺跡動向を見ると前期前半と中期後半に増加する傾向が認められる。

中期後半の集落としては荒砥地区内では荒砥北原遺跡、今井白山遺跡、荒砥前原遺跡、荒砥二之堰遺跡、二本松遺跡、富田漆田遺跡が知られている。大胡地区では上ノ山遺跡、西小路遺跡、天神風呂遺跡群、諏訪東遺跡、甲諏訪遺跡がある。いずれの遺跡も低平な台地に占地する傾向が見られ、集落の規模は、中・小規模の事例が大半で、継続性の著しい大規模集落の形成は確認されていない状況である。

弥生時代中期後半から後期の遺跡は、沖積地を臨む台地縁辺や微高地上に立地している。この時期には居住域に接した沖積地の一部を生産域とする小規模な集落が形成されていたと考えられる。

古墳時代初頭から前期の集落は、弥生時代後期の遺跡分布からは一転、きわめて濃密な分布状況を呈する。集落遺跡の分布は、荒砥地区のほぼ全域におよんでいる。そして、その分布は大胡地区にも見られ茂木山神Ⅱ遺跡、上ノ山遺跡、中宮関遺跡なとが調査されている。それらの集落は、小河川の流域ごとにほぼ一定の間隔をおいて形成されており、小河川に沿って、あるいは小河川の合流点を臨む台地縁辺や沖積地の谷頭周辺に立地している。小河川の流水や谷頭からの湧水に依拠して生産域を維持していたと思われる。また、この時期の集落には近接して周溝墓群が築造される事例が多い。その中には前方後方形周溝墓が含まれることもある。

多数の集落の存在が確認されているのに対し、現在のところ前期古墳の存在は知られていない。本地域における前方後円墳の出現は、５世紀後半の今井神社古墳の築造を待たなければならない。

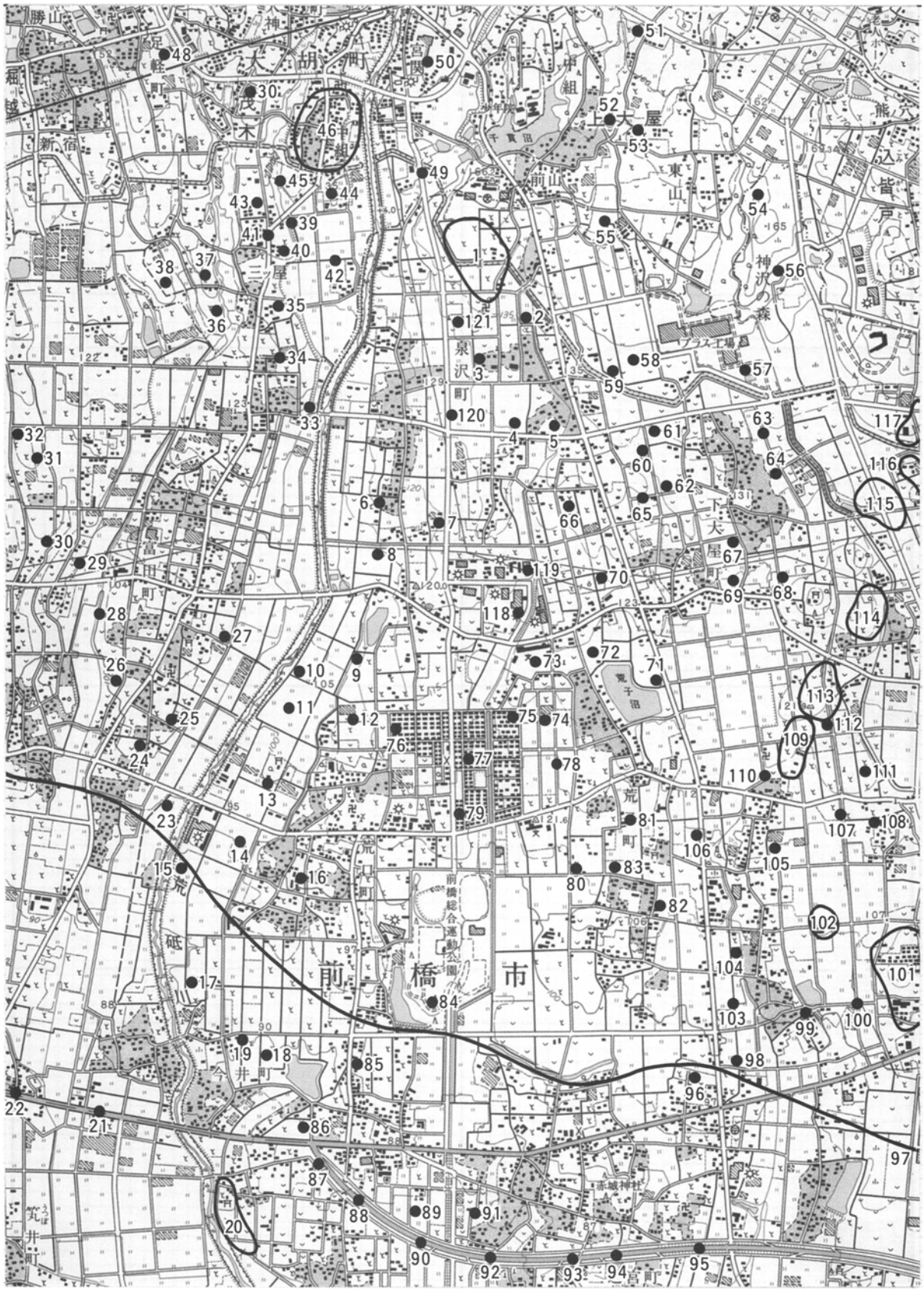
前期の集落の多くは中・後期に継続し、「伝統集落」となる。中・後期になると前期からの集落は占地の範囲を多少変えながら継続する。それとともに新たな地点に「第一次新開集落」の形成がなされる。荒砥天之宮遺跡や荒砥北三木堂遺跡などに代表される集落である。こういった集落変遷の背景には従来からの河川灌漑の整備とともに荒砥天之宮遺跡で検出された溜井の掘削に見られる湧水を人為的、かつ積極的に利用するといった灌漑土木技術の導入とそれに支えられた生産域の拡大があったと考えられる。

中期の集落としては宮川上流域に丸山遺跡、北原遺跡、柳久保遺跡群が、荒砥川流域に荒砥宮田遺跡、荒砥前田Ⅱ遺跡がある。これらは前期から継続する遺跡である。宮川下流域では荒砥北三木堂遺跡や荒砥天之宮遺跡があるが、これらは５世紀後半になってから集落の形成が開始された遺跡である。

本遺跡の周辺でも寺東遺跡、寺前遺跡、東前田北遺跡、東原西遺跡などで小範囲の調査例ではあるが、当該時期の住居が少数検出されており、泉沢谷津遺跡の集落形成開始前、あるいは同時期の遺跡動向を知ることができる。これらの集落も水田耕作を基盤にしていたと考えられるが、周辺における水田調査の事例がほとんど見られないことから居住域と生産域の対応関係を知ることはできない。

また、この時期、荒砥荒子遺跡や梅木遺跡、丸山遺跡で検出された方形区画遺構は、５世紀代、首長層の居宅と考えられるが、このような遺構の存在は古墳に見られる被葬者の複層性が居住施設にも現れたものと思われる。丸山遺跡の方形区画では堀と柵列が廻る内部から５世紀前半の竪穴住居が検出されており、荒砥川左岸における拠点的集落であったと見ることができよう。

６世紀に集落が形成された遺跡としては荒砥宮田遺跡、荒砥北原遺跡、柳久保遺跡群、大久保遺跡、北原遺跡、丸山遺跡、新山遺跡などをあげることが



第５図　泉沢谷津遺跡周辺の遺跡分布（１／25,000）

第４表　周辺遺跡の概要

No	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳			奈	平	中	近	その他の遺構・遺跡の概要
			草	早	前	中	後晩	中後	前住墓生	中住墓生	後住墓生	住	住生	世	世	
1	泉沢谷津・谷津遺跡				○		●		□	○	○○			○	○	縄文中期土坑、方形周溝墓２、古墳15
2	寺東遺跡									○						
3	寺前遺跡									○						
4	東前田北遺跡									○	○			○	○	中・近世塚
5	東原西遺跡									○						
6	丸山遺跡				●				○◎	○	○					縄文住居・土坑、古墳時代中期居宅
7	新山遺跡								□	○	○					方形周溝墓２、古墳３
8	北原遺跡			●					○◎	○	○○		○			円形周溝墓２、古墳１
9	諏訪遺跡								□							方形周溝墓13、As－B以前の溝
10	諏訪西遺跡								○	○	○					時期不明古墳２
11	荒砥諏訪西遺跡				●	●	●		○ ▲		○○		▽	○	○	古墳３、中･近世溝･土坑
12	荒砥諏訪遺跡	●							□							方形周溝墓５、As－B以前の溝
13	荒砥宮田遺跡			●	○	●	●		○□	○	○○	○	○▽	○	○	縄文前期土坑、方形周溝墓１、古墳１、中･近世溝･土坑
14	荒砥前田遺跡												▼	○	○	
15	荒砥前田Ⅱ遺跡								○	○			△	○	○	
16	荒口前原遺跡							○					○			
17	荒砥北原遺跡		●		○	○	●		□	○	○○					方形周溝墓４、古墳１、As－B上畠
18	荒砥北三木堂遺跡	●	●	●		●	●	○	○◎		○○	○	○	○		中世墓坑
19	荒砥北三木堂Ⅱ遺跡	●							▲				△ ▽	○	○	
20	今井神社古墳群									○	○		○			今井神社古墳他、古墳３
21	今井白山遺跡				○				○	○	○	○	○			
22	笂井八日市遺跡					●	●			○○			▽			縄文土坑、古墳時代中期の方形区画溝
23	富田細田遺跡												▼ ▽	○	○	
24	宮下遺跡	●			○				○	○	○○	○	○	○		中世墓坑・寺院 富田宮下遺跡とほぼ同一遺跡
25	東原遺跡									○	○		○	○	○	古墳11、中世墳墓群・寺院
26	富田西原遺跡	●							○	○			△	○	○	
27	おとうか山古墳									○						
28	富田高石遺跡	●							○□	○	○			○	○	前方後方形周溝墓１、奈良・平安道路状遺構
29	富田漆田遺跡				●	○				○ FA	○	○	○▽	○		平安須恵工房跡・窯跡
30	富田下大日遺跡				●	○					○○		○▽			古墳１
31	富田下大日Ⅰ遺跡					○							○			
32	富田下大日Ⅱ遺跡				○								○			
33	稲荷前遺跡										○					
34	大畑遺跡				●											
35	山神遺跡			●		○					○	○		○	○	縄文中期土坑
36	稲荷窪Ａ地点遺跡					○					○○	○				古墳２
37	稲荷窪Ｂ地点遺跡				○	○	○				○		○		○	縄文中期土坑
38	大日遺跡											○	○			
39	山ノ前遺跡													○		備蓄銭（館跡が存在か）
40	小林遺跡	●				○					○	○	○	○	○	縄文前・中期土坑、中・近世道路状遺構
41	茂木山神Ⅱ遺跡					○			○		○	○	○			
42	三ッ屋遺跡	●														
43	諏訪東遺跡					○							○			
44	上ノ山遺跡	●		●	●	○	●		○□	○	○			○	○	縄文前期土坑、古墳７
45	西小路遺跡					○					○				○	古墳５、近世墓坑
46	東・西小路古墳群															『綜』大胡町７～11号墳他が分布
47	天神風呂遺跡群				○					○	○	○	○			
48	茂木大道下遺跡												○	○	○	
49	下宮関遺跡									○						

No	遺跡名	旧石器	縄文 草	縄文 早	縄文 前	縄文 中	縄文 後	縄文 晩	弥生 中後	古墳 前住墓生	古墳 中住墓生	古墳 後住墓生	奈住	平住生	中世	近世	その他の遺構・遺跡の概要
50	中宮関遺跡									○				▼			
51	樋越西前沖遺跡									○							
52	上大屋中組遺跡														○		中世竪穴住居・地下式土坑・古銭
53	上大屋天王山遺跡									○					○		
54	熊の穴・熊の穴Ⅱ遺跡	●		●	●	○	●	●		○		○○		○			縄文土坑・集石、古墳17
55	上大屋下組遺跡			●	○					○							縄文前期土坑
56	上横俵遺跡				●	●	○			□		○		○			方形周溝墓６、古墳27、平安炭窯
57	大道遺跡						○			○		○		○			縄文後期配石遺構
58	上諏訪山Ｂ遺跡												○	○	○		近世地下式土坑
59	東原Ａ遺跡											○				○	溝
60	東原Ｂ遺跡									○□◎	○	○		○			周溝墓16（前方後方形５）、甕棺墓２、平安製鉄遺構
61	中山Ａ遺跡									○□				○			方形周溝墓２（前方後方形１）、平安溝・土坑
62	中山Ｂ遺跡									○		○		○	○		
63	山王遺跡									○	○	○		○			
64	阿弥陀井戸道上遺跡									○							
65	村主遺跡				●					○		○	○	○		○	縄文前期土坑、縄文集石、近世炭窯
66	向原遺跡											○	○	○			
67	中畑遺跡													○	○	○	
68	明神山遺跡									○◎		○		○		○	周溝墓１、炭窯１
69	北田下遺跡									○				○			
70	上西原遺跡				●	●	○						○	○			縄文土坑、奈良基壇建物・掘立柱建物勢多郡衙と付属寺院と推定される遺跡
71	堤東遺跡									□				○			方形周溝墓２（前方後方形１）、古墳住居１、平安小鍛冶
72	川籠皆戸遺跡									◎				○			周溝墓１
73	荒子小学校校庭遺跡											○	○	○			古代須恵器窯跡
74	大久保遺跡											○	○	○			
75	中鶴谷遺跡											○○	○	○			
76	諏訪遺跡																As−Ｂ以前の溝
77	柳久保遺跡群	●		●	●					○	○	○○	○	○			古墳４
78	頭無遺跡	●			●				○			○		○			
79	下鶴谷遺跡				○								○	○			古代炭窯
80	荒砥下押切Ⅰ遺跡												○				
81	荒砥下押切Ⅱ遺跡				●	●					○	○○		○▽			古墳１、平安溝
82	荒砥中屋敷Ⅰ遺跡									○					○	○	中・近世溝
83	荒砥中屋敷Ⅱ遺跡										○	○		○▽			平安小鍛冶・溝
84	鶴ケ谷遺跡群								○	○	○	○	○	○			中世墳墓
85	荒砥大日塚遺跡				●				○			○	○	○▽			
86	今井道上Ⅱ遺跡	●			○							○					
87	今井道上道下遺跡	●		●	●	●	●					○	○	○	○	○	平安小鍛冶、中・近世道路状遺跡、古代方形区画溝
88	二之宮谷地遺跡	●		●	●	●	●					▽	○	○▽			奈良溜井・特殊井戸
89	荒砥洗橋遺跡											○	○	○▽		○	
90	二之宮洗橋遺跡						●					○	○	○			縄文後期土坑
91	荒砥宮西遺跡											○	○	○			
92	二之宮千足遺跡			●	●	●	●	●		▲	▽	▽	○	○▽	○		古代小鍛冶、中世墓坑、As−Ｃ下水田以降７期の水田
93	二之宮宮下西遺跡				●	●	●					○	○	○	○	○	中・近世墓坑
94	二之宮宮下東遺跡			●	●	●				▲		○	○	○△	○		
95	二之宮宮東遺跡			●	●	●								○▽△	○	○	古代小鍛冶、Hr−FA下水田以降７期の水田
96	荒砥上ノ坊遺跡				○					○□▲	○	○	○	○			As−Ｂ上畠、方形周溝墓５
97	女堀																古代未完成用水路
98	本屋敷遺跡													○			
99	葭沼遺跡													○			

No	遺　跡　名	旧石器	縄文	弥生	古墳			奈	平	中	近	その他の遺構・遺跡の概要
			草早前中後晩	中後	前住墓生	中住墓生	後住墓生	住	住生	世	世	
100	上蛭沼遺跡						○					弥生住居１、古墳１、古墳住居15
101	天神山古墳群						○					古墳39
102	西大室丸山遺跡						○					古墳３、古墳時代巨石祭祀
103	元屋敷遺跡								○			古墳住居16
104	荒砥荒子遺跡					○	○	○	○▽			古墳中期居宅
105	舞台遺跡					○	○					舞台１号古墳を含む古墳３
106	舞台西遺跡						○				○	古墳４、埴輪円筒棺１、甕棺１
107	稲荷山Ⅱ遺跡								○		○	
108	地田栗Ⅲ遺跡				○	○	○○					古墳５
109	下境Ⅰ遺跡		●		○	○	○			○		古墳22、中世墓
110	下境Ⅱ遺跡					○				○		中世環濠
111	富士山Ⅰ遺跡						○		○		○	古墳１、平安鍛冶１、近世塚１
112	富士山Ⅱ遺跡								○			
113	阿久山古墳群				□		○		○			方形周溝墓７（前方後方形６）、古墳９
114	伊勢山古墳群						○					伊勢山古墳を含む古墳16
115	水口山遺跡				□		○					方形周溝墓２、古墳11
116	大稲荷遺跡						○					古墳２、古墳住居10
117	小稲荷遺跡				□		○○					
118	前山遺跡		●									縄文前期土坑、平安溝
119	前山Ⅱ遺跡								○			平安溝
120	昆布替戸遺跡											時期不明四面庇建物
121	山崎遺跡		○									

住は住居、墓は墓域、生は生産域を表す。旧石器、縄文の●は遺物の出土を表す。古墳の項、墓の□は方形周溝墓、◎は円形周溝墓、○は古墳を、生の▲はAs−C下の畠を、(FA)はHr−FA下の水田、▽は水田を表す。
平安の項、生の▽はAs−B下水田、▼は818年洪水層下の水田、△は畠を表す。

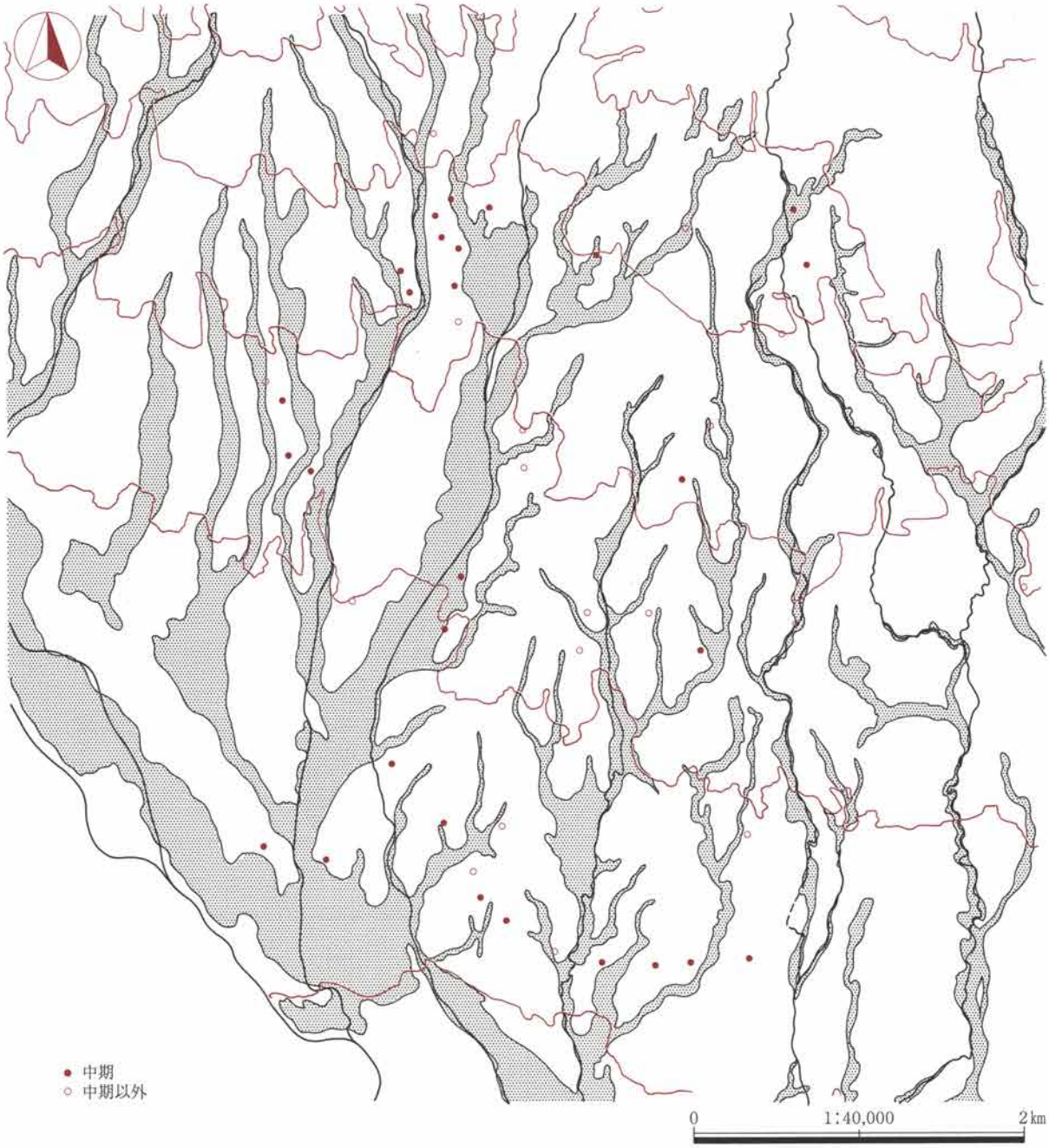
できる。古墳時代前期の集落は、各河川の上流域に多く展開していたものが、中期になると上流域では減少、下流域の増加がみられ、居住域の範囲も拡大しているとの指摘がある。その傾向は６・７世紀になるとさらに強くなるという。宮川下流では荒砥洗橋遺跡、荒砥宮西遺跡、二之宮谷地遺跡などで６世紀になり集落の形成が開始される。

古墳の動向をみると、５世紀後半になると荒砥川右岸に前方後円墳の今井神社古墳が、江龍川流域に帆立貝式古墳の舞台１号古墳と大型・中型古墳が築造されるようになる。６世紀には、大室古墳群に前二子、中二子、後二子の３基の前方後円墳が継起的に築造されている。

小古墳では、５世紀後半になるといわゆる初期群集墳の形成が地域内の各所で始まる。富田町東原古墳群や茂木町上ノ山古墳群、西大室町上縄引遺跡の古墳群がその代表例である。本遺跡に近接する泉沢町新山３号墳でもＢ種ヨコハケの施された円筒埴輪が検出されており、５世紀後半の古墳築造があったことが知れる。

荒砥地区においては６・７世紀代の古墳群の形成が極めて盛んで、小地区ごとに立地、形成内容を変化させながら群集状態を形成している。全体的にみれば東側寄りの江龍川流域や神沢川流域では10基以上の円墳が群集する古墳群が多数見られる。例えば上横俵遺跡では27基が、その北側に近接する熊の穴遺跡や熊の穴Ⅱ遺跡では17基の円墳が調査されたが１基を除いて７世紀代の築造と考えられる。

このような状況に対し、西側寄りの泉沢町地内における古墳分布は今回調査が実施された字谷津周辺を除くと群集状態をなす地点は認められない。向原古墳は直径28ｍの円墳で横穴式石室内から方頭大刀が出土している。新山遺跡では前述の５世紀後半の古墳の他に７世紀代の円墳２基が調査されている。



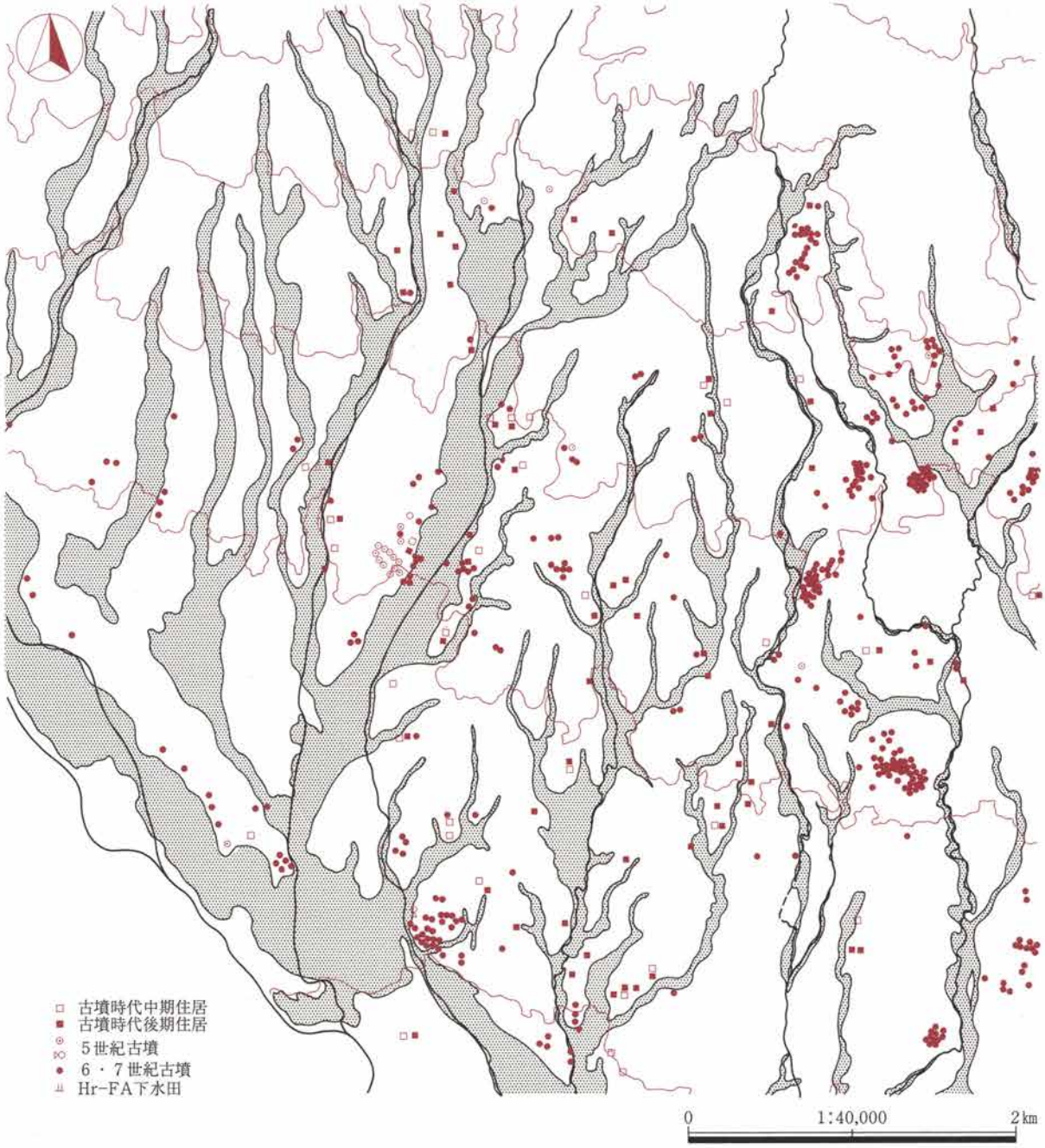
第６図　縄文時代の遺跡分布

荒砥川を挟んだ大胡地区では、東・西小路古墳群に７世紀代の円墳が散在気味に分布する状況にある。

終末期の古墳としては富士山遺跡１号墳と小稲荷６号古墳が知られている。

奈良・平安時代の集落は、標高120m以上では減少する。標高100～120m間では沖積地に面した台地縁辺を中心に展開している。標高100m以下では古墳時代の集落から継続する事例が多くみられ、居住域は台地全体を有効に利用するようになる。水田の開発はさらに進行したと考えられる。荒砥地区では1108（天仁元）年に降下した浅間Ｂ軽石により埋没した水田の調査事例が多数の報告されており、浅間Ｂ軽石が降下した時点では沖積地の大半が水田化されていたと考えられている。

荒砥地区は古代、勢多郡に属しており東山道駅路が通過していたと考えられる。上西原遺跡では８世



第７図　古墳時代中・後期の遺跡分布

紀後半から９世紀後半の間機能していたとされる方形区画の内部に礎石を有する基壇建物や掘立柱建物などが検出され、瓦、瓦塔、塑像、墨書土器などが出土しており、官衙的遺構とそれに付属する寺院遺構としての性格が推定されている。

中世・近世の遺跡、遺構の中で、城郭としては、本遺跡から北北西２㎞に大胡城が築城されている。

墳墓群を検出した遺跡としては宮下遺跡、鶴ヶ谷遺跡、下境。遺跡、荒砥三木堂遺跡等が知られ、骨蔵器、五輪塔、板碑が出土している。

本遺跡の周辺では荒砥宮田遺跡、荒砥諏訪西遺跡ではともに14・15世紀に最盛期を迎える区画溝を伴う屋敷が検出され、内部から掘立柱建物や竪穴状遺構、土坑等が検出されている。大胡地区の上ノ山遺跡でも溝に取り囲まれた竪穴住居、掘立柱建物、土坑が検出されており、近世の遺構群と考えらる。

第３章　発掘調査の方法と経過

第１節　発掘調査の方法

（１）グリッドの設定

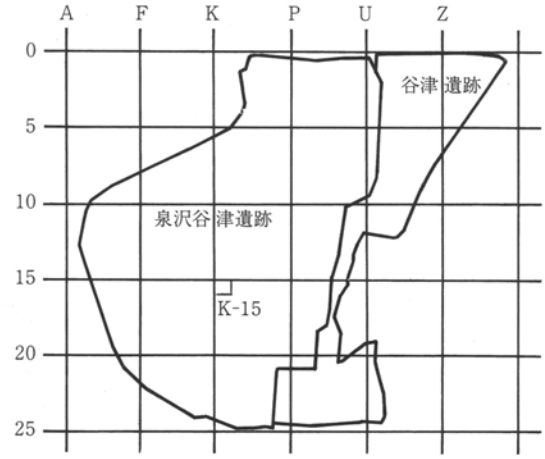
調査の実施にあたっては第８図に示したように調査区全体に一辺５ｍの方眼を設定した。調査地点に飛び地がなく、一地点のみなので大グリッドは設定しなかった。設定した方眼に北西隅を基点として西から東へアルファベットを付し、北から南へアラビア数字を付した。グリッドの標記はアルファベット－数字を組み合わせ、「Ｋ－15」のような呼称とした。また、挿図内でＫ＋２－15のように１ｍ単位の示し方をした部分がある。これはＫ－15より２ｍ東の点を指しＫ－15＋２はＫ－15より２ｍ南を指す。

南北基線と国家座標の南北ラインとの偏角は西に約２度である。

（２）遺構・遺物の記録

各竪穴住居と井戸については20分の１の平面図を平板測量によって作成した。古墳平面については石室を10分の１、墳丘を40分の１平板測量によって作成した。溝・土坑はグリッド杭を利用して調査区を割り付け20分の１の平面図を作成した。各遺構の埋没状況については土層確認を行い、適時断面図を作成した。

遺構写真は35㎜モノクロフィルムとカラースライドフィルムおよび、ブローニーモノクロフィルムを用いて地上撮影した。



第８図　泉沢谷津遺跡調査区の設定

第２節　調査の経過

1984（昭和59）年度の荒砥北部圃場整備事業に係わる埋蔵文化財調査は、泉沢町・荒子町・下大屋町にわたる第２工区の東側が対象となった。ここは、当該圃場整備事業対象地の北西隅にあたる。

群馬県教育委員会は、前年度までの実態を踏まえ、本格的な調査実施前に、分布調査、試掘調査を計画・実施した。この結果に基づき工事行程と埋蔵文化財調査の進捗が整合性を有し、双方が円滑に進行するよう荒砥北部土地改良区との間で協議が重ねられたが、圃場整備対象面積が45haと膨大であったことなどの諸要因が重なり、充分な環境の中での調査実施には至らなかった。調査対象地は切り土および道水路部分とし、旧石器時代の調査を除外するなどの対応が取られてきた。泉沢谷津遺跡は第２工区の中でも北西隅に位置し、大正用水に面した台地部分にあたる。年度内の対象地8,300㎡全域が切り土および道路部分にあたり、特に西側は、水田に変更するための大規模な切り土部分であった。このため全域が調査対象地となった。

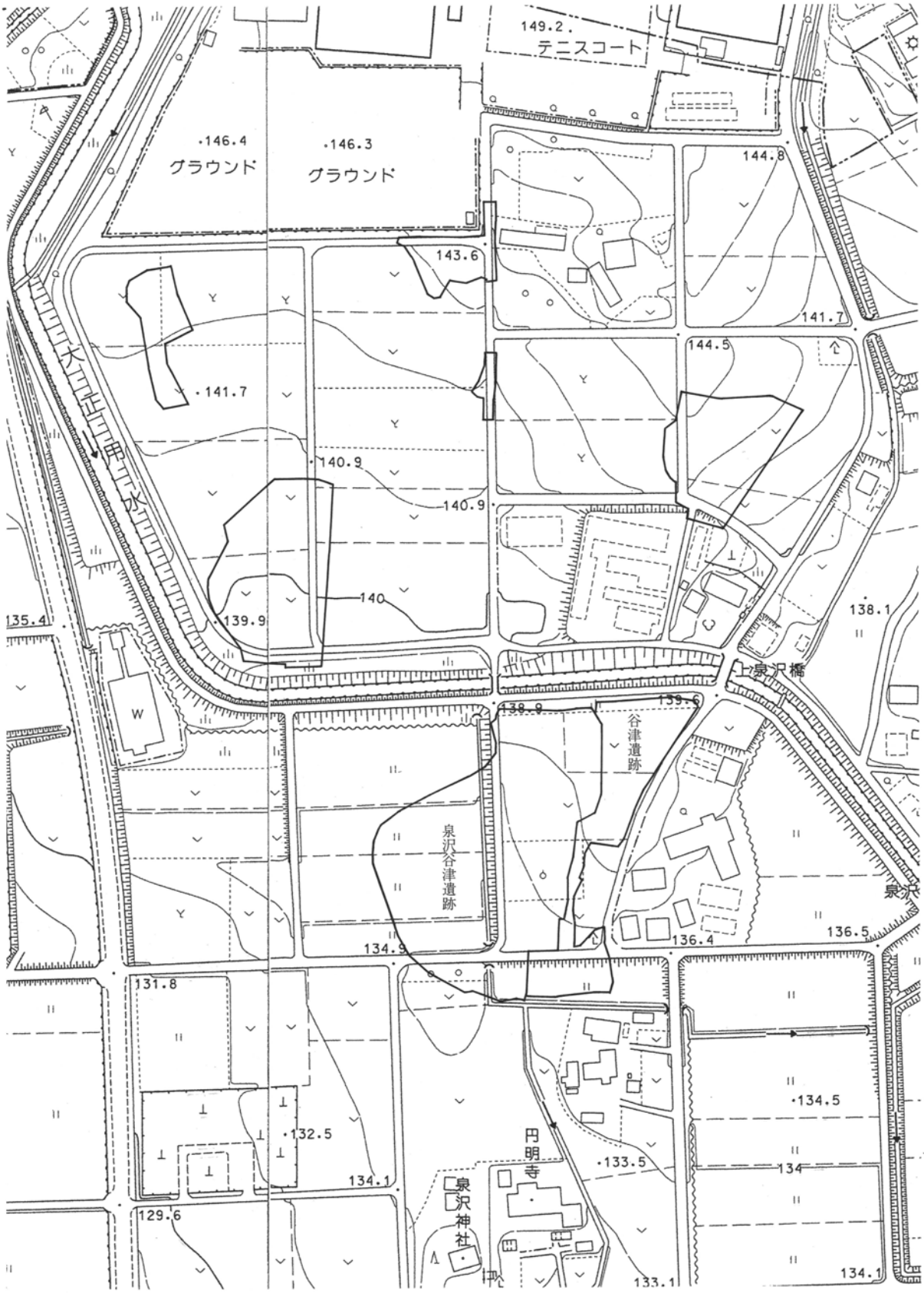
なお、本遺跡と同時進行で調査を実施した上西原遺跡については群馬県教育委員会文化財保護課による調査となった。

以下は泉沢谷津遺跡調査日誌等の要約である。

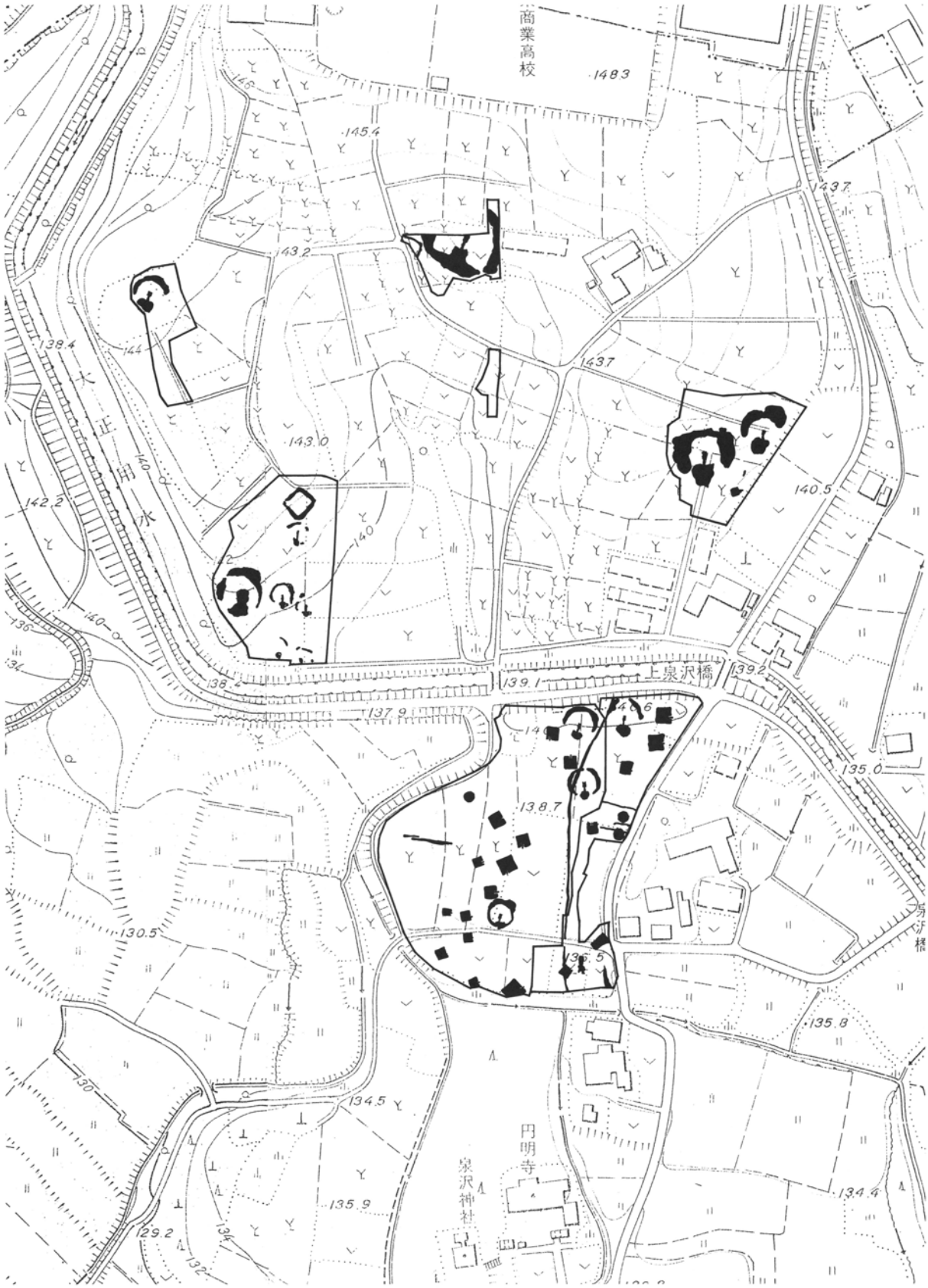
1984（昭和59）年12月１日～1985（昭和60）年１月31日群馬県教育委員会文化財保護課による試掘調査。

１月以降、調査事務所設営等の準備。

１月30日～２月３日　調査地の桑の伐根。南側より



第９図　泉沢谷津遺跡調査区の位置（調査時－１／2,500）



第10図　泉沢谷津遺跡調査区の位置（現状－１／2,500）

表土掘削。および土山状の高まり部分における古墳存在の確認。

２月４日から　遺構確認調査開始。竪穴住居・古墳・溝・土坑などの遺構を確認。

２月６日から　遺構の掘り下げ開始。１～４号住居の調査開始。順次７号住居までを掘り下げる。

２月12日から　８号住居以降の住居調査開始。

２月13日から　１号井戸の調査開始。井戸調査にあたっては確認面からの土層観察を行うが、２ｍ以深の掘り下げは井泉掘削業者に委託。

２月14日　１号墳の調査開始。

２月27日　空中写真撮影。

３月４日　炭化米を出土した２号住居の床下土坑調査開始。

３月６日　14号住居の調査開始。

３月９日～３月11日　残りの部分の表土掘削除去作業。引き続き遺構確認。

３月12日から　２・３号墳、４・６号井戸等の調査。

３月25日　一部測量作業を残して調査終了。

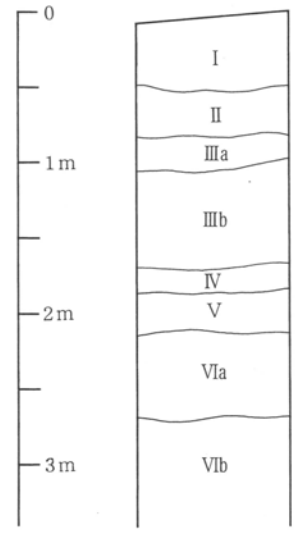
３月27日　事務所撤収。残務処理等を行い３月29日に調査現場での全業務終了。

遺構確認作業以降、調査可能日数は45日であったが、途中降雪・降雨により合計９日間の作業休止があった。

第３節　遺跡の基本土層

第２章 第１節でふれたように、調査区域は全域がローム台地部分に相当する。調査前は桑園を中心とする畑地であったが、耕作が深く入り込んでいた。このため、ローム面の上では鍵層となる火山性堆積物層の確認を含め、有効な分層はできなかった。

調査区域の西隅部分にあたるＢ－13グリッド北壁において、表土から深度３ｍ付近までの基本土層を作成した（第11図）。この地点は西側へ向かって低くなる傾斜面である。土層作成地点の地表の標高は137.7ｍである。



第11図　基本土層

基本土層の説明

Ⅰ　灰褐色土　As−Aを多量に含む砂質土。耕作土が主体であるが、下層にAs−Aを含まない黒色土が見られる部分もある。

Ⅱ　暗褐色ローム　いわゆるソフトローム。遺構確認面。

Ⅲａ　黄褐色ローム　ハードローム。植物根による攪乱が入り込んでいる。

Ⅲｂ　黄褐色ローム　ハードローム。多量のAs−YPを含んでいる。炭化物粒を若干含んでいる。

Ⅳ　As−BP層　かなり風化した状態を示す。

Ⅴ　黄褐色ロームⅢ層より色調の暗いロームで締まりある。炭化物粒を含む。安山岩質の小礫を含む。

Ⅵａ　暗褐色ローム　いわゆる岩宿層である。粘性に富んだ締まりの弱い土層。安山岩質の小礫を含む。

Ⅵｂ　暗褐色ローム　Ⅵａ層に比べやや色調が明るく、締まりのあるローム。

・調査区中央地点で掘削した井戸下層地山の観察から、この層下に八崎軽石層のあることも確認されている。

第４章　調査された遺構と遺物

第１節　調査の概要

泉沢谷津遺跡の発掘調査は対象地全域がローム台地上であった。ローム上面には鍵層となる火山灰層や洪水層が無く、調査面は１面であったが、確認できた遺構は縄文時代、古墳時代、および近世のものであった。水田や畠などの農業生産跡は含まれていない。調査面積は8,300㎡である。

本章では時期の古い順になるよう遺構の種類別に節を設定し、個々の遺構について説明を加えた。そのため、遺構に付けられた番号順になっていない箇所も多い。

縄文時代の遺構は少なく、中期の竪穴住居１軒（14号住居）、詳細な時期不明の土坑１基（９号土坑）のみであった。二つの遺構とも調査区西隅で確認されている。遺構外で取り上げた縄文土器は、ほとんど住居と同じ時期のものであった。

古墳時代の遺構については集落と古墳を調査したが、東側に隣接する谷津遺跡と連続する遺跡である。竪穴住居は13軒を調査した。すべての住居に竈を伴っている。時期は中期６軒、後期７軒で、出土遺物は豊富であった。集落は台地中央に分布していて、台地縁辺部にあたる西側には住居は１軒も作られていない。住居間の重複が無く、５世紀後半から６世紀にかけて比較的短期に営まれ、廃絶された居住区域である。竈の方向は多様で、８・10・11号住居は類例の少ない南竈の住居である。なお、焼失住居である２号住居内の土坑からは多量の炭化米が出土した。また、３号住居と重複し、これに後出する土坑１基（１号土坑）を調査した。

古墳は終末期の円墳３基を調査した。占地は古墳時代の竪穴住居と共通している。出土遺物にはあまり恵まれていない。いずれも主体部が横穴式石室から成り、埴輪を伴わないもので、７世紀代の築造と考えられる。遺跡地が居住区域から墓域へと変遷したことが明らかであり、その後、奈良・平安時代になってもこの一画に集落は出現しなかった。

近世以降の遺構は、掘立柱建物６棟、井戸７基、溝５条、土坑８基、火葬跡１基を検出した。出土遺物は18世紀以降のものが大半である。掘立柱建物は小規模なもので、礎石や庇などの施設を伴うものはない。小穴群と呼んだピット状の遺構群は撹乱が大半と思われるが、この中に掘立柱建物となるものが潜んでいる可能性もある。掘立柱建物間の重複はないが、軸方向はまちまちで、１時期の建物群とは考えにくい。井戸の配置も建物とのセット関係を確認しにくい。小穴群に隣接する井戸があり、隠れた建物の可能性を検討する上で気がかりである。井戸の中には深さ５ｍに達するものもあった。本遺跡の木製品はいずれも井戸内の出土である。

なお、板碑や陶器に江戸時代以前のものもわずかに見られ、近世以降とした遺構に中世まで遡るものが含まれるかもしれない。

遺構に直接伴わない遺物として、縄文時代の遺物に包含層や後世の遺構出土の土器片106点、石器42点、石器制作時の剥片など27点を図示した。縄文土器はほとんどが中期のもので、石器も概ねこの時期のものと考えられる。この他に近世以降の遺物に耕作土中あるいは表面採集した陶磁器類17点、金属器３点、石製品２点がある。

調査で得ることのできた資料は、60×37×15㎝の遺物収納箱48箱（うち炭化米13箱）であり、本報告の中で資料化し、本文中に掲載したものは、589点である。その内訳は、縄文土器124点、縄文時代の石器42点、土師器・須恵器296点、古墳時代の金属製品２点、古墳時代の石製品３点、陶磁器類93点、中世以降の石製品18点、中世以降の金属製品８点、木製品３点である。

なお、整理作業の中で、10号住居出土炭化材の樹種同定（第５章－第１節）と２号住居内土坑出土炭化米のＤＮＡ分析（第５章－第２節）を委託している。

第２節　縄文時代の遺構と遺物

（１）竪穴住居

14号住居（第12～14図）

位　置　Ｉ－７グリッド

写　真　ＰＬ４、25・26

概　要　調査区北西部分の上部ローム層上面で確認検出した。他に縄文時代の住居は付近には無く、泉沢谷津遺跡の東側に隣接する谷津遺跡の２軒の住居とは約60ｍ離れている。

住居内の施設としては、浅い掘込炉や９本の柱穴、それに出入り口部の埋設土器と周溝を検出した。

重　複　なし

形　状　遺構確認時の平面形は、南北4.56ｍ、東西4.46ｍの円形に近い形状であったが、原形は隅丸方形を意識していた可能性もある。壁面は、ローム層を掘り込んでおり、最大約40㎝の壁高が確認された。

埋設土器（１）が存在する南壁側部分では、住居の外形ラインがわずかながら外側に張り出す状況が認められる。

床面は多少の凸凹を有しながらも、全体的には地形の傾斜に沿って東側から西側に向かって緩やかに下がっていた。東隅と西隅のレベル差は13㎝である。床面等の構築に伴う掘り方は認められない。踏み固めによる硬化面はあまり顕著ではなく、焼土や灰等の痕跡も不明瞭であった。

埋没土は灰褐色土とハードロームの混土層を主体に中央に黒褐色土が堆積し、側壁寄りに灰褐色土が堆積していた。全体的に少量の炭化物粒が混入するが、黒ボク土が存在しない点で特徴的である。

面　積　16.20㎡

方　位　炉と埋甕を結んだ軸線の方位はＮ－18°－Ｗを測るが、この軸線は住居中央よりも西側に偏在している。

炉　床面をわずかに掘り窪めた掘込炉であり、住居中央部よりやや北西側に偏在している。被熱や焼土の痕跡は微弱で、焚火行為の乏しさを窺わせる。平面形は、円形から隅丸方形で直径70×67㎝、深さ４～８㎝を測る。底面は狭く、壁は緩やかに立ち上がる。この上面や近縁から、深鉢の胴部破片（６）や凹石（16）が出土している。

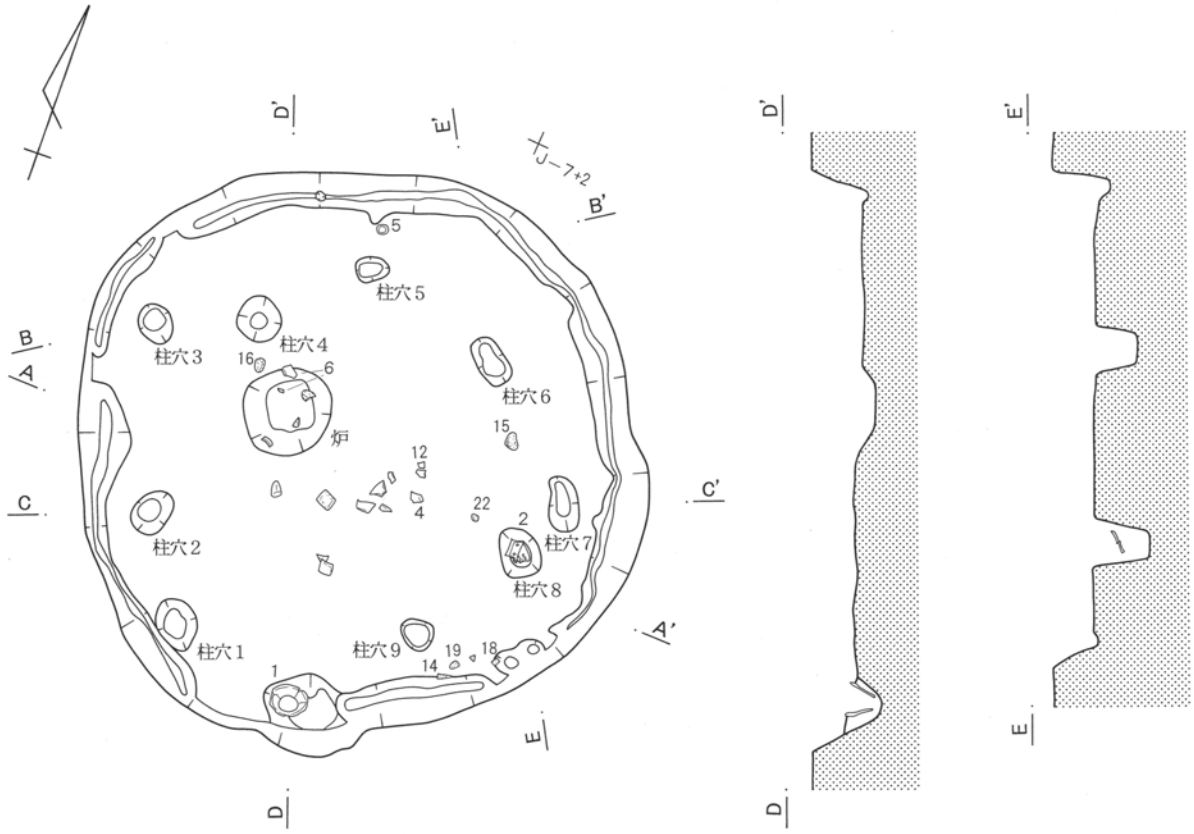
周　溝　壁面に沿ってほぼ全周しているが、埋設土器の近縁などで部分的に途切れている。規模は一定していないが、幅５～23㎝、深さ４～11㎝を測る。

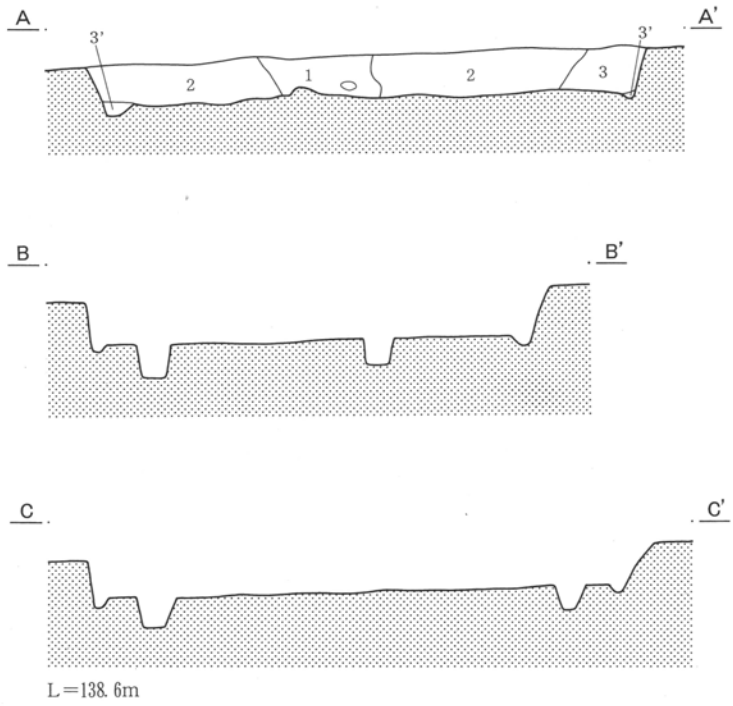
柱　穴　９本が検出された。壁面に沿って、その内側10～60㎝を巡るように配置されているが、各柱穴の間隔は0.5～1.5ｍと一定せず、規則性に乏しい。南側・西側の柱穴は壁に近く、北側の柱穴は壁から離れる傾向がある。柱穴の形状は楕円形に近いものが多い。各柱穴の規模（長径×短径×深さ㎝）は、以下のとおりである。柱穴１：43×37×38㎝、柱穴２：36×27×24㎝、柱穴３：33×26×25㎝、柱穴４：38×34×35㎝、柱穴５：25×16×20㎝、柱穴６：39×23×30㎝、柱穴７：44×23×19㎝、柱穴８：41×31×44㎝、柱穴９：23×23×20㎝である。柱穴８は規模の大きな柱穴であるが、底面近くの埋没土中からほぼ完形の器台形土器（２）が出土しており、意識的に埋填されたものと想定される。

埋　甕　出入り口部にあたると考えられる、南壁寄りの柱穴１と柱穴９の柱穴間に１基が検出された。この掘り方は、直径60×45㎝の規模をもち、胴下半部～底部を欠失する深鉢（１）が正位で埋置されていた。また、この土器の下端は掘り方底面から５㎝ほど浮き上がり、その開口部は住居内側へ若干傾いた状況であった。

遺　物　土器46点、石器29点の総数75点が検出されているが、この内の土器26点と石器11点を掲載した。遺物は炉付近の住居中央から南東壁直下にかけてやや集中して出土するが、床面に密着したものは僅少（６・14）であり、その大半が埋没土中から出土している。

土器については、埋設土器（１）や柱穴８の底面出土の器台形土器（２）を除いて、全て破片の状態であった。また、これら以外に床面に密着して出土したのは、６・12の２点のみである。連弧文系土器が約５割強を占め、口縁部に渦巻文や楕円区画文を

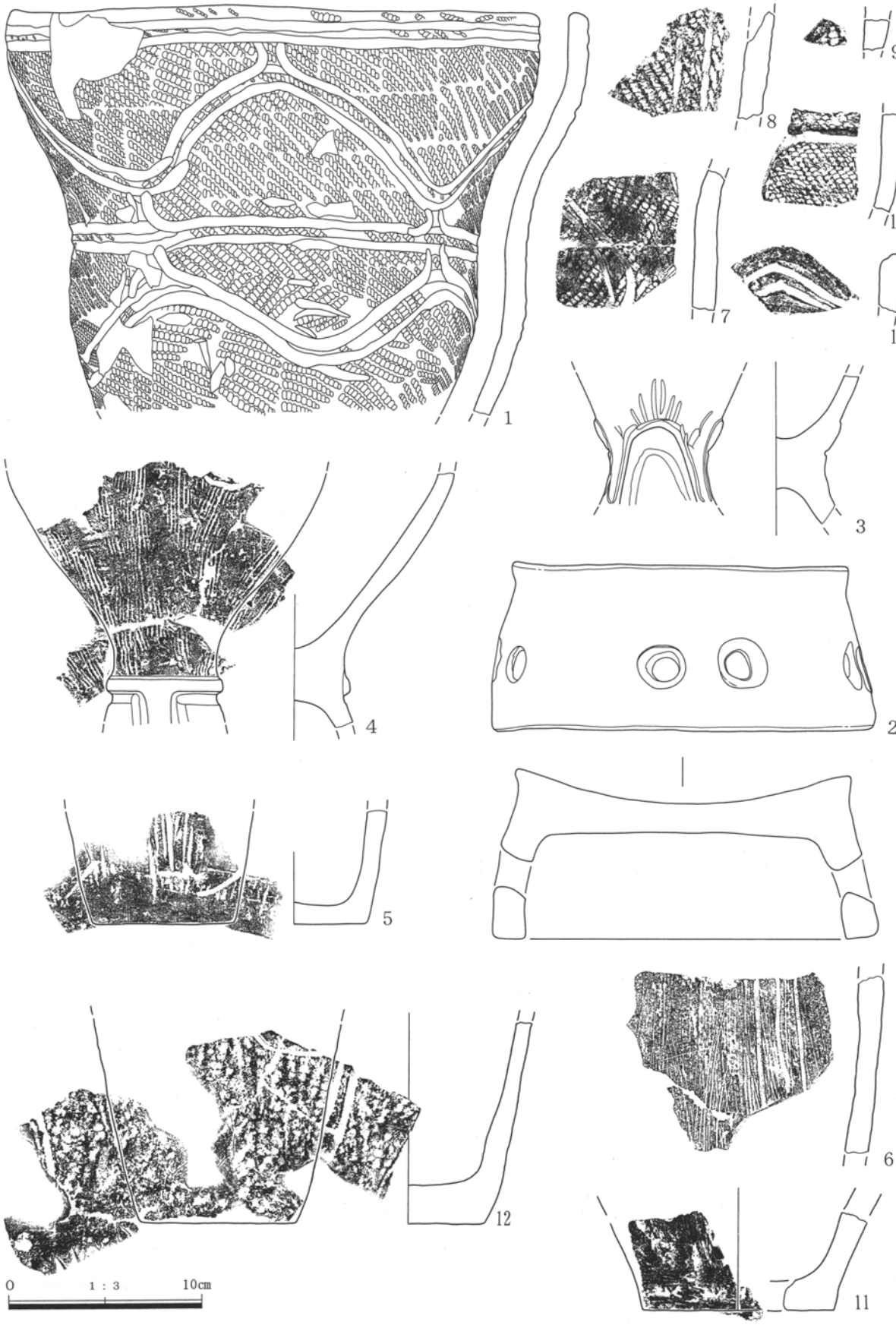




1．黒褐色土　炭化物、ソフトローム粒子等を少量含む。
2．灰褐色土　ハードロームブロックとの混土層。軽石（ＹＰ）を多く含み、炭化物も若干含まれる。
3．灰褐色土　ソフトロームと褐色土との混土層、２に類する。3'はロームの混入多いが不均等に黒色土が混じる。

0　1：60　3 m

第12図　14号住居



第13図　14号住居 出土土器

第14図　14号住居 出土石器

持つ加曽利Ｅ式系がそれに次ぐ。（３・４）は台付き深鉢で曽利式系の影響を受けている。

石器は、打製系列の削器７点（18～24）、打製石斧１点（14）と、使用痕系列の凹石３点（15～17）の他に、剥片15点、礫２点が出土している。削器は、二次加工を施さない使用痕のみのもの５点（18～21）と、粗雑な加工を施すもの３点（22～24）とに分かれる。ただし、24については石鏃の未製品の可能性もある。尚、埋没土中から出土した礫２点は、火熱を受けていた。使用されている石材は、打製系列では全て黒色頁岩であり、また使用痕系列では粗粒輝石安山岩に限定され、系列ごとに明確な使い分けがなされている。

所　見　当住居の時期は、出入り口部埋設土器をはじめとした出土遺物から見て、縄文時代中期の加曽利Ｅ３式古段階に比定される。

（２）土坑

９号土坑（第15図）

位　置　Ｃ－13グリッド

写　真　ＰＬ４・26

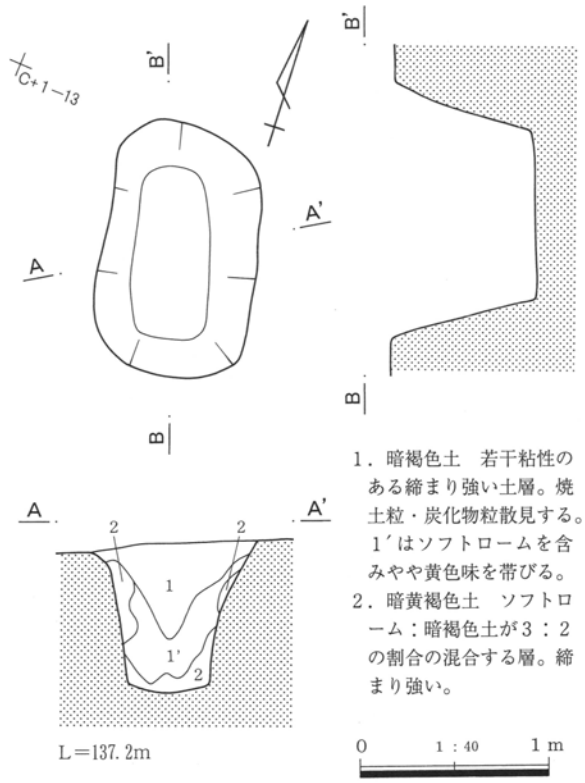
概　要　調査区の西端、14号住居の南西約40mに位置する。長軸方向が、西側へと傾斜する自然地形の等高線に平行するように、掘削・設置されている。

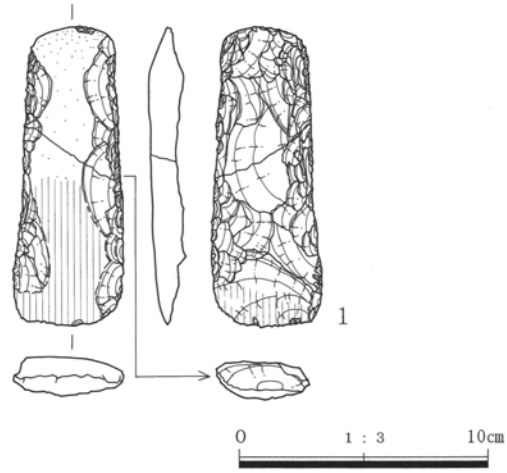
重　複　なし

形　状　平面形は隅丸長方形を呈する。壁面は、約80度前後の垂直に近い状態で掘り込まれているが、開口部付近では崩落もあって緩やかな角度となっている。規模は、長さ131㎝、幅83㎝、深さ83㎝である。埋没土は、締まりの弱い暗褐色土を主体として、壁際や底面近くには暗黄褐色土が堆積していた。形態から見て、陥穴の可能性が高いが、底面に逆茂木痕などの小ピットは確認できなかった。

方　位　Ｎ－13°－Ｗ

遺　物　型式不明の縄文土器１片と打製石斧１点（１）を検出したのみである。





第15図　９号土坑と出土遺物

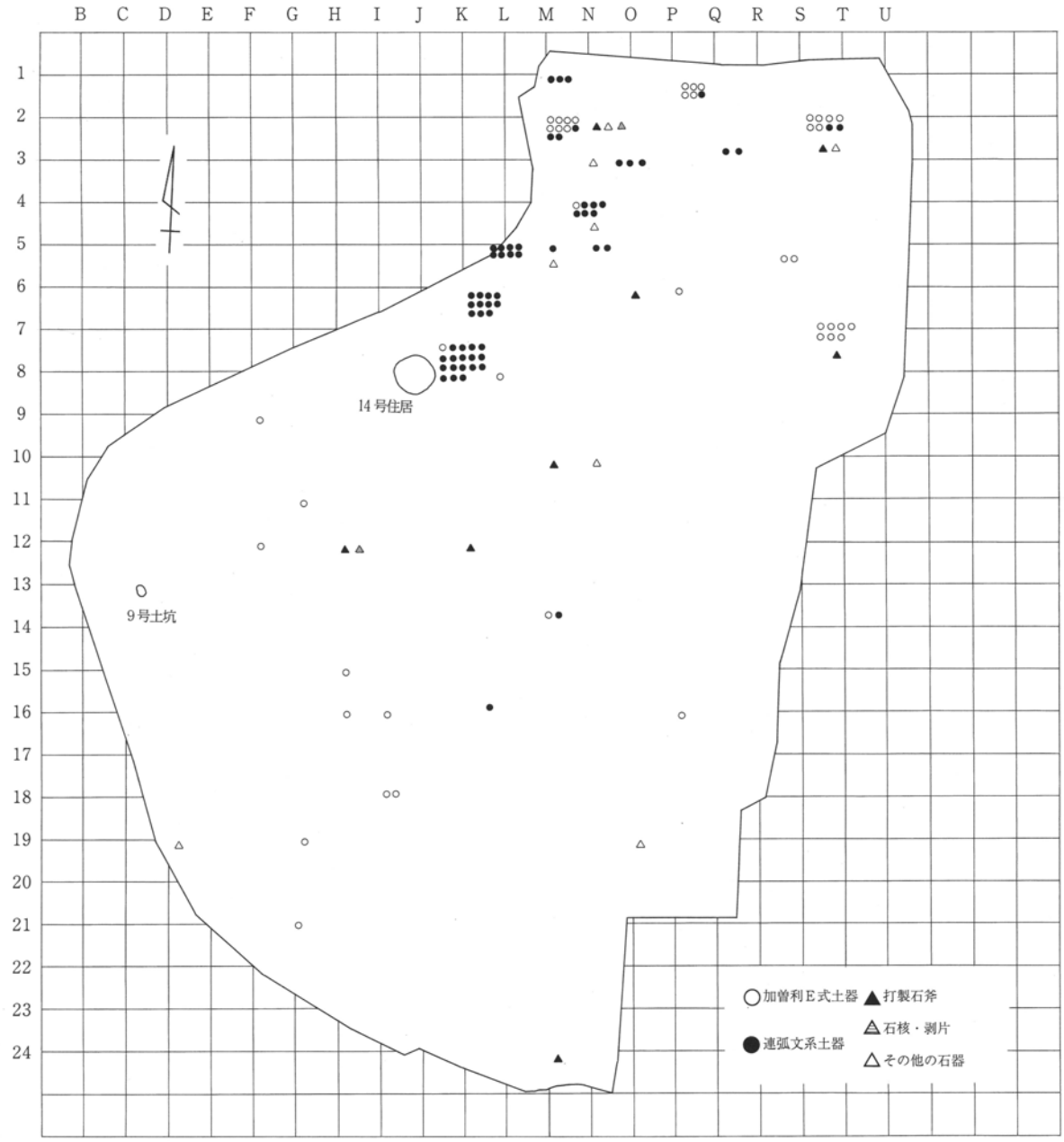
この他に、埋没土上層中から土師器２片、陶磁器１片を出土している。

所　見　埋没土の特徴から、縄文時代の所産と想定されるが、詳細な時期を特定することは困難である。

（３）遺構外出土の縄文時代遺物

表土層中や遺構確認段階での包含層（Ⅰ層下位の黒色土）中から出土した、遺構以外からの出土遺物をここで一括した。取上点数は土器575点、石器類96点であるが、掲載した遺物は土器101点、石器20点である。土器は、加曽利Ｅ２～Ｅ３式を中心としており、石器を含めて時期的には14号住居との関連性が想定される。

遺構外出土の縄文時代遺物のうち、掲載資料の出土状況を第16図に示した。各遺物の分布状況は、古墳時代の墳墓や竪穴住居との重複もあり、必ずしも当時の原位置を留めているとは言い切れないが、南半部ではきわめて希薄であり、中期の14号住居の東側に当たるＪ～Ｔ－１～８グリッドの範囲を中心に



第16図　縄文時代遺物出土状況

して、かなり濃密に散布していることが窺える。おそらく、集落のエリアが未調査区域の北東側に広がっていることと相関すると考えられる。

土器（第17～22図ＰＬ26～28）

取上遺物総数575点の内訳（カッコ内は掲載遺物番号）は、加曽利Ｅ２式新段階65点（１～９）、同Ｅ３式古段階115点（10～19）、同Ｅ３式中段階216点（20～45）、同Ｅ３式新段階26点（46・47・85～91）、連弧文系99点（49～84・97・98）、曽利式系49点（99～101）の他に、堀之内１式２点（48）、粘土塊１点、型式不明２点である。

加曽利Ｅ２～Ｅ３式の土器は、地文に縄文を施すものが主体的であり、その原体は単節ＲＬを用いるものが多い。わずかながら、0段多条（13・92～96）や複節（20・23・47）を施すものもある。加曽利Ｅ２式新段階の中で、樽形器形（３）や綾杉状の沈線文を施すもの（４～９）は、長野県東部域を中心とする「郷戸式」との関連性が想定される。また、条線地文で胴部に横Ｓ字状の渦巻文を施す曽利系の土器（99～101）も、同地域からの影響関係が考えられる。31～40は、無文浅鉢土器であるが、おそらく加曽利Ｅ３式古～中段階に伴うものと推定される。他系土器も含めて、胎土は多量の灰色粗・細砂（安山岩）と少量の輝石や透明石英の粗・細砂を含むＡタイプであり、後述する連弧文土器のようなＢ・Ｃタイプは認められない。

連弧文系土器は、括れ部に横位の沈線文や刺突文を施して、上下に文様を区画・構成するものが主体的であるが、74～76のように括れ部の微弱なものは横位区画文を施さずに、連弧文を２～３段に構成している。また、体部下半の文様構成としては、加曽利Ｅ２～Ｅ３式に特徴的な沈線懸垂文を施す例（92～94）も多見される。地文には縄文が多用される傾向が認められ、その中でもＲＬ斜縄文が卓越している。他に、条線文や無地文（83・84）も認められる。胎土は、Ａタイプが大半を占めているが、それに近似したＢタイプ（74～78）や結晶変岩を含むＣタイプ（71）もわずかに認められる。

石器（第23・24図ＰＬ28・29）

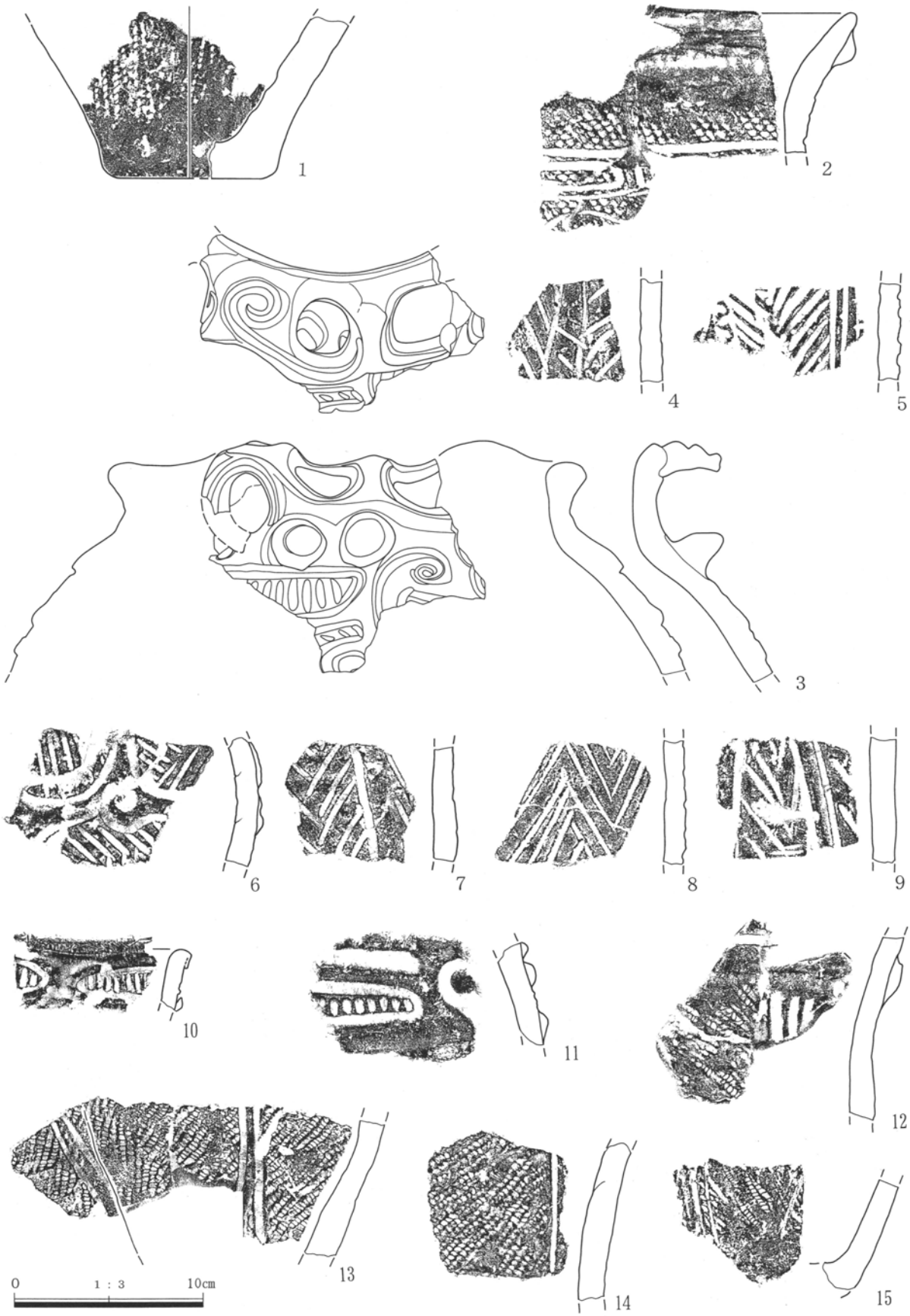
取上遺物総数は96点で、器種と石材の組み合わせを第５表に示した。

器種別の内容は、打製系列では石鏃１点（１）、石錐２点（11）、削器類24点（12～17・19）、打製石斧20点（２～10）、加工石器４点などがあるが、使用痕系列では凹石３点が存在するのみである。この他に、石核１点（20）と剥片39点（18）、礫塊２点が存在する。

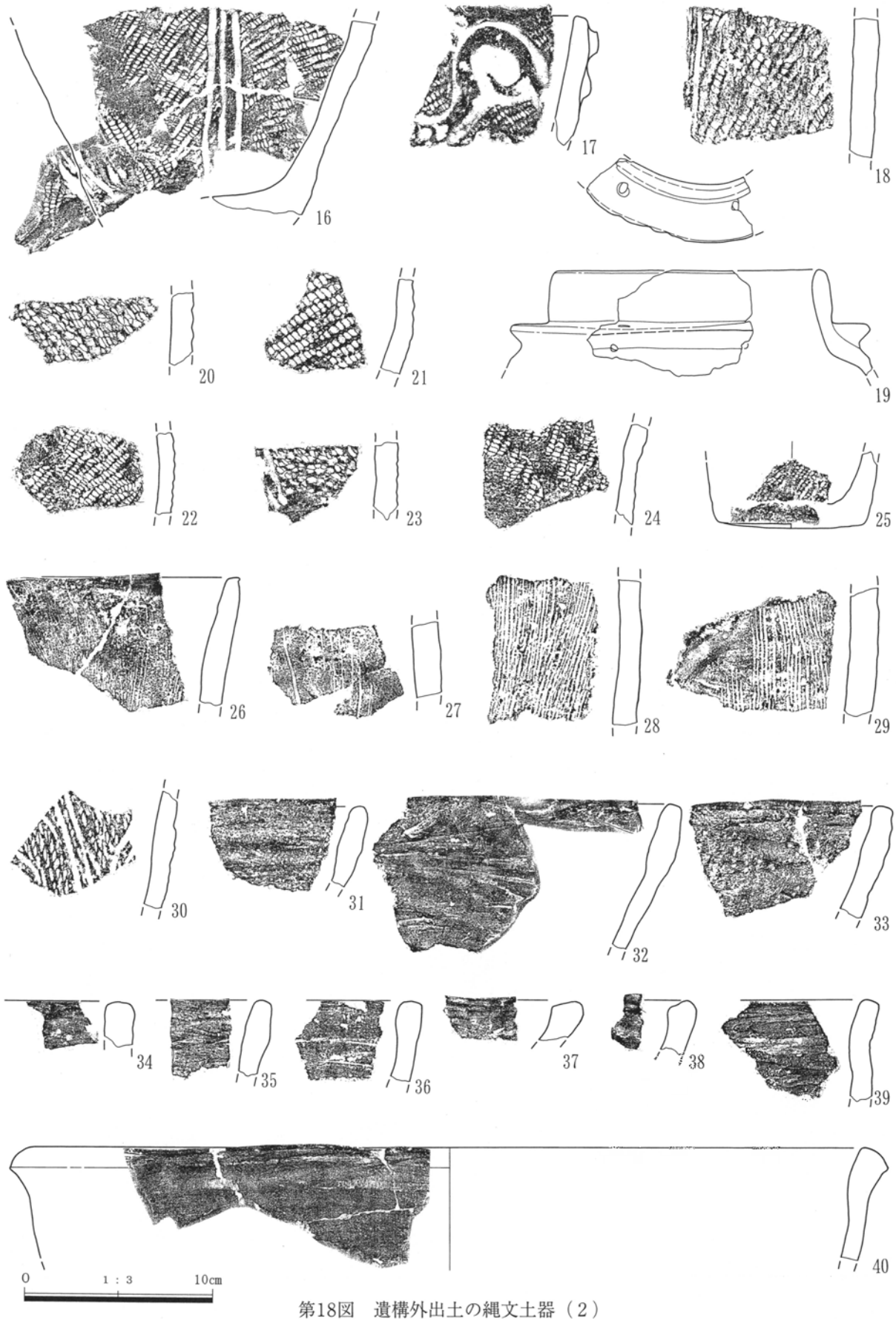
打製系列の中で、最多を占めるのは削器であるが、長さ４～８㎝の縦長または横長剥片を素材として、その周縁部にやや粗雑な調整加工を施すものが13点、また無加工で刃こぼれ状の使用痕を持つものが11点となる。表面に原礫面を残すケースが多く、打製石斧などの制作過程で派生する調整剥片を利用している可能性が高い。12・13・16のように、刃部角度が

第５表　縄文時代石器の器種と石材

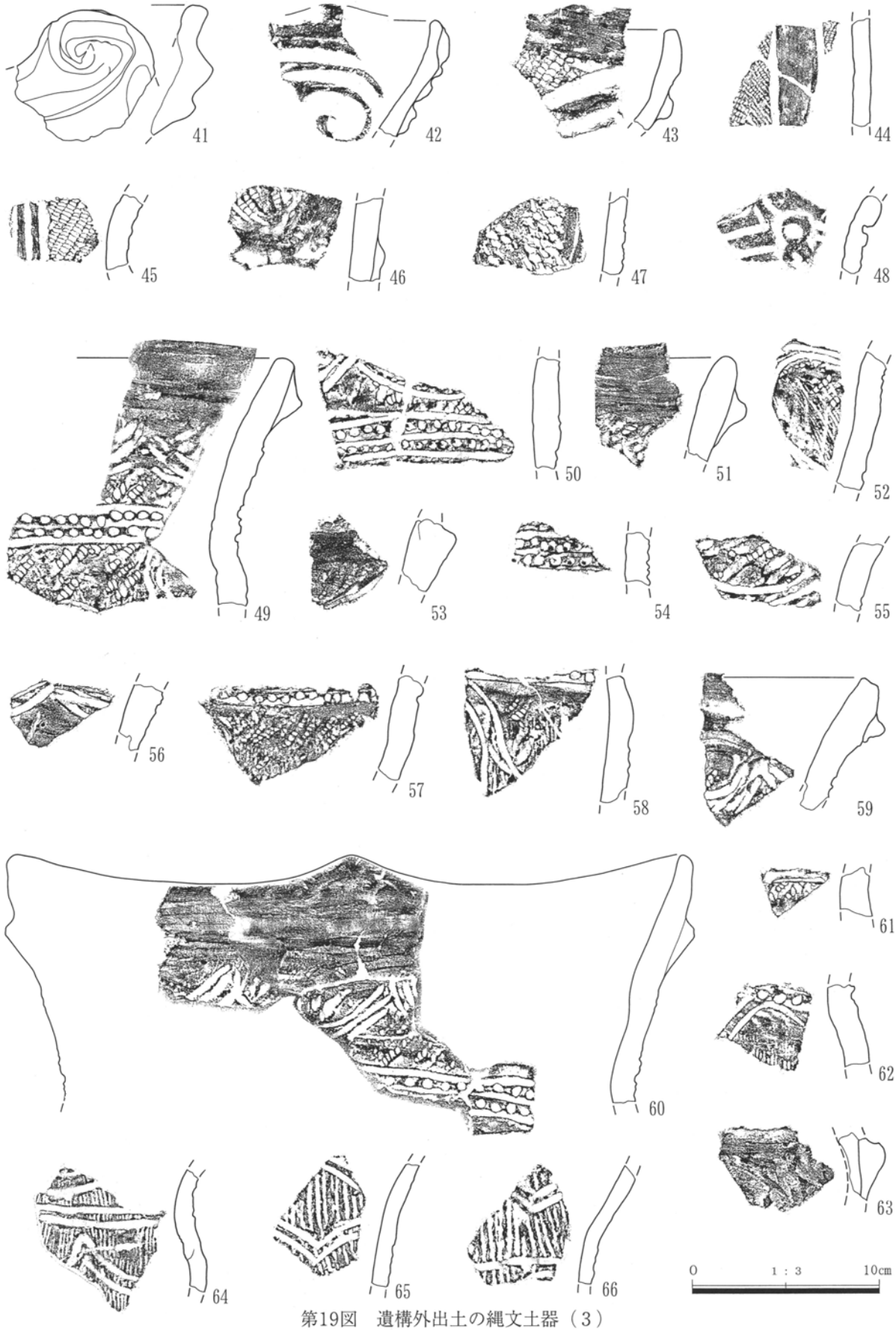
	打製系列						使用痕系列	その他			合計
	石鏃	石錐	削器	打製石斧	加工石器	小計	凹み石	石核	剥片	礫	
黒色頁岩		2	22	7	4	35			29		64
チャート	1					1			2		3
黒色安山岩			2			2			4		6
粗粒輝石安山岩						0	3			2	5
細粒輝石安山岩				7		7			1		8
変質玄武岩				1		1					1
変質安山岩				1		1		1			2
灰色安山岩				3		3					3
珪質頁岩				1		1					1
砂岩						0			2		2
軽石						0			1		1
計	1	2	24	20	4	51	3	1	39	2	96



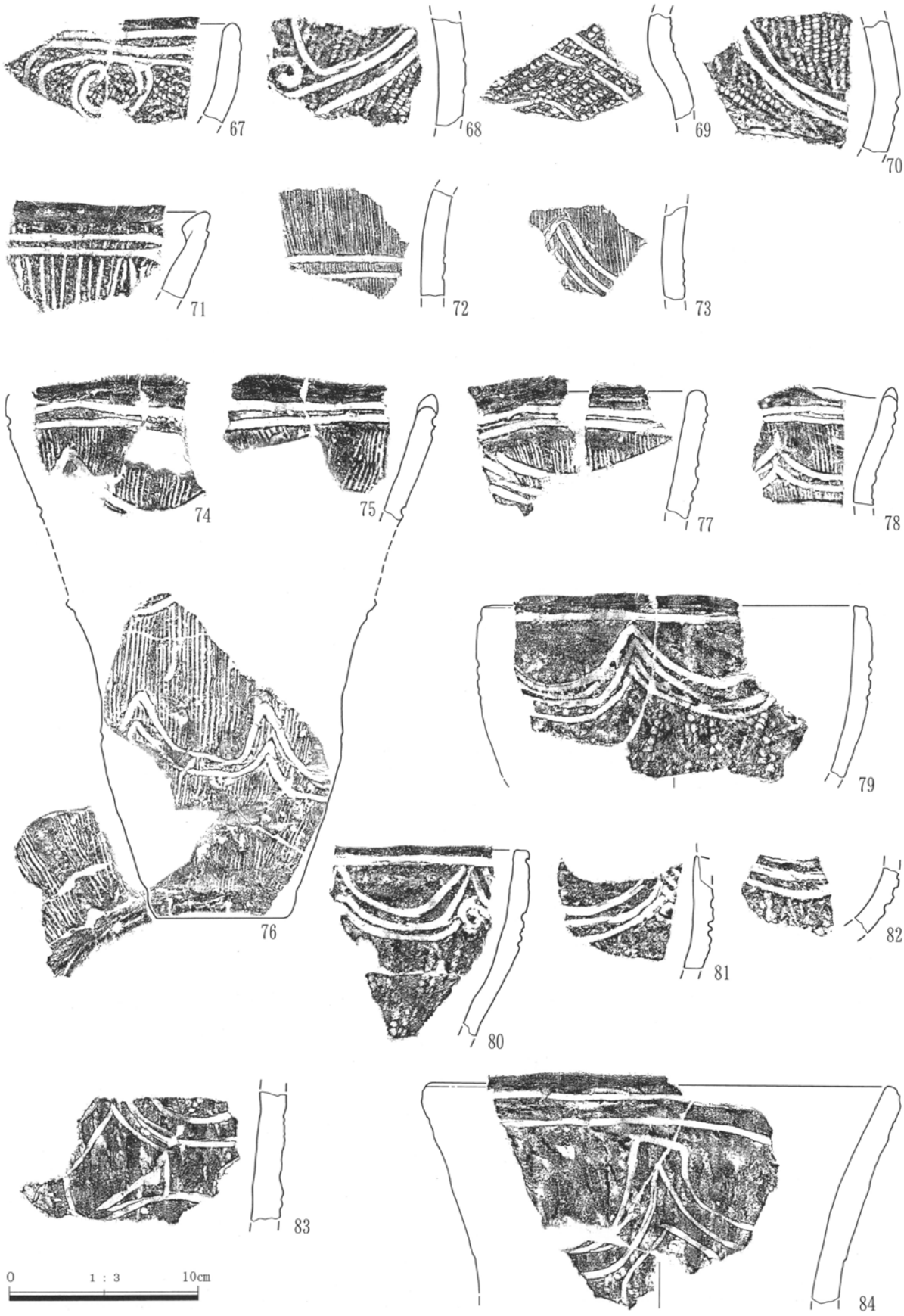
第17図　遺構外出土の縄文土器（１）



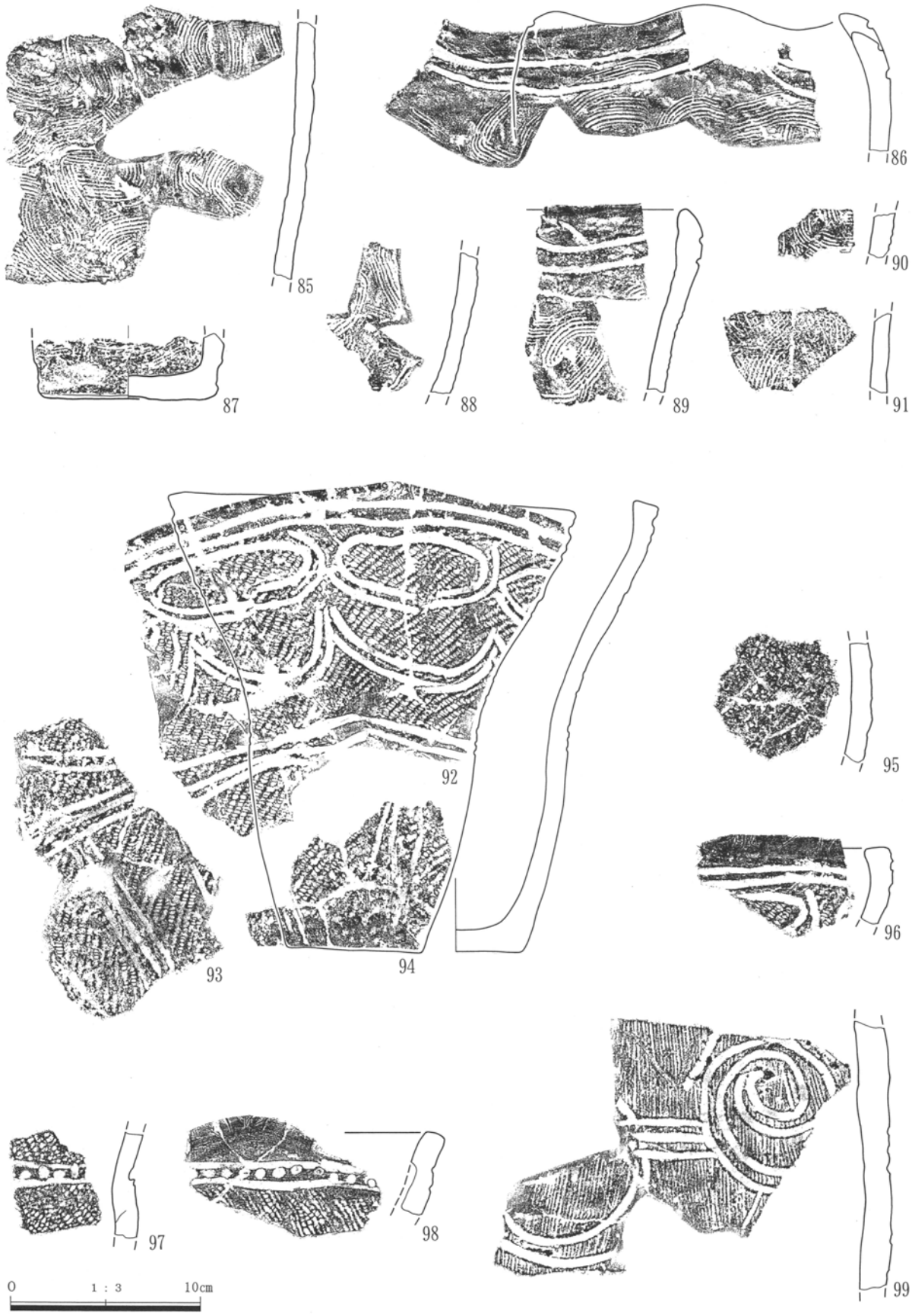
第18図　遺構外出土の縄文土器（２）



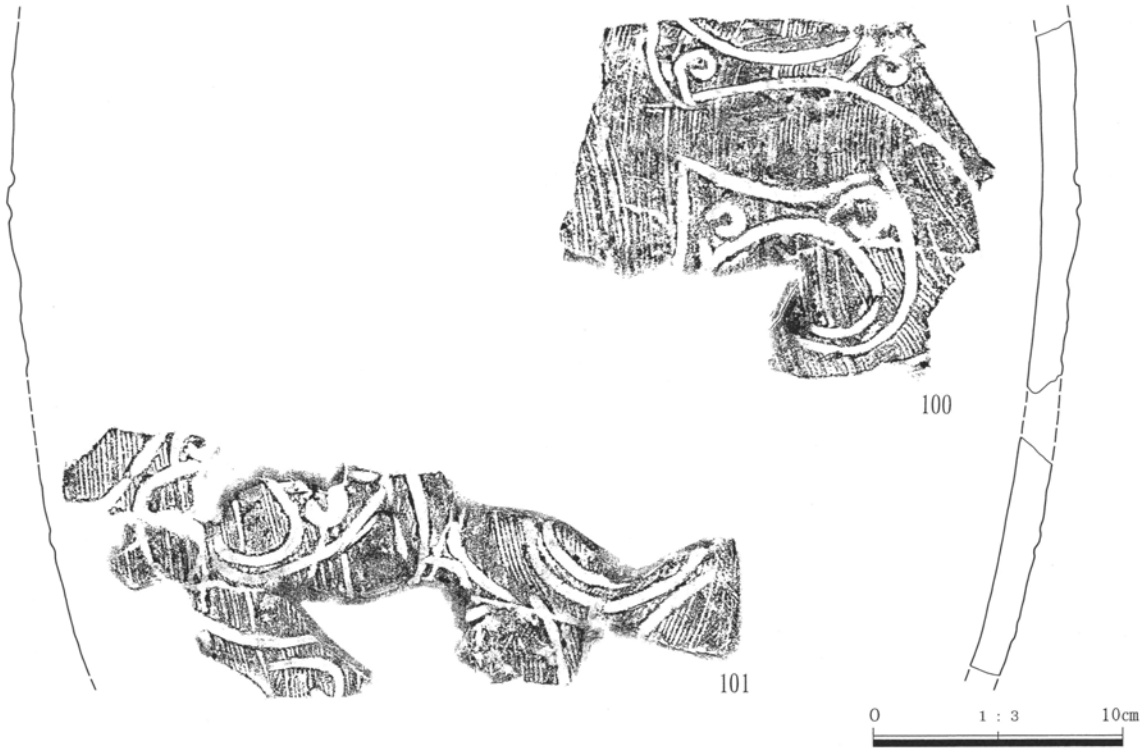
第19図　遺構外出土の縄文土器（３）



第20図　遺構外出土の縄文土器（４）



第21図　遺構外出土の縄文土器（５）



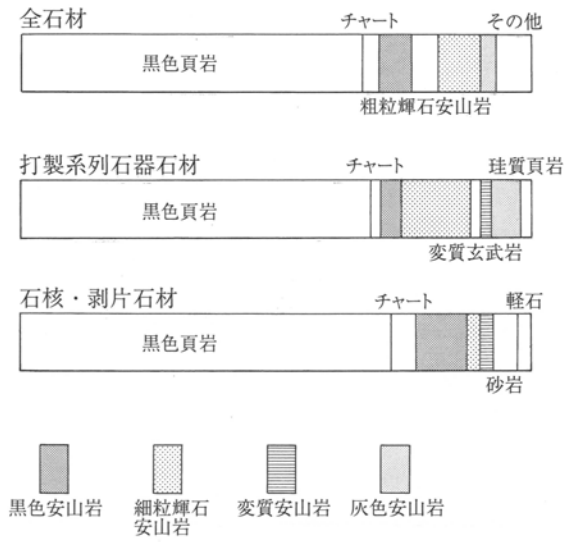
第22図　遺構外出土の縄文土器（６）

60度前後のものは、掻器的な用途も考えられる。

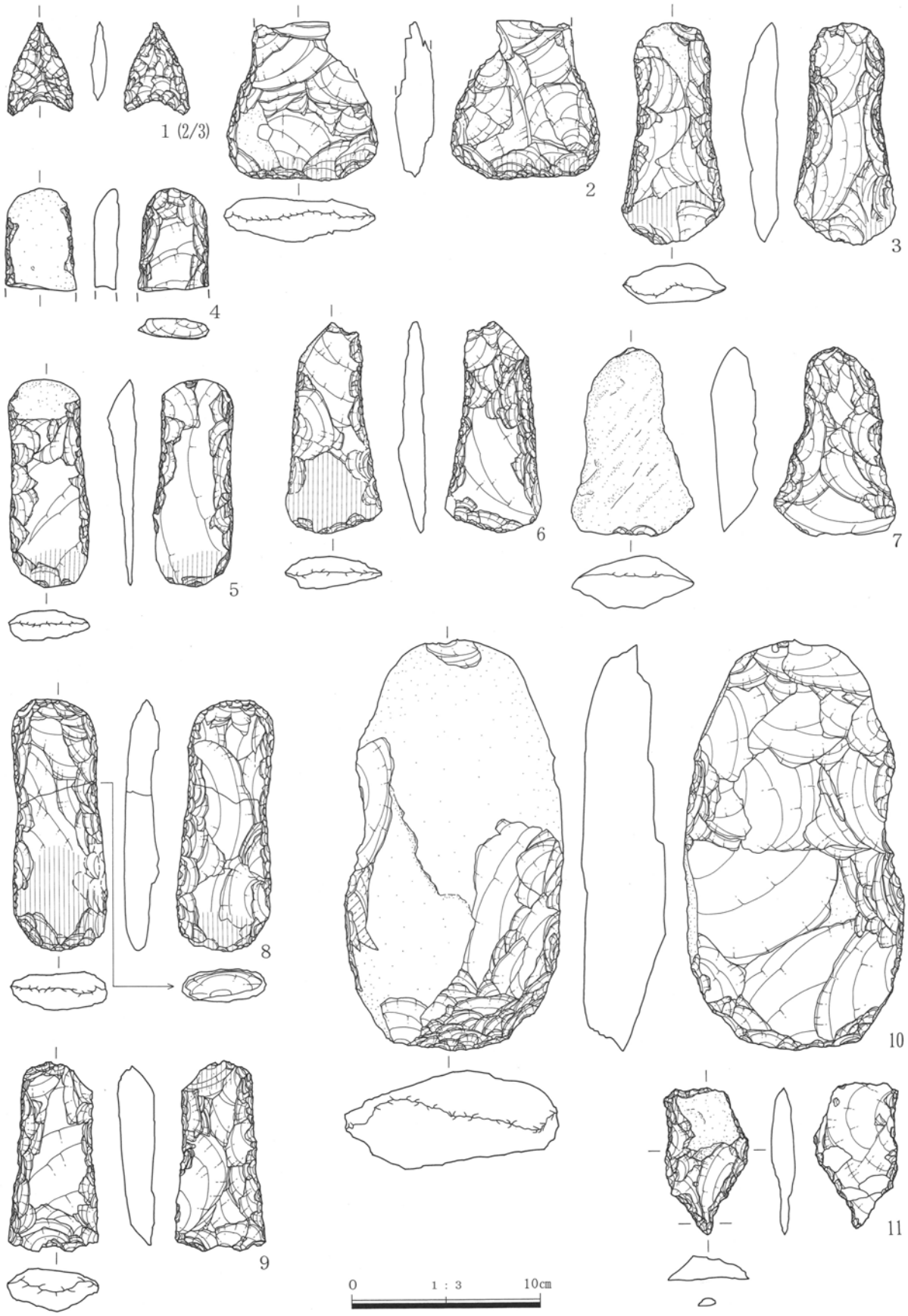
打製石斧の場合は、体部中位や刃部を欠損するものが全体の約６割を占め、形態的には体長10～13cmの短冊形が主体的である。片面側の体部中央から刃部にかけて、縦位方向の磨耗痕が認められ、柄との装着や使用状況を窺うことができる。また、10は体長21cm、重量1.4kgを超える大型品であり、全体的に整形加工が粗雑な点は未製品の可能性もあるが、先端部の刃部加工状況を見れば、木材伐採用の大型品と考えられる。

打製系列の石材は、石錐や削器などの小形品には黒色頁岩が多用されるが、打製石斧の場合にはその他に細粒輝石安山岩や灰色安山岩なども多用され、若干異なった様相を示している。こうした用材傾向は、それらの素材となる石核や剥片の中にも窺うことができるが、特に長さ20cm、重さ1.8kgの20の石核（変質安山岩）の場合は、その調整剥片が皆無の状況を考慮すると、打製石斧の用材として遺跡外で粗割された後に持ち込まれた時点の素材形状を留めている可能性もある。

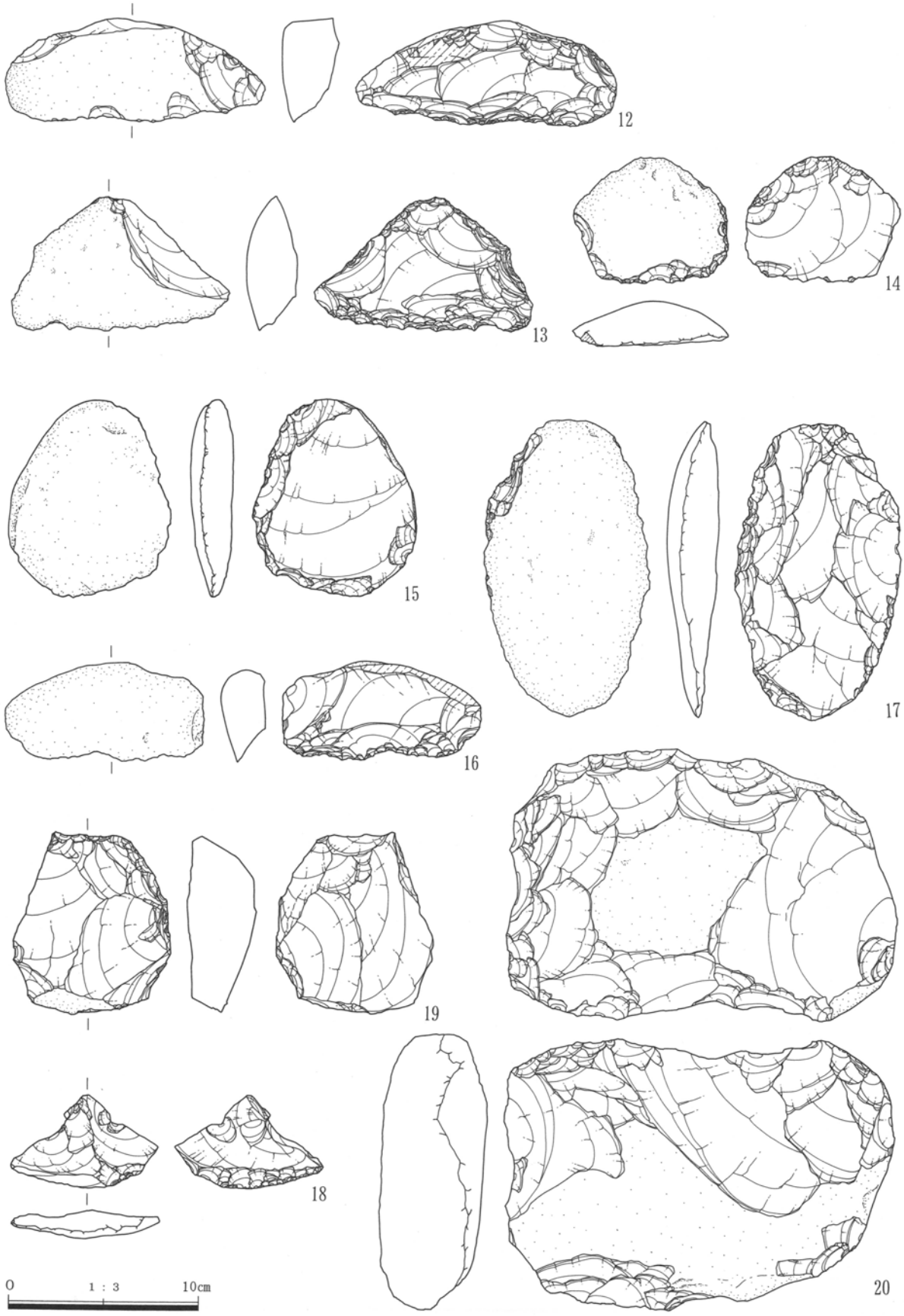
一方、使用痕系列では、磨石類３点（未掲載）が存在するのみであるが、いずれも粗粒輝石安山岩の河床礫を用いている。



第23図　石器石材グラフ



第24図　遺構外出土の縄文時代石器（１）



第25図　遺構外出土の縄文時代石器（２）

第３節　古墳時代の遺構と遺物

（１）竪穴住居

古墳時代の竪穴住居は、台地の中央を中心にその東側寄りにかけて13軒（谷津遺跡と合わせ合計17軒）を調査した。住居間の重複はなく、全体的には散在的な分布状況である。

１号住居（第26・27図）

位　置　Ｇ－21グリッド

写　真　ＰＬ－５・６・30

概　要　調査区南西部に位置する。東壁に竈を持ち、その右側に貯蔵穴を有する。壁面の残存は良好で、壁際に周溝が一周している。柱穴は４本である。

重　複　なし

形　状　平面形は、ほぼ正方形に近い四角形であるが、南壁がやや斜辺となる。そのため、南西隅が弱干鈍角となっている。四壁とも直線を指向している。

規模は、東西方向がほぼ中央で4.78ｍ、南北方向が東壁で4.38ｍ、西壁で4.52ｍである。壁面は南東隅で57㎝、他も40㎝以上の残存高である。

床面は、中央から東側半分に硬化面が認められた。

埋没土は、上層に黒褐色土を主体とした暗褐色土、中層に暗褐色土、下層に暗茶褐色土が堆積していた。

掘り方は、床面下６～10㎝ほどの深さで、貼り床は認められなかった。埋土は、ソフトロームを中心に混入物をほとんど含んでいなかった。

面　積　18.92㎡

方　位　Ｎ－74°－Ｅ

竈　東壁面の中央からやや南側寄りに構築されている。燃焼部は住居内の床面上に造られ、最奥の立ち上がりが一部壁面を掘り込んで造られている。燃焼部の奥行は68㎝、幅15～20㎝である。煙道部は、削平されていた。燃焼部は深さ３～５㎝の浅い掘り方の上に構築されている。袖材は、ローム混じりの暗茶褐色土からなっていたが、左袖部の崩壊は著しかった。右袖は、先端、焚口部に割れ石を立て補強していた。燃焼部内には土器の小破片が混入していたが、焼土の堆積は少量であった。

周　溝　各壁の壁際から検出した。南壁下の部分はやや蛇行していた。幅は７～16㎝、深さは３～12㎝である。掘り込みは竈の袖部下位からも検出された。埋没土は、ソフトロームが中心であるが、矢板の痕跡は見られず、特に踏み固められてもいなかった。

柱　穴　４主柱穴が検出された。整然としているが、住居の掘り方全体における位置関係中では４本がやや東壁寄りにある。埋没土の中心には黒褐色土が見られ、柱痕がわずかに残っていた。その周囲と下層にはソフトローム様の茶褐色土が入るがあまり締まりはなかった。

個々の柱穴規模を長軸×短軸×深さで表すと、柱穴１が37×33×43㎝、柱穴２が64×57×73㎝、柱穴３が60×50×73㎝、柱穴４が60×53×66㎝である。

貯蔵穴　住居の南東隅、竈の右側に位置する。平面形は円形を基本としている。規模は、直径71×68㎝、深さ66㎝である。埋没土は、暗褐色土で、ローム粒の混入が多い。炭化物、灰の混入は無かった。竈寄りの上層から甑（18）が出土している。

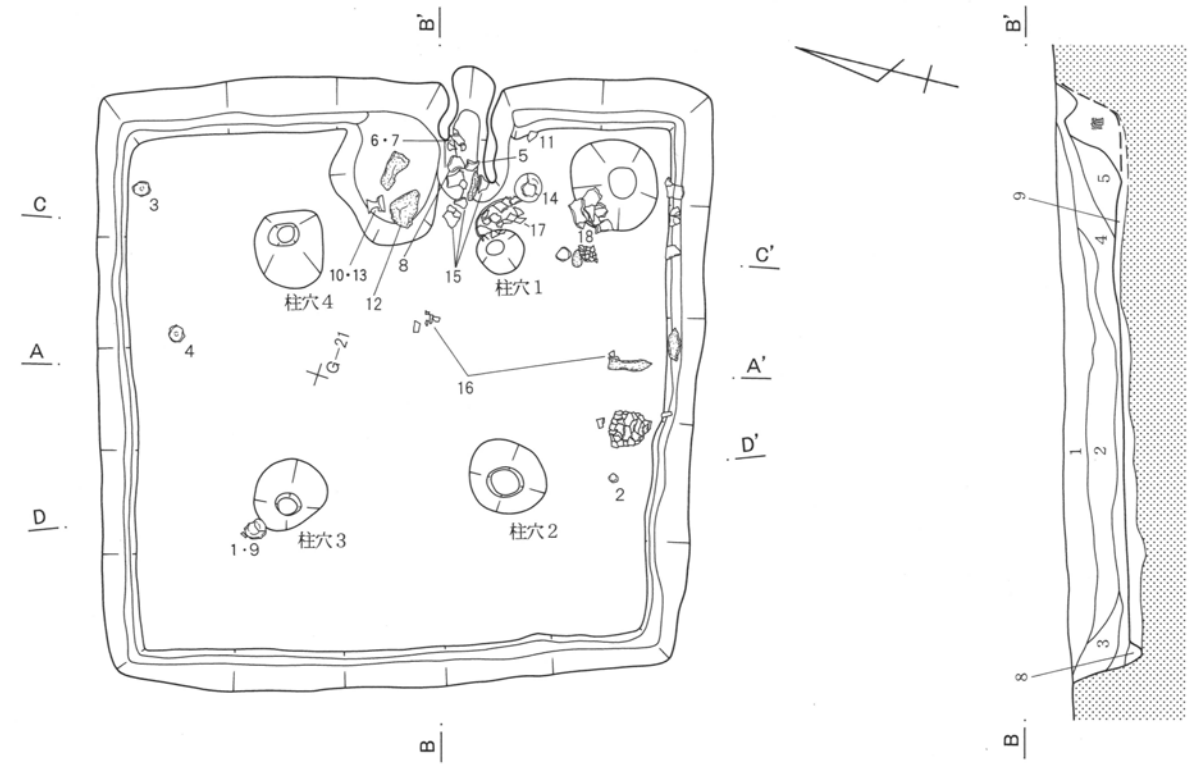
遺　物　竈周辺と各壁際から検出された。竈燃焼部内からは破片の状態で杯（５～７）が、左袖部から杯（８）が出土している。また、焚口部右側の床面からは、甕（14）が出土した。竈から離れた地点では、柱穴３寄りで杯（９）、ミニチュア土器（１）が、北壁中央で鉢（４）がいずれも床面直上から出土した。北東壁際出土の鉢（３）は、床面から５㎝離れての出土である。

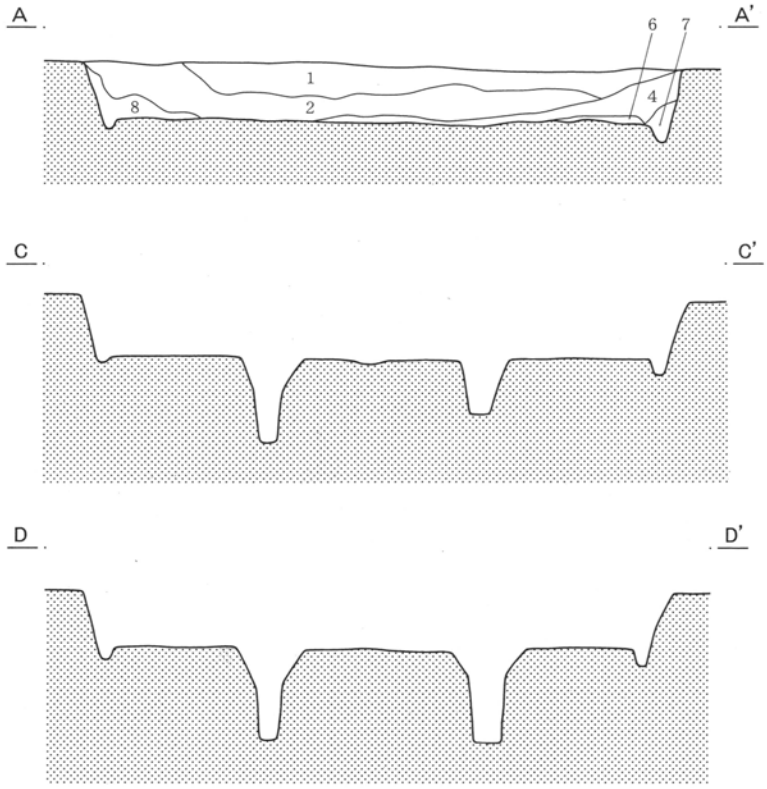
なお、遺物の出土量は収納箱１箱である。非掲載土器片の合計は345片、その内訳は土師器杯53片・甕268片・小型甕22片・高杯２片である。

（遺物観察表Ｐ４・５）

備　考　竈の左側に深さ５㎝ほどの皿状のくぼみがあり、直上から礫や高杯（13）が出土している。

所　見　10・11の模倣杯を混入品と考え、他の出土遺物から５世紀末頃の住居と推定したい。

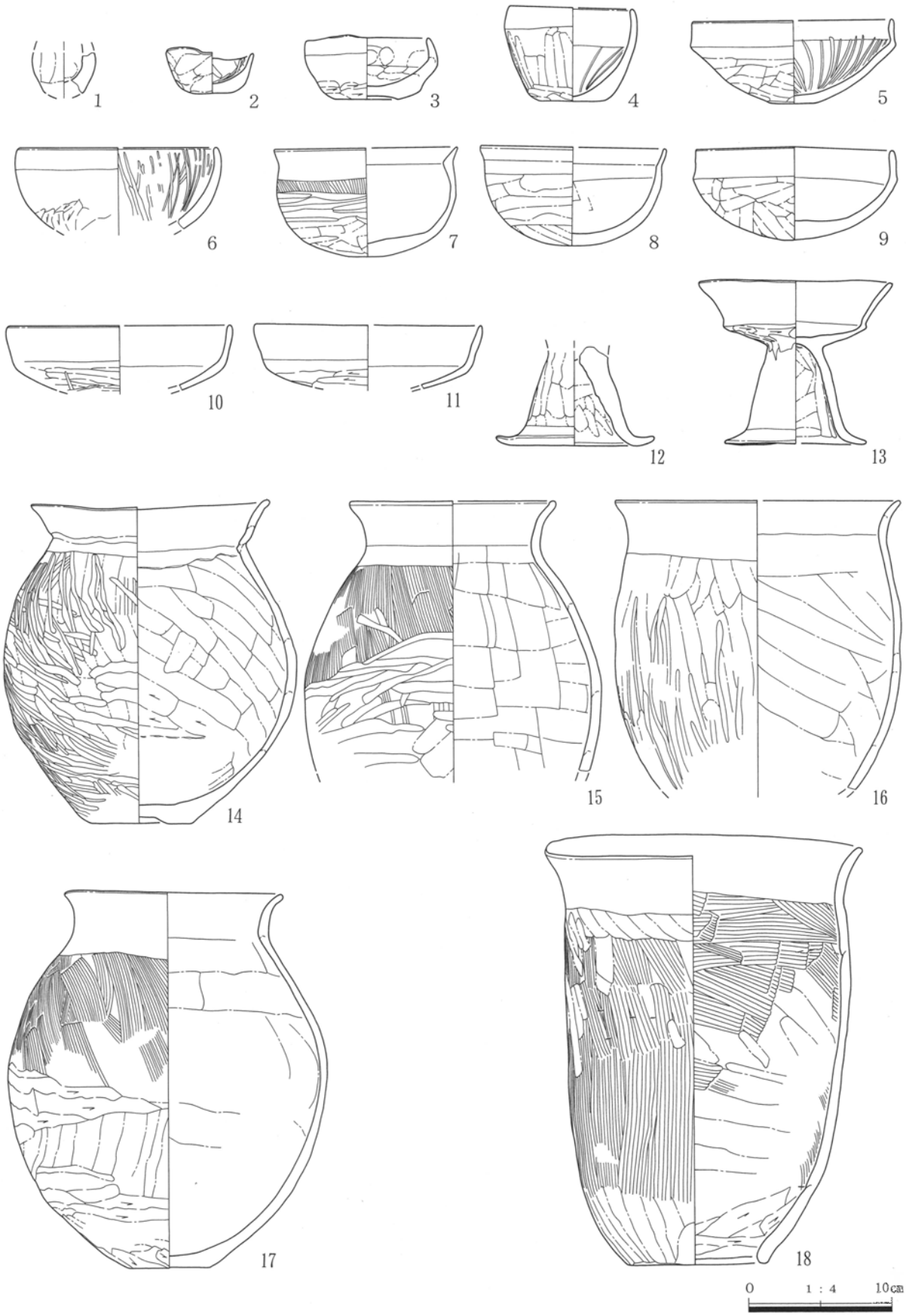




1．黒褐色土を主体とした暗褐色土との混土層　Hr-FP・As-Cをまばらに含む。あまり締まりなし。
2．暗褐色土　1と類すが黒褐色土は少量になる。軽石は同様に混入。
3．暗茶褐色土　ソフトロームとハードロームのブロックが混入。汚れている。
4．暗褐色土　締まりなし。
5．茶褐色土とロームブロックの混土層
6．茶褐色土のブロックと黒褐色土の混土層。軽石を少量含む。
7．茶褐色土のブロックと黒褐色土の混土層　8に類するがロームブロックの混入が少ない。
8．茶褐色土　締まりなし。
9．貼り床　ソフトロームを中心とする暗褐色土　炭化物・焼土等の混入物はほとんど含まない。

0　1：60　3 m

第26図　１号住居



第27図　１号住居 出土遺物

２号住居（第28～31図）

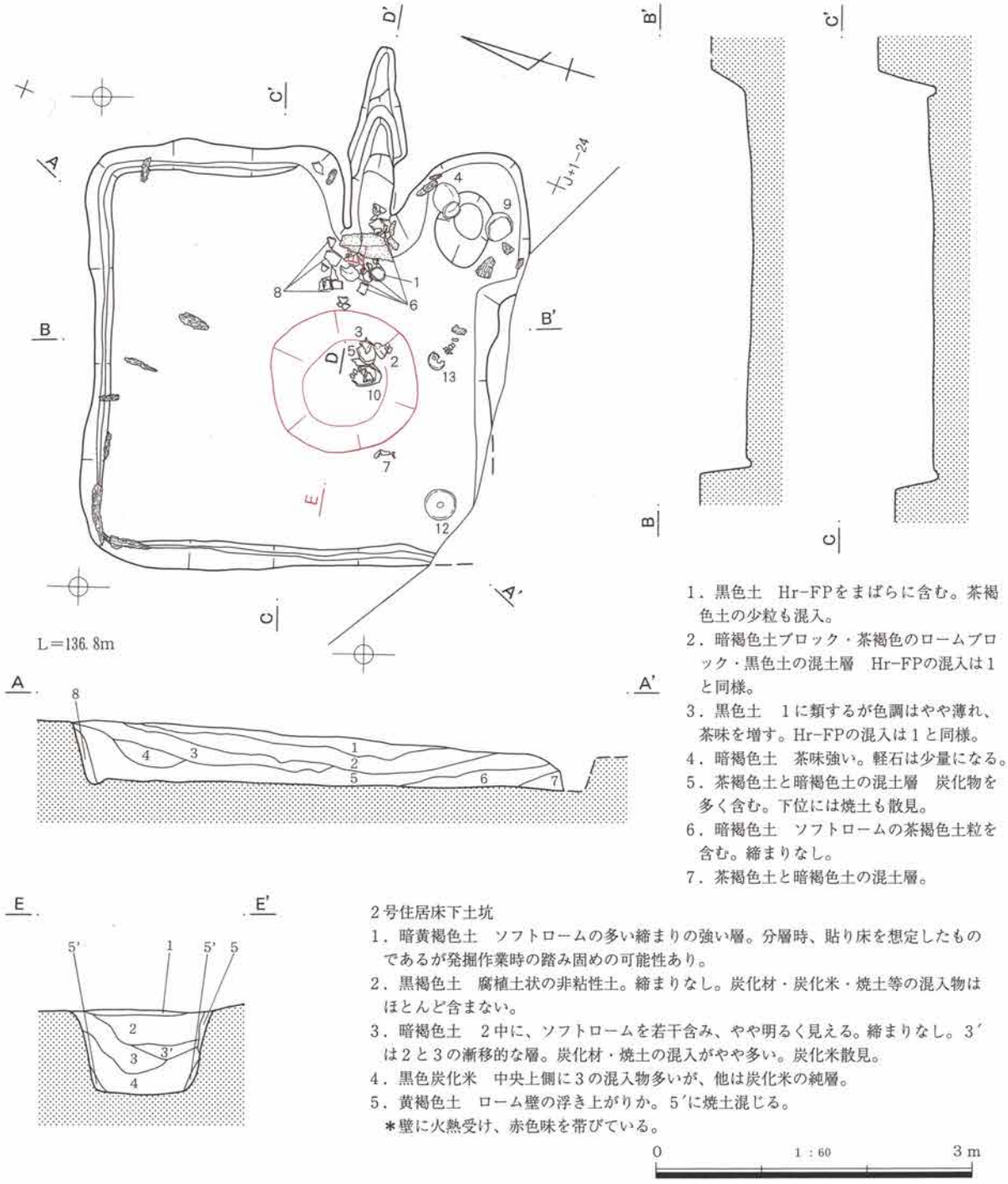
位　置　Ｄ－23グリッド

写　真　ＰＬ－６・30・31

概　要　調査区南縁に位置する。東壁に竈を有する住居で南東隅部分が小さく張り出している。南西隅の一部は現行水路により削平を受け、全容は明らかにできなかった。

重　複　なし。

形　状　平面形は、東西方向が若干長い長方形を呈するが、南東隅は東西41㎝、南北109㎝にわたり小



第28図　２号住居

さく張り出しており、ここに貯蔵穴が設けられている。四隅は、他の住居に比べやや丸味を有している。規模は、東西が3.96m、南北は東壁が4.16mを測る。中央部分では3.36mが推定される。各壁面とも垂直に近い掘り込みで、残存の良好な北東隅で深さ65cmを測った。

床面は、ほぼ全面が硬化していた。貼り床はないが、中央から南西隅に寄った位置に直径135cm、深さ78cmの平面円形の床下土坑を有していた。上層の黒褐色土中からは高杯（２・３）・甕が出土している。下層には約20cmの厚さで米（籾）が堆積、炭化した状態で検出された。

埋没土は、上層から黒色土、暗褐色土ブロック・茶褐色ロームブロック・黒色土の混土層、暗褐色土の順で堆積していた。

面　積　(12.86) m^2

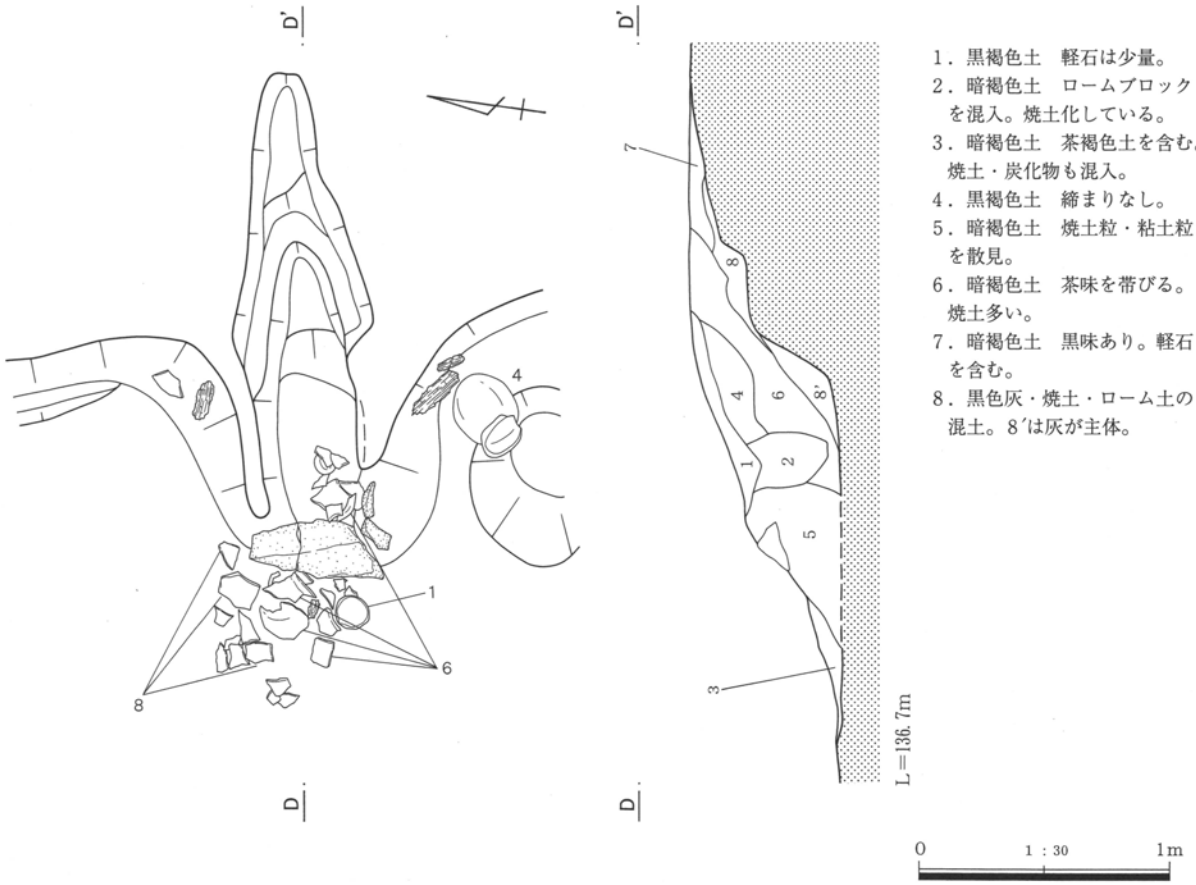
方　位　N－70°－E

竈　東壁面の中央からやや南側寄りに構築されている。燃焼部は住居内に構築され、煙道部が屋外の地山中に掘り込まれていた。燃焼部は奥行80cm、幅25cmで、焚口部の幅は23cmであった。

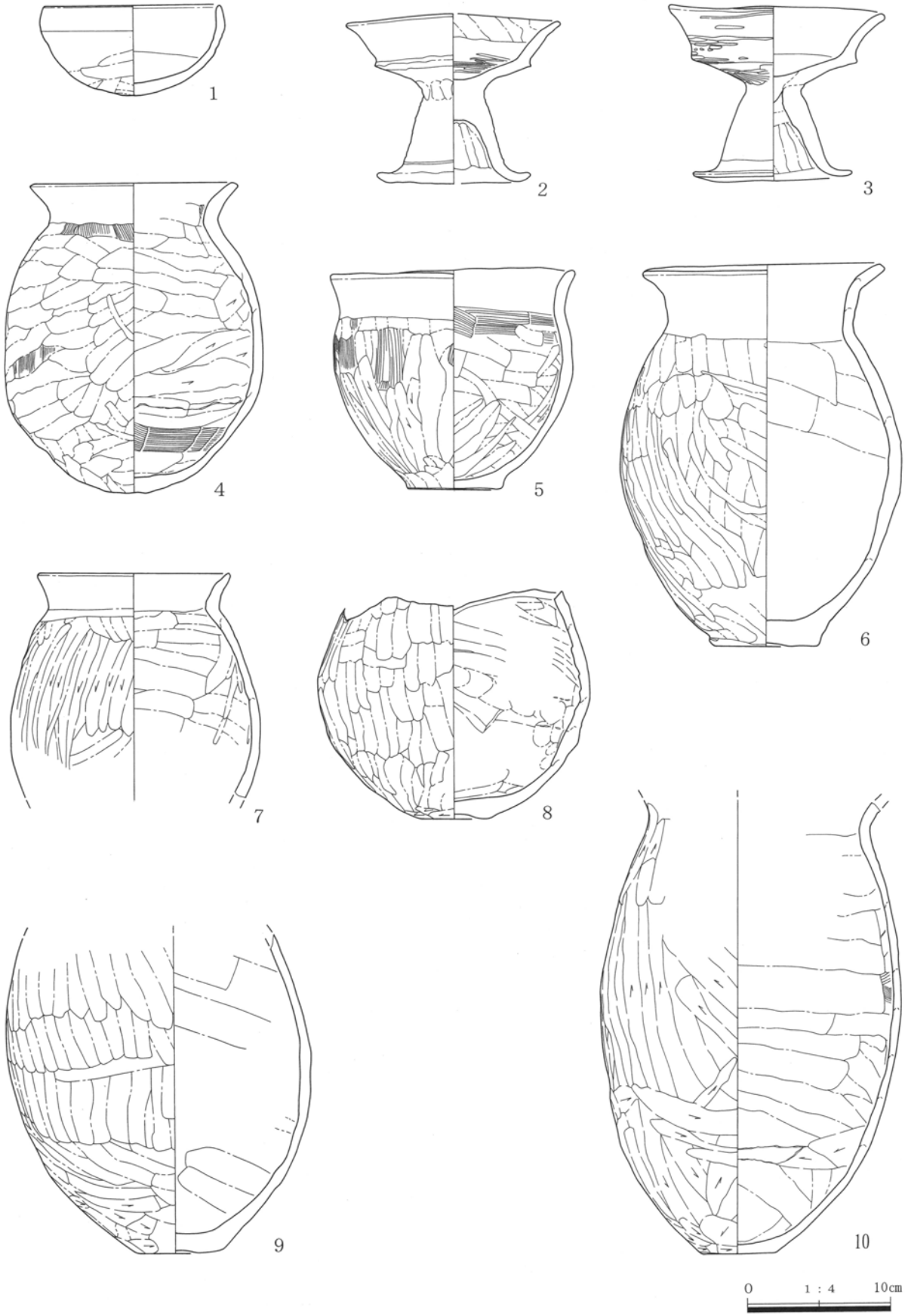
袖材は、粒子の粗い砂粒を含む汚れた灰褐色土である。焚口部は両袖の先端に板状の割れ石を立て、これに大型の礫を架構、鳥居状の構造を造っている。袖部の石は地中20cmの深さに基底を据えている。燃焼部には小礫を据え支脚としていた。

燃焼部内には炭化物を多く含む黒色土が堆積、焼土・灰の堆積は少なかった。煙道部の残存は、長さ102cmである。中位で傾斜角を変えながら二段階で斜め上方に立ち上がっている。壁面は火熱のため硬化していた。

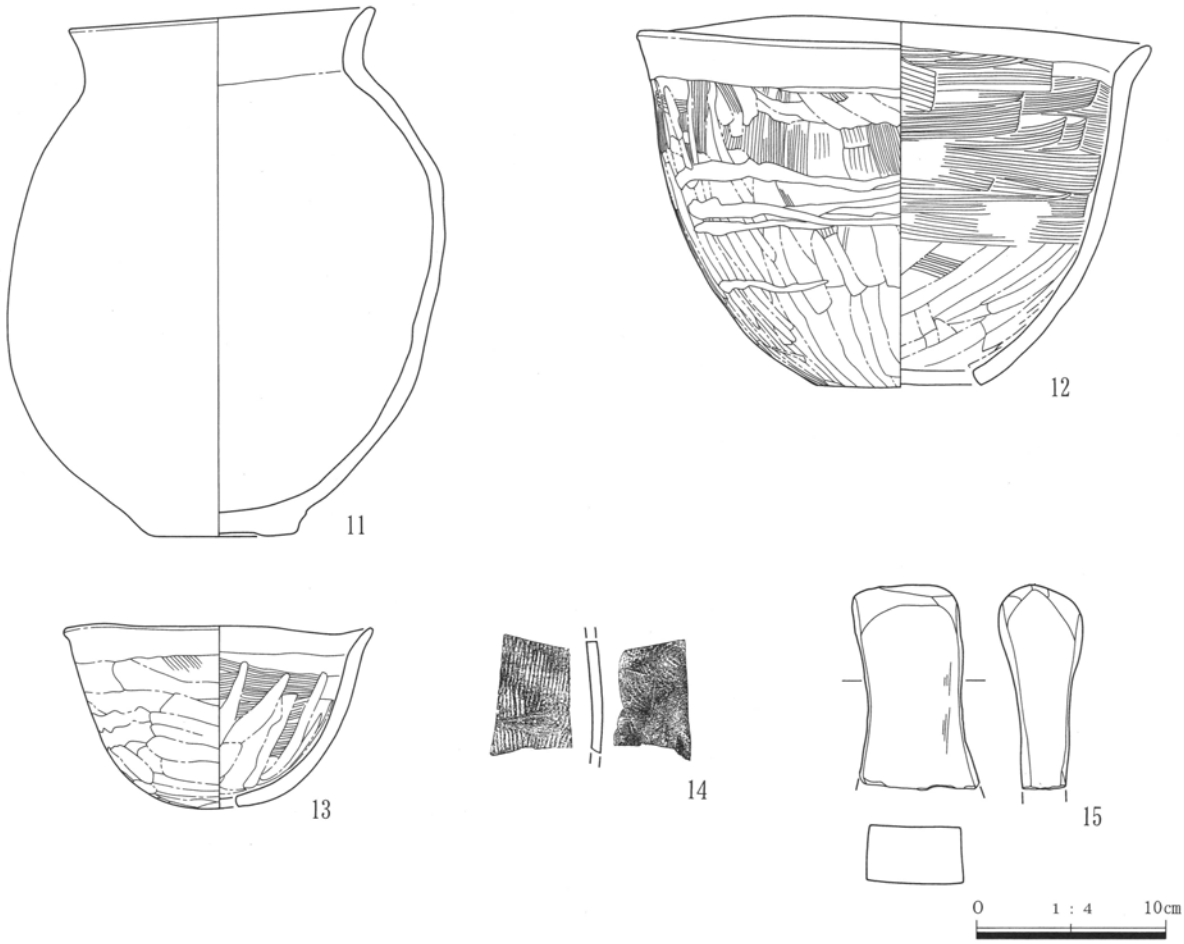
周　溝　竈から北側の東壁、北西隅を除く北・西壁際で検出した。掘り込みは竈の袖部下位にまで及んでいた。その規模は、幅５～13cm、深さ２～６cmで



第29図　２号住居 竈



第30図　２号住居 出土遺物（１）



第31図　２号住居 出土遺物（２）

ある。

柱　穴　１本も検出されなかった。

貯蔵穴　住居の南東隅、竈右側に位置する。平面長円形を呈し、規模は71×54㎝、深さ61㎝を測る。埋没土は暗褐色土であるが上層に炭化物を多量に含んでいた。

遺　物　竈および貯蔵穴の周辺からの出土が多かった。甕（６）は燃焼部から焚口部にかけた広範囲にわたり破片が散布していた。その右側、焚口前の床面からやや離れた位置から杯（１）が出土している。甕（８）は下半部の残存であるが焚口部左前からの出土である。

貯蔵穴周辺では竈右側、東壁寄りから甕（４）が、南壁寄りから甕（９）が出土している。南壁際の床面直上からは砥石（15）が、床面から９㎝離れて甑（13）が口縁部を下にして出土している。また、南西隅の床面直上からは甑（12）がやはり倒立した状態で検出された。

なお、遺物の出土量は収納箱１箱分である。非掲載土器片の合計は55片、内訳は土師器杯４片・甕51片である。（遺物観察表Ｐ５・６）

備　考　埋没土中には北西隅を中心に、北東隅、竈右側などから大型の炭化材が多数出土しており、本住居が焼失住居あるいは廃棄後に火熱を受けたことが想定される。また、床下土坑は米（籾）の堆積していた部分の壁面も火熱を受けていた。

所　見　出土遺物を見ると、模倣杯の出土はないが、甕に長胴化の兆しが見られることや、高杯脚部が短いことなどから、６世紀初頭の住居と考えたい。

３号住居（第32～36図）

位　置　Ｍ－24グリッド

写　真　ＰＬ－７・31・32

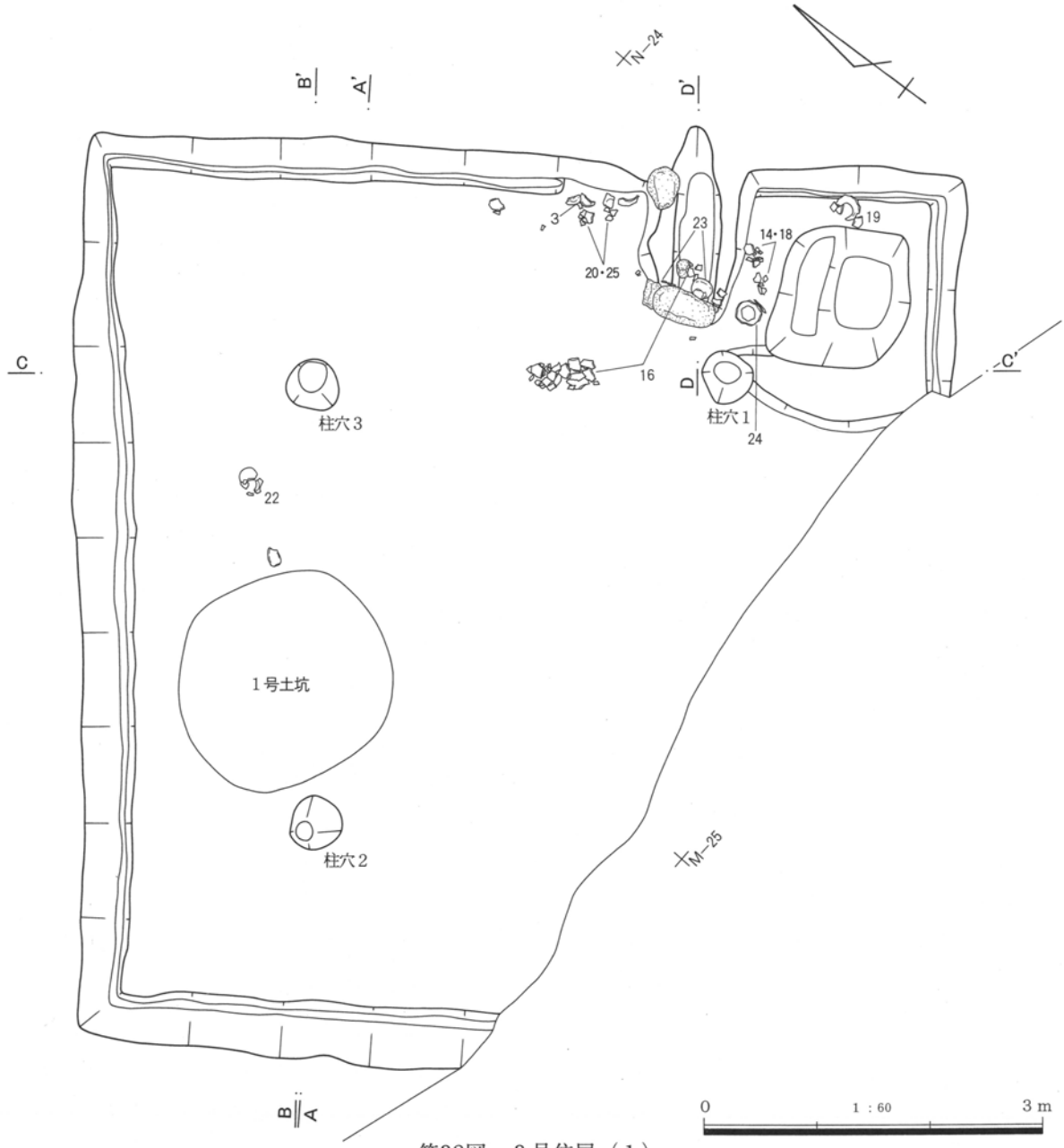
概　要　調査区南端に位置する。南西隅を中心とする約４分の１は現行用水路により削平を受けていた。東壁に竈を有し、今回調査した住居中最大の規模を有していた。

重　複　床面からやや北壁寄りで１号土坑と重複し、これに先行する。

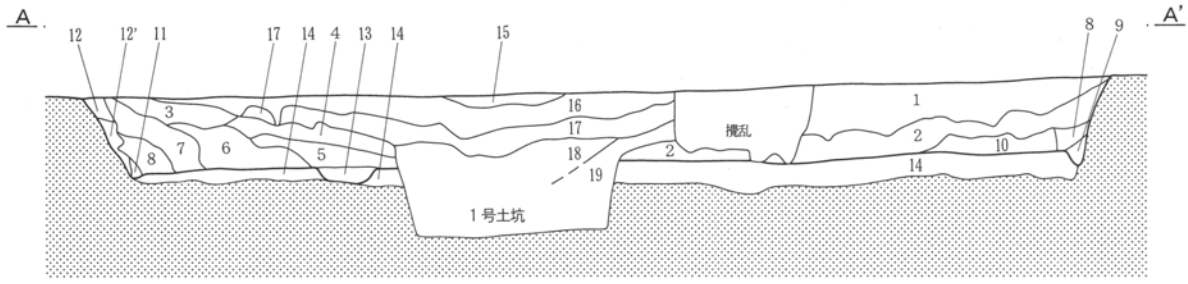
形　状　平面形は、四隅の整然とした正方形を呈する。規模は、南北、東壁の長さが7.81ｍ、東西は北壁の長さが8.02ｍを測る。壁面の立ち上がりは上方に向かって若干外傾するものの残存状態は良好で、北東隅から東壁中央で深さ69㎝を測った。

床面は、西側から東側に向かって徐々に高くなるが平坦な面をなしている。竈焚口部前から右側、柱穴１、貯蔵穴周辺に硬化面が見られた。その反面、竈左側は検出面が判然とせず、ロームブロックと茶褐色土の混土層が見られあまり締まりがなかった。

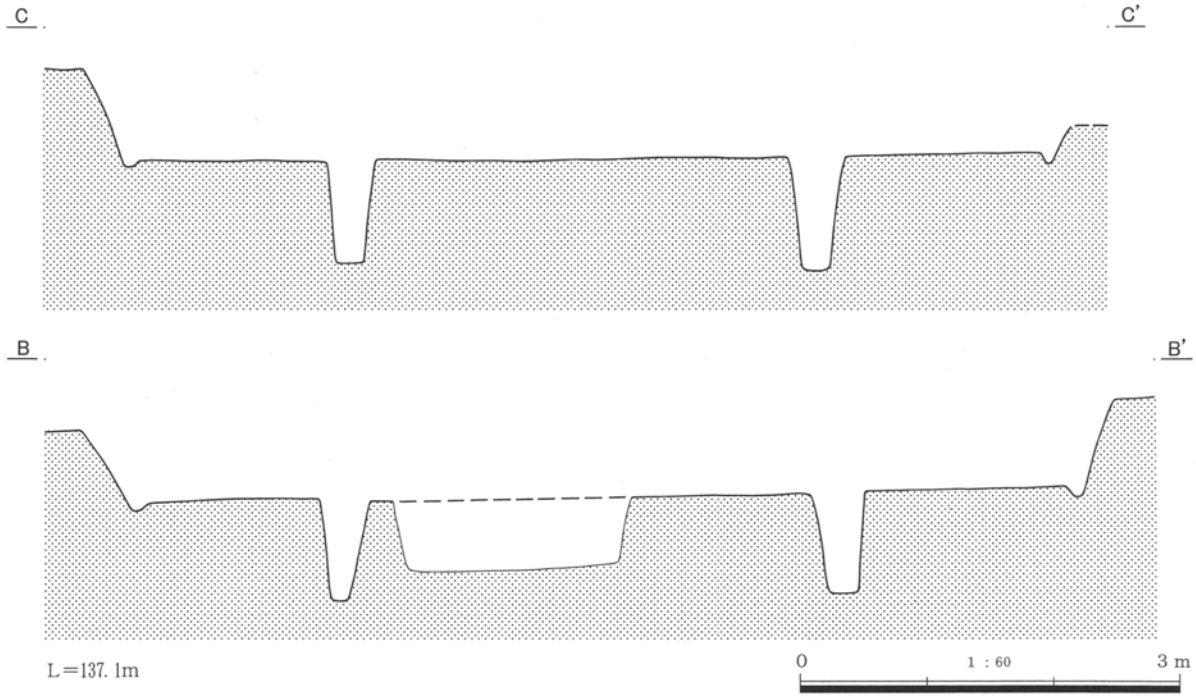
掘り方は10～15㎝の厚さで見られ、ソフトローム



第32図　３号住居（１）



1．暗褐色土　Hr-FP粒・黄褐色土粒を多量に含む。
2．暗褐色土　1よりもHr-FPは少なくなる。黄褐色ロームの小ブロックを含む。
3．褐色土　黄褐色ロームのブロックを多量に含む。
4．黒褐色土　黄褐色ローム粒をまばらに含む。
5．褐色土　3に類するがやや黒味あり。
6．暗褐色土　ロームの小ブロックを多く含む。茶味あり。
7．黒褐色土　Hr-FPを多く含み、層全体も砂質。
8．黒褐色土　床面近くにはロームが多く入りこみ、黄味が強い。
9．褐色土　茶味あり。黒色土を混土。
10．黄茶褐色土　汚れたソフトローム。10′は10より茶味が強い。
11．茶褐色土　Hr-FPを多く含む。黒色土・ローム粒も混入、Hr-FA（？）様の灰褐色細砂粒がレンズ状に入りこみ、Hr-FPと混ざる。
12．黒褐色土　黄褐色土の小ブロックが混入。12′は小ブロックの混入を増す。
13．暗褐色土　ロームブロック混入（柱穴の埋没土）。
14．貼り床　暗黄褐色土単一層。ソフトロームの多い粘性土。締まり強い。ハードロームブロックを不均等に含む。焼土・炭化物等の混入少なく、不明瞭。
15．黒褐色土　細砂を多量に含む。
16．黒褐色土　Hr-FPを多量に含む。
17．黒褐色土　Hr-FPを多量に含む。15よりやや茶味を増す。
18．黒褐色土　Hr-FPは少量になる。
19．茶褐色土　ロームブロックを多量に含む。
＊15～19まで１号土坑の遺構の埋没土。締まりなし。



第33図　３号住居（２）

を多く含む暗黄褐色土から成っていた。埋没土は上・中層に暗褐色土が、壁面寄りの下層に褐色土が堆積していた。

面　積　(38.38) m²　　**方　位**　N－54°－E

竈　東壁中央から南側に寄って構築されている。住居内に燃焼部が設けられ、住居壁面を緩やかに掘り込んで煙道部が設けられている。燃焼部は、奥行約130cmを測るが幅は30cmと狭い。焚口部の幅は25cmである。

袖材は、暗灰色粘土からなり基部に黒色土が見られた。焚口部先端は、礫と割れ石を鳥居状に組んでいる。天井をなす礫と火床面とは約20cm離れていた。

両袖部の割れ口は火床下20cmに基底が据えられていた。燃焼部内には焼土が約15cmと厚く堆積していた。右側面は良く火熱を受けていた。焚口部からの距離約40cmの火床面から小礫が１個出土しており、支脚の可能性が考えられる。煙道部には焼土の存在は少量であったがやはり壁面の右側が焼けていた。

周　溝　竈左側の一部を除き検出した。壁際に暗褐色土が帯状にめぐっていた。東壁際はあまり判然としなかった。幅は５～17cm、深さは２～９cmである。

柱　穴　柱穴は４本で構成されていたと考えられるが西南部分は削平されている。

柱穴の掘り方は円形で、柱穴２では直径10cmの黒色土の存在が確認され、柱痕と考えられる。その他の埋没土はローム混じりの暗褐色土で炭化物を含むものであった。下層ではソフトロームの混入量が多くなった。個々の規模は、柱穴１が直径46×42cm、深さ81cm。柱穴２が直径48×45cm、深さ81cm。柱穴３が直径44×44cm、深さ81cmである。

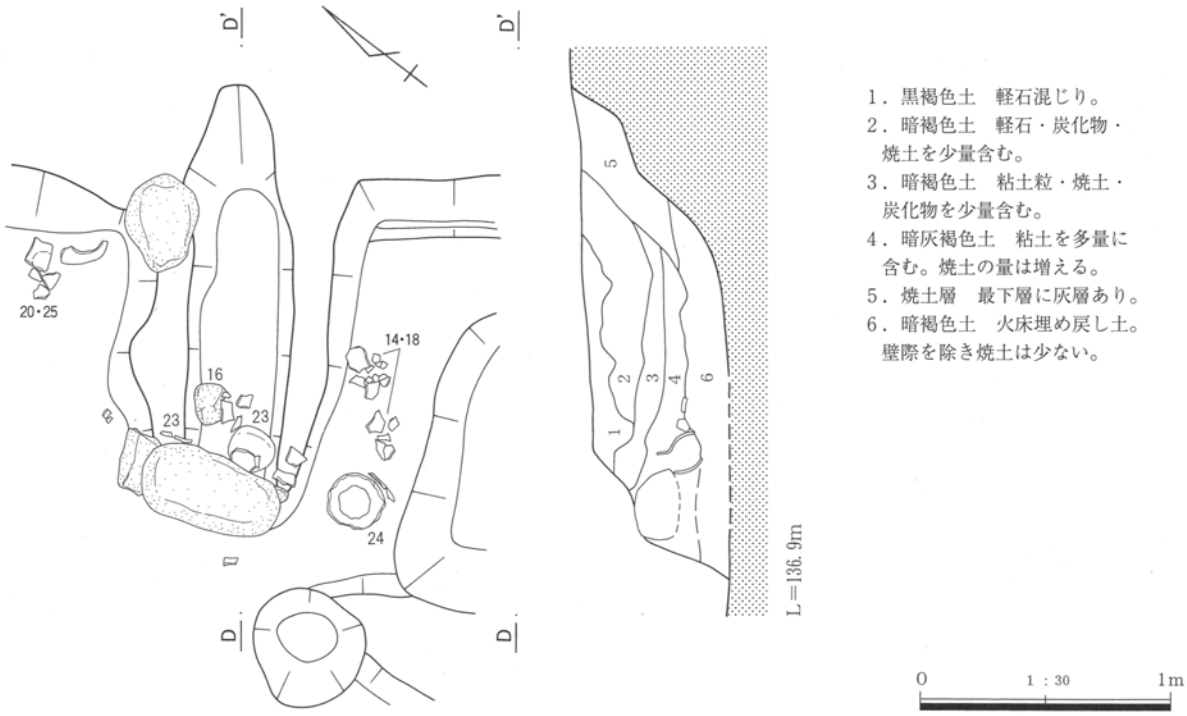
貯蔵穴　住居南東隅、竈右側に位置する。平面原形は四角形であったと考えられる。規模は上端で125×123cm、下端で68×48cmである。北壁側は中位に狭い段を有している。床面からの深さは99cmである。埋没土は上層にロームブロック、炭化物を少量含む黒色土、下層に暗褐色土が堆積していた。また、貯蔵穴の西側は、幅50～55cm、高さ５cmの帯状に高まりを有していた。

遺　物　竈周辺から出土した細片が多く、かつ、床面直上からの出土は少量であった。竈燃焼部からは甕（23）が出土した。使用時の状態で検出されたものと考える。焚口部の右側からは甕（24）が出土、東壁際では甕（19）の口縁部が貯蔵穴内に落ち込むようにして出土している。竈左側、東壁際では杯（３）、甕（25）が検出された。竈焚口部左前の床面から出土した甕（16）は、竈燃焼部内の破片と接合している。床面北側からは甕（22）が発見された。

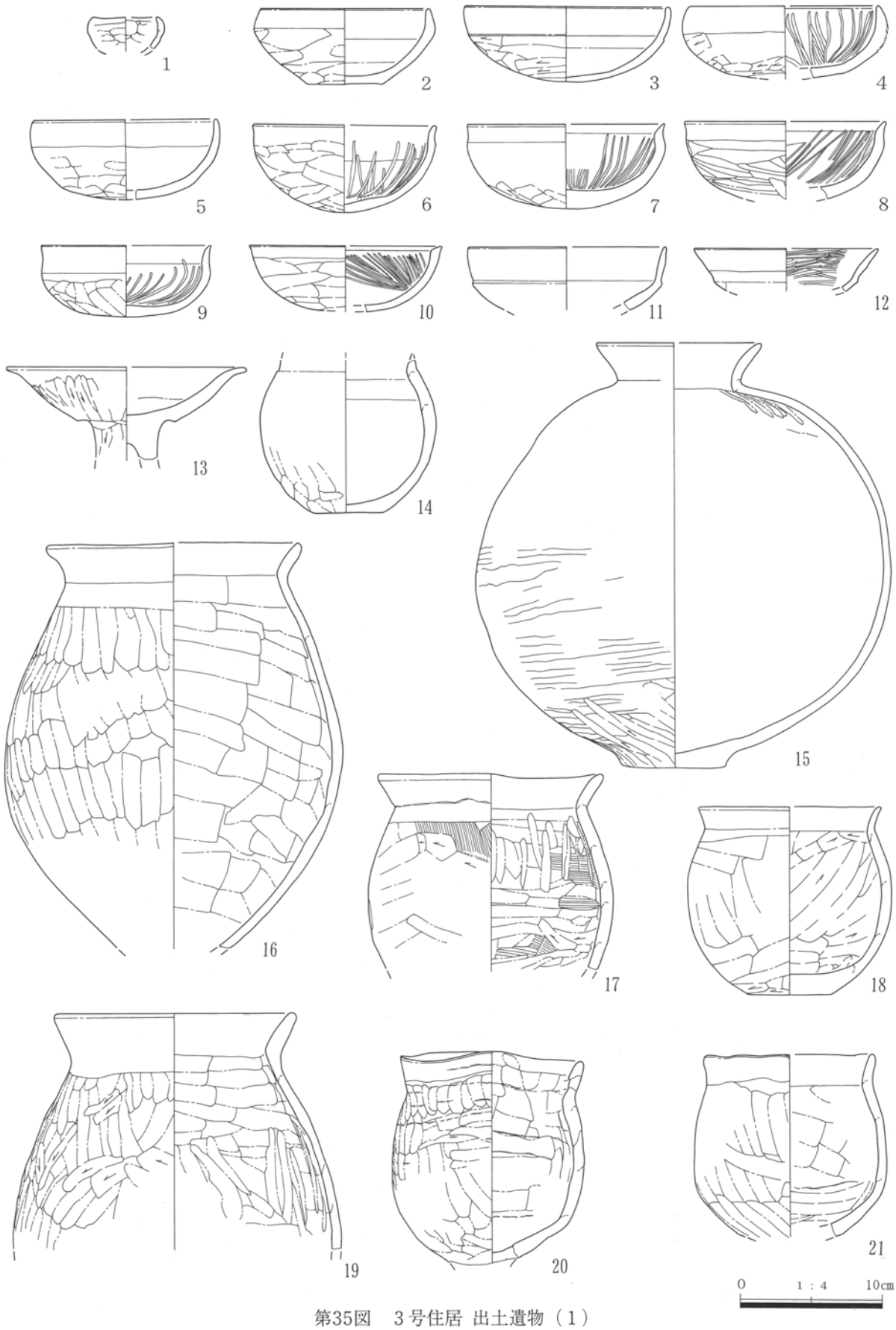
なお、遺物の出土量は収納箱に３箱である。

非掲載土器片の合計は769片でその内訳は土師器杯90片・甕679片である。（遺物観察表Ｐ６～８）

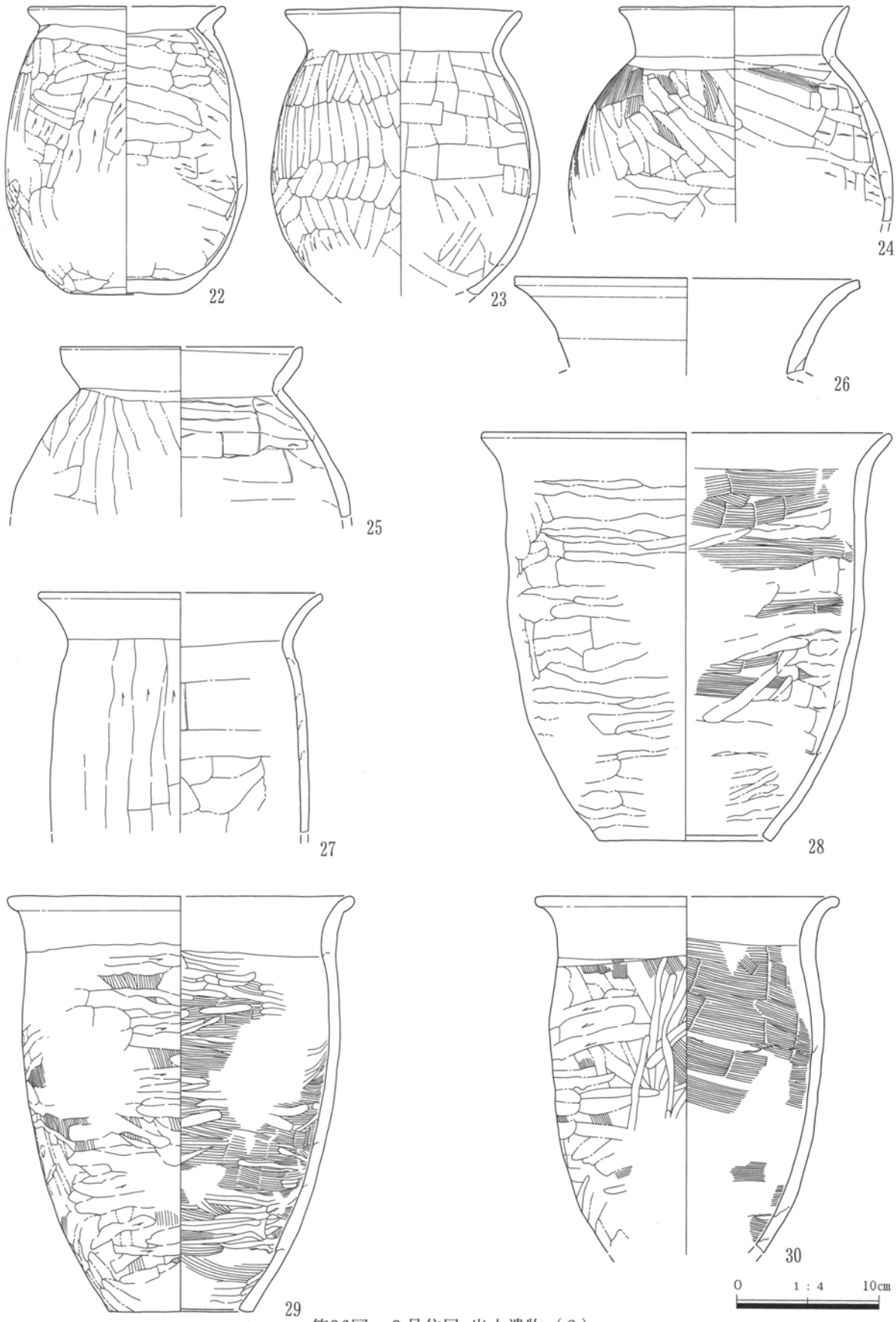
所　見　出土遺物から５世紀後半から６世紀初頭の住居と考えられる。



第34図　３号住居 竈



第35図　３号住居 出土遺物（１）



第36図　３号住居 出土遺物（２）

４号住居（第37～39図）

位　置　Ｉ－19グリッド

写　真　ＰＬ－８・32・33

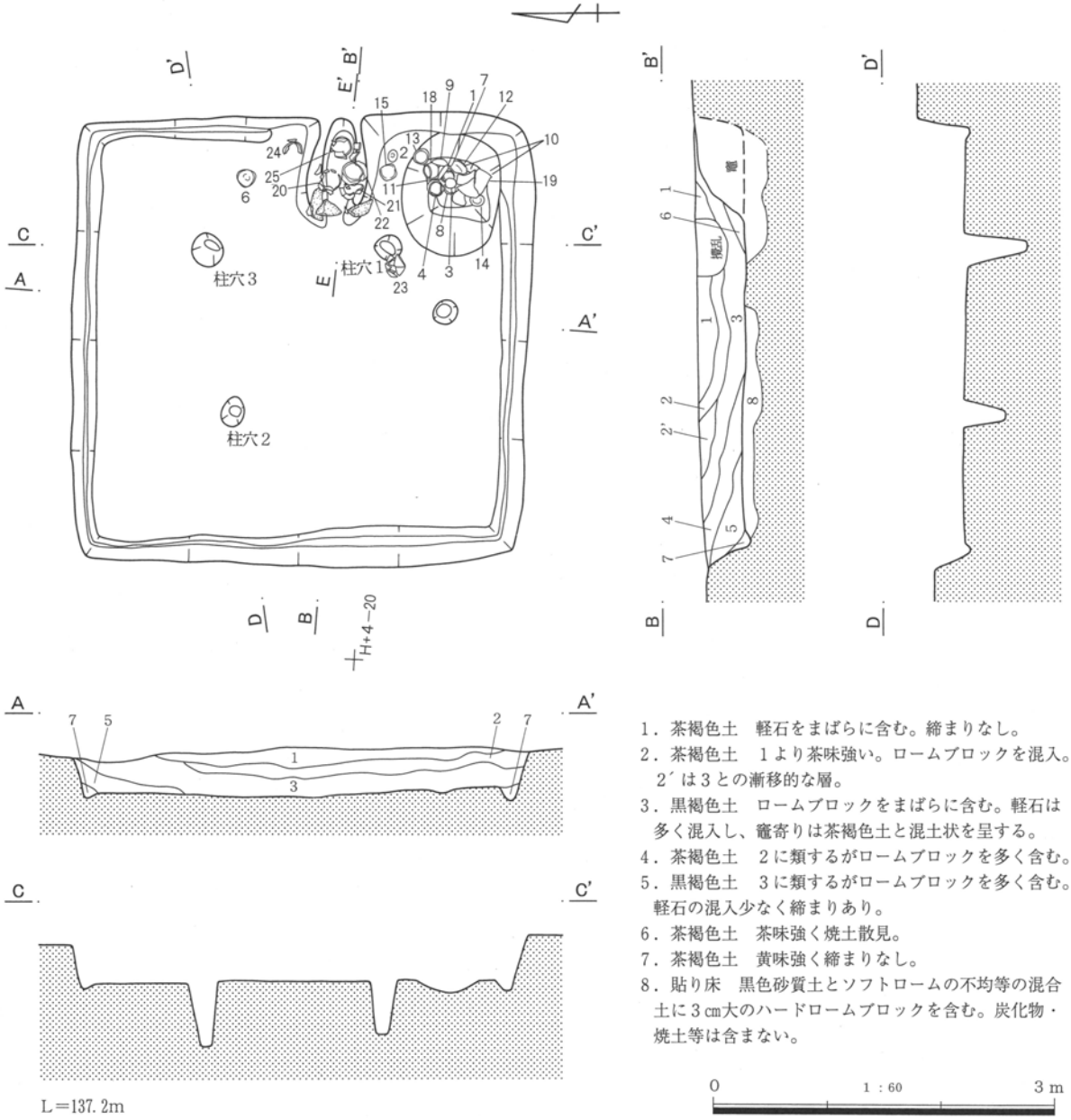
概　要　調査区南側寄りに位置する。東壁に竈を有し、その右側に貯蔵穴がある。柱穴は３本検出された。周溝は、ほぼ一周している。

重　複　なし

形　状　平面形は、ほぼ正方形に近い四角形である。四壁とも直線を指向し、整美な形状を呈している。規模は、南北4.00ｍ、東西3.92ｍを測る。壁面は、垂直に近い立ち上がりで、残存の良好な東南隅で深さ49㎝を測った。他は24～43㎝の残存である。床面は、多少の凸凹を有しながらもほぼ平坦な面をなしていた。埋没土は、上・中層に茶褐色土、下層に黒褐色土が堆積していた。掘り方は、10～20㎝の深さを有し、貼り床は、砂質の黒色土とソフトロームの不均質な混土層で、直径３㎝大のハードロームブロックを含んでいた。

面　積　13.65㎡

方　位　Ｎ－82°－Ｅ



1．茶褐色土　軽石をまばらに含む。締まりなし。
2．茶褐色土　1より茶味強い。ロームブロックを混入。2′は3との漸移的な層。
3．黒褐色土　ロームブロックをまばらに含む。軽石は多く混入し、竈寄りは茶褐色土と混土状を呈する。
4．茶褐色土　2に類するがロームブロックを多く含む。
5．黒褐色土　3に類するがロームブロックを多く含む。軽石の混入少なく締まりあり。
6．茶褐色土　茶味強く焼土散見。
7．茶褐色土　黄味強く締まりなし。
8．貼り床　黒色砂質土とソフトロームの不均等の混合土に3㎝大のハードロームブロックを含む。炭化物・焼土等は含まない。

0　1：60　3ｍ

第37図　４号住居

竈　東壁中央からやや南側寄りに位置する。住居内に燃焼部を構築、煙道部は削平され残存しなかった。袖材は、灰白色砂壌土からなり、両袖とも先端に扁平な割れ石を直立させ補強としていた。天井石は手前にずり落ちていた。

燃焼部は、深さ14cmの掘り方を有し、ここには炭化物混じりの黒色土の層、暗褐色土とローム小ブロックの混土層が堆積していた。燃焼部内側の壁面は、火熱を受けて焼土化していた。火床にはやや左袖側に寄って火床面を４cm掘り込んで、支脚が据えられていた。

竈の検出時、燃焼部内から甕(20～22)・甑(25)の４個体の土器が検出されている。

周　溝　竈の周辺を除いて各壁際を一周している。幅５～19cm、深さ２～15cmである。南壁際は10～15cmと深い。埋土は、踏み固めた様子のソフトロームである。矢板の痕跡は認められなかった。

柱　穴　主柱穴と考えられる３本を検出したが南西部分では柱穴の存在を確認できなかった。個々の規模は、柱穴１が直径22cm、深さ47cm。柱穴２が直径36×20cm、深さ36cm。柱穴３が直径38cm、深さ55cmである。

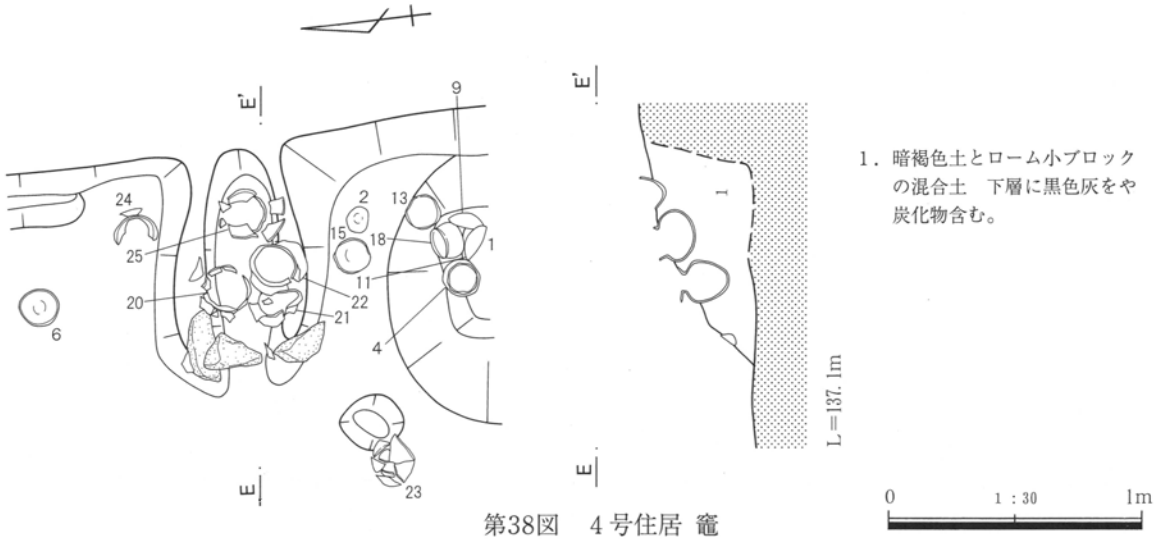
貯蔵穴　住居南東隅、竈の右側に位置する。平面は隅丸方形を呈しているが、下端の形状から原型は四角形であったことが想定される。上端の規模は105×85cm、深さは47cmである。

住居壁際から埋没土中の上～中層にかけ、杯（1・3・4・7～10・12～14)、壺（18)、甕の底部を二次利用した皿状土器（19）がいずれも完形、あるいは半完形の状態で出土している。

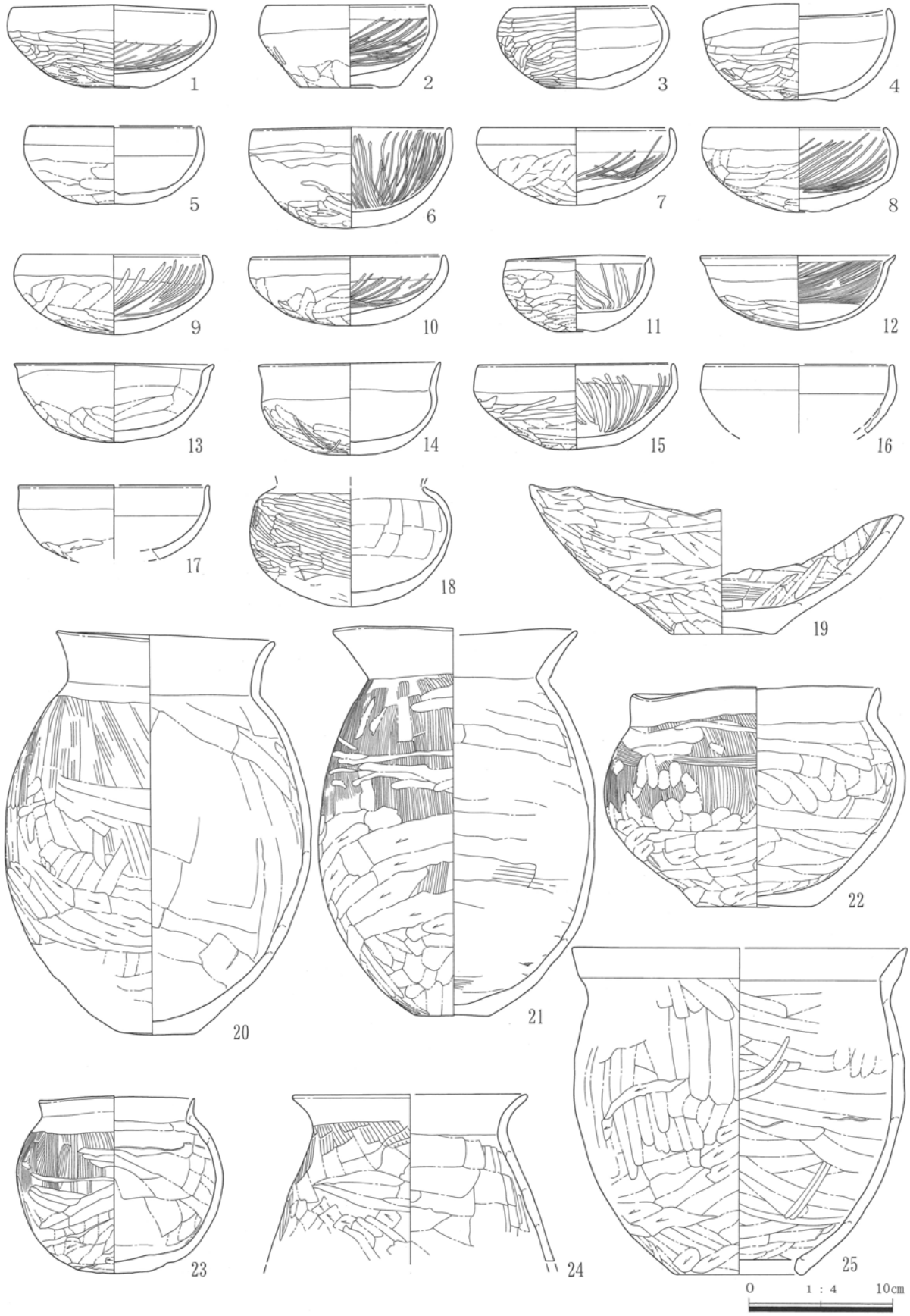
遺　物　前述の竈燃焼部、貯蔵穴の他に、竈右袖外側から杯（２・15）が、床面東側から杯（６）が検出された。それぞれ床面直上の出土である。また、床面南側、柱穴１の西側からは甕（23）が床面からやや離れて出土している。

なお、遺物の出土量は収納箱に２箱である。非掲載土器片の合計は85片で、その内訳は土師器杯９片・甕75片・甑１片である。(遺物観察表Ｐ８～10)

所　見　多量に出土した杯類に模倣杯は見られず、甕類の長胴化も弱い。東竈の住居では古い段階の、５世紀後半の住居と考えられる。



第38図　４号住居 竈



第39図　４号住居 出土遺物

５号住居（第40～42図）

位　置　Ｇ－17グリッド

写　真　ＰＬ－９・33・34

概　要　東壁に竈を有する平面長方形の住居である。柱穴は検出されなかった。

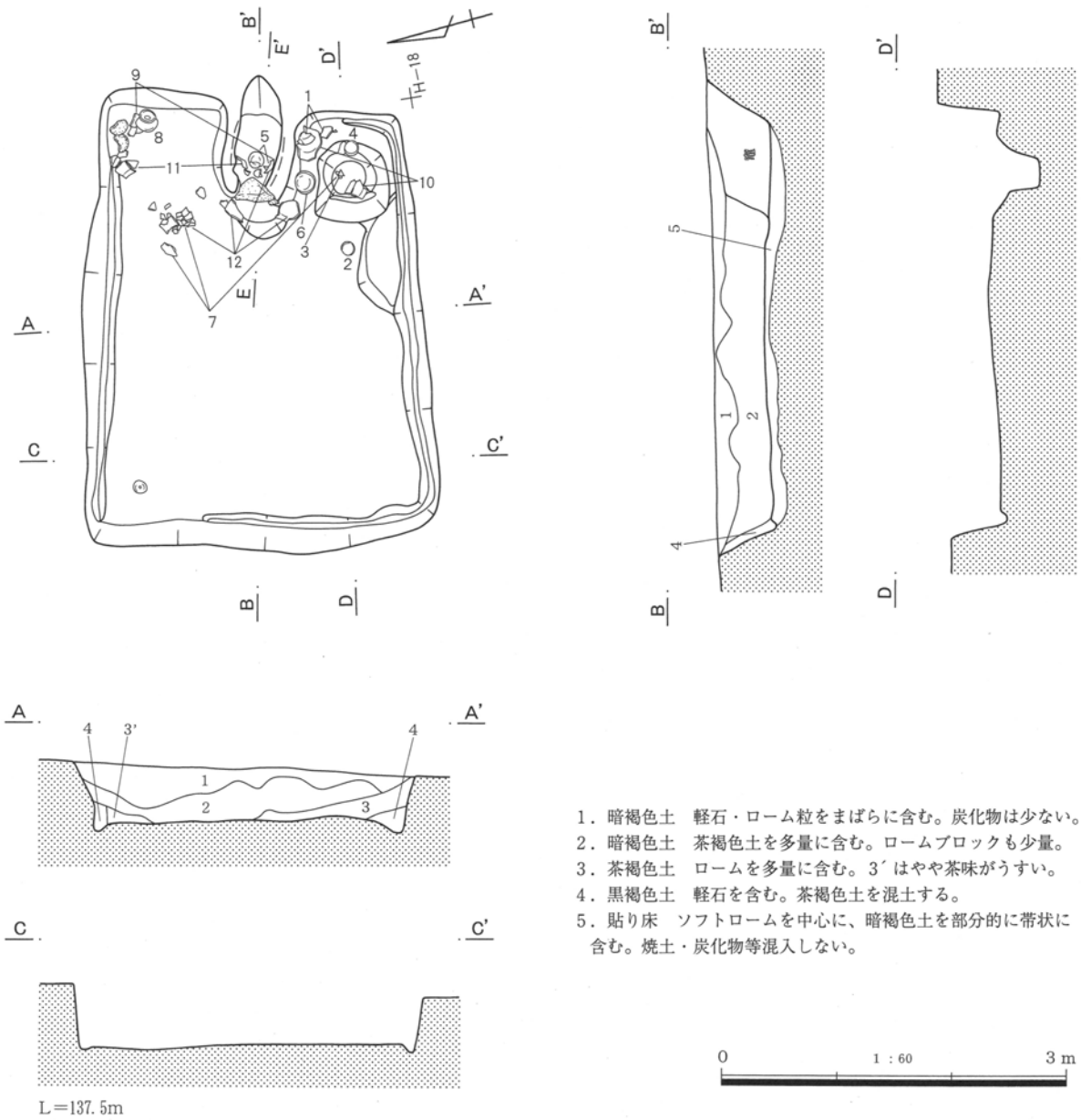
重　複　なし

形　状　本遺跡の竪穴住居調査例が正方形に近い平面形であるのに対し、本例は東西に長い長方形の住居である。西南隅はやや隅丸に近い形状である。

規模は、東西3.91ｍであるが、南北は東壁で2.59ｍ、西壁で3.07ｍを測る。各壁とも直線を指向するが、西壁は南東隅寄りで弱く屈曲する。

壁面の残存は、北壁が良好で北東あるいは北東隅で56㎝を測り、他においても38～58㎝を測った。

床面は、東側が若干高いもののほぼ平坦面を形成していた。南西隅は軟弱であった。また、南壁中央から貯蔵穴寄りは周囲より５㎝高い部分が存在した。



1．暗褐色土　軽石・ローム粒をまばらに含む。炭化物は少ない。
2．暗褐色土　茶褐色土を多量に含む。ロームブロックも少量。
3．茶褐色土　ロームを多量に含む。3′はやや茶味がうすい。
4．黒褐色土　軽石を含む。茶褐色土を混土する。
5．貼り床　ソフトロームを中心に、暗褐色土を部分的に帯状に含む。焼土・炭化物等混入しない。

0　1：60　3ｍ

第40図　５号住居

埋没土は、暗褐色土で、混入物により細分が可能であった。掘り方の埋土はソフトロームを主体とした暗褐色土からなっていた。

面　積　9.62㎡

方　位　N－108°－E

竈　東壁のほぼ中央に位置する。規模は、奥行75㎝、燃焼部幅43㎝、焚口部幅約20㎝である。大きな掘り方を有し、内部に黒色土が堆積していた。住居内に燃焼部をおき、煙道部への移行部分が住居の壁面を掘り込んでいる。袖材は、灰白色砂壌土からなり、左右両先端とも割れ石を立て、これらに天井石を架構させ、焚口部に鳥居状の構造をつくっていた。右袖の割れ石は火床面を７㎝を掘り込み据えている。

焚口内への焼土の崩落は少なく、他の住居の竈に見られたような焼土の堆積はなかった。灰の堆積も極めて薄かった。焚口前は皿状に低く下がっていた。

燃焼部内の甕（９）は倒立の状態で出土しており、支脚として使用されていた可能性が考えられる。

周　溝　東壁、竈の左右と西壁の北西隅寄りを除いて検出した。規模は、幅５～15㎝、深さ２～７㎝であった。

柱　穴　床面を精査したが検出できなかった。

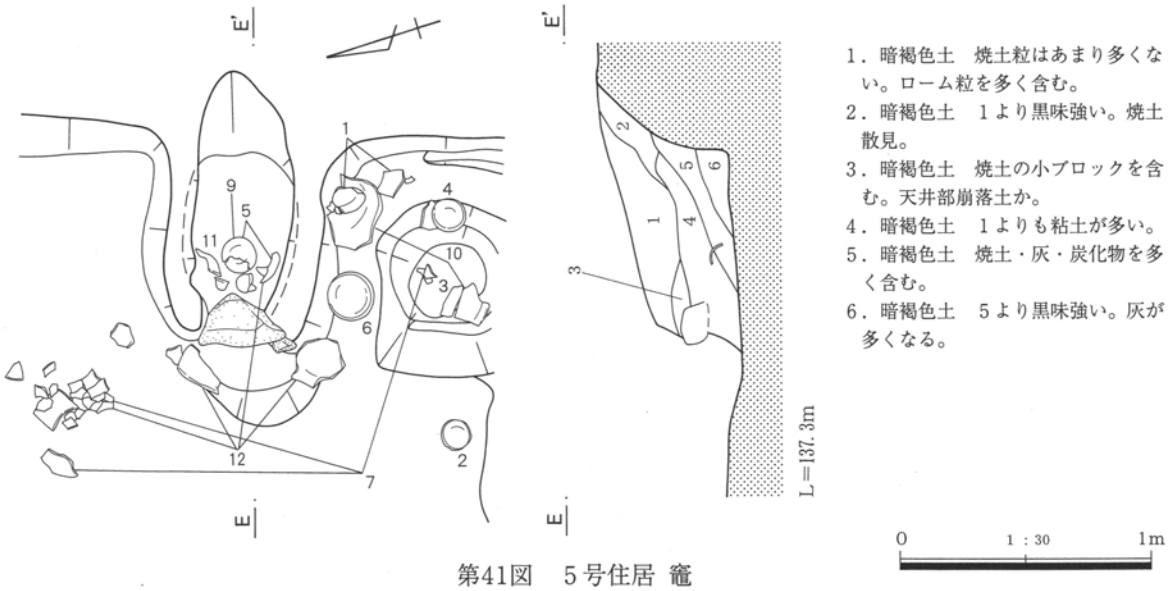
貯蔵穴住居の南東隅、竈の右側に位置する。原形は平面四角形を呈していたと考えられる。規模は、70×65㎝、深さ42㎝である。

遺　物　竈、貯蔵穴を中心に床面の東側部分から多数出土した。西側寄りでは北西隅の埋没土中から甑（13）が出土している。

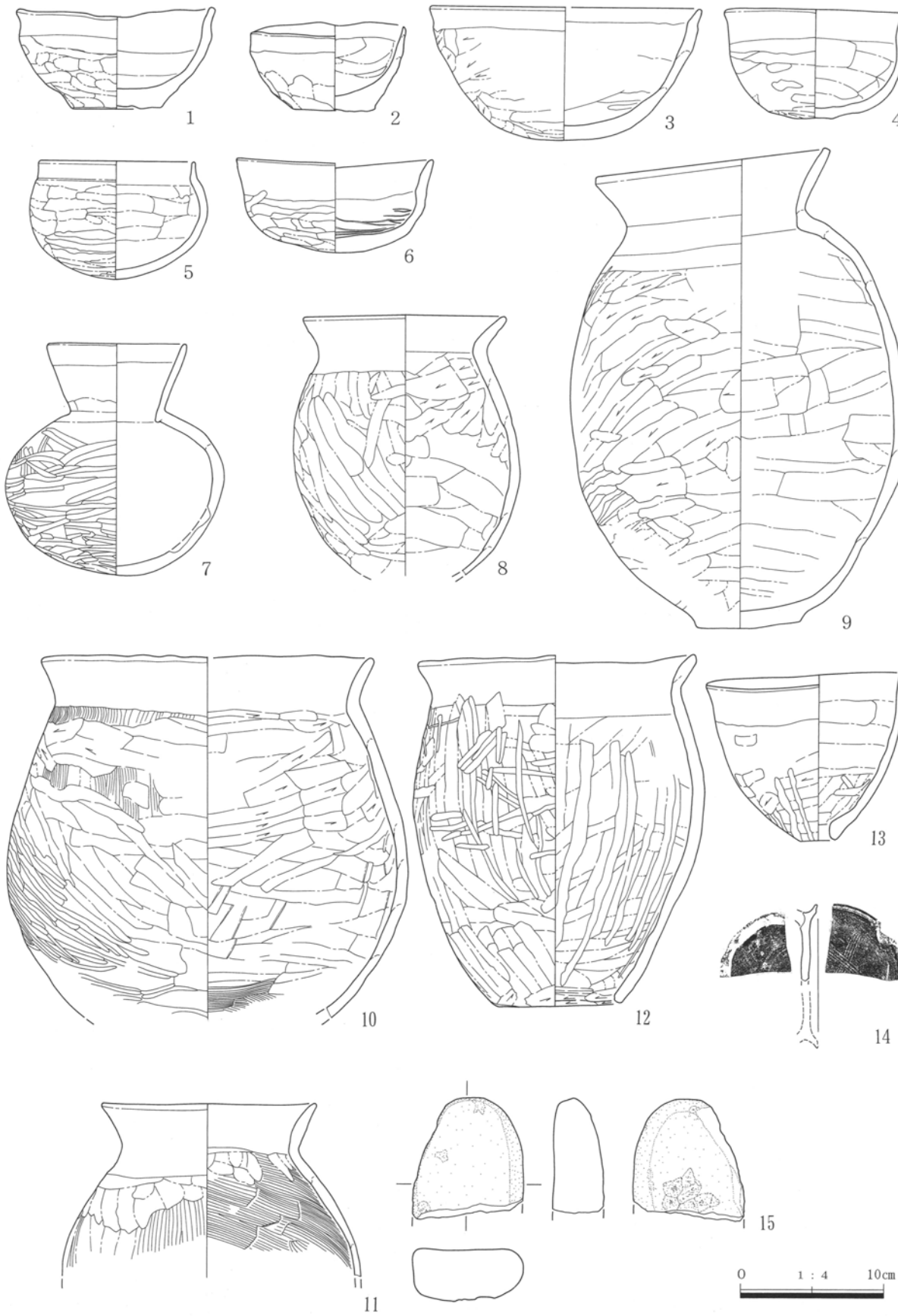
竈燃焼部内からは、杯（５）・甕（９）が出土した。右袖部基部外側からは甕（10）に鉢（１）が重なった状態で出土した。甕（10）の破片は貯蔵穴内にも落ち込んでいた。これらの手前、焚口部寄りからは杯（６）が出土している。東壁際、貯蔵穴の上縁からも鉢（４）が出土している。貯蔵穴西側の床面上からは杯（２）が、焚口部左前の床面直上からは甑（12）が検出された。北東隅では甕（11）の口縁部が床面直上から、底部の欠損した甕（８）が床面から９㎝離れて出土している。須恵器樽形瓶（14）、砥石（15）は埋没土中からの出土である。

なお、遺物の出土量は収納箱に１箱である。非掲載土器片の合計は118片で、その内訳は土師器杯４片・甕112片・甑１片、須恵器甕１片である。（遺物観察表Ｐ10・11）

所　見　模倣杯を確実に伴っており、５世紀末から６世紀初頭の住居と考えられる。



第41図　５号住居 竈



第42図　５号住居 出土遺物

６号住居（第43～46図）

位　置　Ｉ－18グリッド

写　真　ＰＬ－10・34・35

概　要　東壁に竈を持ち、その右側に貯蔵穴を有する。柱穴は３本検出した。

重　複　南壁際の床面に２本のピットが重なる。本住居より後出である。

形　状　平面形は東壁と南壁がほぼ同規模の四角形である。各隅は整っていて、北西隅がやや鋭角をなす。規模は南北が東壁で4.04ｍである。東西は南壁で4.13ｍ、北壁で4.23ｍを測る。

断面は各壁面とも垂直に近い立ち上がりをなす。東壁の残存が良好で北東隅で深さ67㎝を測った。

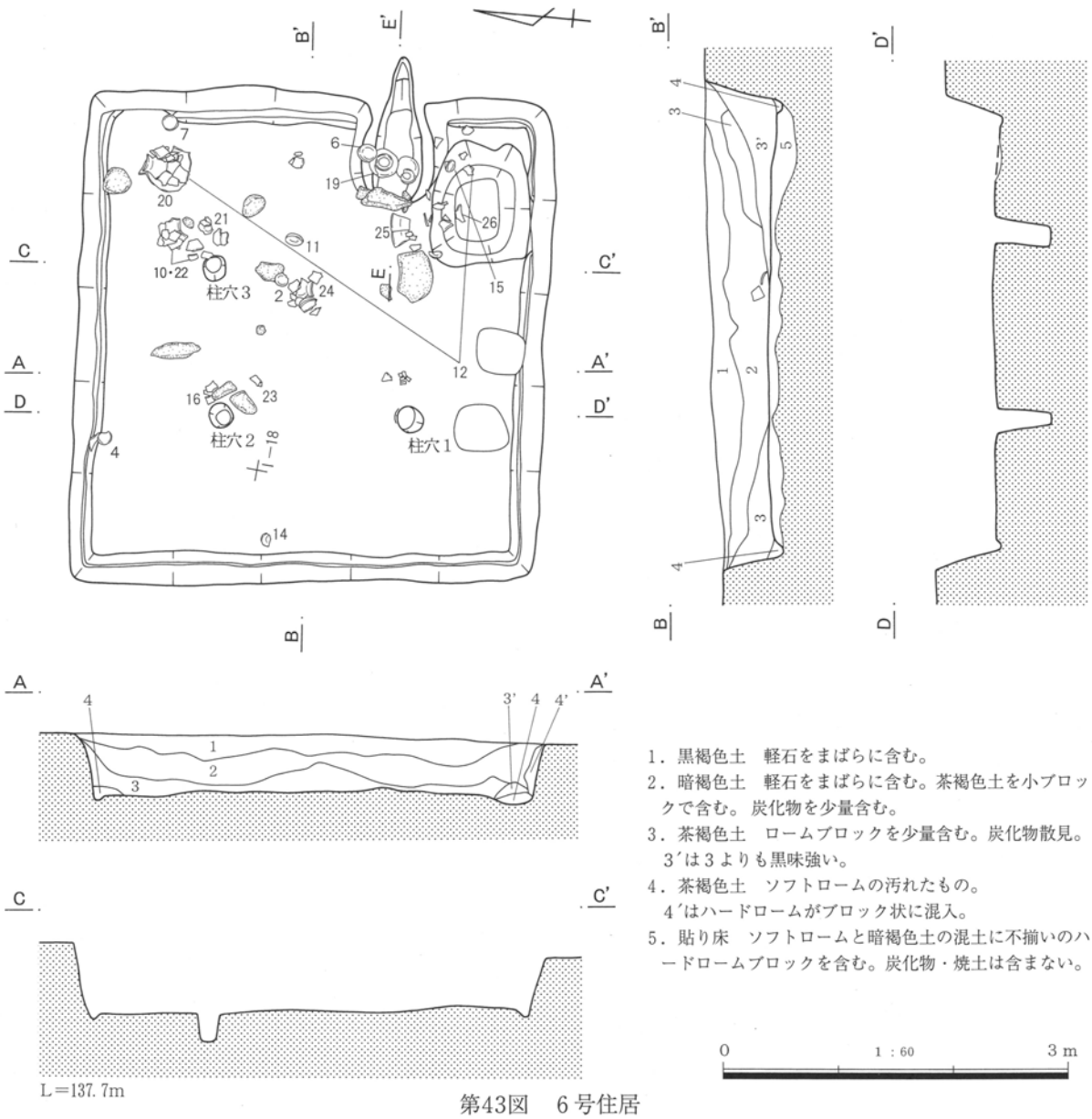
床面は多少の凸凹はあるもののほぼ平坦であった。中央やや東寄りに粘土塊を検出した。

埋没土は上層から黒褐色土、暗褐色土、茶褐色土の順に堆積し、礫を多数含んでいた。掘り方にはソフトロームと暗褐色土の混土層が堆積していた。

面　積　14.66㎡

方　位　Ｎ－83°－Ｅ

竈　東壁の中央からやや南東隅寄りに位置する。規模は、燃焼部の奥行85㎝、幅22㎝、焚口部の幅24



第43図　６号住居

cmを測る。住居内に燃焼部を置く。燃焼部の最奥部は住居の壁面を掘り込んで立ち上がり、煙道部に続いていた。煙道部は大半が削平されていたが、緩やかな傾斜を有していたと考えられる。

燃焼部は、火床下に掘り方の坑を設け、その底面に左右の袖部先端の割れ石を据えている。割れ石の下端は火床面から５～８cm下位になる。この袖石に天井石が架構されていた。また、燃焼部内に礫を据え、支脚としている。

検出時にはこれに甑（25）が置かれていた。竈埋没土内には焼土の堆積は少なく、焚口部に炭化物、薄い灰層が確認された。

周　溝　各壁下を一周していた。規模は、幅５～13cm、深さ２～７cmと浅い。埋没土は、ハードロームを混入する茶褐色土である。

柱　穴　南東部分を除く３本を検出した。他の住居の柱穴の位置と比較して住居の中心寄りに掘り込まれている。柱痕は確認できなかった。柱穴１は直径23×21cm、深さ47cmで、若干傾斜して掘り込まれていた。柱穴２は直径21cm、深さ45cm。柱穴３は直径22×19cm、深さ23cmである。

貯蔵穴　住居の南東隅、竈の右側に位置する。上半の立ち上がりは崩れ傾斜を有するが、原形は整美な平面四角形で、直線的な掘り込みであったと考えられる。規模は107×87cm、深さ64cmを測る。

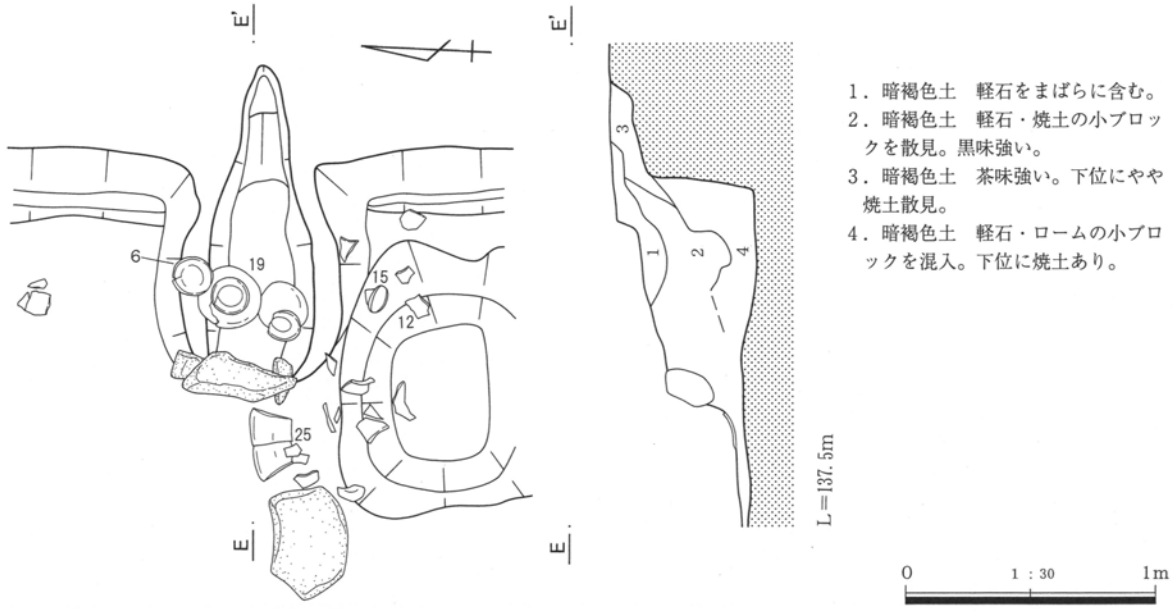
埋没土は、ソフトローム混じりの暗褐色土で、締まりがなかった。内部からは竈右袖側から崩落した状態で土器が出土している。

遺　物　住居の東側部分から土器が出土した。竈燃焼部内では甕（19）が出土した。竈にかけられた状態での検出と考えられる。この２つの甕の左隣、左袖部上からは杯（６）が出土している。竈前から貯蔵穴周辺では、小破片の出土が目立つ中、鉢（15）が出土している。柱穴３から北東隅寄りの床面からは甕（21・22）、南側寄りでは杯（２・11）が出土している。また、西壁中央からは杯（14）が、北壁際北西寄りからは杯（４）が出土している。

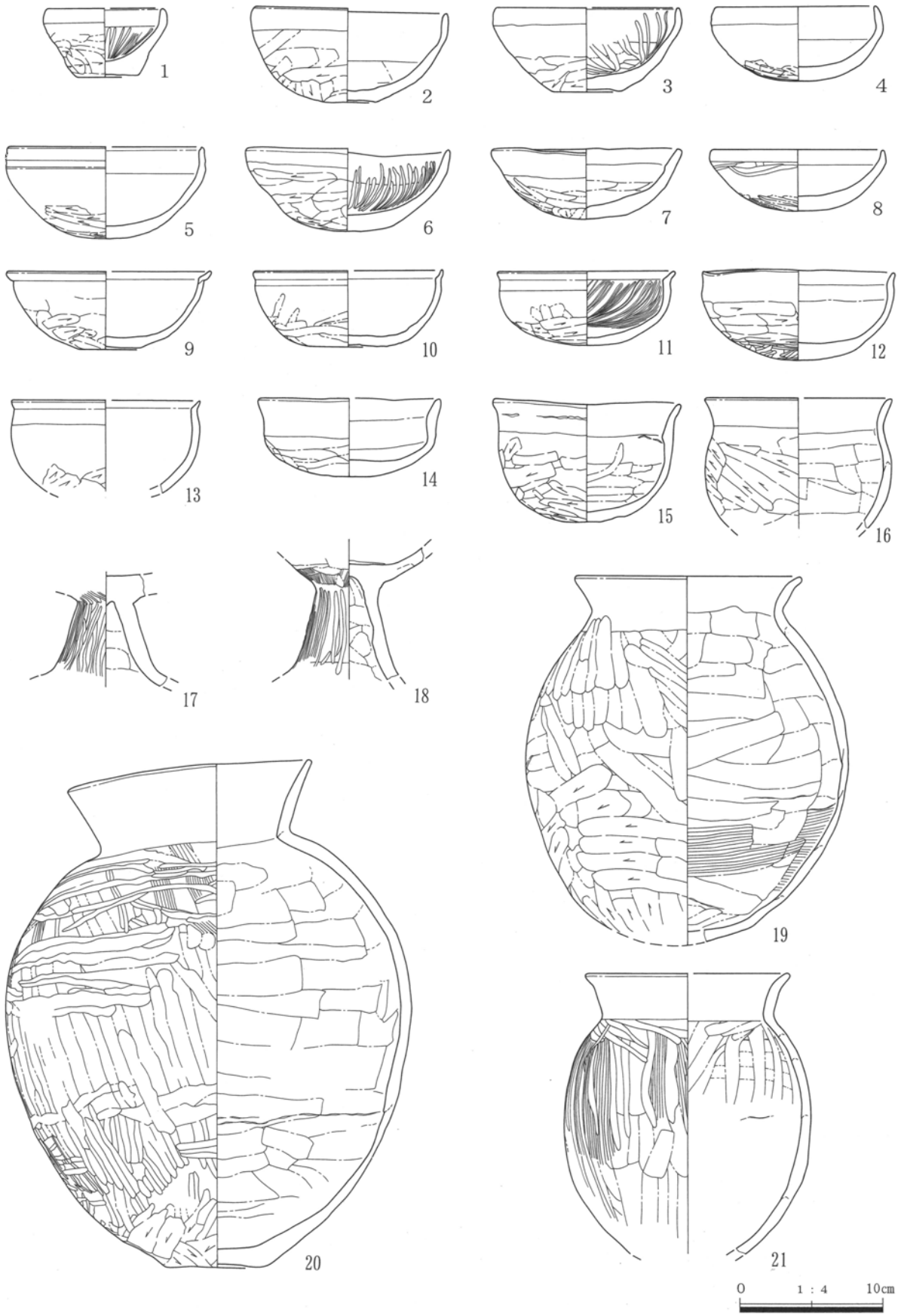
遺物出土量は収納箱２箱である。非掲載土器片の合計は437片で、内訳は、土師器杯118片・甕317片・甑１片・高杯１片である。（遺物観察表Ｐ11・12）

備　考　南東部分、柱穴が掘り込まれる位置の床面土から42×30cmの扁平な礫を検出した。礎石に利用した可能性も考えられるが断定できなかった。

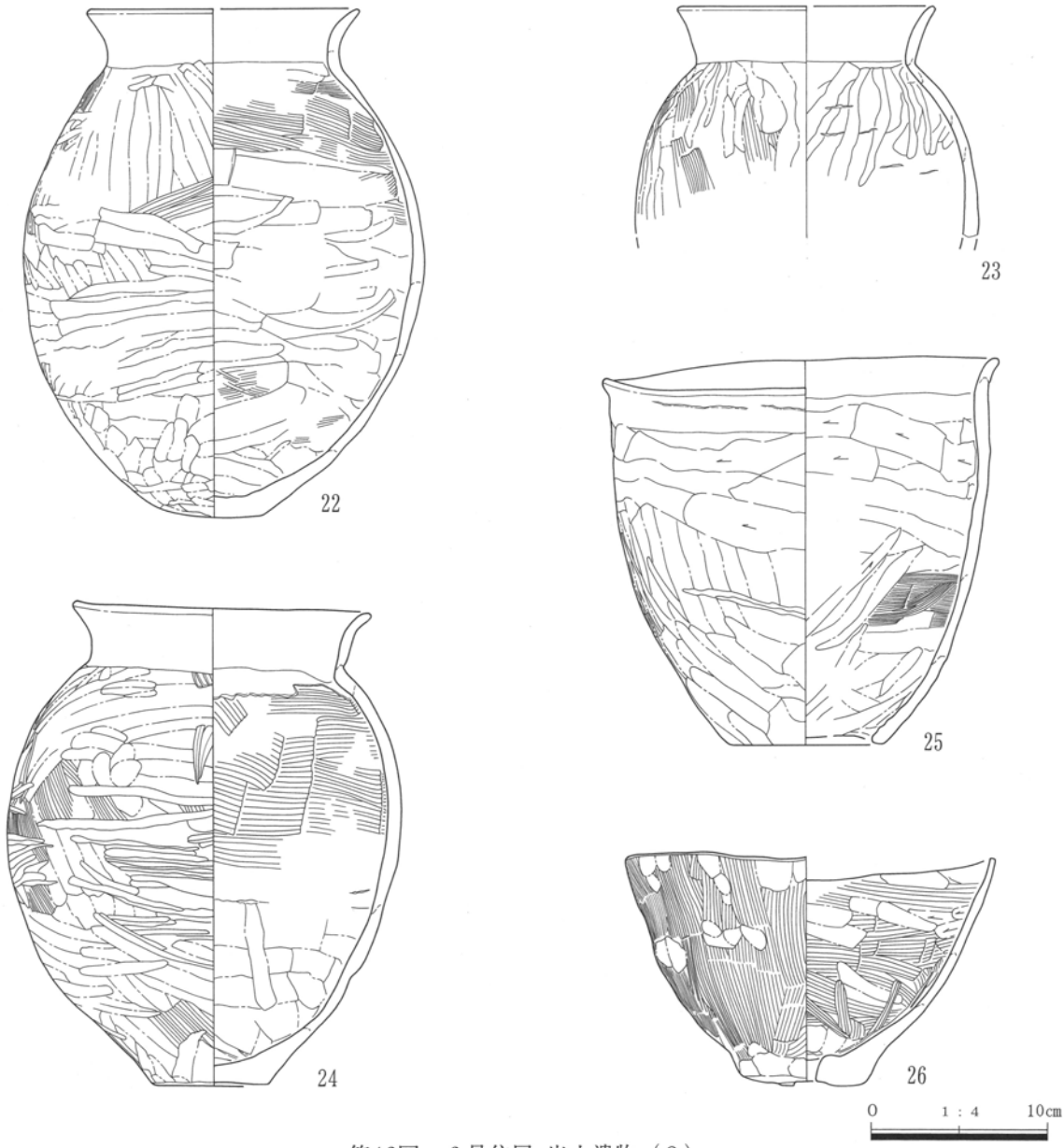
所　見　甕に長胴化の兆しが見られないが、模倣杯を確実に伴い、高杯の脚も短くなっている。５世紀末から６世紀初頭の住居と考えたい。



第44図　６号住居 竈



第45図　６号住居 出土遺物（１）



第46図　６号住居 出土遺物（２）

７号住居（第47～49図）

位　置　Ｊ－13グリッド

写　真　ＰＬ－11・35・36

概　要　調査区の中央に位置する。東壁に竈を持ち、その右側に貯蔵穴を有する。柱穴は４本である。

重　複　５号掘立柱建物と重複し、これより先出である。

形　状　東西方向がやや長いが、角の整ったほぼ正方形に近い四角形である。

規模は、南北が中央部分で4.08m、東西が南壁で4.45m、北壁で4.05mを測る。

壁面は、東壁の残存が良好で41～45cmを測った。

埋没土は、上層から黒褐色土、茶褐色土が堆積、下層の床面を覆う暗褐色土は炭化物を多量に含入する土層であった。貼り床は、竈下及び西側部分に見られた。黒色土の比率が高く、ソフトローム・ハードロームの小ブロックが不均等に含まれていた。

面　積　14.82m²

方　位　Ｎ－70°－Ｅ

竈　東壁の南東隅寄りに構築されている。住居内に燃焼部が設けられている。煙道部は住居の壁面を一部掘り込んで立ち上がるがほとんど削平されて

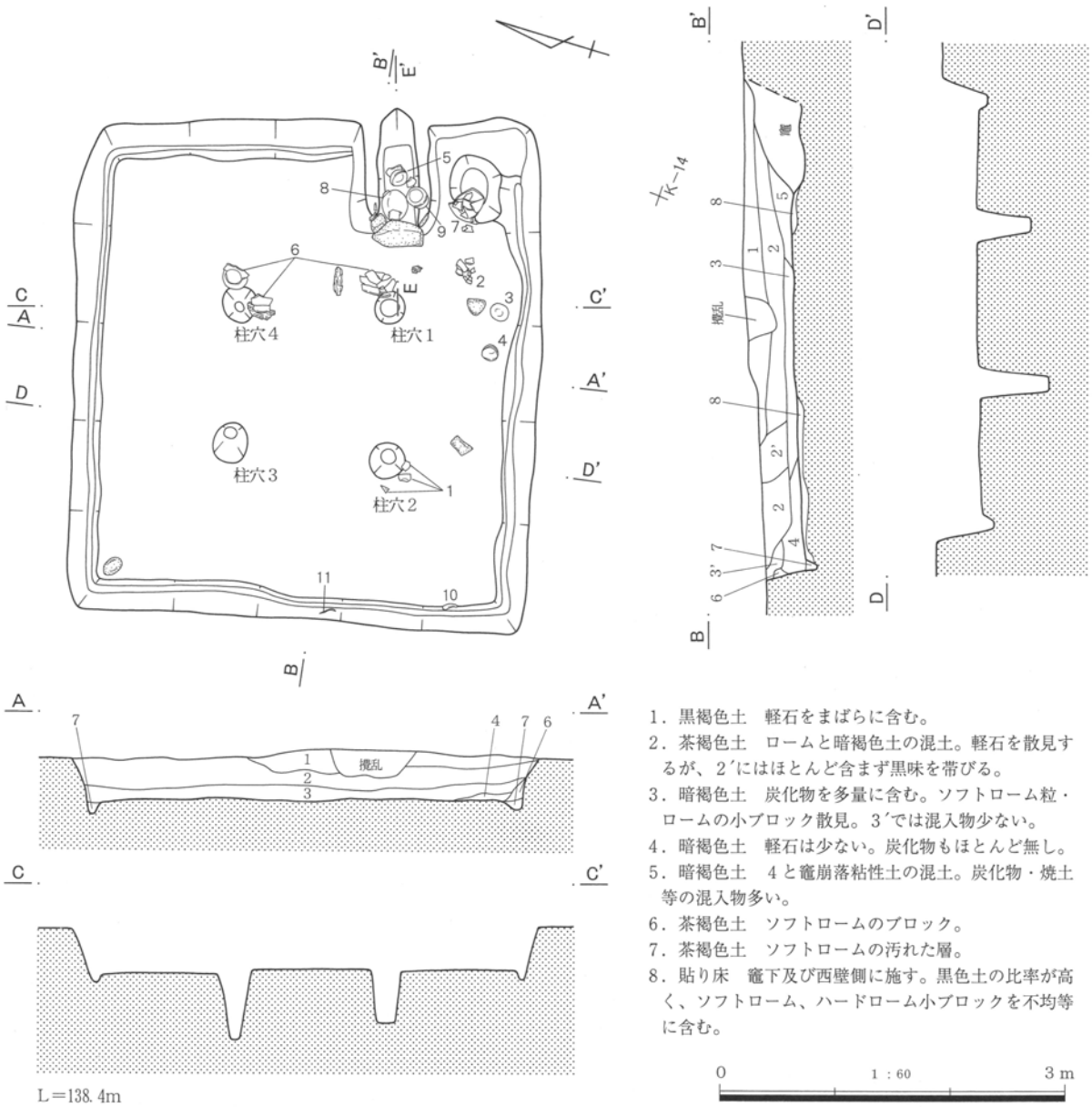
いた。規模は、燃焼部の奥行が84cm、幅28cm、焚口部幅28cmであった。焚口部は、両袖とも先端に割れ石を袖石として置き、これに構架させた扁平な割れ石とともに鳥居状の構造を形造っている。また、燃焼部の中央からやや左袖に寄って礫を置き支脚としていた。燃焼部の下層には焼土が厚く堆積していた。

燃焼部には甕（８）と杯（５）が置かれ、その右側、右袖部上からは甕（９）が出土した。

周　溝　竈の右側、貯蔵穴に接する部分を除いて壁際を一周する。埋没土は汚れたソフトロームである。規模は、幅６～16cm、深さ３～11cmである。

柱　穴　４本を検出した。住居の対角線を３等分する位置に掘削されている。ただし柱穴２と３を結んだ線の方向は西壁の走向とはずれている。個々の柱穴規模を長軸×短軸×深さcmで表すと、柱穴１が27×26×46cm。柱穴２が32×28×48cm。柱穴３が36×32×60cm。柱穴４が30×28×58cmである。

貯蔵穴　住居南東隅、竈右側に位置する。平面形は長円形を呈し、その規模は、61×47cm、深さ46cmで



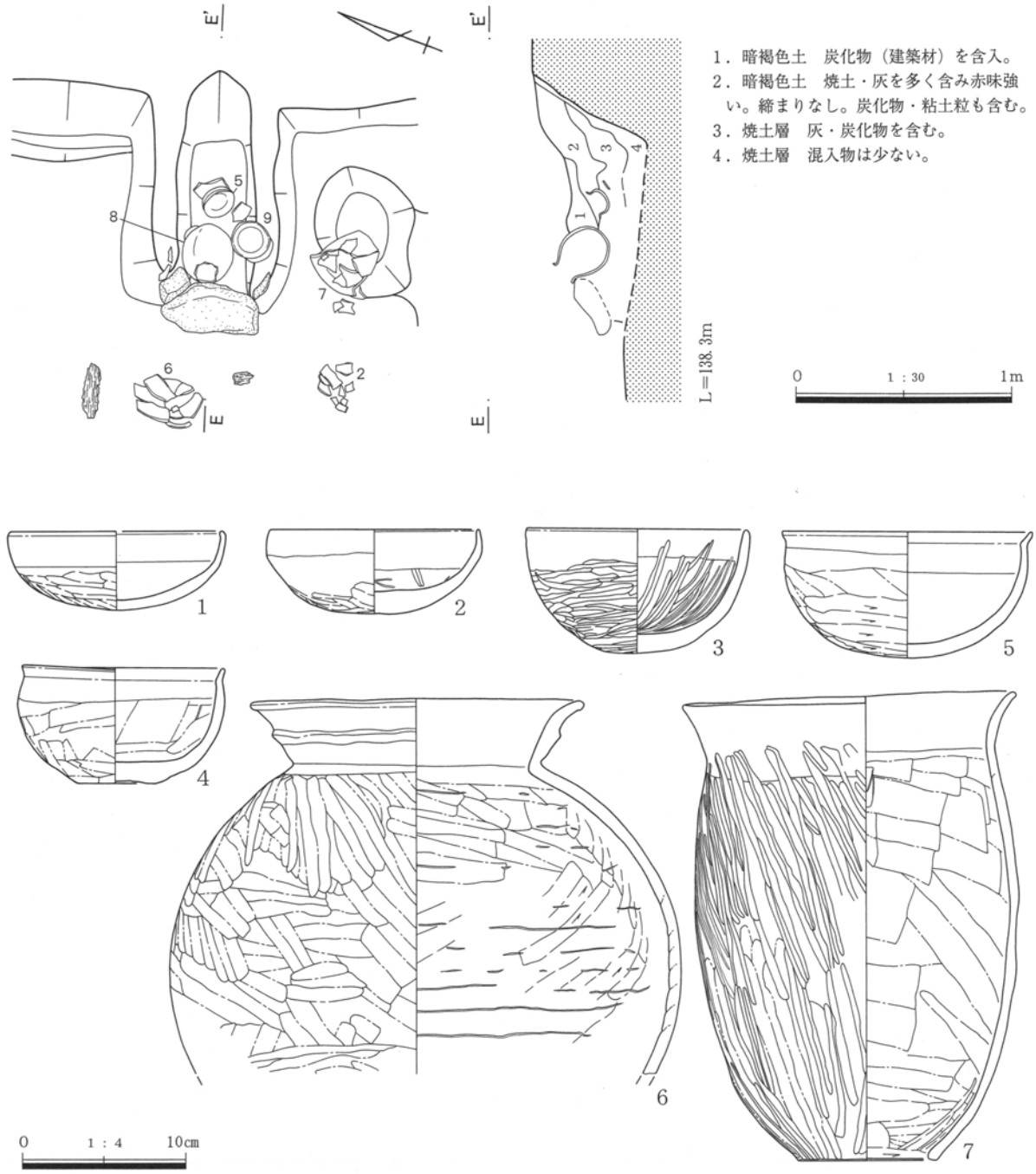
第47図　７号住居

ある。西縁際から甑（７）がずれ落ちるようにして出土している。

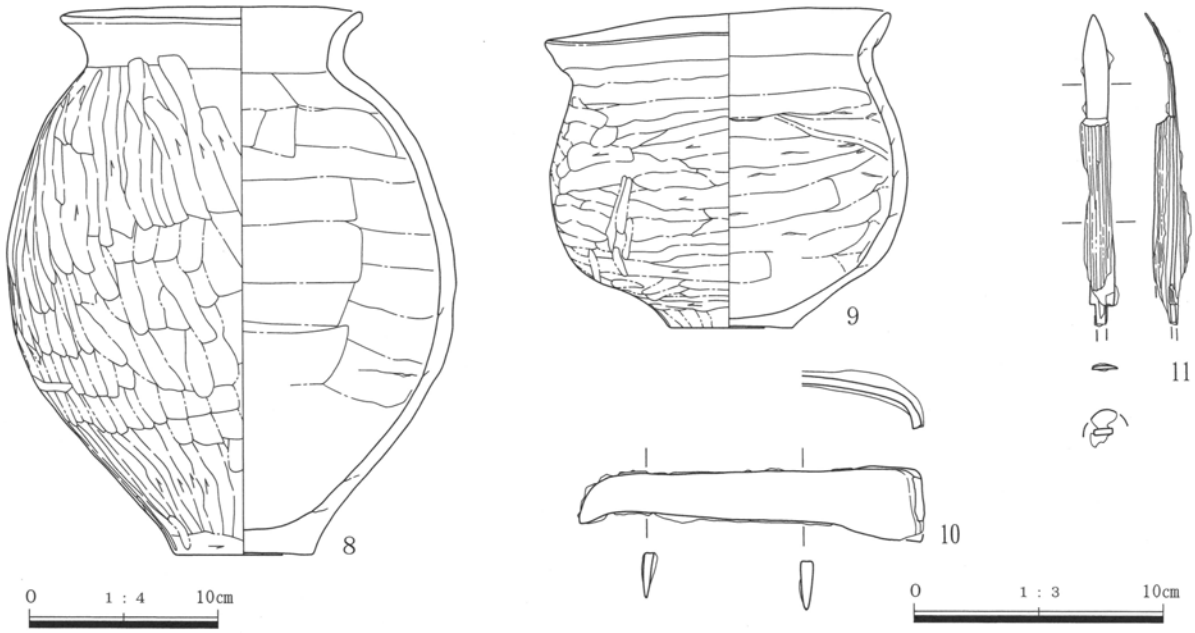
遺　物　南壁やや南東隅寄りから杯（３・４）が出土、その脇から杯（２）が見つかった。柱穴１の脇からは壺（６）の大型破片が出土し、柱穴４の脇から出土した口縁部・胴部破片、竈燃焼部から出土した胴部破片と接合した。

なお、遺物の出土量は収納箱１箱分である。非掲載土器の合計は73片、その内訳は土師器杯16片・甕57片である。鉄器の出土があり、西壁際中央から鉈（11）、南西隅寄りから鎌（10）が出土している。（遺物観察表Ｐ13）

所　見　（１）は埋没土中の遺物で、他の出土遺物から５世紀後半の住居と考えられる。



第48図　７号住居 竈と出土遺物（１）



第49図　７号住居 出土遺物（２）

８号住居（第50～53図）

位　置　Ｌ－13グリッド

写　真　ＰＬ－12・36・37

概　要　調査区のほぼ中央付近で検出された中規模の住居である。南壁に竈を持ち、その左側に貯蔵穴を有することが本遺跡内では特異である。

重　複　なし

形　状　平面形は東西方向がやや長い四角形を呈する。四隅、四辺とも整美な形状である。

規模は、東西5.90m、南北5.68mを測る。

壁面は、垂直に近い立ち上がりを呈し全体に残存状態は良好であった。最も良好な南東隅で深さ85cmを測った。

床面はほぼ平坦であるが、４本の柱穴を結んだ線より内側が硬く踏みしめられていた。その反面、南西隅、北壁際中央は軟らかく、多少の起伏も生じていた。また、南壁際中央からやや南東隅に寄った床面上からは直径20～30cm、高さ２～３cmの粘土塊が検出された。

埋没土は、最上層に浅間Ｂ軽石を主体とした黒色土との混土層が堆積、以下、黒色土、暗茶褐色土が堆積していた。掘り方の埋土はソフトロームが中心で、暗褐色土がしみ状に混入していた。

面　積　23.58m²

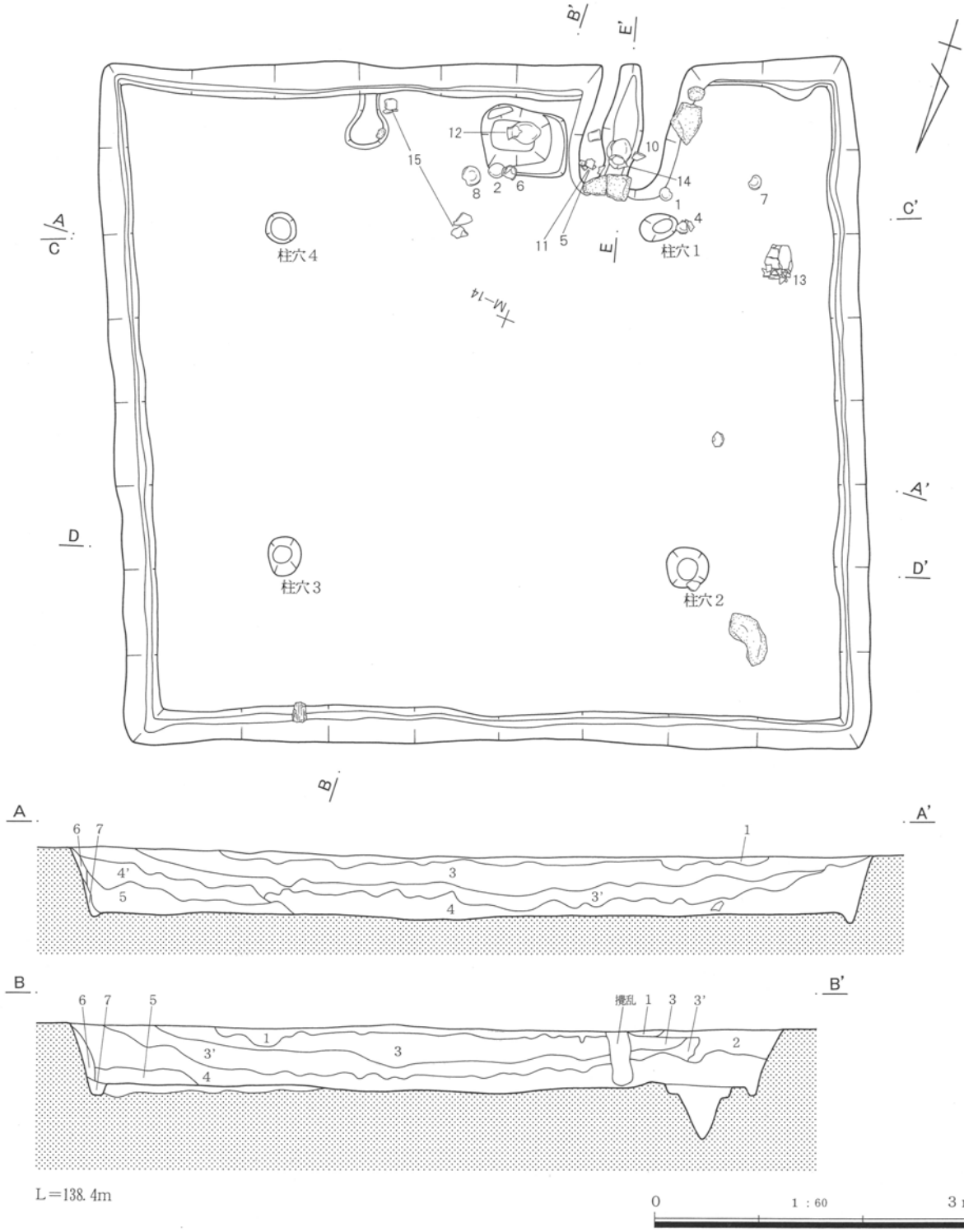
方　位　Ｎ－159°－Ｅ

竈　住居内に燃焼部が構築されており、煙道部は全て削平され残存していなかった。規模は、燃焼部の奥行117cm、幅35cm、焚口部幅40cmであった。両袖の先端、焚口部には扁平な割れ石が置かれており、鳥居状の施設の天井石と考えられる。燃焼部内の埋没土下層には焼土と暗茶褐色土の混土層が堆積していたが炭化物・灰の混入は少量であった。燃焼部から甕（10・14）が出土、甕（11）の口縁部内からは杯（５）が入れ子状態になって検出された。

周　溝　各壁際を一周する。規模は、幅３～21cm、深さ３～９cmを測る。埋没土は、ローム混じりの黒色土で締まりがなかった。

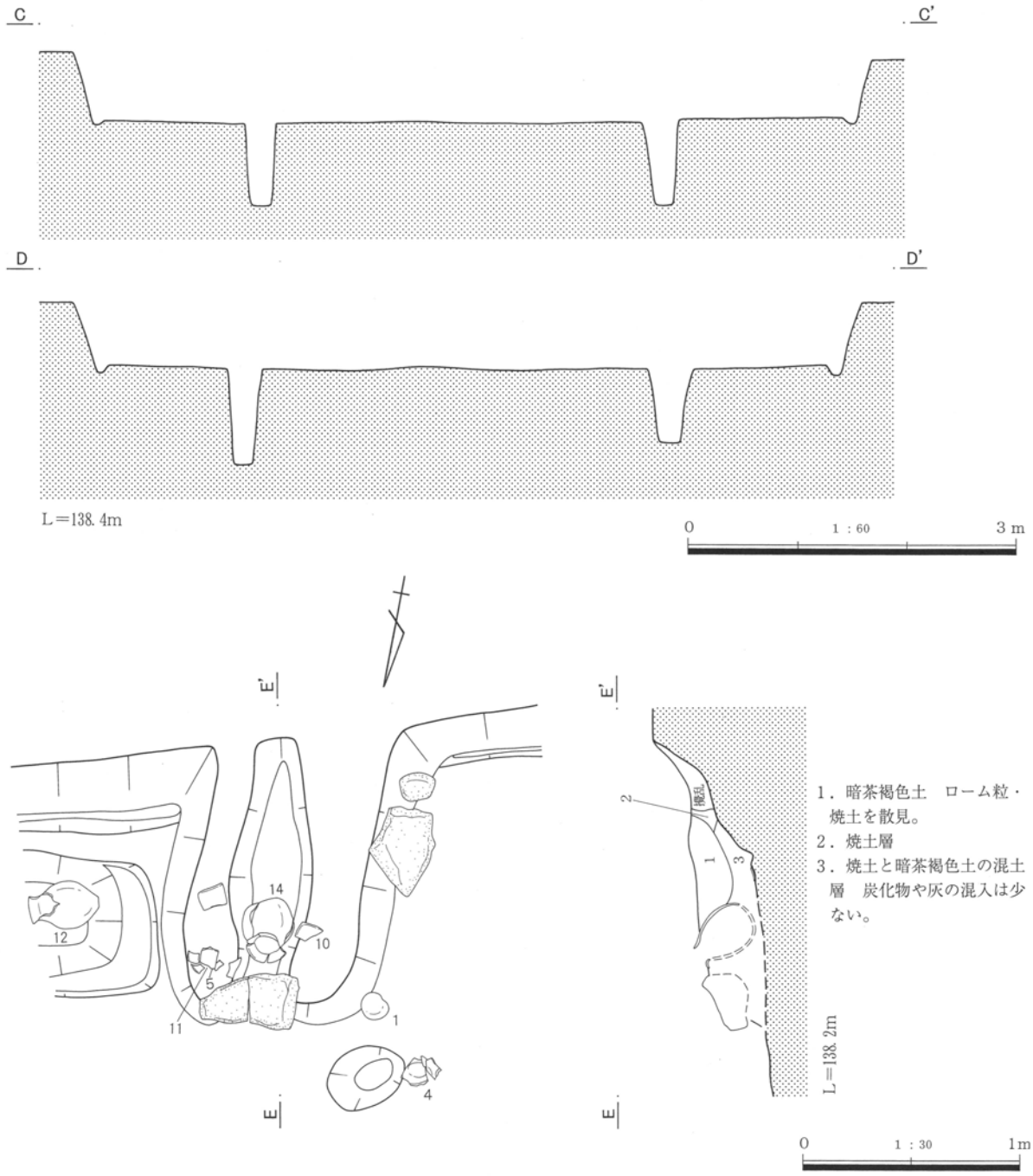
柱　穴　４本検出された。他の住居と比較して各柱穴ともやや壁寄りに位置し、各々の心々間の距離が長い。

個々の規模は、柱穴１が直径32cm、深さ42cm。柱穴２が直径74×61cm、深さ52cm。柱穴３が直径78×58cm、深さ62cm。柱穴４が直径65×57cm、深さ69cmである。柱穴３は掘削位置がやや北側に寄っている。埋没土は、柱穴１・４がロームを主体に、柱穴２・３が黒色土を主体としていた。



1．黒色土　As-Bをやや多量に含む。
2．暗茶褐色土　砂質土層。
3．黒色土　1～5㎜程のHr-FP粒をまばらに含む、あまり締まりなし。3′は黒味薄れ、灰味を増す。Hr-FPは少なくなる。
4．暗茶褐色土　砂質の茶褐色土と暗灰色土が混土状を呈する。As-Cを多く含む。4′は3′と4の混土層。
5．暗茶褐色土　4に類するが灰色味を増す。4より壌土的である。
6．暗褐色土とソフトロームの混土層。壁際の汚れた層。
7．暗茶褐色土　汚れたソフトローム主体で、ややしまり欠く。
※　掘り方埋め戻し土は汚れたソフトローム主体で、不明瞭なものである。

第50図　８号住居（１）



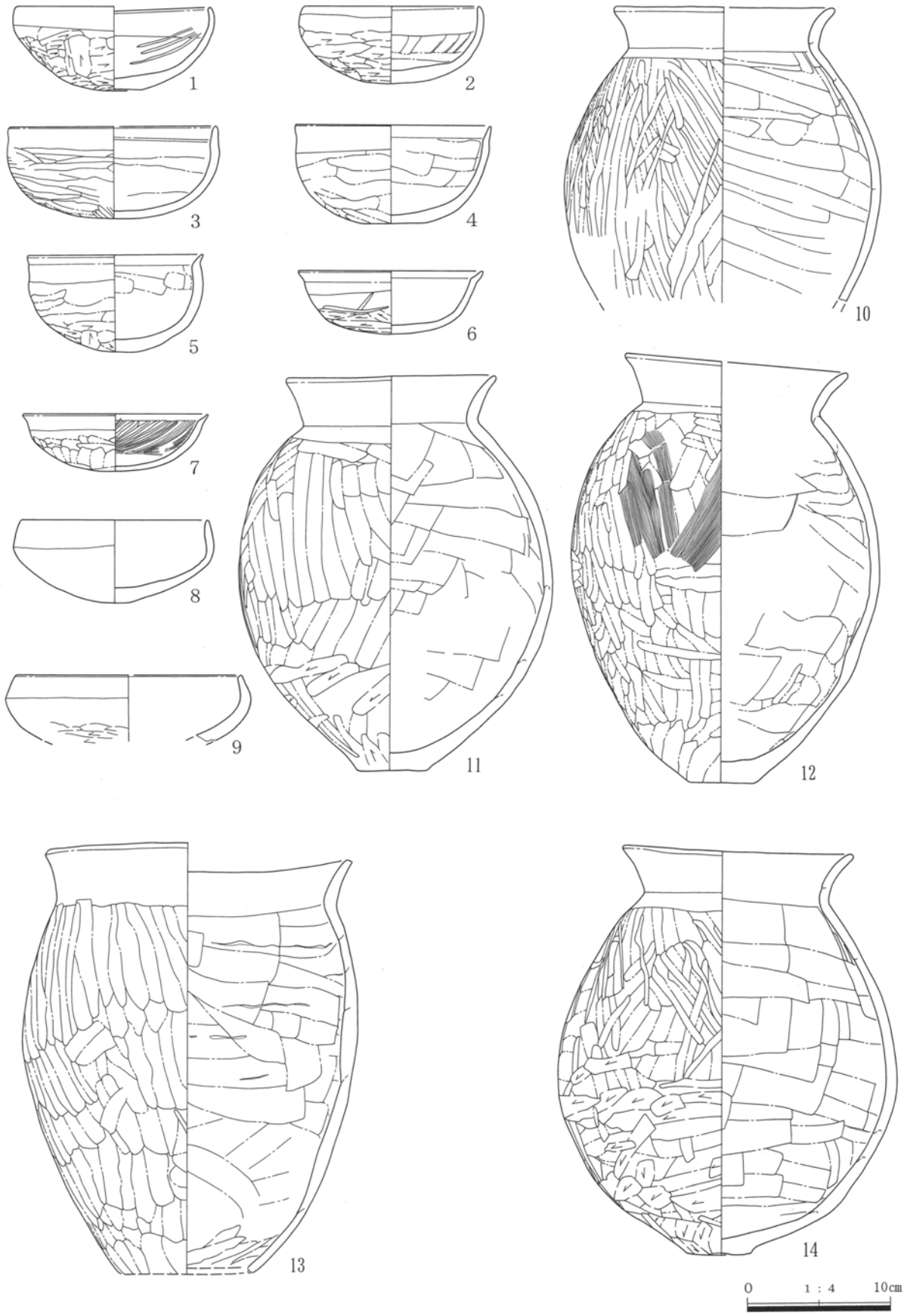
第51図　８号住居（２）と竈

貯蔵穴　南壁際、竈の左側に位置する。東西方向に長軸を有する長方形で、壁面の中位に傾斜の変換点を持ち、これより上位は緩やかに傾斜する。規模は、東西75㎝、深さ68㎝を測る。上層から甕（12）が出土している。

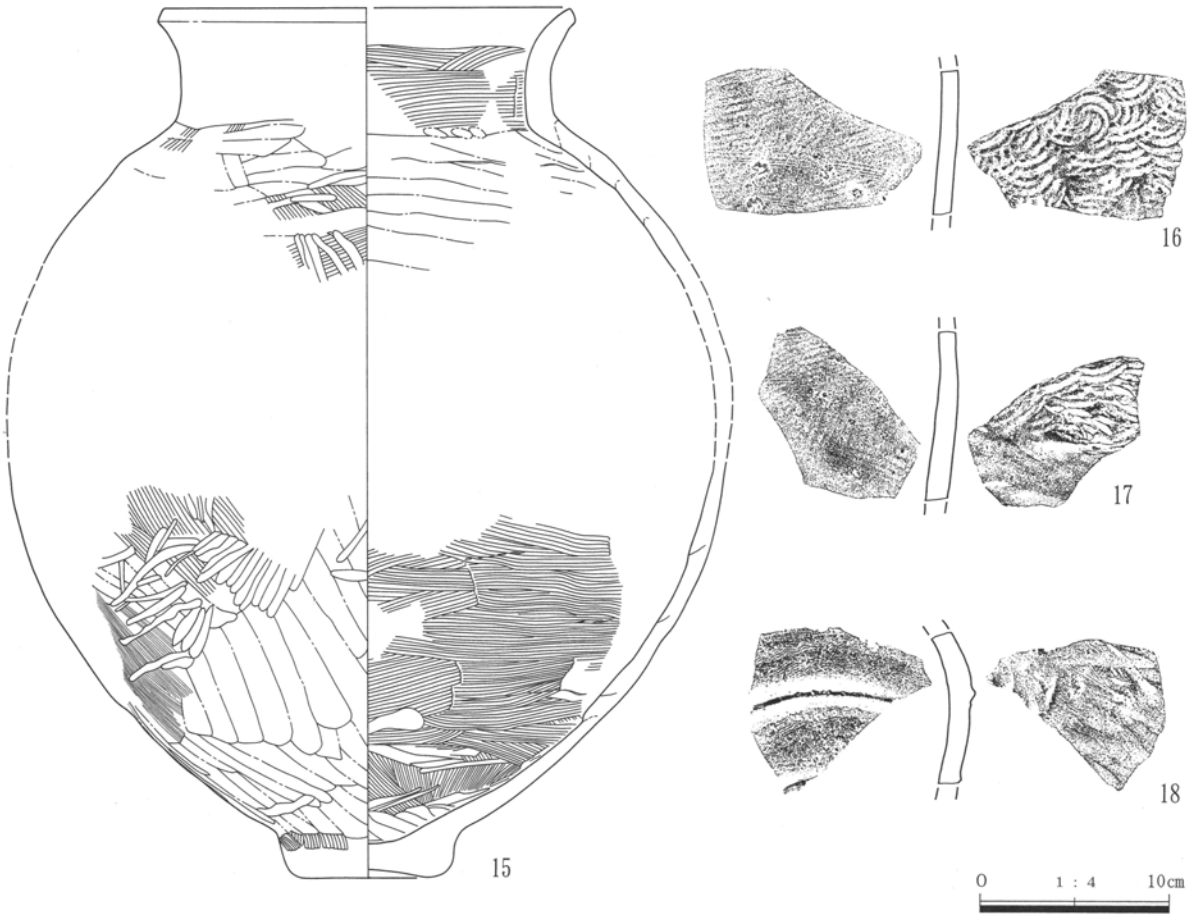
遺　物　貯蔵穴内の甕（12）の他に、その周辺から杯（２・６・８）が出土している。竈右側の床面からは杯（１・４・７）が床面西側部分からは甑（13）が出土している。

なお、遺物の出土量は収納箱２箱である。非掲載土器は合計307片で、その内訳は、土師器杯47片・甕252片・高杯２片、須恵器６片である。（遺物観察表Ｐ13・14）

所　見　須恵器（16～18）は確実に本住居に伴う遺物とは認められない。他の出土遺物から５世紀後半の住居と考えられる。



第52図　８号住居 出土遺物（１）



第53図　８号住居 出土遺物（２）

９号住居（第54～56図）

位　置　Ｋ－16グリッド

写　真　ＰＬ－13・37

概　要　調査区の中央付近で検出された。東壁中央に竈を有し、南東隅に貯蔵穴を有する。

重　複　４号掘立柱建物と重複しこれに先行する。１号墳周堀が近接する。

形　状　平面形は、ほぼ正方形を呈する。四隅は、他の住居と比較するとやや隅丸である。

規模は、南北6.48ｍ、東西6.88ｍを測る。壁面は各壁とも外傾気味に立ち上がる。全体が50㎝以上の残存壁高であった。南東隅では63㎝を測った。

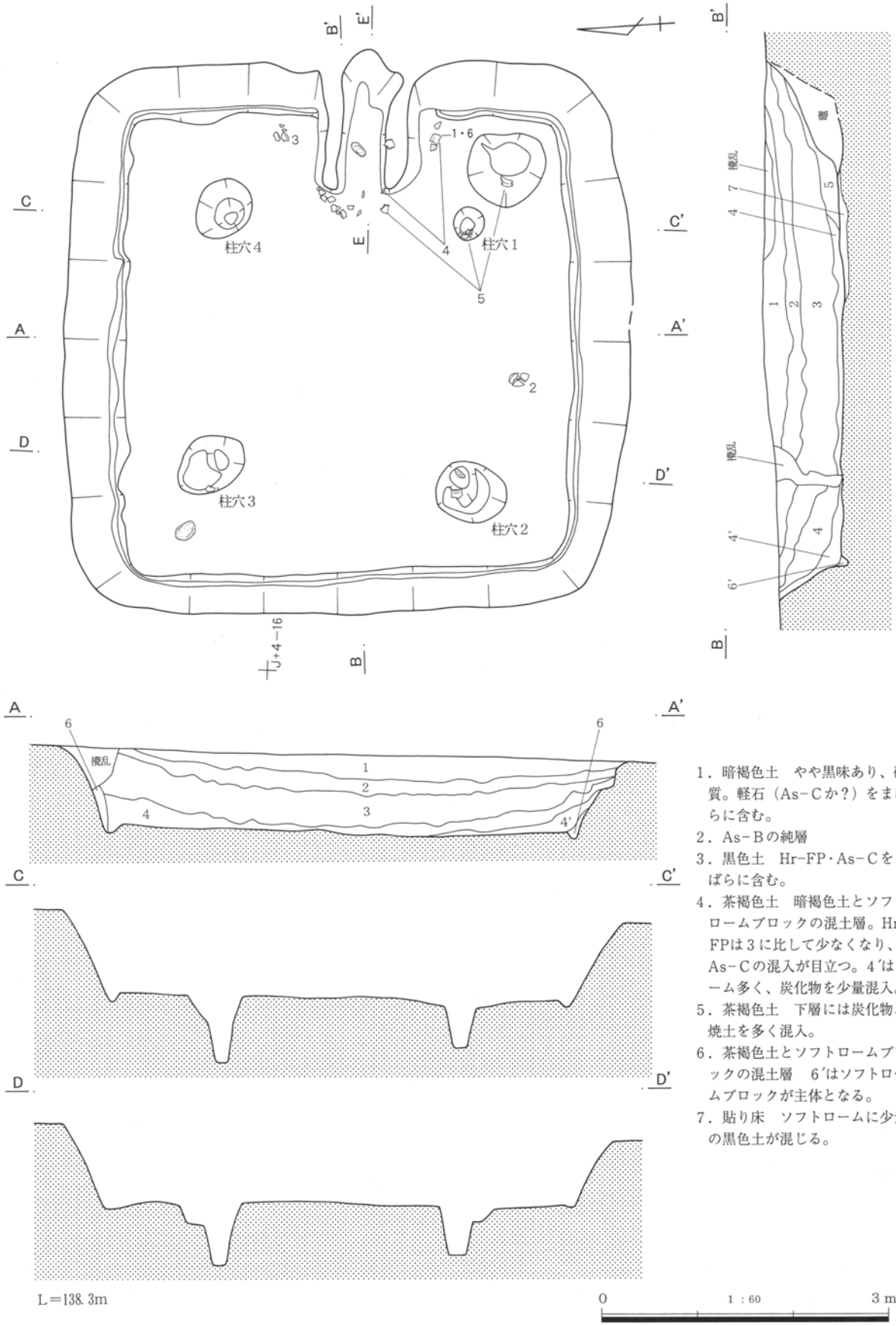
床面は、ほぼ平坦であるが、柱穴１と柱穴２を結んだラインと南壁の間は他より３～５㎝ほど高くなるとともに、ハードロームが集中し、上面がわずかに硬化していた。

埋没土は上層に浅間Ｂ軽石の純層が堆積し、その下位に黒色土、茶褐色土が堆積していた。貼り床は、ソフトローム・黒色土の混土からなっていた。

面　積　42.39㎡　　**方　位**　Ｎ－91°－Ｅ

竈　竈は、壁面の走向に対して軸線をやや斜めにずらして作り付けられていたと考えられる。東壁のほぼ中央に位置しいる。燃焼部を住居内に置き、煙道部は住居壁面のローム土を下位より掘り進めて立ち上がっている。規模は奥行150㎝、燃焼部幅38㎝、焚口部寄りの幅38㎝を測った。燃焼部の掘り方は狭く、袖部の構築には粘土を材料として使用、下部に若干、小礫を含んでいた。両袖部とも崩壊が著しく、特に焚口部寄りの残存は不良で、左袖部は構築材が焚口部方向に流れ出していた。燃焼部中央には火床を11㎝掘り込んで支脚が据えられていたが検出時には横倒していた。

周　溝　壁際を一周する。北壁は、他壁下と比較し、走向が小さく振れている。規模は、幅３～15㎝、深



1．暗褐色土　やや黒味あり、砂質。軽石（As−Cか？）をまばらに含む。
2．As−Bの純層
3．黒色土　Hr−FP・As−Cをまばらに含む。
4．茶褐色土　暗褐色土とソフトロームブロックの混土層。Hr−FPは３に比して少なくなり、As−Cの混入が目立つ。4′はローム多く、炭化物を少量混入。
5．茶褐色土　下層には炭化物、焼土を多く混入。
6．茶褐色土とソフトロームブロックの混土層　6′はソフトロームブロックが主体となる。
7．貼り床　ソフトロームに少量の黒色土が混じる。

第54図　９号住居

さ３～13㎝である。埋没土は黒色味が強く、明瞭にその痕跡を残していた。

柱　穴　４本検出された。四隅の対角線上に近い位置にある。掘り方内にはロームを多く含む暗灰黄色土が堆積していたが、柱痕は確認できなかった。柱穴１を除く３本は上端に向かって大きく外傾する掘り方を有していた。

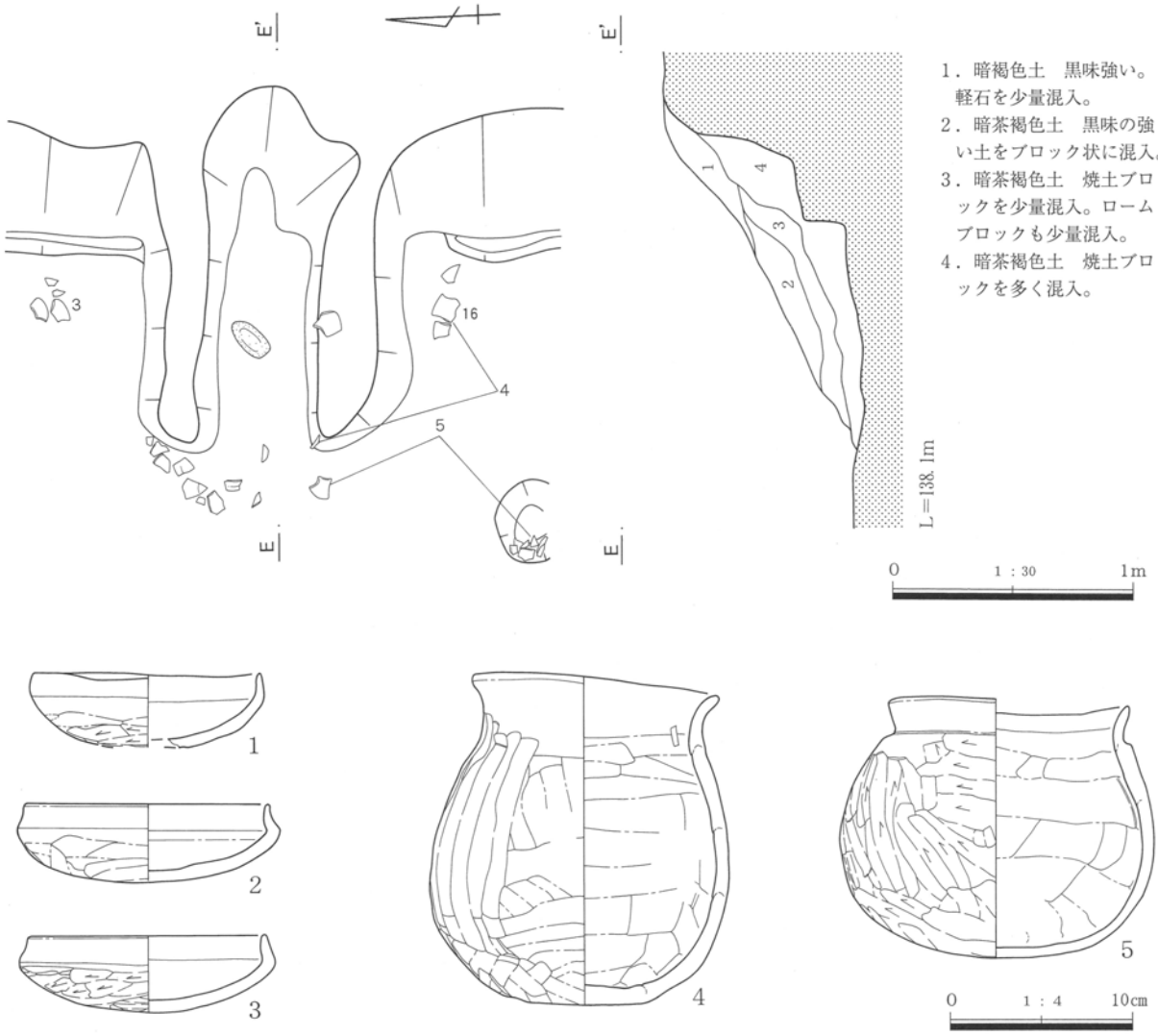
上端の崩落部分を除いた個々の規模は、柱穴１が直径35×26㎝、深さ45㎝。柱穴２が直径57×53㎝、深さ54㎝。柱穴３が直径38×32㎝、深さ68㎝。柱穴４が直径30㎝、深さ75㎝である。

貯蔵穴　住居の南東隅、竈の右側に位置する。やや形状が乱れているが原形は平面円形を呈していたと考えられる。規模は、82×65㎝、深さ82㎝である。

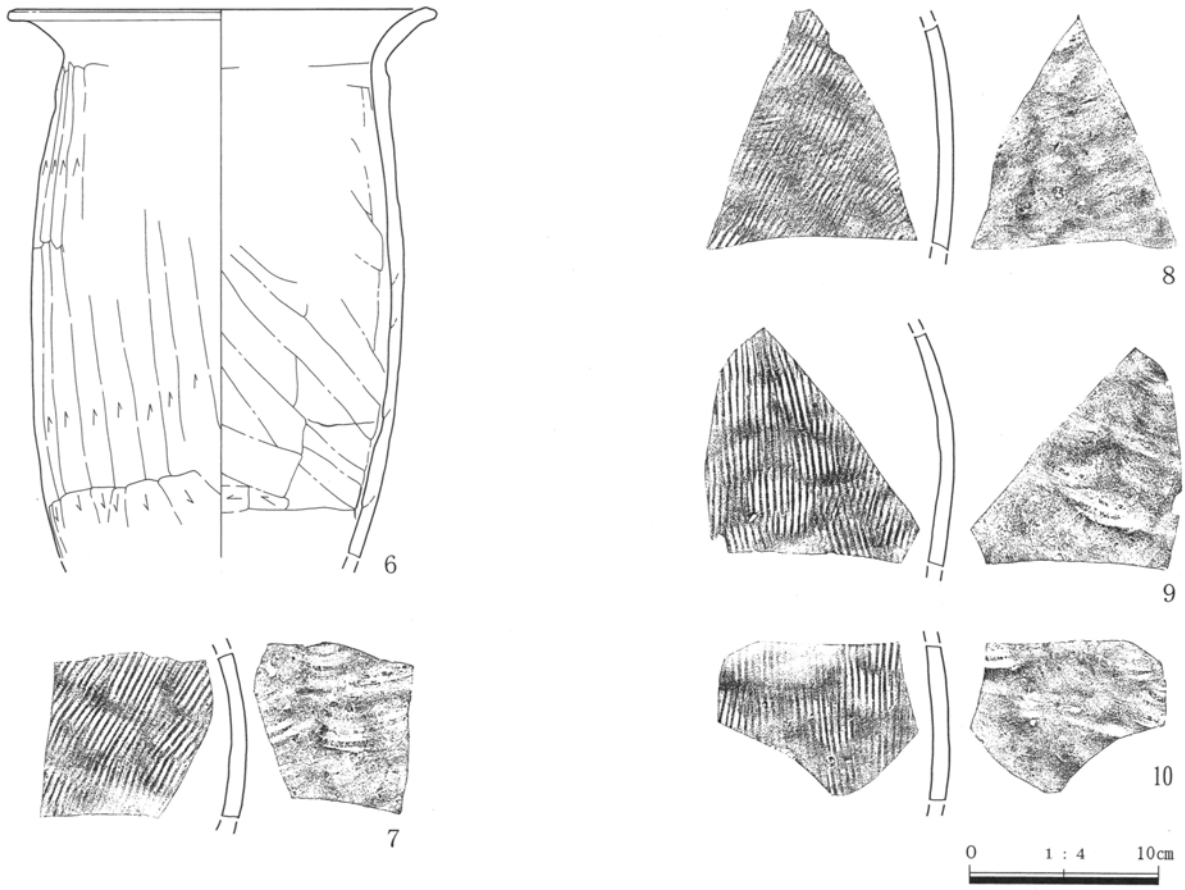
遺　物　出土量は少量であった。杯（１・２）がほぼ完形に復元された他はいずれも欠損品である。竈と貯蔵穴の周辺から甕（４～６）が小破片の状態で出土した。竈左側の東壁寄りから杯（３）が、南壁際中央から杯（２）が出土した。

なお、遺物の出土量は収納箱に１箱である。非掲載土器は合計40片で、その内訳は、土師器甕27片・甑１片・小型甕５片、須恵器甕７片である。（遺物観察表Ｐ15）

所　見　出土遺物から６世紀中葉頃の住居と考えられ、本遺跡中最も新しい時期の住居となる。



第55図　９号住居 竈と出土遺物（１）



第56図　９号住居 出土遺物（２）

10号住居（第57～64図）

位　置　Ｑ－２グリッド

写　真　ＰＬ－14・37～41および口絵

概　要　調査区の北側寄りに位置する。南壁に竈を持ち、南壁の東西両隅に一つずつ合計２箇所貯蔵穴を有する。柱穴は４本である。

重　複　なし

形　状　平面形は、東西と南北の規模がほぼ同規模の四角形である。しかしながら四隅が直角をなさず平行四辺形状を呈す。

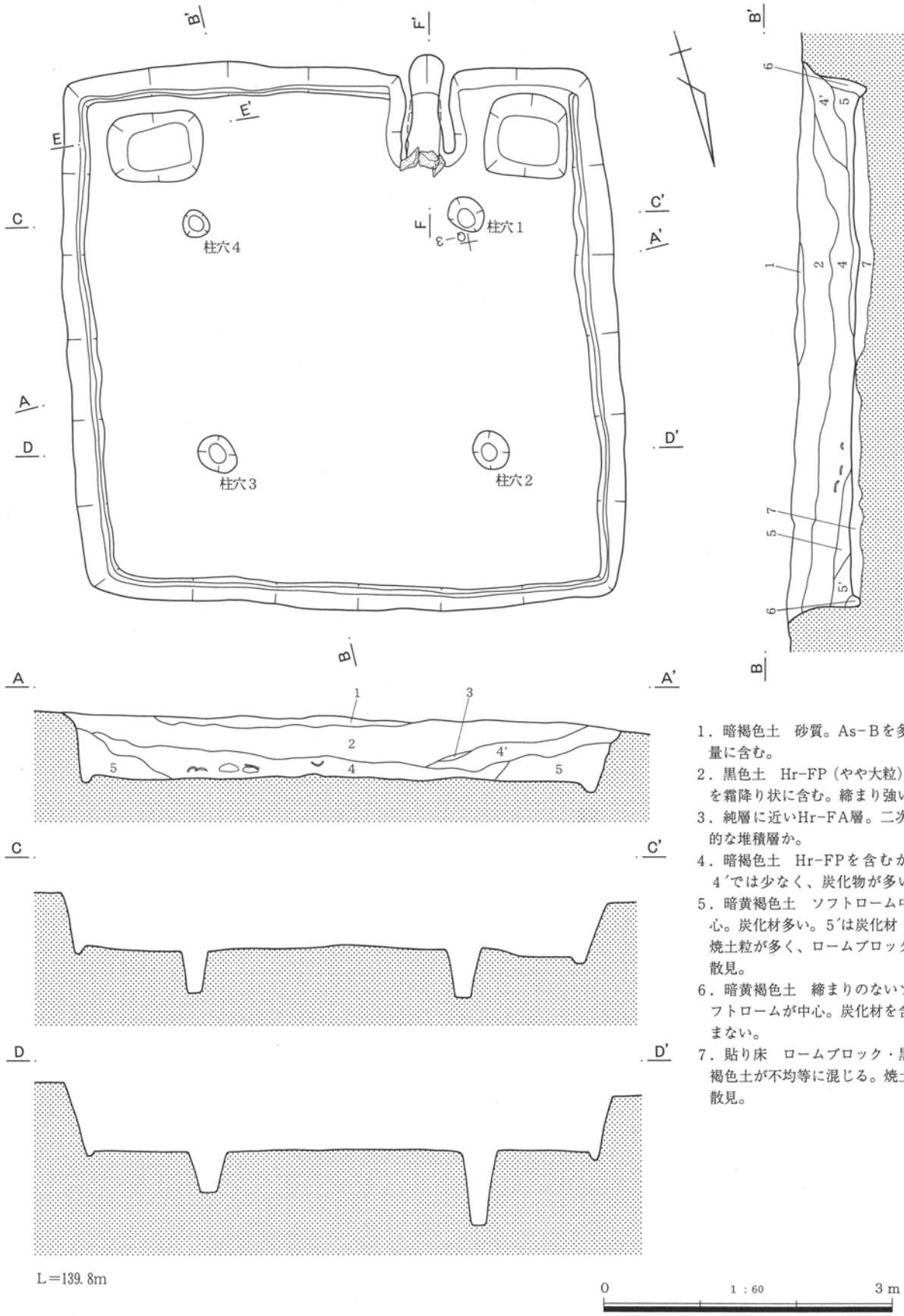
規模は、東西が5.71ｍ、南北が5.63ｍを測る。壁面の残存は全体に良好でいずれも48㎝以上を測る。北東隅は特に良好で72㎝が残存していた。埋没土は、上半に黒色土が堆積していた。東西方向の土層断面の西壁寄り、床面から20㎝の高さの位置に榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr－FA）の純層がブロック状に堆積していた。また、床面直上から10㎝ほどの間から炭化材が多数出土している。上屋の一部が残存したものと考えられる。大型の礫も多数混在していた。床面は多少の凸凹があるもののほぼ平坦である。中央から西壁寄りでは火熱の影響により赤色化した部分が確認された。貼り床・掘り方の埋土は、黒色土・ソフトローム・ハードロームブロックが不均質に混土した土層からなる。

面　積　27.70㎡

方　位　Ｎ－172°－Ｗ

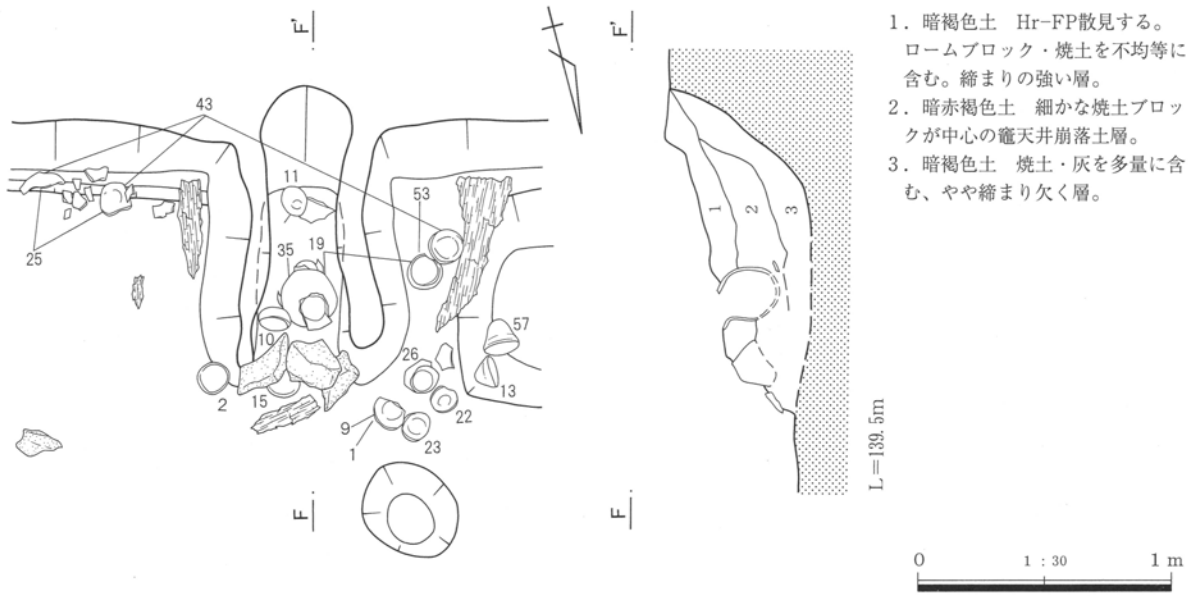
竈　南壁、南西隅寄りに位置する。住居内に燃焼部を置き、住居の壁面を一部掘り込んで煙道部が立ち上がっている。

規模は、燃焼部の奥行87㎝、幅27㎝、焚口部幅23㎝である。燃焼部は天井部が崩落し、両袖部分が残存していた。袖構築材には粘土が使用され、両先端内側、焚口部分には左側が５㎝、右側が10㎝、基底面を掘り込んで扁平な割れ石を据え、これに割れ口を天井石として構架させ鳥居状の構造をつくっている。燃焼部中央には扁平な礫を立て支脚としている。



1．暗褐色土　砂質。As−Bを多量に含む。
2．黒色土　Hr−FP（やや大粒）を霜降り状に含む。締まり強い。
3．純層に近いHr−FA層。二次的な堆積層か。
4．暗褐色土　Hr−FPを含むが4′では少なく、炭化物が多い。
5．暗黄褐色土　ソフトローム中心。炭化材多い。5′は炭化材・焼土粒が多く、ロームブロック散見。
6．暗黄褐色土　締まりのないソフトロームが中心。炭化材を含まない。
7．貼り床　ロームブロック・黒褐色土が不均等に混じる。焼土散見。

第57図　10号住居（１）



第58図　10号住居 竈

燃焼部から甕（35）が出土、その左側から杯（10）が、左袖部先端からは杯（２）が検出された。焚口部天井石の下位からは杯（15）が出土した。

周　溝　貯蔵穴の右側を除いて、各壁面際に掘り込まれている。全体的に浅く、幅４～15㎝、深さ４～８㎝である。埋没土は暗褐色土で黒色土のブロックを含む締まりのない土である。

柱　穴　４本検出した。住居の平面形と比較すると東西の２柱穴間の心々距離が南北２本の柱穴間のそれより長い。

個々の柱穴の規模は、柱穴１が直径50×33㎝、深さ50㎝。柱穴２が直径43×37㎝、深さ76㎝。柱穴３が直径44×36㎝、深さ42㎝。柱穴４が直径29×26㎝、深さ43㎝を測る。

貯蔵穴　貯蔵穴は２箇所に設置されていた。前後関係については断定できないが埋没土の状況から東側が先行するものと考えられる。

竈右側の西貯蔵穴は、平面、長方形の掘り込みであるが、上端は東から北縁が低い段をなしている。規模は、88×86㎝、深さ52㎝である。内部に炭化材がわずかに落ち込んでいた。

東貯蔵穴は、東西に長辺を有する平面長方形の掘り込みで、規模は、101×71㎝、深さ55㎝を測った。埋没土最上層に堆積した黒褐色土上面は貼り床状を呈していた。

遺　物　北東部分を中心に多量の土器が出土しているが、床面直上からの出土資料は少数である。

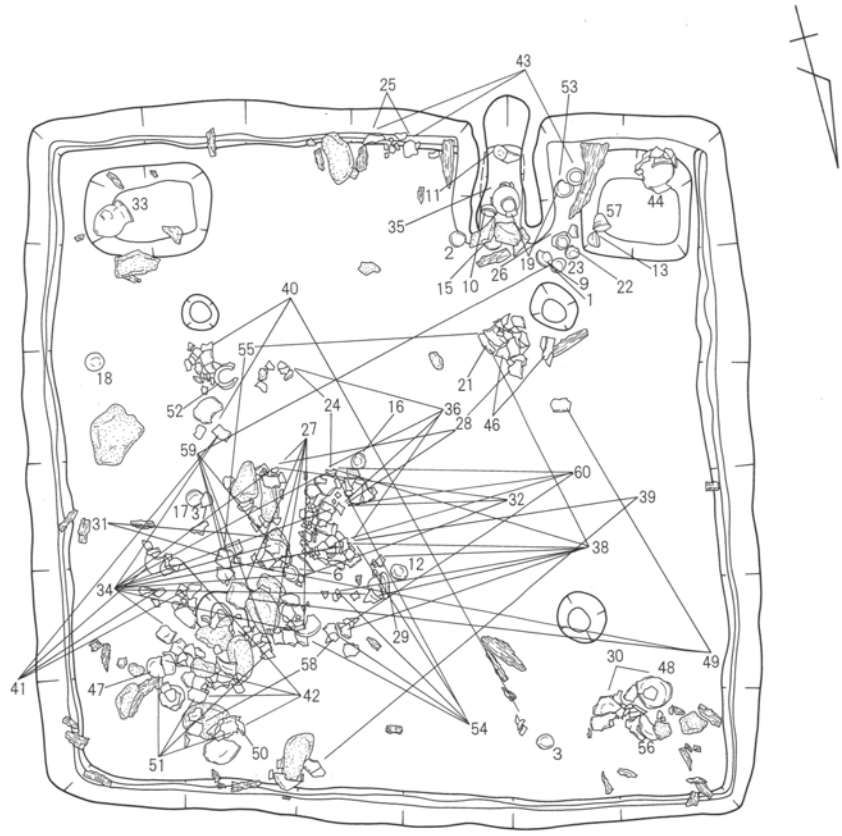
資料化した土器の点数は合計59点で、内訳は土師器杯（16）・椀（４）・高杯（１）・ミニチュア土器（１）・甕（30）・甑（７）である。

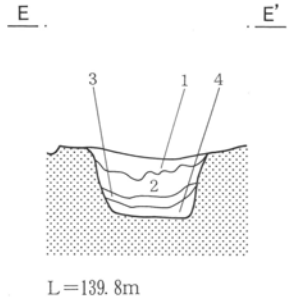
出土位置としては竈の右側、西貯蔵穴との間から多数の土器が出土した。右袖部手前から杯（１・９）、椀（19）、高杯（23）、甕（26）が、壁寄りの右袖外側から甕（43）が出土している。西貯蔵穴からは杯（13）、甑（57）、甕（44）が上縁から流れ込んだ状態で検出された。他に床面出土の資料としては、床面中央出土の杯（12）、椀（21）、東壁際出土の杯（18）がある。

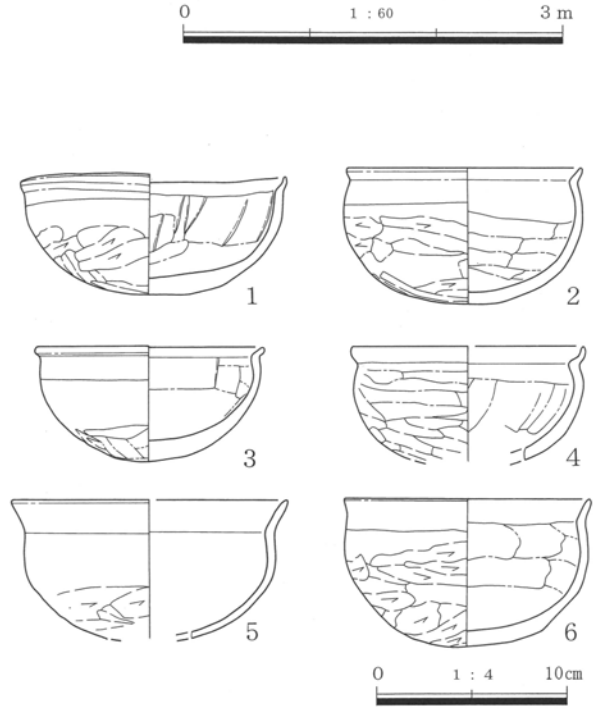
なお、遺物の出土量は収納箱５箱である。非掲載土器片は合計493片で、その内訳は土師器杯57片・甕428片・甑２片・小型甕５片、須恵器甕１片である。（遺物観察表Ｐ15～19）

備　考　北東側で多量に出土した遺物は、焼失家屋に伴うものではなく、焼失あるいは廃棄に伴い焼き払われた住居跡に土器が投棄された可能性が高い。

所　見　出土遺物から５世紀後半の住居と考えられ、北東側に投棄された土器と大きな時間差は認められない。



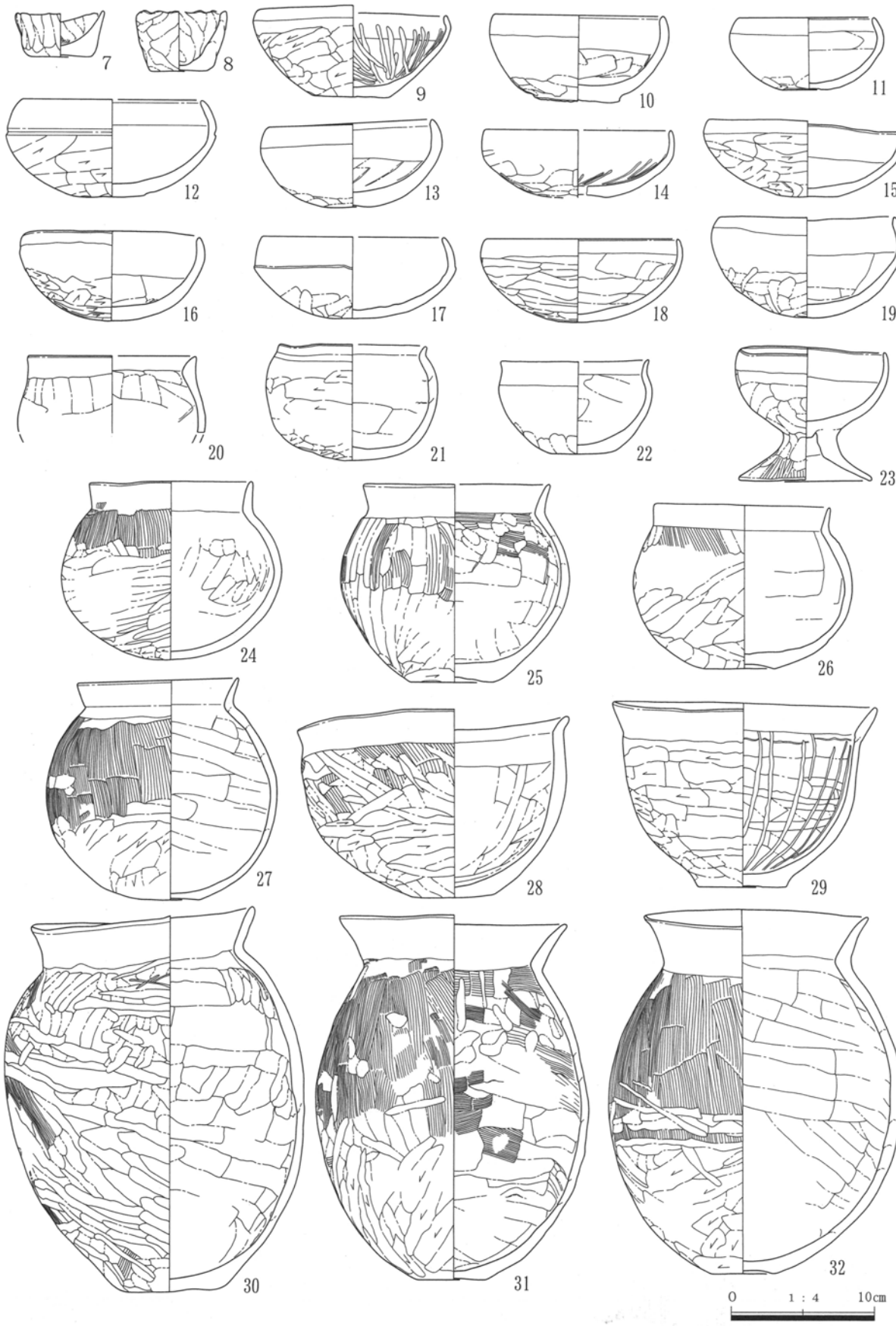




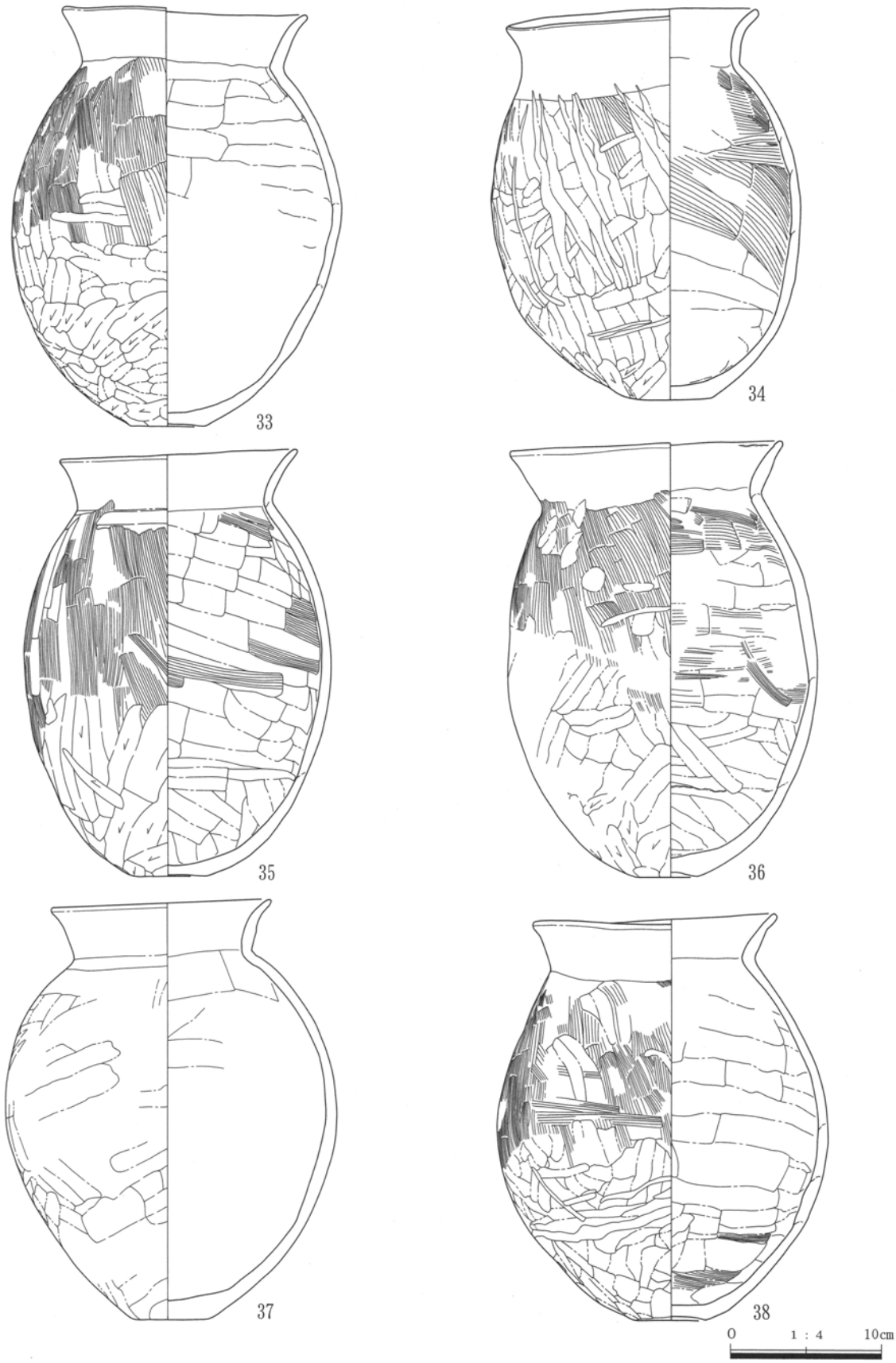
10号住居東貯蔵穴

1．黒褐色土　As−Cを多量に含む。焼土粒・ロームブロックも若干含まれる。上面は粘性のある床状となる。
2．黄褐色土　ロームと褐色土との混土層でハードロームブロックや焼土をかなり多く含む。締まりの少ない土。
3．黒褐色土　粘性を帯び、締まりのある土層。少量の炭化物を含む。
4．黄褐色土　粘性を帯び、締まりのある土層。少量の炭化物を含む。

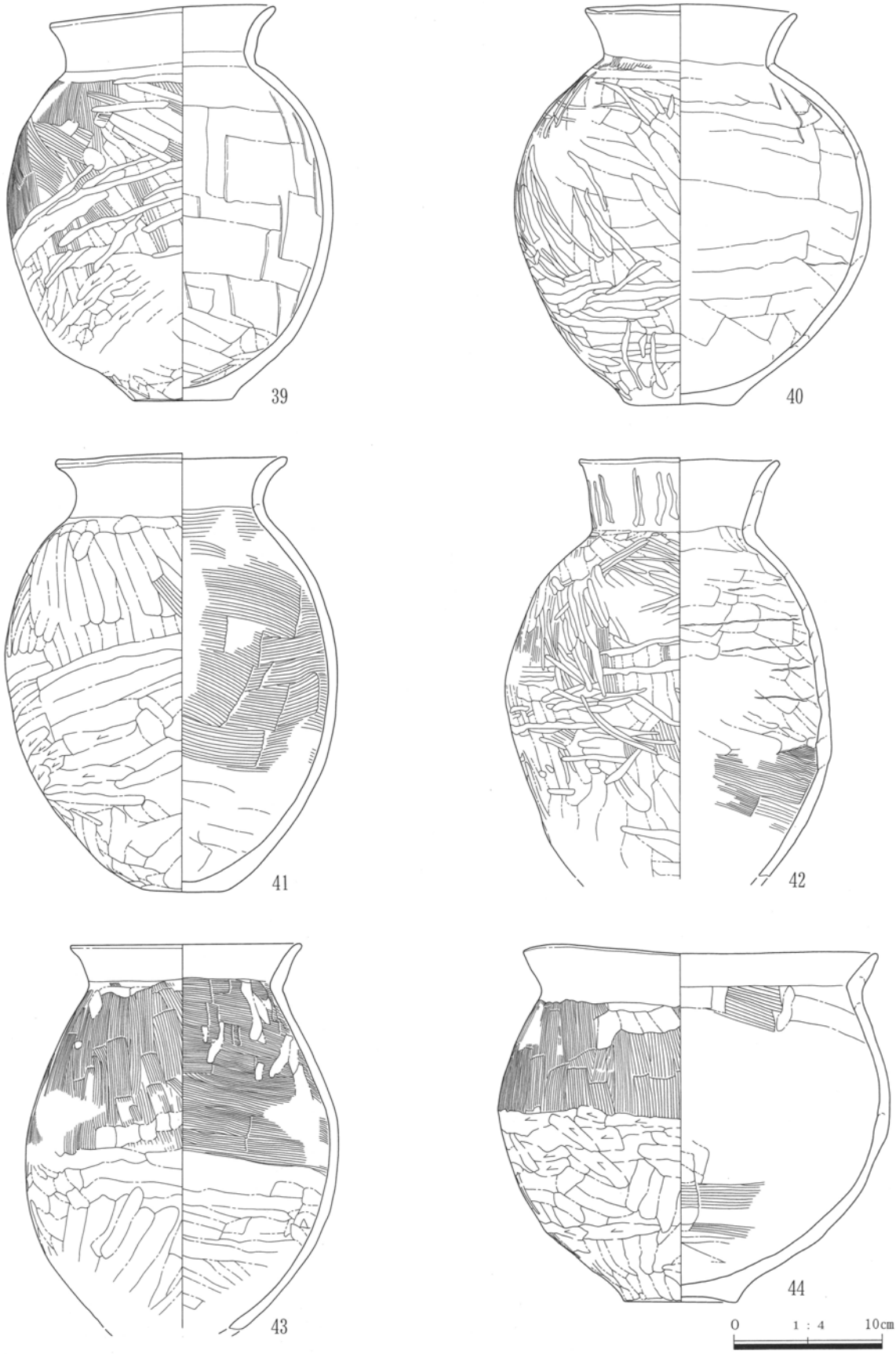
第59図　10号住居（２）と出土遺物（１）



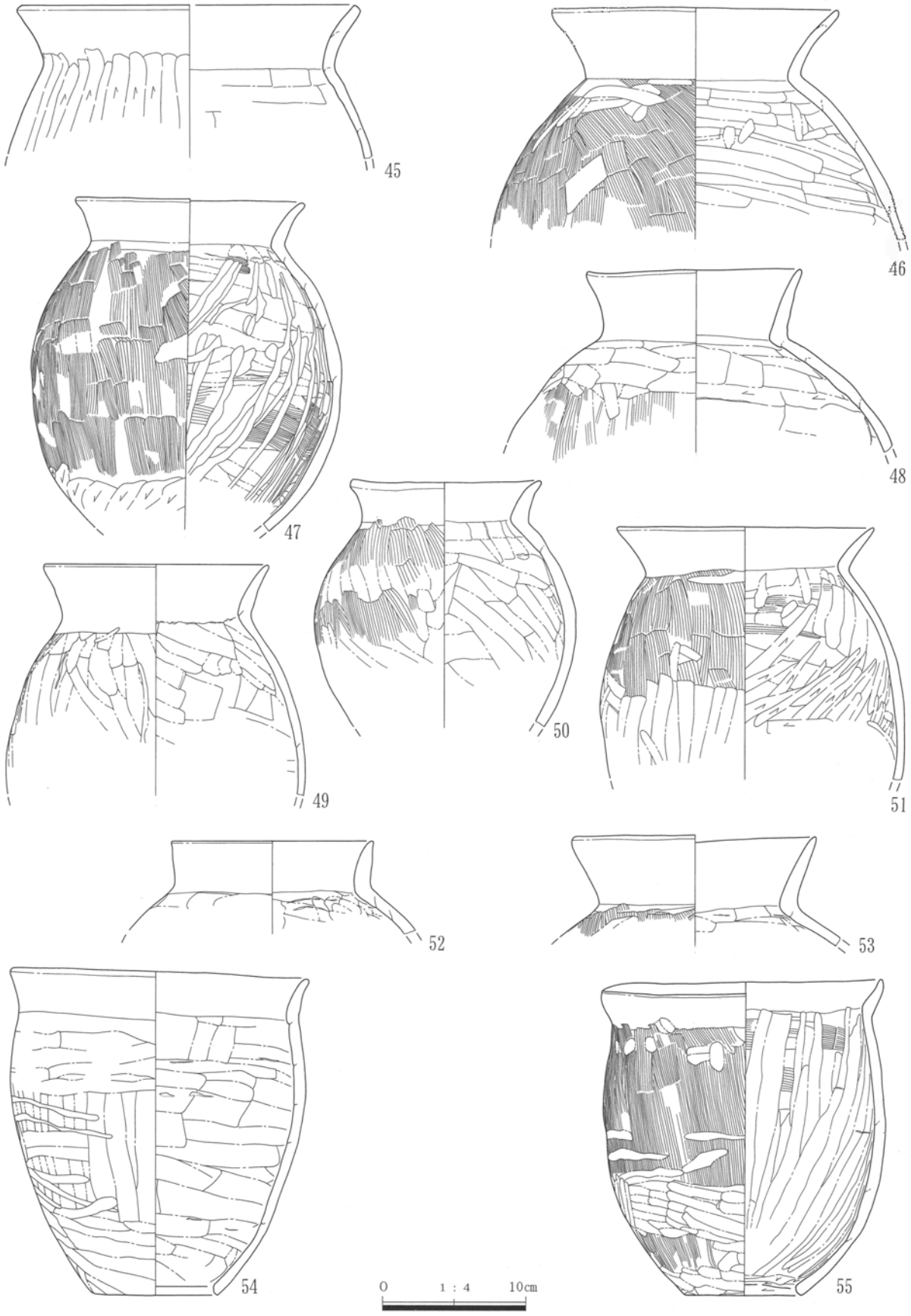
第60図　10号住居 出土遺物（２）



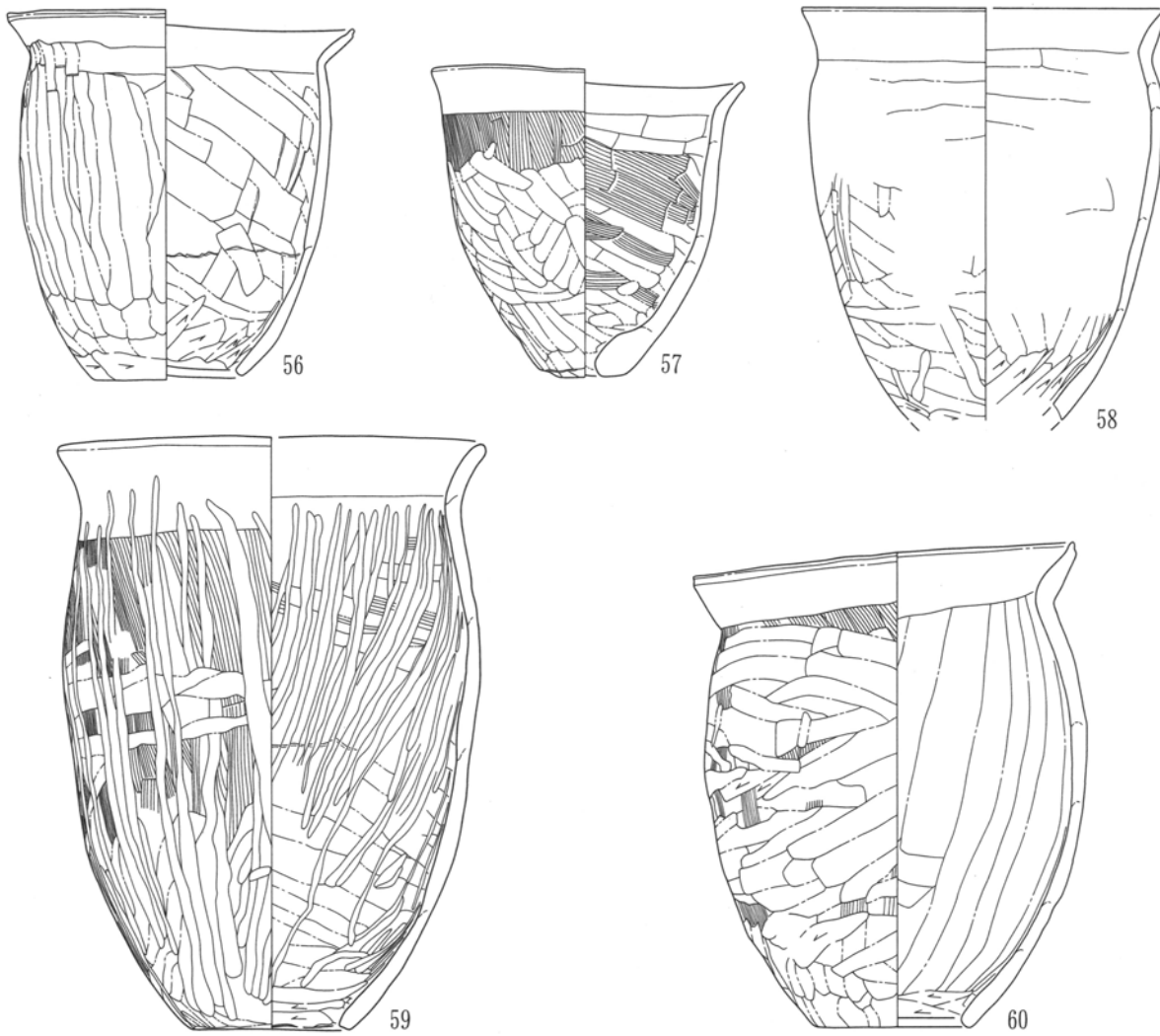
第61図　10号住居 出土遺物（３）



第62図　10号住居 出土遺物（４）



第63図　10号住居 出土遺物（５）



第64図　10号住居 出土遺物（６）

0　1：4　10cm

11号住居（第65～67図）

位　置　Ｎ－11グリッド

写　真　ＰＬ－15・41・42

概　要　調査区の中央やや北側寄りに位置する。南壁に竈を持ち、その左側に貯蔵穴を有する。４本の柱穴を検出した。

重　複　なし

形　状　平面形は、東西方向に長軸を有するがほぼ正方形に近い掘り方を有する。竈や貯蔵穴のある南側は若干外方に向かって圭頭状に張り出している。

規模は、南北5.43m、東西5.58mを測る。壁面は南西隅で深さ77㎝を測った。

床面は、多少の起伏を有しながらも平坦面を形作っていた。４本の柱穴を結んだ線の内側、中央部分には硬化面が見られた。反対に南西隅の床面は軟弱であった。

埋没土は、暗褐色土・茶褐色土が堆積、下層では炭化物の混入が顕著であった。また、長さ30㎝を超える扁平な礫が数個、埋没土下層中から出土している。貼り床・掘り方の埋土は、暗褐色土を中心とし、10㎝前後の深さを有していた。

面　積　25.10㎡

方　位　Ｎ－171°－Ｅ

竈　南壁、南西隅寄りに位置する。住居内に燃焼部を設け、住居の壁面を一部掘り込んで煙道がつくられている。燃焼部の崩壊は著しかった。特に、

右袖部はその右側一帯に粘土・焼土が広がっていた。両袖部とも先端の内側に扁平な割れ石を２石ずつ立てており、焚口部手前にのりだしてずり落ちていた割れ石を天井石とした鳥居状の焚口部の構造を呈していたと考えられる。燃焼部には下層に焼土の層が、火床面には薄い灰層が堆積していた。礫を利用した支脚は燃焼部中央に特に掘り方を有することなく設置されていた。

周　溝　竈の両脇を除き各壁際に認められた。北壁は一部浅くなり途切れる。埋没土は、ロームを主体とした暗褐色土との混土層である。規模は、幅６～14㎝、深さ３～11㎝である。

柱　穴　４本検出した。住居の四隅を結ぶ対角線上にあり、各壁からの距離もほぼ均等の位置にある。

埋没土には直径10㎝、深さ20～30㎝ほどの部分に締まりのない暗褐色土が入っており、柱痕の可能性がある。これより下位には汚れたソフトロームに近い茶褐色土が見られた。

個々の規模は、柱穴１が直径39×29㎝、深さ85㎝。柱穴２が直径37×30㎝、深さ79㎝。柱穴３が直径35×32㎝、深さ85㎝。柱穴４が直径36×33㎝、深さ58㎝である。

貯蔵穴　竈の左側、袖に接するように位置していた。原形は、平面長円形を呈していたと考えられ、長径85㎝、短径67㎝、深さ56㎝を測った。

埋没土は、暗褐色土で焼土や炭化物の混入は少量であった。

なお、竈左袖の先端から貯蔵穴の周囲を下幅20～55㎝、高さ4.5㎝程の帯状の高まりが半周していた。

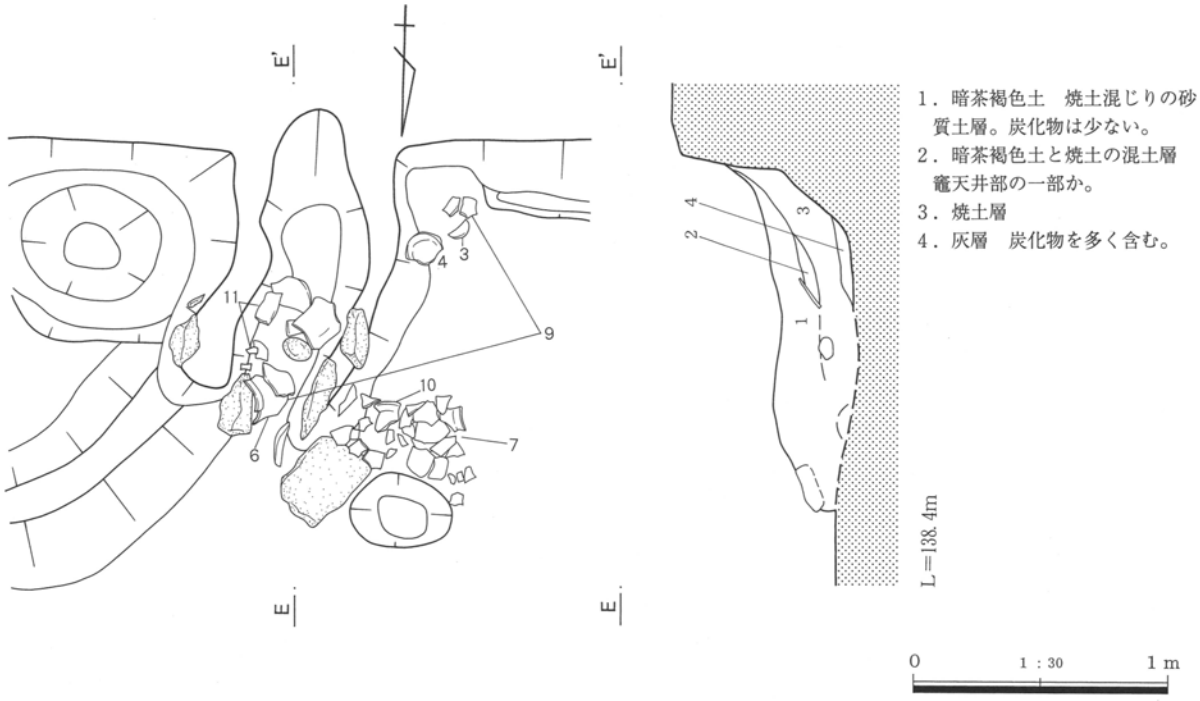
遺　物　竈とその周辺から出土したが、その他においては床面出土の資料は少量であった。

竈燃焼部内からは甕（６）が出土した。甕（９・11）も燃焼部出土とその周辺出土の破片が接合している。右袖外側では甕（７・10）が床面直上からの出土である。また、中央やや東壁寄りの床面上から甕（12）が検出された。

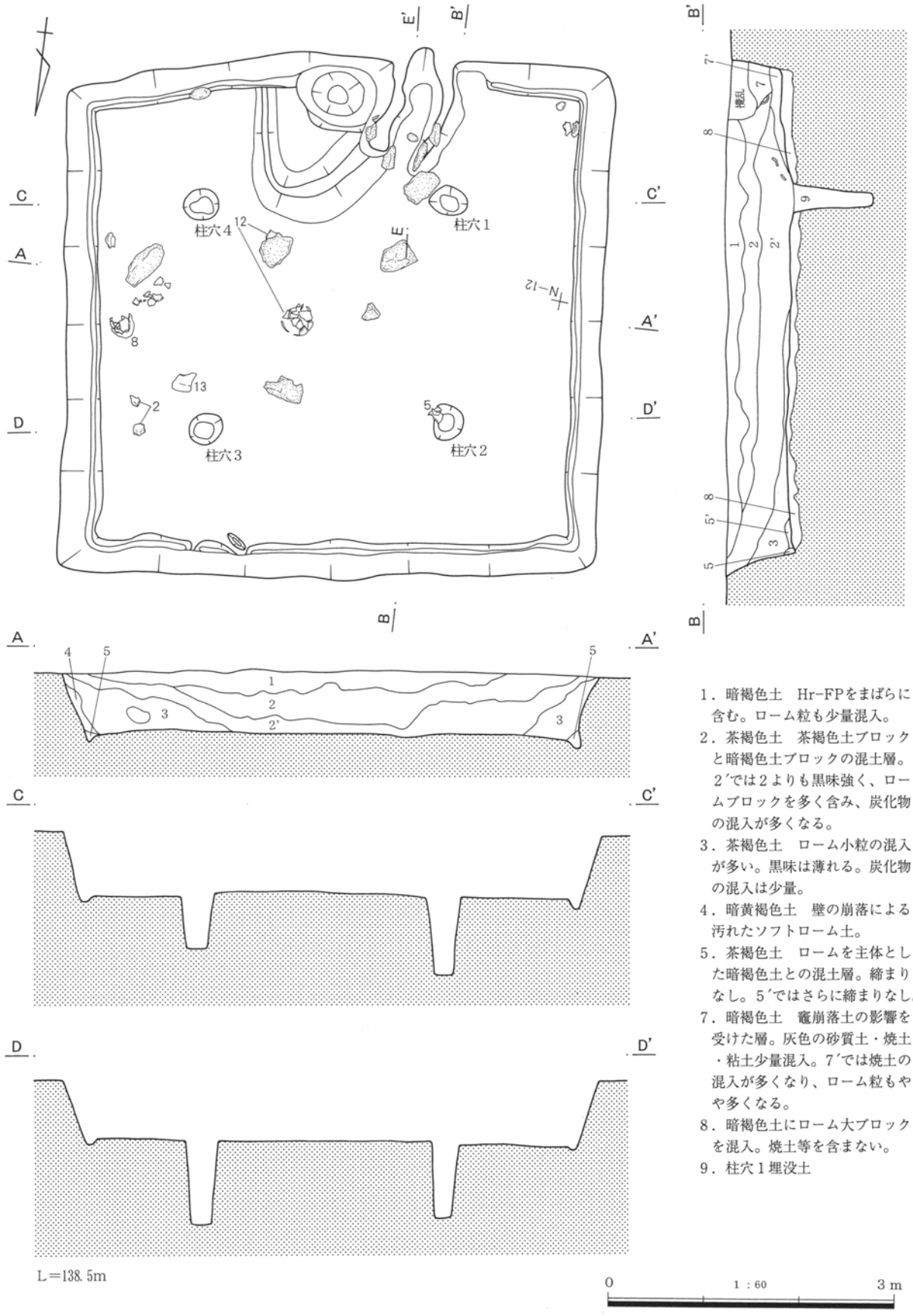
なお、遺物の出土量は、収納箱２箱である。非掲載土器の合計は237片で、その内訳は、土師器杯39片・甕191片・甑２片・小型甕５片である。

（遺物観察表Ｐ20）

所　見　出土遺物から５世紀後半の住居と考えられる。

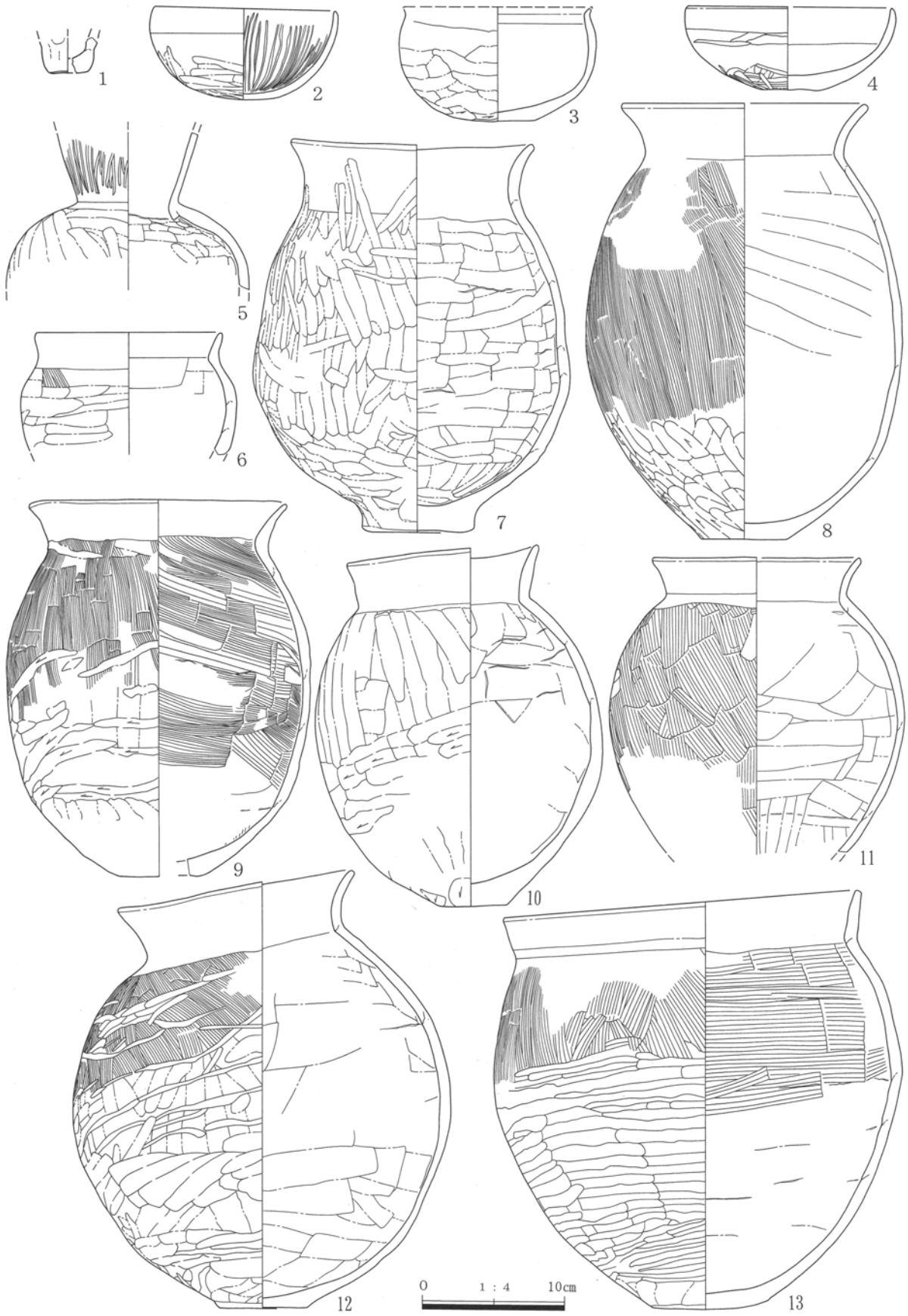


第65図　11号住居 竈



1．暗褐色土　Hr-FPをまばらに含む。ローム粒も少量混入。
2．茶褐色土　茶褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混土層。2′では2よりも黒味強く、ロームブロックを多く含み、炭化物の混入が多くなる。
3．茶褐色土　ローム小粒の混入が多い。黒味は薄れる。炭化物の混入は少量。
4．暗黄褐色土　壁の崩落による汚れたソフトローム土。
5．茶褐色土　ロームを主体とした暗褐色土との混土層。締まりなし。5′ではさらに締まりなし。
7．暗褐色土　竈崩落土の影響を受けた層。灰色の砂質土・焼土・粘土少量混入。7′では焼土の混入が多くなり、ローム粒もやや多くなる。
8．暗褐色土にローム大ブロックを混入。焼土等を含まない。
9．柱穴１埋没土

第66図　11号住居



第67図　11号住居 出土遺物

12号住居（第68～70図）

位　置　Ｌ－10グリッド

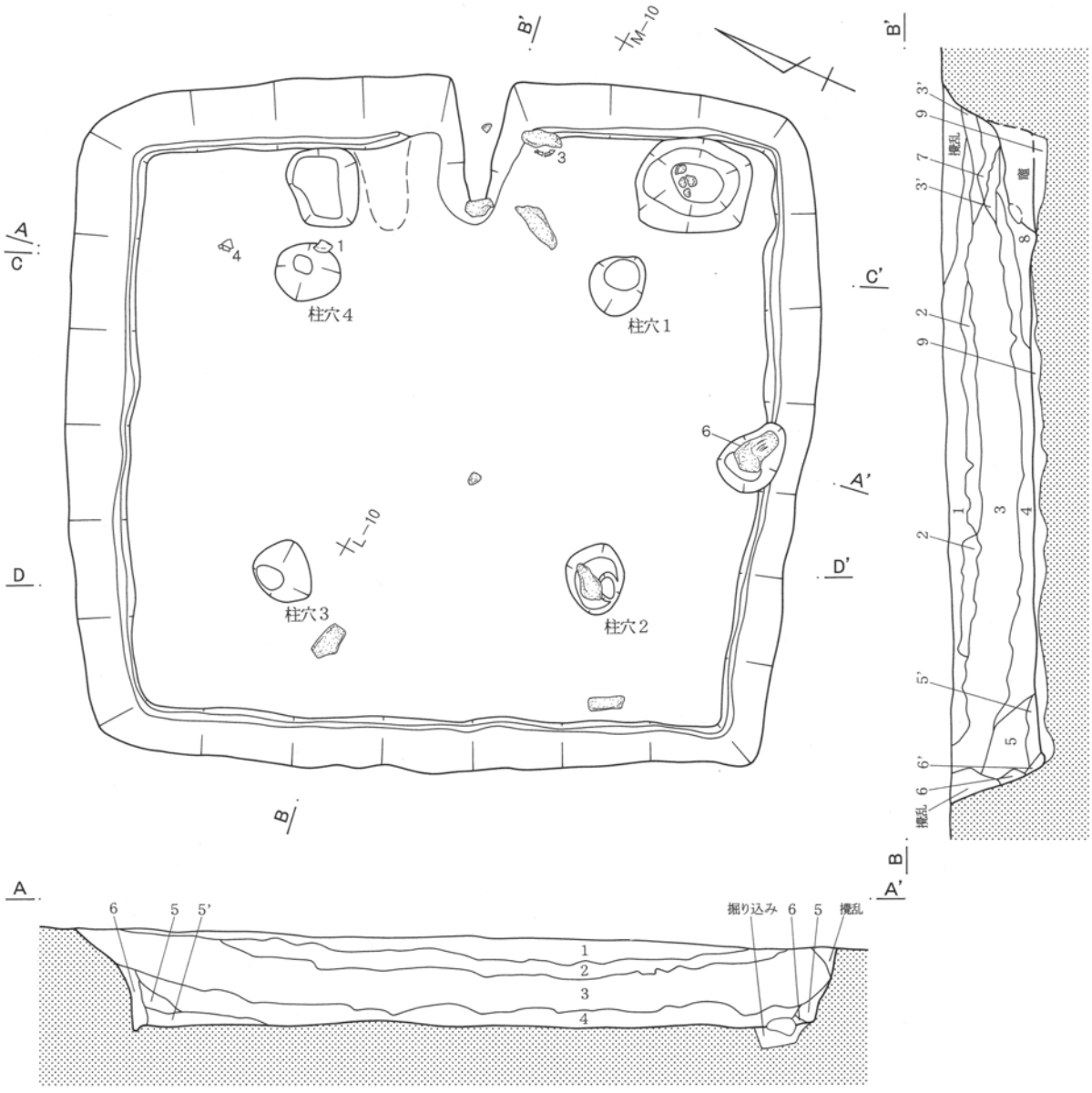
写　真　ＰＬ－16・42

概　要　調査区の中央、やや北側で検出した。東壁に竈を持ち、南東隅に貯蔵穴を有していた。柱穴は４本あり、周溝は一周していた。

重　複　北西隅に５号井戸が近接する。

形　状　平面形は、南北方向にやや長い四角形であるがほぼ正方形状である。

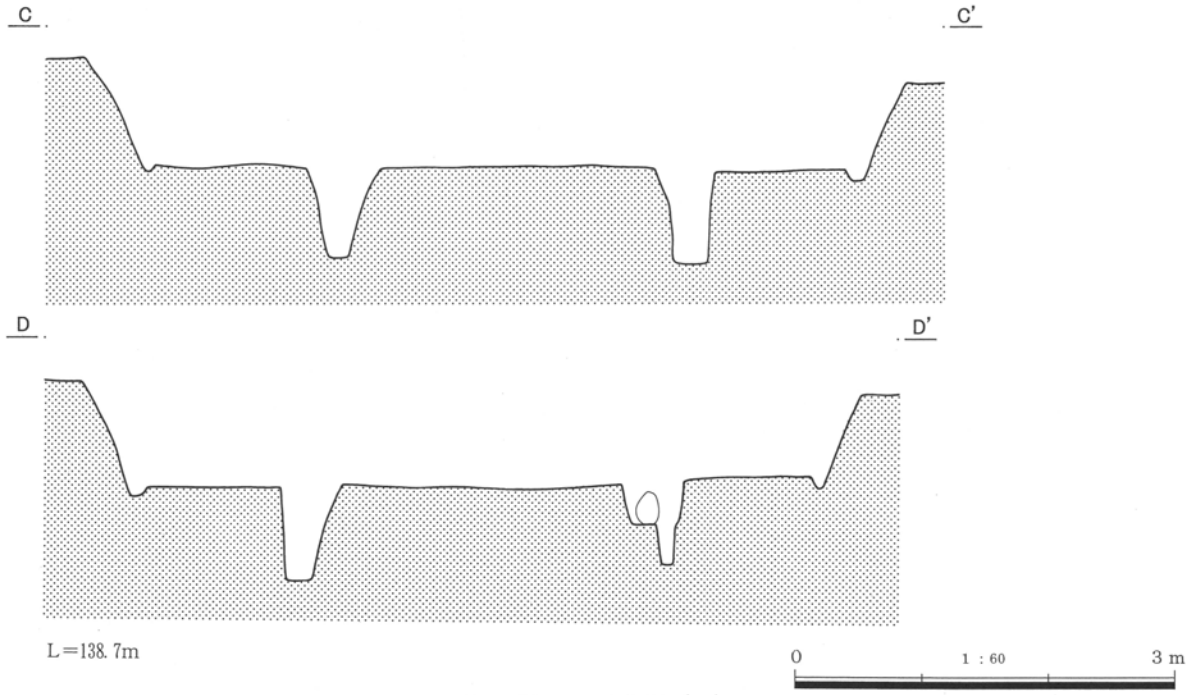
規模は、南北6.46m、東西6.00mを測る。



１．暗灰色土　砂質。締まりなし。As－Ｂを少量含む。
２．As－Ｂ層　ほぼ純層。
３．黒色土　Hr-FP・As－Ｃを多く含む。やや締まり欠く。
　3′ではローム小ブロックが混じる。
４．暗茶褐色土　As－Ｃ、ローム粒をまばらに含む。
５．暗褐色土　ローム粒を少量含み、5′はローム粒の混入多い。
６．暗茶褐色土　壁の崩落土層で、6′はロームブロックを少量含む。
７．ロームブロック
８．暗灰褐色土　砂質。ロームブロック・炭化物を少量含む。
９．貼り床　ソフトロームと黒色土が不均等に混じる。壁際ではハードロームブロックの混入多い。焼土・炭化物等の混入なし。

0　1：60　3 m

第68図　12号住居（１）



第69図　12号住居（２）

壁面の立ち上がりは各壁とも他の住居の断面形に比較してやや外傾ぎみに立ち上がっていた。残存はいずれも64cm以上で、最も良好な北壁の北東隅寄りで深さ85cmであった。

床面は、全体に良く踏み固められていた。

南壁中央の壁際には皿状の掘り込みの中に大型の砥石が置かれていた。東壁中央からやや北東隅寄りにも68×62cm、深さ９cmの皿状の落ち込みが見られ、黄茶褐色土、ロームブロックが混入していた。

埋没土は、確認面から15cm下に浅間Ｂ軽石の純層が10cm前後の厚さで堆積、その下には黒色土、暗茶褐色土が堆積している。貼り床・掘り方はソフトロームと黒色土が不均質に混じた土からなる。壁際ではハードロームブロックの混入が多い。

面　積　28.86m²

方　位　Ｎ－60°－Ｅ

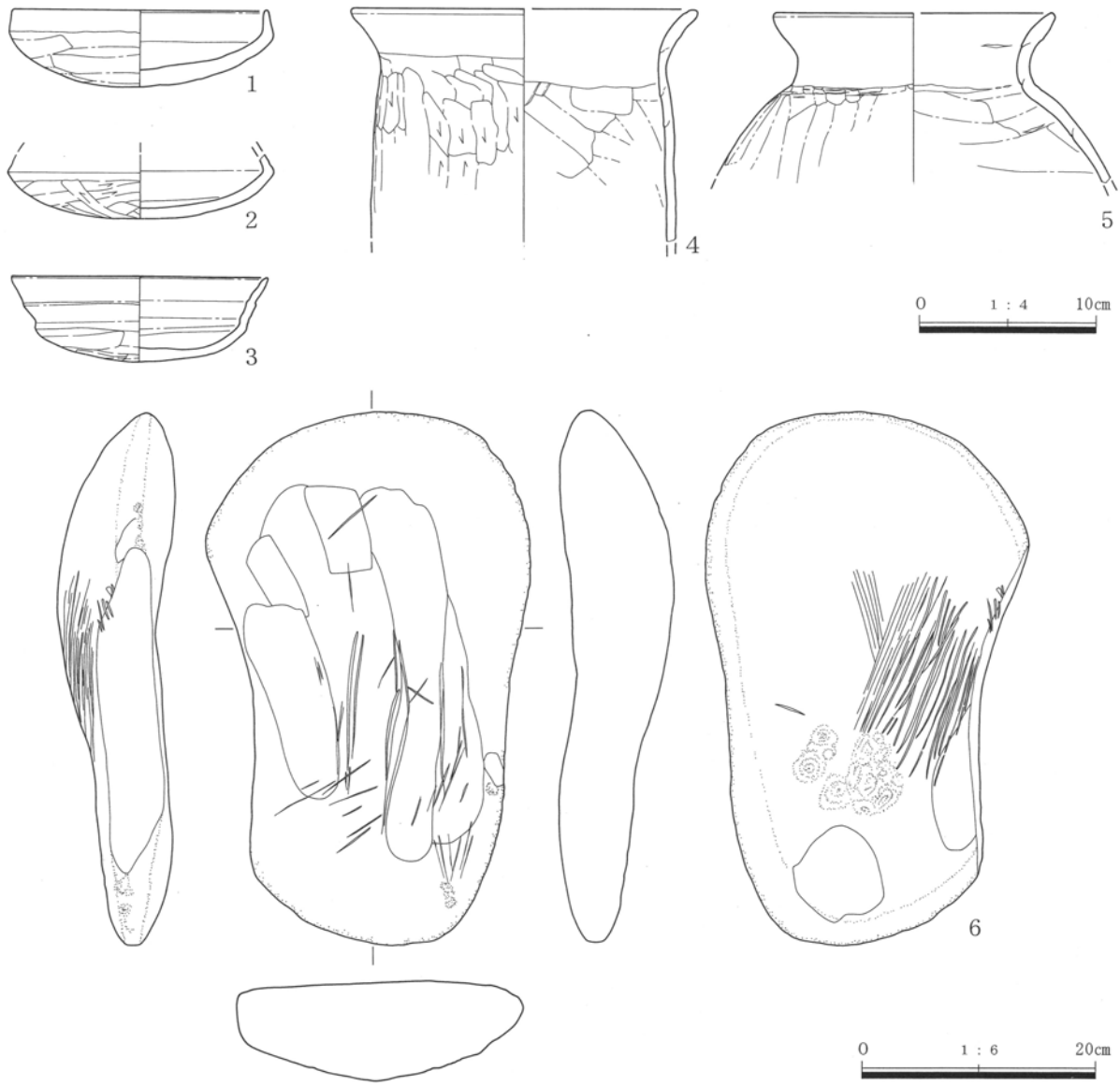
竈　東壁中央からやや南東隅に寄った位置にある。住居内に燃焼部を設けているが崩壊が著しく、左袖は痕跡がほとんど残っていない状況であった。右袖は粘土混じりの暗褐色の砂壌土を構築材としている。右袖の右前から検出された扁平な割れ石は、焚口部の天井部分を構成していたものと考えられる。火床は皿状に下がり、焼土・炭化物が散見していた。煙道部は削平されていた。

周　溝　各壁際に認められ一周していた。埋没土は、ソフトロームに近い茶褐色土で、締まりは無かった。規模は、幅５～15cm、深さ２～11cmである。

柱　穴　４本検出した。住居の平面形との位置関係を見ると、柱穴４がやや南側に片寄っている。埋没土は、いずれも上層に黒色土、下層にソフトロームに近い土層が堆積していた。柱痕は不明瞭であった。柱穴２は、上層にやや大型の礫が入り込んでいた。各柱穴の規模は、柱穴１が直径55×46cm、深さ74cm。柱穴２が直径55×48cm、深さ66cm。柱穴３が直径55×45cm、深さ75cm。柱穴４が直径55×48cm、深さ70cmである。

貯蔵穴　住居の南東隅、竈の右側に位置する。現状では平面長円形に近いが、原形は長方形を呈していた可能性もある。上縁近くは崩落のためか壁面の立ち上がりが外方に開いている。埋没土は、暗褐色土であった。規模は、長径98cm、短径83cm、深さ60cmを測る。

遺　物　南壁際中央から、長さ44.5cmの石皿（縄文時代の遺物を砥石として再利用したものか）が出土



第70図　12号住居 出土遺物

している。この石皿は、南壁中央直下の深さ15cmほどの掘り方内に据え置かれた状態で検出された。

土器は、北東部分から出土した甕の大型破片（４）が床面直上から出土し、杯（１）が柱穴４内から出土している。杯（３）は竈脇からの出土である。出土遺物量は少ない上に、使用の痕跡を顕著に示す出土状態でもない。

なお、遺物の出土量は収納箱１箱分である。非掲載土器の合計は129片で、その内訳は、土師器杯８片・甕108片・甑12片、須恵器甕１片である。（遺物観察表Ｐ21）

所　見　確実に本住居に伴い時期決定の根拠となる資料に欠けるが、長胴甕とその他の模倣杯と時期的齟齬は生じていない。６世紀中葉の住居と考えられ、９号住居同様に本遺跡の古墳時代集落にあって、終末にあたる時期の住居となろう。

13号住居（第71～74図）

位　置　R－５グリッド

写　真　PL－13・42・43

概　要　調査区の北側から検出された。北壁に竈を持っている。柱穴は４本で、壁際に周溝が一周していた。

重　複　南東隅に３号墳の周堀が近接する。これに先行する。

形　状　平面形は正方形に近い四角形を呈する。各辺、各隅とも整美な形状である。規模は、南北5.46m、東西5.37mである。

壁面は、垂直に近い立ち上がりで、残存は比較的良好で全体が55cm以上を測り、最も良好な北東隅は64cmの深さであった。

床面は、多少の凸凹はあるもののほぼ平坦である。

南壁際、貯蔵穴の西側には幅25～35cmの粘土を含む盛り土による帯状の高まりが、直径1.2mほどのドーナツ状をなしている。

埋没土は、黒色土、黒褐色土、暗褐色土の順にレンズ状に堆積していた。黒褐色土と暗褐色土との間に榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr－FA）の純層が堆積していた。

面　積　24.94m²

方　位　N－3°－W

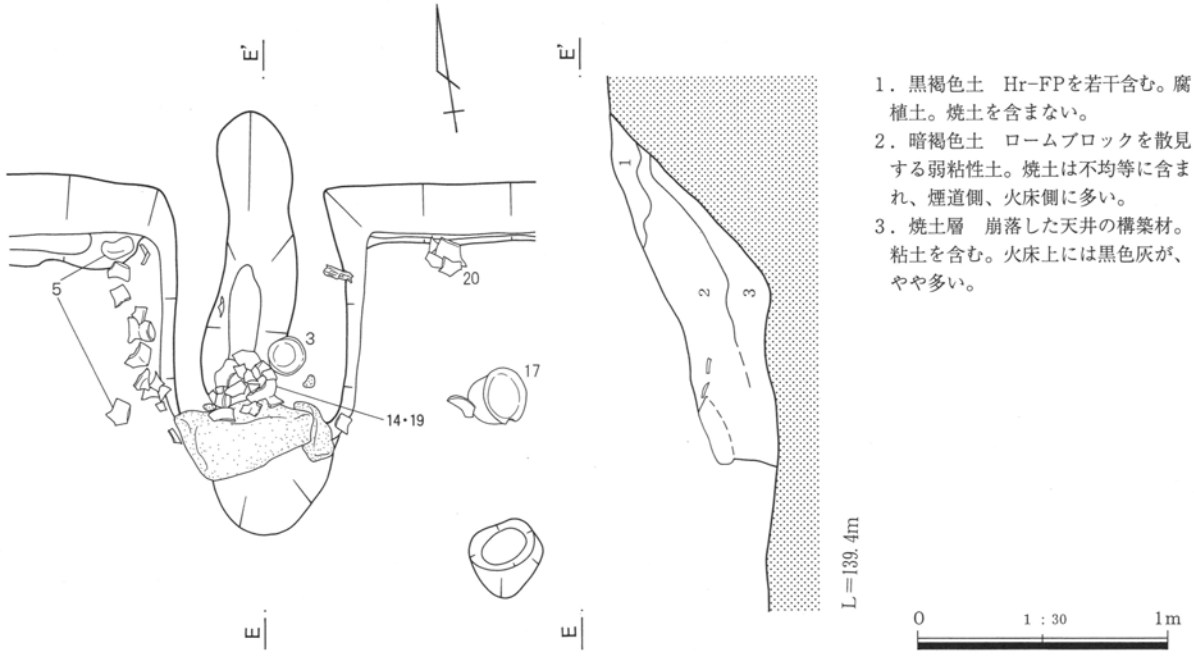
竈　北壁のほぼ中央に位置する。住居内に燃焼部を有し、最奥部は住居の壁面を掘り込んで煙道へと立ち上がっている。燃焼部は細長く、規模は奥行75cm、幅12cm、焚口部の幅25cmを測る。燃焼部は天井部分が崩壊、左右の袖部が残存していた。ローム土粒を多用して構築され、焚口部は割れ石を鳥居状に積んでいる。左袖先端の割れ石は火床を15cm掘り込んで据えられていた。燃焼部の掘り方は４～５cmと浅かった。

周　溝　各壁際に掘り込まれ一周していた。埋没土は、ソフトロームが主体で若干黒色味を有しているだけで床面との区別はきわめて不明瞭であった。規模は、幅３～15cm、深さ４～12cmを測った。

柱　穴　４本検出した。いずれも住居の四隅の対角線上に位置するが、柱穴２のみやや内側に寄っている。柱穴４は埋没土の上層にやや大型の礫が入り込んでいた。

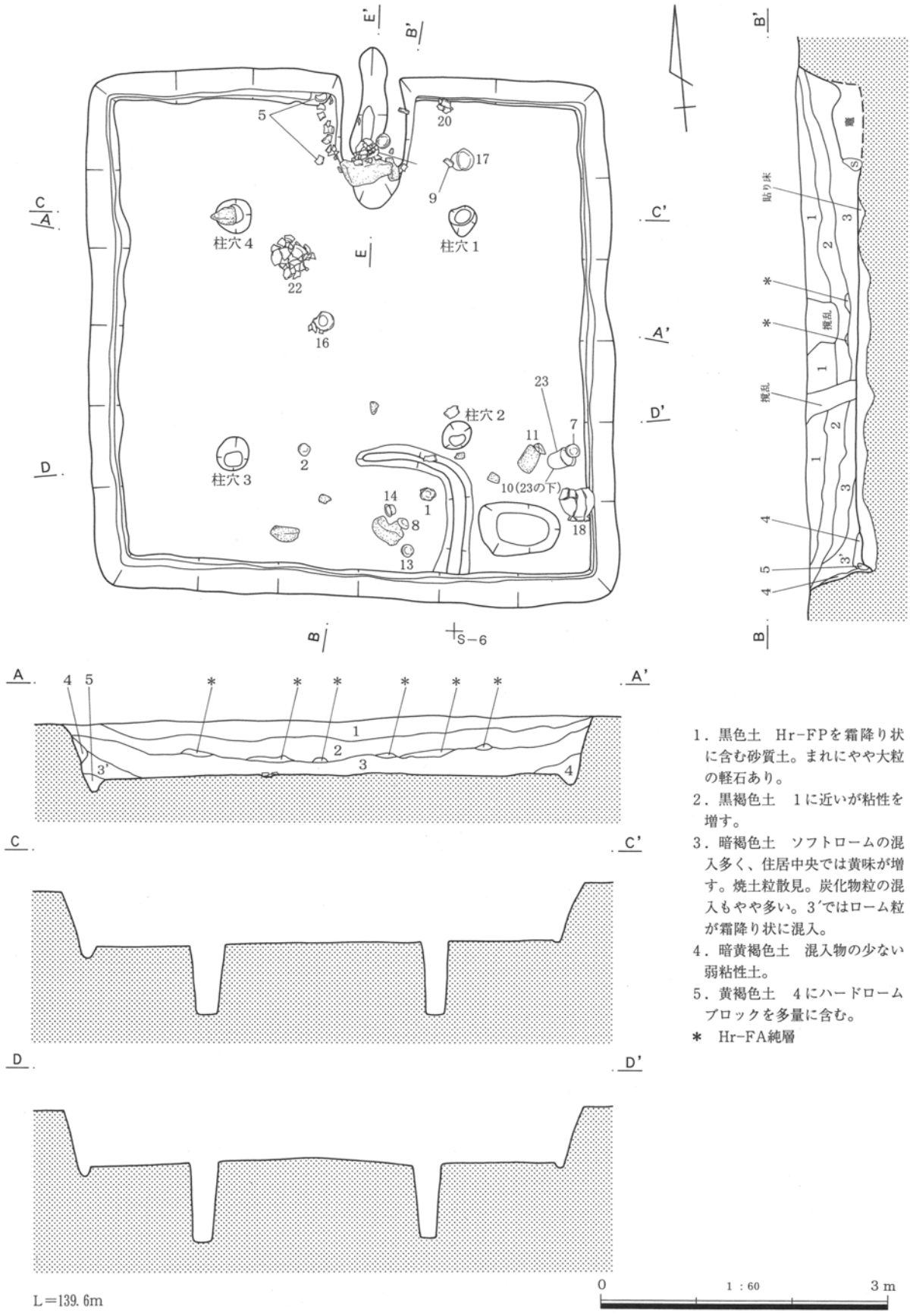
個々の規模は、柱穴１が直径28cm、深さ75cm。柱穴２が直径32×27cm、深さ78cm。柱穴３が直径35cm、深さ82cm。柱穴４が直径38×28cm、深さ72cmである。

貯蔵穴　竈と反対側に離れた住居の南東隅に位置する変則的な施設である。検出時の形状は平面長円形



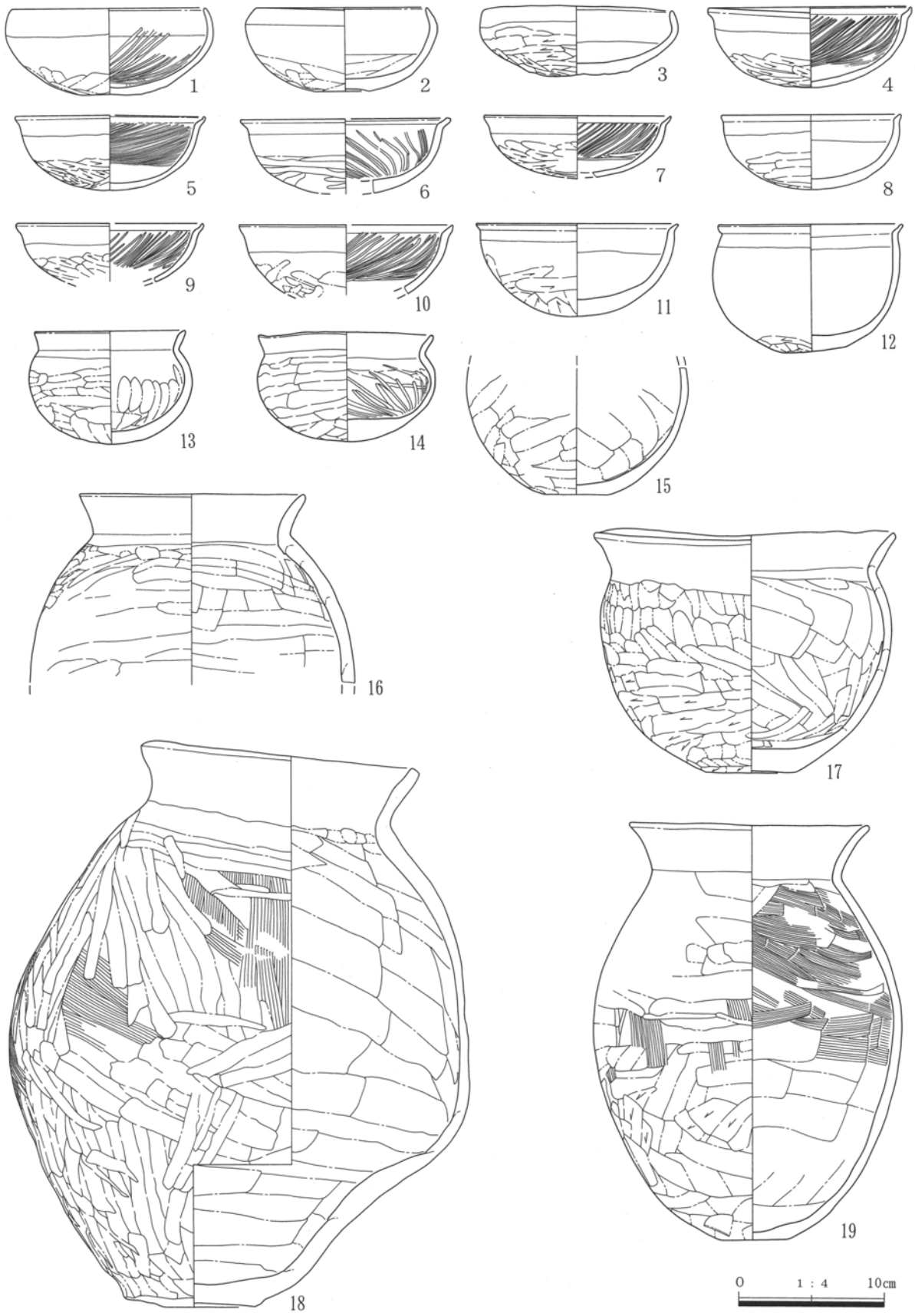
1．黒褐色土　Hr-FPを若干含む。腐植土。焼土を含まない。
2．暗褐色土　ロームブロックを散見する弱粘性土。焼土は不均等に含まれ、煙道側、火床側に多い。
3．焼土層　崩落した天井の構築材。粘土を含む。火床上には黒色灰が、やや多い。

第71図　13号住居 竈

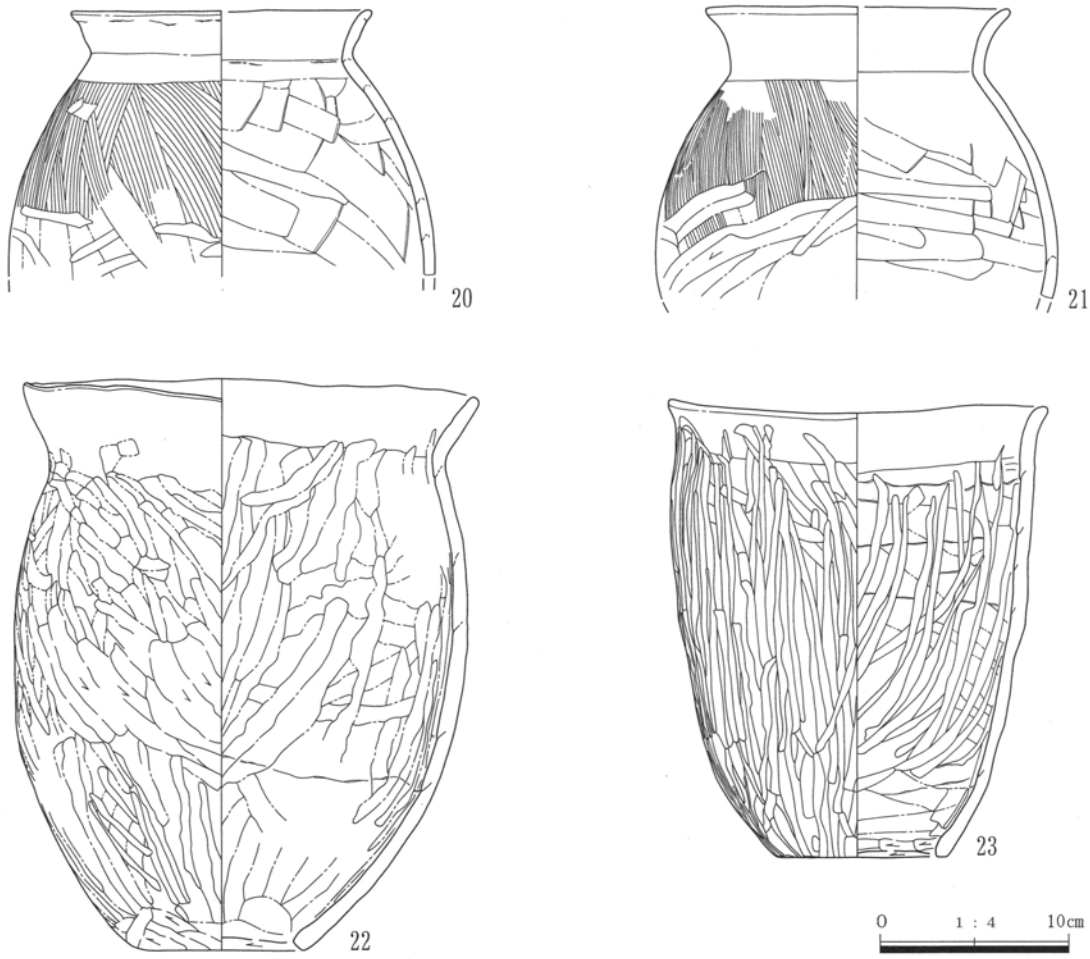


１．黒色土　Hr−FPを霜降り状に含む砂質土。まれにやや大粒の軽石あり。
２．黒褐色土　１に近いが粘性を増す。
３．暗褐色土　ソフトロームの混入多く、住居中央では黄味が増す。焼土粒散見。炭化物粒の混入もやや多い。３′ではローム粒が霜降り状に混入。
４．暗黄褐色土　混入物の少ない弱粘性土。
５．黄褐色土　４にハードロームブロックを多量に含む。
＊　Hr−FA純層

第72図　13号住居



第73図　13号住居 出土遺物（１）



第74図　13号住居 出土遺物（２）

を呈していたが、原形は長方形の掘り方であった可能性もある。規模は長径85cm、短径57cm、深さ53cmを測る。

遺　物　竈の燃焼部内とその周辺、柱穴４から床面中央にかけて土器が散見した。また、南東隅から南側にかけても出土を見た。竈燃焼部には甕（19）が掛け口に据えられた状態で検出され、その右側、袖部にかけて杯（３）が出土した。床面中央、柱穴４寄りからは甕（22）が、中央からは甕の口縁部（16）が出土、竈右側北東部分出土の甕（17）は床面から14cm離れて出土した。南東隅では杯（７・10）・甑（23）が重なって出土し、その右側から甕（18）が出土した。南壁寄りの粘土帯周辺からは杯（１・２・８）・椀（14）が出土している。

なお、遺物の出土量は収納箱２箱で、非掲載土器の合計は314片である。その内訳は、土師器杯60片・甕248片・甑１片、須恵器甕５片である。（遺物観察表Ｐ21～23）

所　見　出土遺物には模倣杯を伴わず、内斜口縁土器が杯類の主体となっている。甕類の長胴化も不明瞭である。埋没土中の須恵器破片は混入品と思われ、５世紀後半の住居と考えられよう。

（２）古　　墳

１号墳（第75～78図）

位　置　Ｌ－18グリッドを中心に位置する。

写　真　ＰＬ－17・18・44

概　要　調査区の中央、やや南側に位置する。調査区北側の２号・３号古墳とはやや間隔を開けて占地している。３号古墳との距離は約65ｍである。

重　複　３号・４号掘立柱建物と重複、これに先行する。北側には９号住居が近接する。

墳丘と外部施設　円墳である。墳丘は削平を受け、盛土は全く残存していなかった。周堀を含めた規模は、南北12.80ｍ、東西11.60ｍである。墳丘（周堀内縁）の規模は、南北7.72ｍ、東西9.40ｍを測った。

周堀は、それぞれの地点においてその幅、深さに隔差が著しかった。墳丘南側半分では東側で上幅0.78～0.88ｍ、深さ0.30ｍ、西側で上幅1.12～1.32ｍ、深さ0.40ｍである。これに対し、北側ではその幅を増し、石室の北東方向では外縁が大きく張り出し、最大幅3.60ｍ、深さ0.30ｍ以上を測るにいたっている。埋没土は、黒色土、黒褐色土、あるいは暗褐色土が堆積していた。石室開口部の左右には右に２石､左に１石石列が延びていた。

主体部の横穴式石室開口部前には前庭状の掘り込みが設けられ、これに続いて周堀が全周する。前庭状の掘り込みは、南側の外縁に突出する部分があり形状がやや不整形であるが、開口部前の東西の幅が3.00ｍ、外縁までの南北の奥行が3.60ｍ、深さ0.80ｍであった。埋没土は、上層に浅間Ｂ軽石を含む暗褐色土、中層に黒色土、黒褐色土が堆積、下層に暗褐色土と汚れたロームの混土層が堆積している。

主体部の構造　輝石安山岩の自然石を乱石積した両袖型の横穴式石室である。全長は3.10ｍを測る。残存状態は必ずしも良好とは言えず、天井石は全て取りはずされ、残存しなかった。

石室は、開口方向をＳ－23°－Ｗとし、奥壁が、墳丘のほぼ中心に位置するように設計されていた。平面形は、玄室の長さ・幅と比較して、羨道の長さ・幅を有する形状である。また、玄室と羨道の中軸線の方向に多少のずれが生じており、両者の軸線を結ぶと「く」の字状に折れ曲がっている。

玄室の規模は、中軸線上での長さが1.73ｍ、幅は、奥壁寄りで1.07ｍ、羨道寄りで1.13ｍを測り、最大幅は1.23ｍである。平面形は、両側面とも弱い弧線を描くがその張り出し方は左右が非対称である。

奥壁は、中央に幅0.68ｍ、高さ0.70ｍの大石を据え、これと左右両側壁との間隙に幅0.25ｍの石材を積み上げており、２段ずつ検出した。残存高は0.65ｍである。

側壁は、崩壊が著しく、残存状況は不良であった。特に左壁は、奥壁寄りの一石を除いた他は基底石のみの残存で、幅0.25～0.40ｍ、高さ0.15～0.25ｍの用石５石を横置きしていた。右壁の基底石も左壁同規模の用石５石から構成され、この上に規模のばらつきが見られるが第２、第３段の石材が積み上げられている。最も羨道寄りの第２石は幅0.45ｍ、高さ0.45ｍの大礫であった。

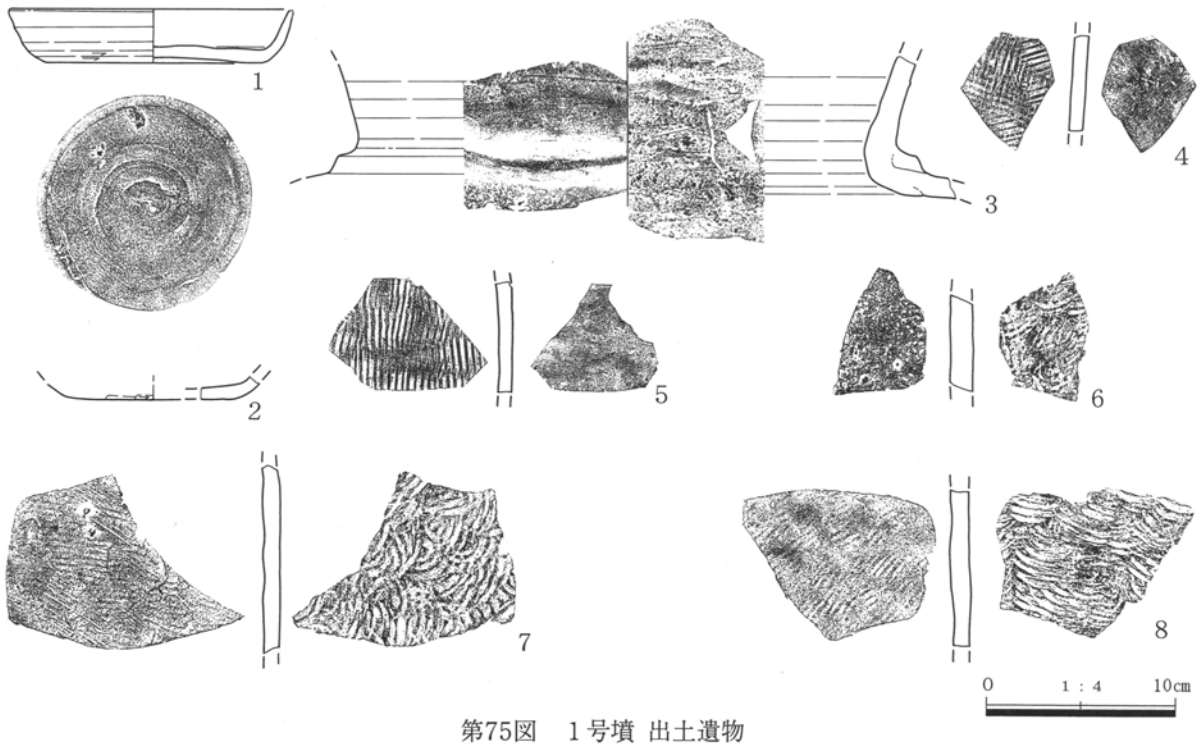
玄室の床面には直径５～10㎝の小円礫が一面に敷きつめられていた。各壁際にいたるとややその規模が大きくなるものの他の古墳例に見られるような舗石の上に小円礫を置くという二重構造はとられていなかった。石室掘り方底面との間の厚さは10～15㎝である。

玄室の入口には扁平の用石を直立させ、玄門を意識した石積構造が取られている。右側のそれは玄室の袖部をなすとともに羨道壁面からわずかに内側に突出させる意識が見られる。左側は抜き取られているが、右側同様の状況であったものと考えられる。

羨道の規模は、中軸線上での長さが1.35ｍ、開口部の幅0.78ｍ、玄室寄りの幅約0.70ｍを測った。

開口部の左右には直方体の用石が最も面積の広い面を開口方向に向けて据えられ、羨門を意識した石材使用が見られる。平面的にはこれ以降の羨道を構成する用石の列とは段差を有することはない。基底石は左右とも２石から構成されており、右壁は２段目まで残存していた。

羨道から玄室へは段差を成して床面が移行してお



第75図　１号墳 出土遺物

り、ここには幅65㎝、高さ15㎝の用石が框石として横置きされていた。

遺　物　石室内からの出土品は皆無である。

前庭状の掘り込み内においては須恵器杯（１）の完形品が開口部右側から出土した。また、埋没土中から須恵器の破片（４～８）や古墳時代の土師器杯が多数破片状態で出土した。

周堀埋没土中からは須恵器大甕の口縁部から頸部の破片（３）、古墳時代土師器の多数の破片、古代の土器片を出土している。

なお、本古墳における非掲載土器は土師器杯71片、軟質陶器１片である。（遺物観察表Ｐ23）

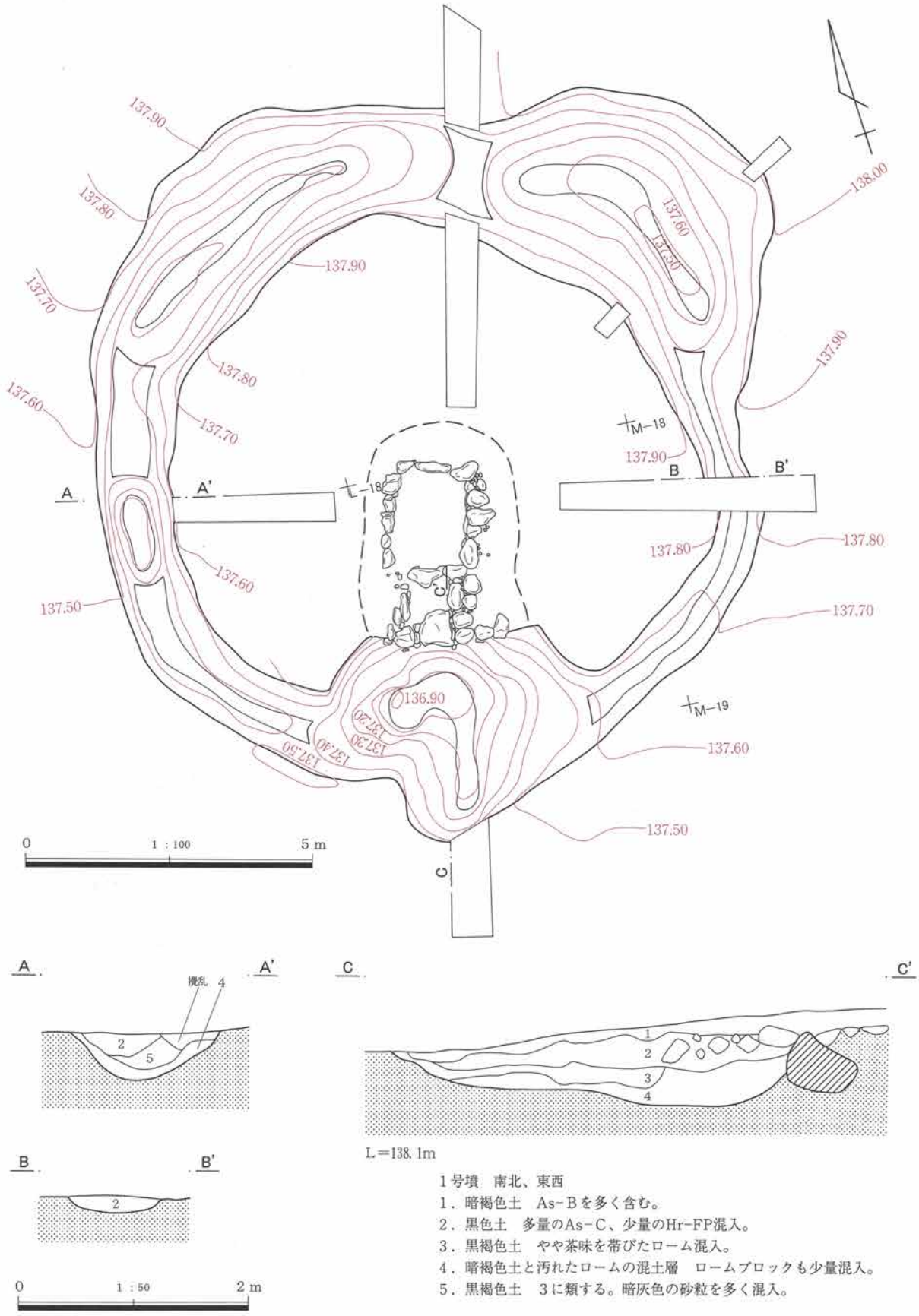
石室の構築状況　本石室は、掘り方を有している。石室を構築するにあたっては地表下に平面長方形の竪坑を掘り、平坦に整形した底面上に石室基底石を据える方法が採用されている。竪坑は、南側が周堀および前庭状の掘り込みに向かって開放している。これは２号・３号墳も同様である。

掘り方の規模は、上端で長さ（南北）4.00ｍを測る。横幅（東西）は玄室寄りで2.65ｍ、羨道寄りで2.40ｍである。確認面から深さは0.65ｍで掘り方の立ち上がりはやや上方に向けて傾斜しているが、羨道部分は特に緩やかであった。

石室の用材と掘り方壁面との間隙には黒色土・暗褐色土・茶褐色土・ロームブロックの混土層が20～30㎝の厚さで数回に分けて埋め込まれていた。開口部右側、玄室入口部分の左右、奥壁の各基底石の設置位置には皿状の小穴が認められた。これは基底石の据え方を調整するために底面を掘削した小穴と考えられる。

備　考　羨道入口には開口部幅いっぱいの大石が据えられており、礫の底面は掘り方基底面からさらに約15㎝下位に達していた。羨道の床面には玄室に見られたような小礫の存在は無く、径20～30㎝の礫が舗石状に充填されていたため、床面の認定が困難であった。

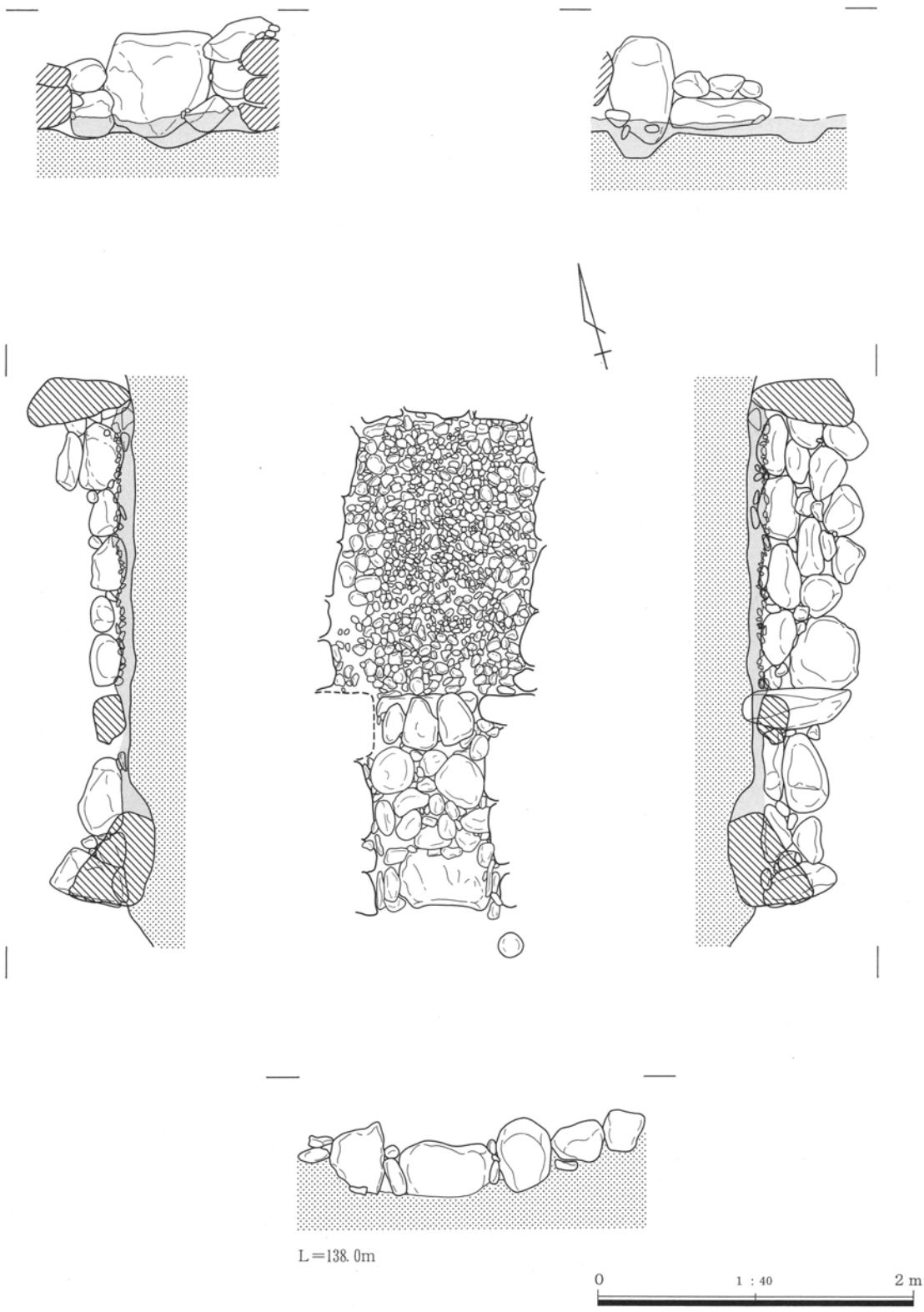
所　見　横穴式石室の構築にあたり羨門、玄門構造を意識した石材使用がなされていること。石室開口部前に前庭状の遺構がつくられていること。出土遺物の様相などを考え合わせると７世紀後半以降の築造と考えられる。



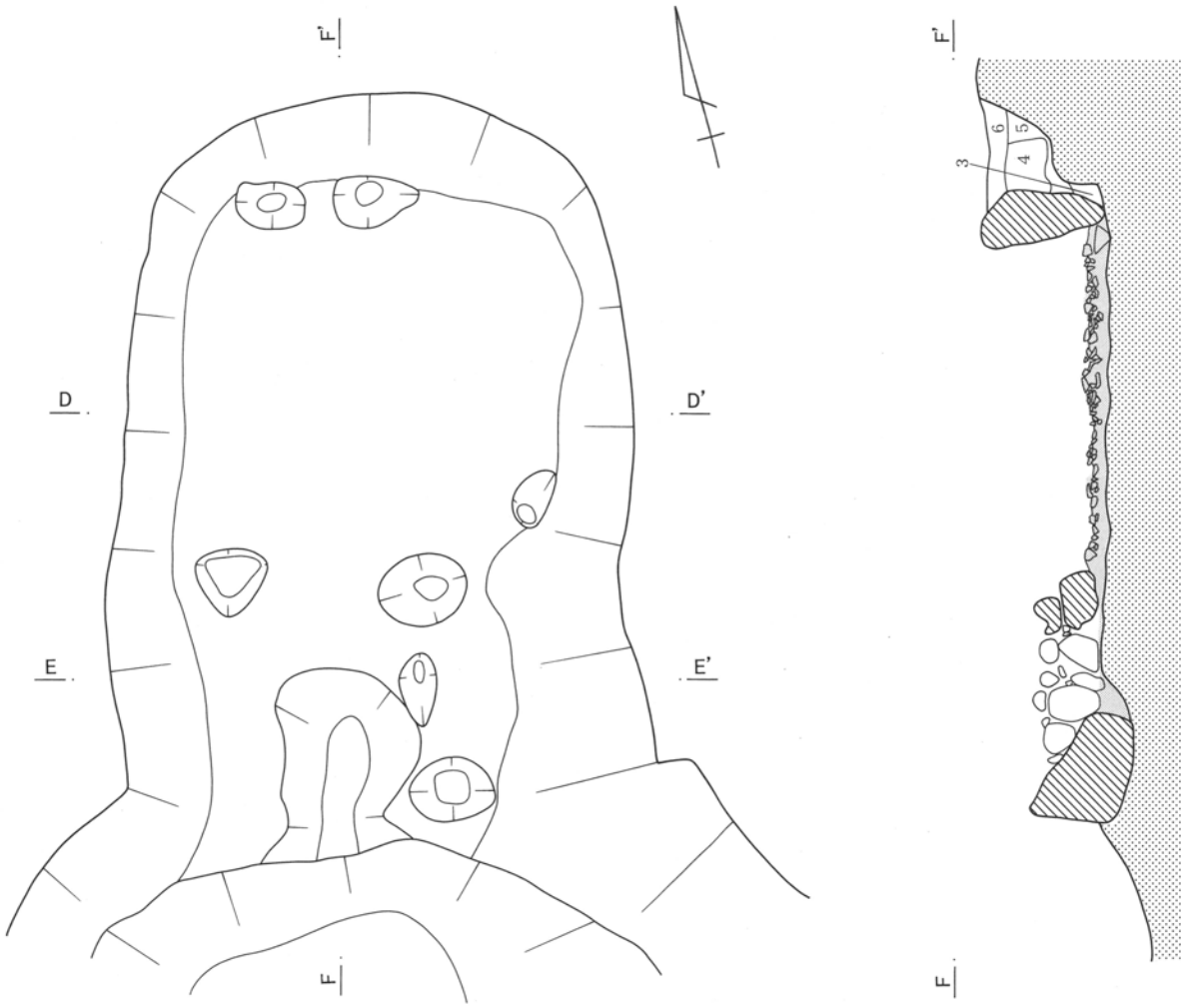
1号墳　南北、東西

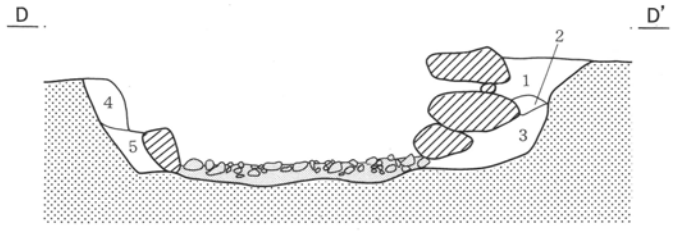
1．暗褐色土　As-Bを多く含む。
2．黒色土　多量のAs-C、少量のHr-FP混入。
3．黒褐色土　やや茶味を帯びたローム混入。
4．暗褐色土と汚れたロームの混土層　ロームブロックも少量混入。
5．黒褐色土　3に類する。暗灰色の砂粒を多く混入。

第76図　1号墳



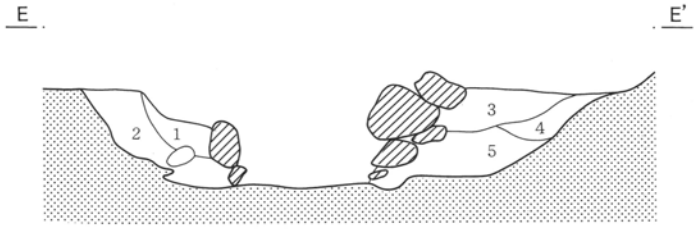
第77図　１号墳 横穴式石室（１）



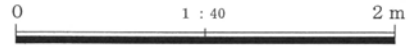


1号墳　3.4m位置、2.0m位置

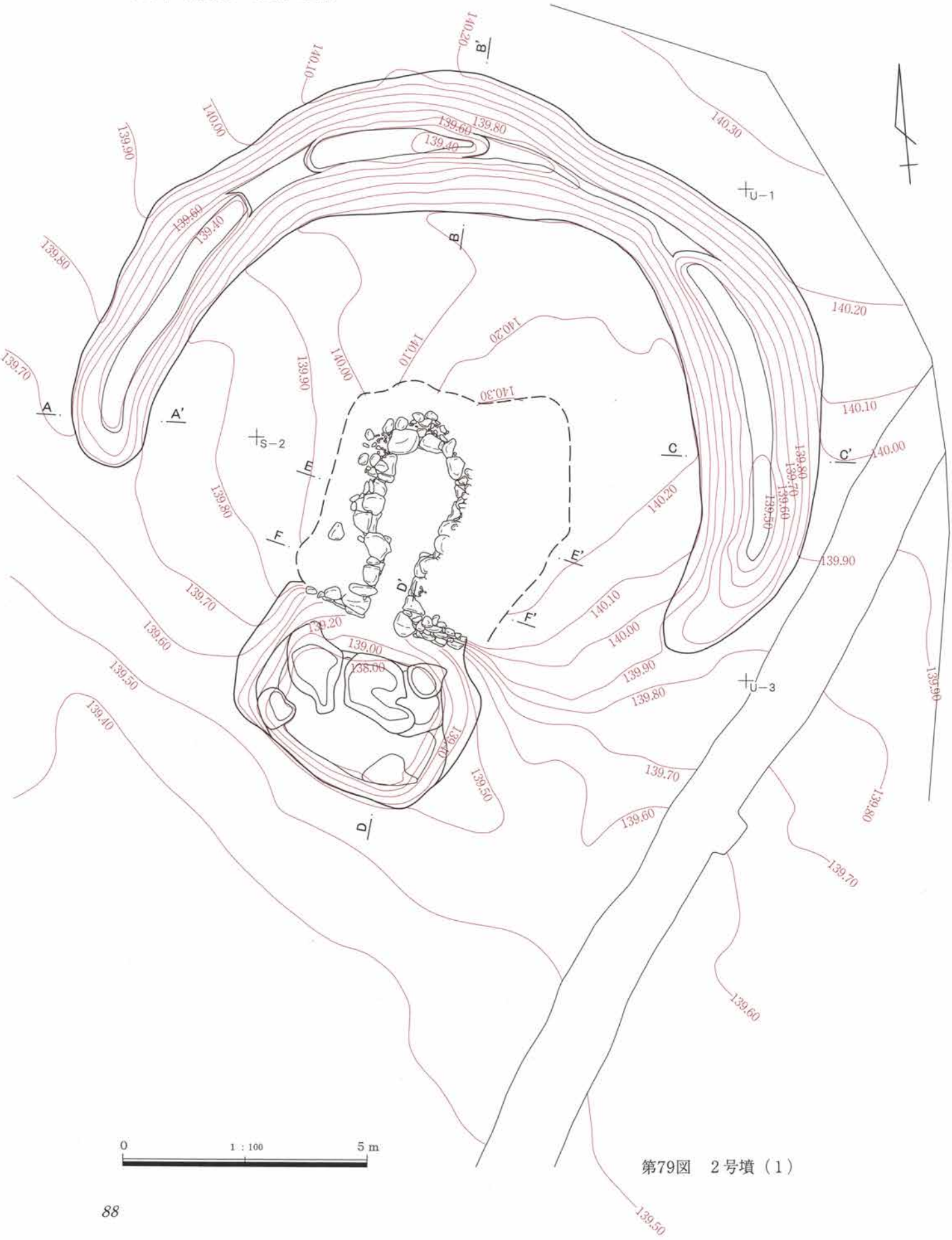
1．黒色土、黒褐色土、ロームブロックの混土層
2．ロームブロックを主体とした暗褐色土との混土層
3．暗褐色土と茶褐色土の混土層
4．暗褐色土とローム粒の混土層
5．暗褐色土　汚れている。
6．暗褐色土　ロームブロックの混入は認められず、軽石の混入も少なくなる。



L＝138.0m



第78図　１号墳 横穴式石室（２）



第79図　２号墳（１）

２号墳（第79～83図）

位　置　Ｔ－２グリッドを中心に位置する。

写　真　ＰＬ－19・44

概　要　調査区の北東部分で検出した。南側に３号墳が近接して位置する。また、東側には群馬県教育委員会調査区内で谷津遺跡Ｂ号墳が周堀上端で３ｍの近接した位置で検出されている。

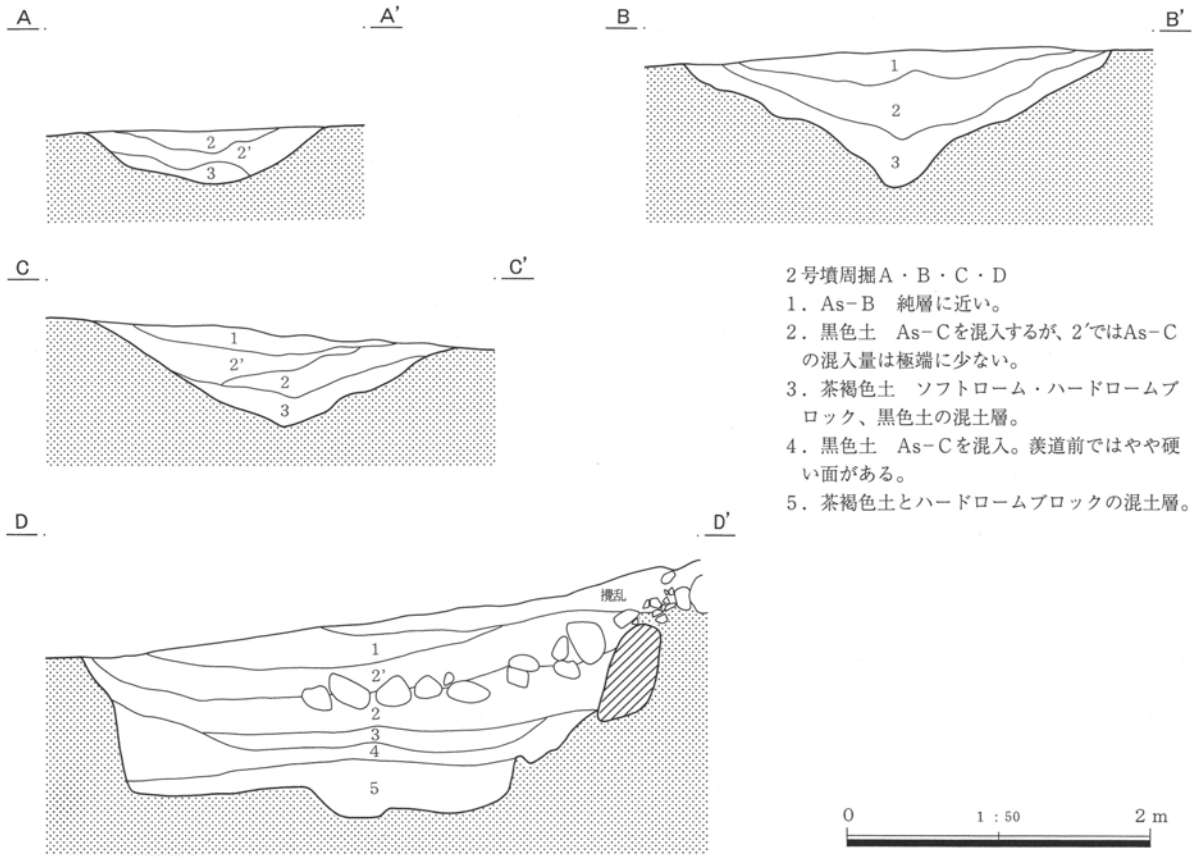
重　複　なし

墳丘と外部施設　円墳である。墳丘は削平を受け、盛土は全く残存していなかった。前庭状の掘り込みおよび周堀を含めた規模は、南北14.64ｍ、東西15.25ｍを測る。墳丘（周堀内縁）の規模は、南北8.40ｍ、東西11.20ｍを測る。

周堀は、墳丘の北側寄りを半周しているが、開口部前の前庭状の掘り込みとは分離し、東側で約4.00ｍ、西側で約4.20ｍにわたって開放している。周堀の検出時の幅、掘り込みの深さはともに隔差が大きく、上幅1.64～2.80ｍ、深さ約30～40㎝であった。埋没土は、最上層にAs－Ｂが堆積、中層にAs－Ｃ混じりの黒色土、下層に褐色土が堆積していた。

石室開口部前には前庭状の掘り込みがあった。平面形は外方に向かってやや開くもののやや隅丸の長方形に近く、その規模は、南北の奥行3.40ｍ、東西の幅4.80ｍ、深さ0.91ｍを測った。底面には土坑状の小さな凸凹が多数あることから、一度掘り方を経て底面を成形した可能性も考えられる。最下層には茶褐色土とハードロームブロックの混土層・黒色土が堆積している。これより上位の埋没土は、最上層にAs－Ｂ、中層にAs－Ｃ混じりの黒色土、下層に茶褐色土が堆積していた。中層には石室方向から多数の礫が流れ込んでいる。石室開口部の左右には小礫からなる石積が見られた。

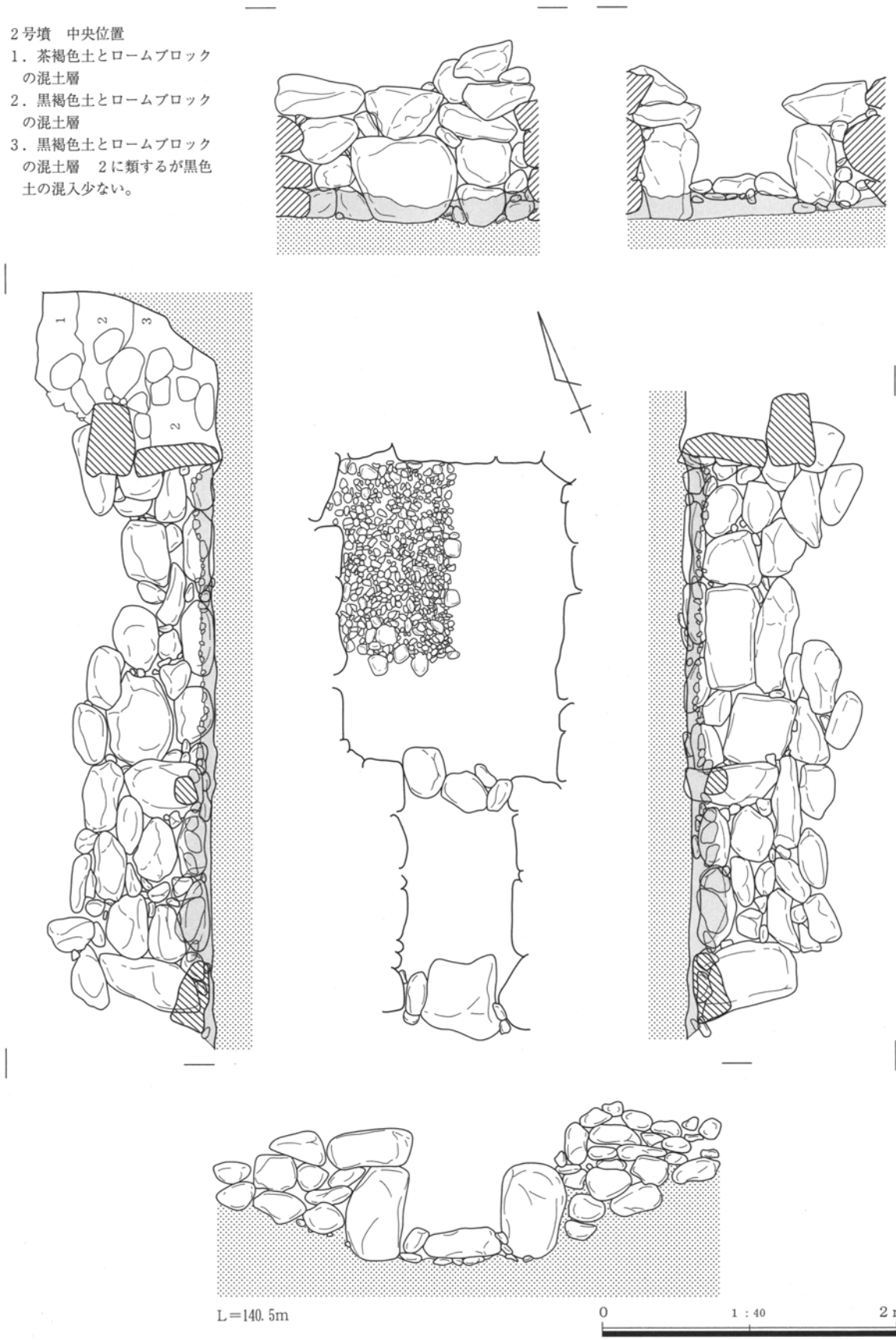
主体部の構造　輝石安山岩の自然石を乱石積した両袖型の横穴式石室である。天井部は残存していなかった。全長3.71ｍを測る。開口方向はＳ－29°－Ｗである。



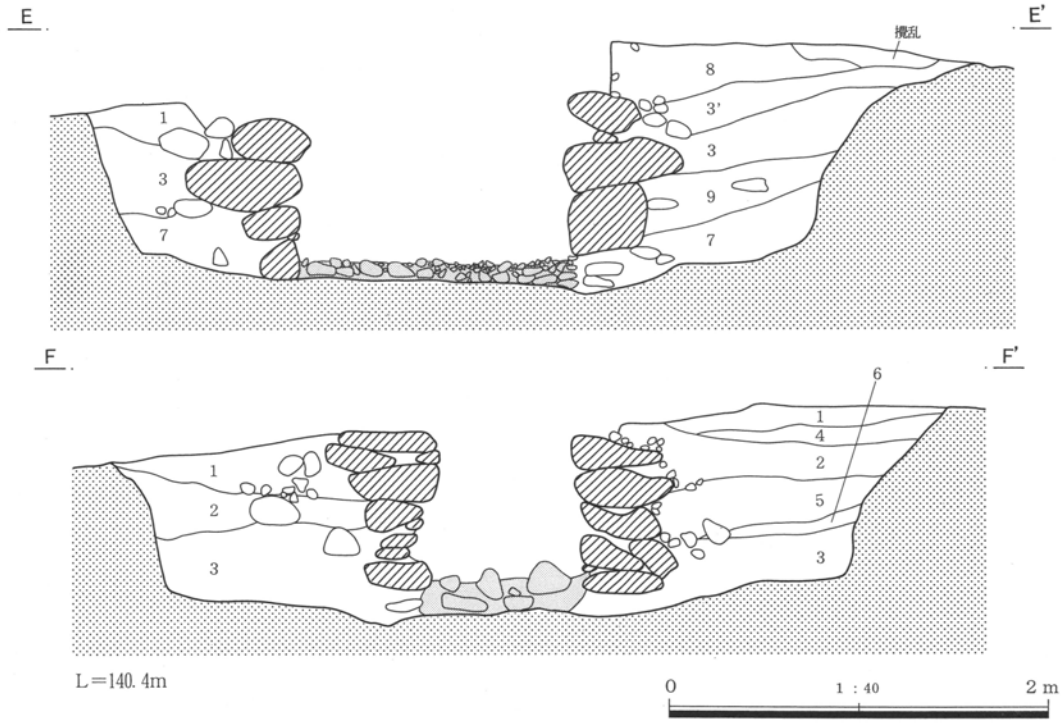
２号墳周掘Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ
１．As－Ｂ　純層に近い。
２．黒色土　As－Ｃを混入するが、2′ではAs－Ｃの混入量は極端に少ない。
３．茶褐色土　ソフトローム・ハードロームブロック、黒色土の混土層。
４．黒色土　As－Ｃを混入。羨道前ではやや硬い面がある。
５．茶褐色土とハードロームブロックの混土層。

第80図　２号墳　（２）

２号墳　中央位置
1．茶褐色土とロームブロックの混土層
2．黒褐色土とロームブロックの混土層
3．黒褐色土とロームブロックの混土層　２に類するが黒色土の混入少ない。



第81図　２号墳 横穴式石室（１）



２号墳　4.0m位置、2.5m位置
1．茶褐色土
2．黒褐色土・茶褐色土・ロームの混土層
3．茶褐色土・ロームブロックの混土層　3′は黒味薄い。
4．黒色土
5．ロームブロックを主体とした黒色土との混土層
6．黒色土を主体としたロームブロックとの混土層
7．茶褐色土を主体としたロームブロックとの混土層　締まりなし。
8．ロームを主体とした暗褐色土との混土層
9．茶褐色土とロームブロックの混土層

第82図　２号墳 横穴式石室（２）

玄室は、中軸線上における長さが2.03mで、羨道の長さ1.68mをわずかに上回る割合である。幅は奥壁寄りで1.52m、中央で1.52m、羨道寄りで1.47mを測る。平面形は、両側壁ともほぼ直線的で長方形に近い形であるが、奥壁寄りの両隅は小さく隅切りしたように用石を置いている。

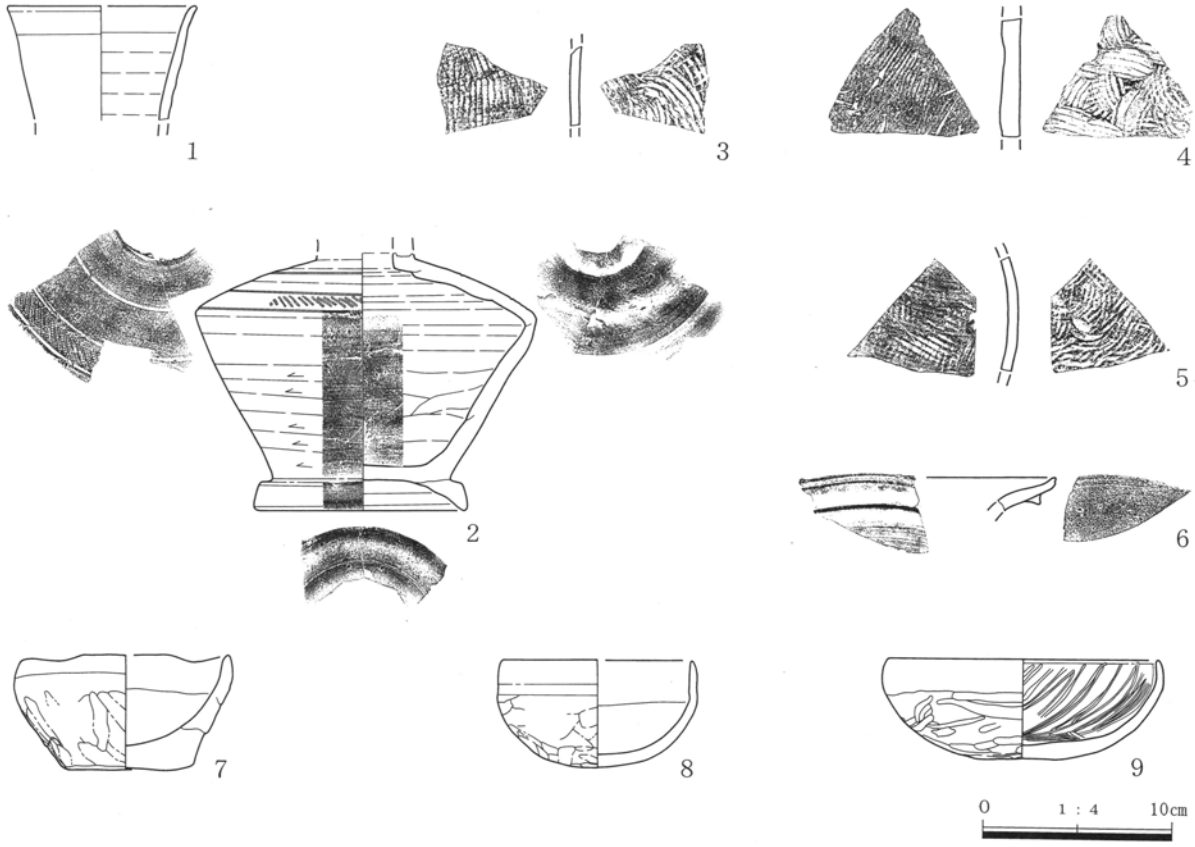
奥壁は、基底部中央に幅0.72m、高さ0.55mの扁平な礫の最大面を石室内側に向けて立て、壁面としている。この礫の占める割合は、奥壁全体の５分の１から６分の１程度である。この上に高さ20cmほどの礫を積み上げている。

左側壁は、基底石に幅0.4m、高さ0.2～0.3mの礫を４石を横積している。２段目・３段目は基底石より高さを有する大型の礫を積み上げ、その上端の高さが奥壁基底石あるいは玄室袖石の上端とほぼ同じ高さになるよう調整されているようである。左壁も右壁同様、基底石に高さの低い用石を横置きに使用し、左手前隅では小礫を隙間に押し込んでいる。基底石の上位には小ぶりな礫を積み、上端が平坦になるよう調節を計った後に大型の用石を積み上げている。

玄室入口には左右とも高さ70cmほどの柱状の礫を直立させ、袖部を形成している。左右の袖の位置はずれており、右袖が羨道方向に10cm寄った位置にある。右袖の長さは0.40m、左袖は0.35mである。

羨道の規模は、中軸線上で長さ1.68m、幅は開口部で幅0.64m、玄室寄りで0.70mを測った。開口部には左右とも柱状の礫を立てている。左壁はこの上に小礫が積み上げられており、４段目の上端で高さ0.95mを測った。基底石は左右両壁とも２石構成で玄室入口の柱状礫に達しており、左壁では隙間に小礫をはさみながら基底石とほぼ同規模の用石を上段に積み上げている。

床面は、玄室から羨道にいたる際わずかに高くな



第83図　２号墳 出土遺物

り小さな段をなしている。玄室内の床面は、調査工程の制約上その一部しか図化できなかったが長さ10～15cmほどの礫を舗石状に置き、この上に小礫を一面に敷きつめているが厚味はなく、掘り方の基底面との間は約10cmほどであった。これに対し、羨道部では上層に小礫を敷くことなく10～15cmの礫が一面に置かれている。

入口部には開口部幅いっぱいの幅55cm、高さ20cm、奥行50cmの礫が框石状に置かれていた。

遺　物　石室内からの出土品は皆無である。

前庭状の掘り込みからは須恵器台付長頸壺（１・２）、が出土している。他に古墳時代土師器杯（８・９）・鉢（７）をはじめとした多数の破片が出土している。土師器３個体は10号住居に伴う個体が古墳築造に伴って紛れ込んだ可能性が考えられる。

周堀埋没土中からは須恵器大甕・甕の破片（３～６）が出土している。

なお、本古墳における非掲載の土器は、土師器229片、須恵器甕５片である。（遺物観察表Ｐ23・24）

石室の構築状況　調査工程の都合上、石室の主軸に平行する方向で１箇所、直交方向で２箇所、トレンチを設定して石室の構築状況を確認した。石室を構築するにあたり、地山を掘り込んでその底面に石室の基底石を据えている状況は１号墳と同様である。掘り方の竪坑は、南北の長さ4.40～4.70m、東西の幅4.00～4.40mの平面長方形を呈するもので、深さ1.22mを測った。

裏込めには、奥壁の裏側では長さ20～30cmの礫が石室材の裏側に入れられていたが、横断面の観察では側壁の石積と竪坑の側面との間には約20～30cmほどの厚さで、黒色土・茶褐色土・ロームブロックが混土状態をなした土粒が埋め込まれていただけで、礫の含入はほとんどなかった。

所　見　横穴式石室の構築状況、出土遺物に埴輪をみないことなどから、７世紀後半以降の築造と考えられる。

３号墳（第84～86図）

位　置　Ｓ－７グリッドを中心に位置する。

写　真　ＰＬ－20・43

概　要　調査区の北側寄りにあたり、北側12mに２号墳が占地する。

重　複　１号溝と重複、これに先行する。また、北側に13号住居が近接する。

墳丘と外部施設　円墳である。墳丘は削平を受け、盛土は全く残存しなかった。周堀を含めた規模は、南北13.52m、東西14.12mを測る。墳丘（周堀内縁）の規模は、南北9.08m、東西10.52mである。石室開口部前に前庭状の掘り込みがあり、東側は1.20m、西側は0.90mの間隔を置いて周堀が掘削され、墳丘をほぼ一周、北側に至り、また、1.00mほど間隙を有して途切れている。

前庭状の掘り込みは、平面形が台形を基本としながらも南西部分は中位にテラス状の段を有して外縁部分が張り出している。規模は、石室開口部前の東西の幅が2.60m、最大幅4.52m、南北の奥行3.40m、深さ0.53mである。埋没土は、浅間Ｃ軽石を含む黒色土である。

周堀は、残存状態の関係からか全体に浅く、断面形はレンズ状を呈していた。上幅は、1.30～2.25m、深さは、北東部分で50cm以上を測った。埋没土は、前庭状の掘り込み同様の黒色土が堆積していた。

主体部の構造　輝石安山岩の自然石を乱石積した両袖型横穴式石室で、全長3.85mを測る。開口方向はＳ－９°－Ｗである。

平面形は、中軸線上における玄室の長さ2.08mに対し、羨道の長さ1.77mと玄室長が短く、両者の幅も羨道幅の割合が高いものである。

玄室は、全体に残存状況が悪く、特に右壁は手前から中央までに３石の基底石を残すのみで、そこから奥壁寄りの北東隅までは用石が全て抜き取られていた。

玄室には胴張りが見られず、直線的な石材配置をなすが北西隅は鈍角をなしている。そのため玄室の長さは左側壁寄りで1.92mであるのに対し、右壁では約2.10m前後が推定される。幅は中位で1.56m、羨道寄りで1.80mを測る。

奥壁は、中位に幅0.80m、高さ0.67mの大礫を置き、その両脇にこれよりやや小型の幅0.40mほどの礫を各々３石積み上げている。

左側壁は、小型の基底石６石から構成され、２段目も高さの低い礫を積み、その上にやや大型の幅0.60m、高さ0.30m以上の礫が積み上げられており、２号墳と同様の用石の使用状況が認められる。

玄室入口部は左右とも直方体の礫を直立させ袖部をつくりだしている。両隅とも側壁の間に小礫を詰めている。袖部の長さは左側0.42m、右側0.50mである。

羨道は、開口部の幅1.00m、玄室寄りの幅0.83mである。羨道の石材の大きさは、基底石と２段・３段目の用石が極端に異なることはなく、比較的奥行のある用石の平坦な面を壁面とする横積がなされている。

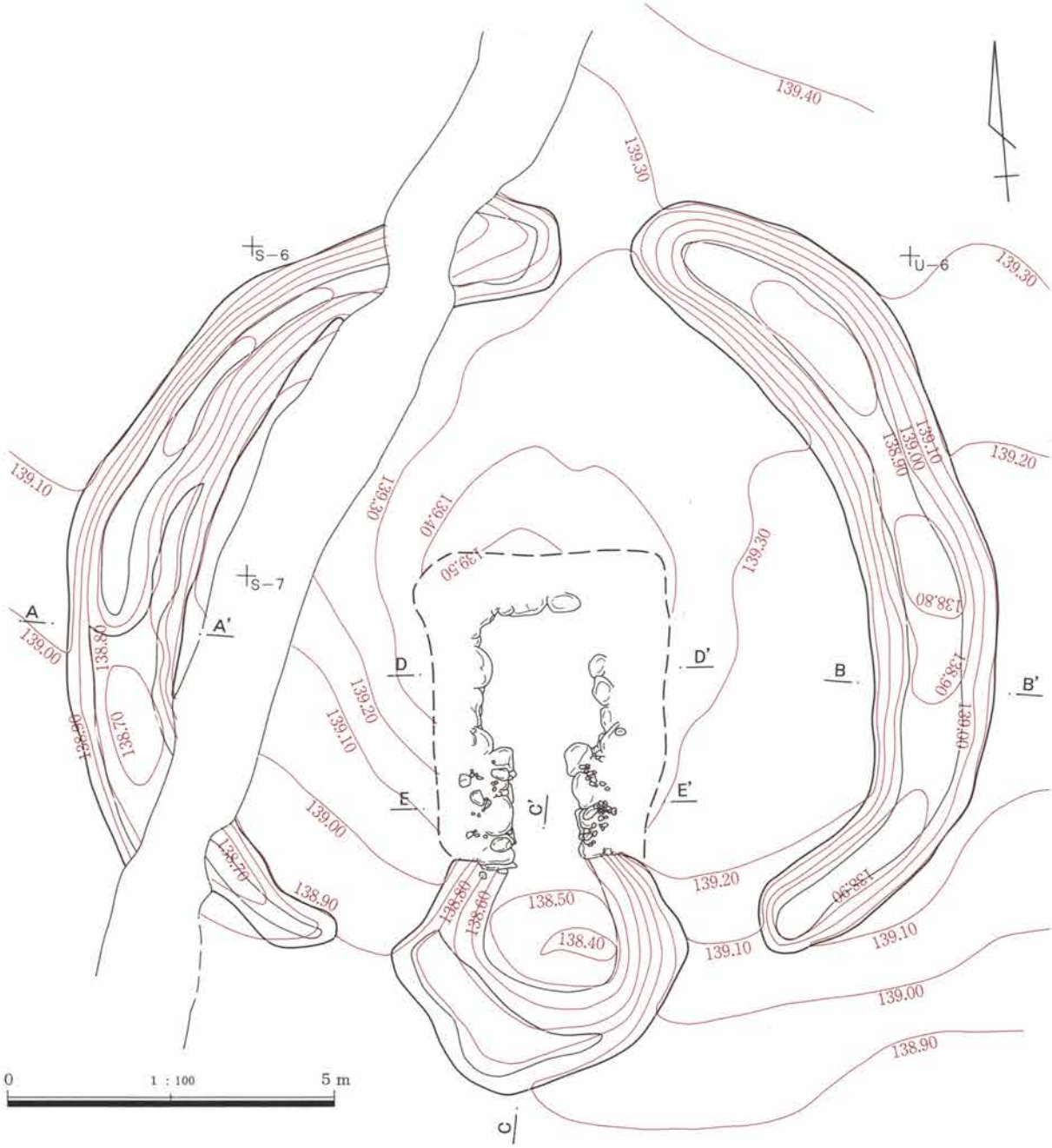
開口部左右の石積は、最も面積の広い面を開口部側に向けて横積するもので、１号・２号墳が柱状の礫を直立させているのと様相を異にしている。

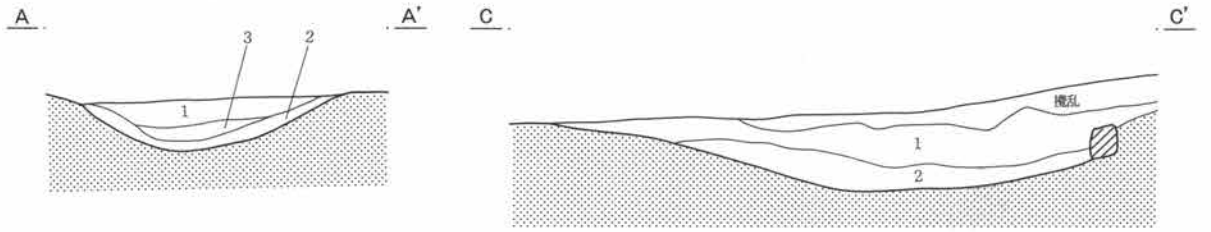
玄室の床面には長さ10～15cmの礫を少量混じえた直径５cm以下の小円礫を一面に敷きつめている。掘り方基底面との厚さは約10cmである。玄室から羨道への移行は大きな段差を有することなく行われているがその境には長さ30cmの長円形の礫３個を石室の主軸と同方向に置いて框石としている。羨道底面に敷かれた礫は長さ５～10cmと玄室のそれと比較してやや大型であった。

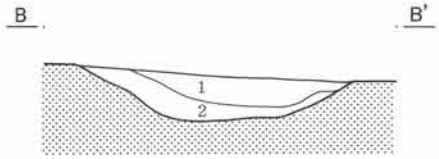
遺　物　石室内からの出土品は皆無である。前庭状の掘り込みから須恵器台付（長頸）壺（１）、平底甕底部破片、大甕破片が出土した。古代の土師器内面黒色処理の杯（４）も出土している。

周堀からは須恵器甕の破片（２・３）が出土している。胎土や叩きの特徴から複数個体の須恵器甕類の存在が分かる。この他に、古墳時代の土師器破片多数を出土している。

なお、本古墳における非掲載の遺物は土師器320





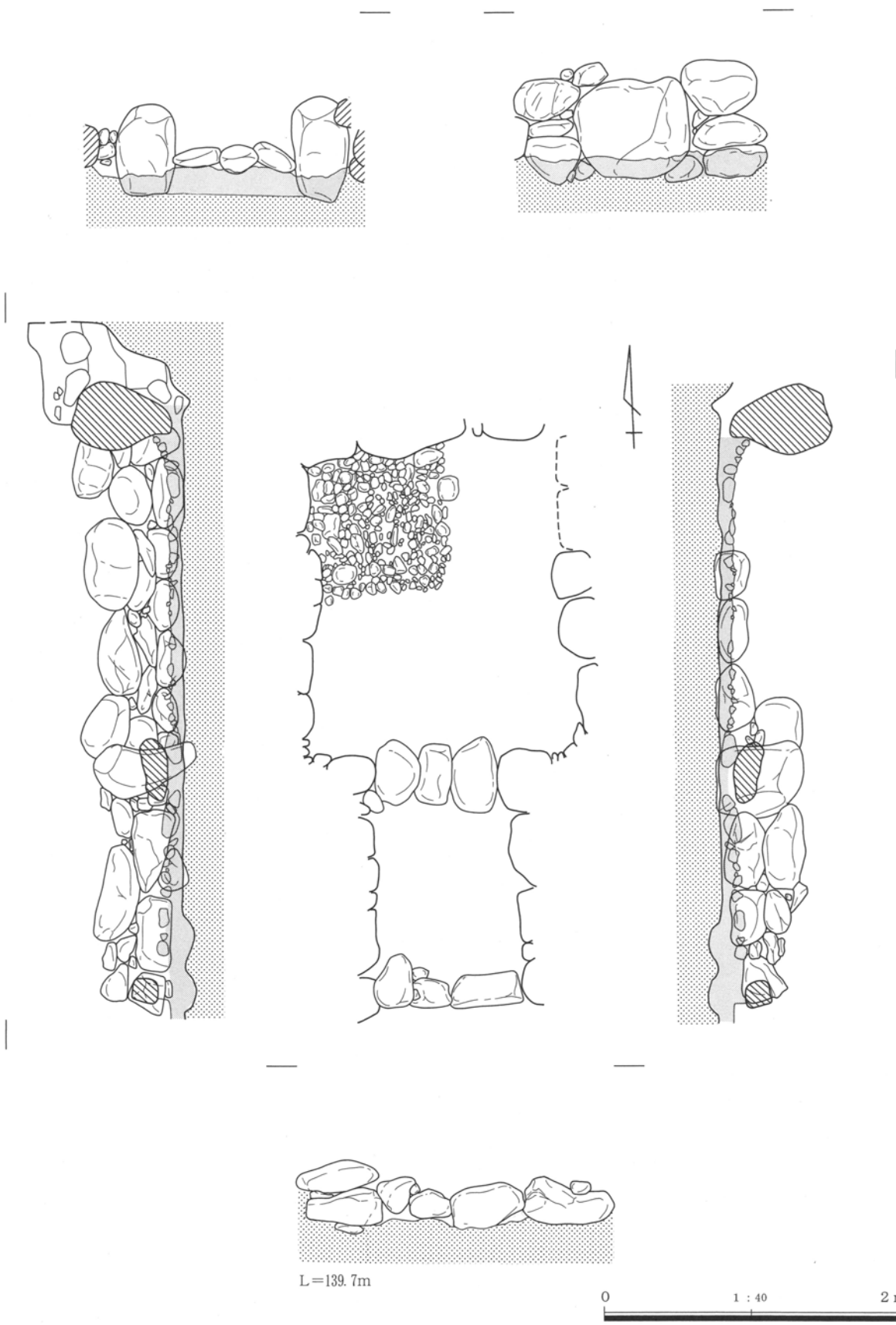


L＝139.5m

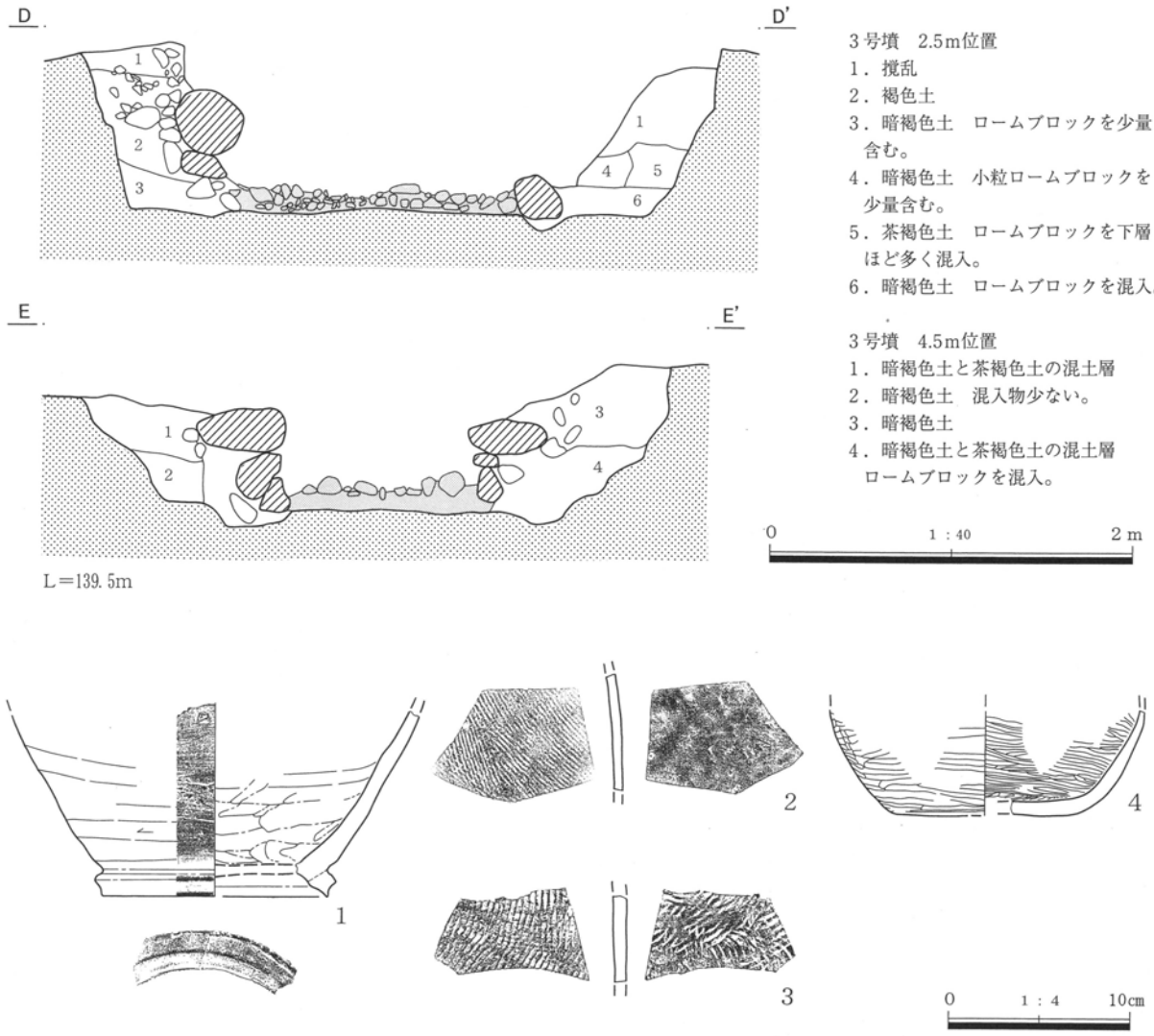
3号墳　周堀A・B・C
1．黒色土　As−Cを霜降り状に混入。
2．黒色土　As−Cの混入は少なく、ごく少量となる。
3．茶褐色土　黒色土を少量混入。

0　1 : 50　2 m

第84図　3号墳



第85図　３号墳 横穴式石室（１）



第86図　３号墳 横穴式石室（２）と出土遺物

片、須恵器甕11片である。その他に近世陶磁器類も若干混じっていた。（遺物観察表Ｐ24）

石室の構築状況　石室は地山を掘り下げた平面長方形の竪坑の底面に基底石を置いている。石室の長軸方向に平行する方向で１箇所、直交方向で２箇所トレンチを設定して構築状況を確認したところ、竪坑の規模は、南北の長さ約4.60m、東西の幅3.20～3.50mが想定される。深さは1.05mを確認した。石室の石積と竪坑の間には土粒が数回に分けて充填されているが特段突き固めためたような状況は観察できなかった。

所　見　横穴式石室の構築状況、出土遺物に埴輪の出土を見ないことから７世紀後半以降の築造と考えられる。

（３）土　坑

１号土坑（第87～89図）

位　置　Ｌ－24グリッド

写　真　ＰＬ－21

概　要　調査区南端の３号住居内に位置する。３号住居の遺構確認時に本土坑の存在は確認できなかった。同住居が完全に埋没する前に掘削されたことが土層観察より推定される。

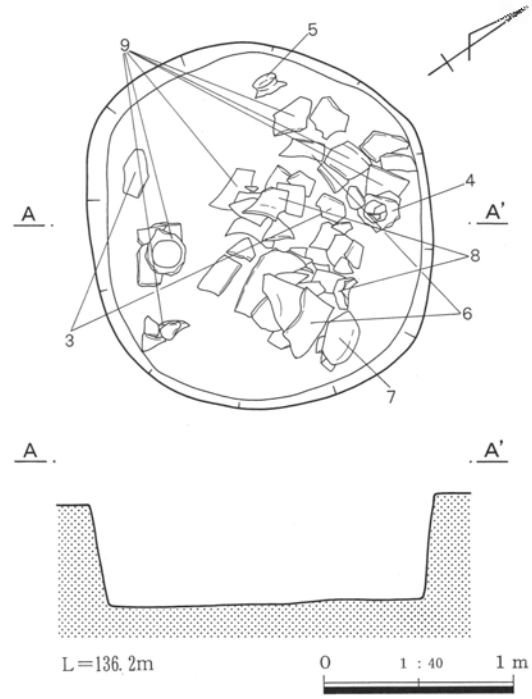
重　複　３号住居に後出している。

形　状　平面形は円形を基本としているが、やや北西から南東方向に長軸を有する。規模は３号住居の調査中にその存在が確認されたため不確実な点が多いが、３号住居床面の位置で長径1.92ｍ、短径1.78ｍを測った。掘り込み面は不明である。３号住居の土層観察では埋没土下層で明瞭な切り合いが確認できるが、住居上面からの掘り込みは確認できない。同住居の埋没半ばで掘削されている可能性がある。

３号住居床面からの深さは約70㎝であるが、３号住居の上面から測れば1.30ｍになる。壁面はローム壁を垂直に近い掘り下げを行っている。底面は比較的平坦であった。埋没土には榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr－FP）と考えられる軽石粒を含む黒褐色土が堆積、軽石の混入量などを分層の根拠とした。ローム壁崩落土の混入はほとんどなく、比較的短期間に埋め戻されたものと想定している。

方　位　Ｎ－62°－Ｗ

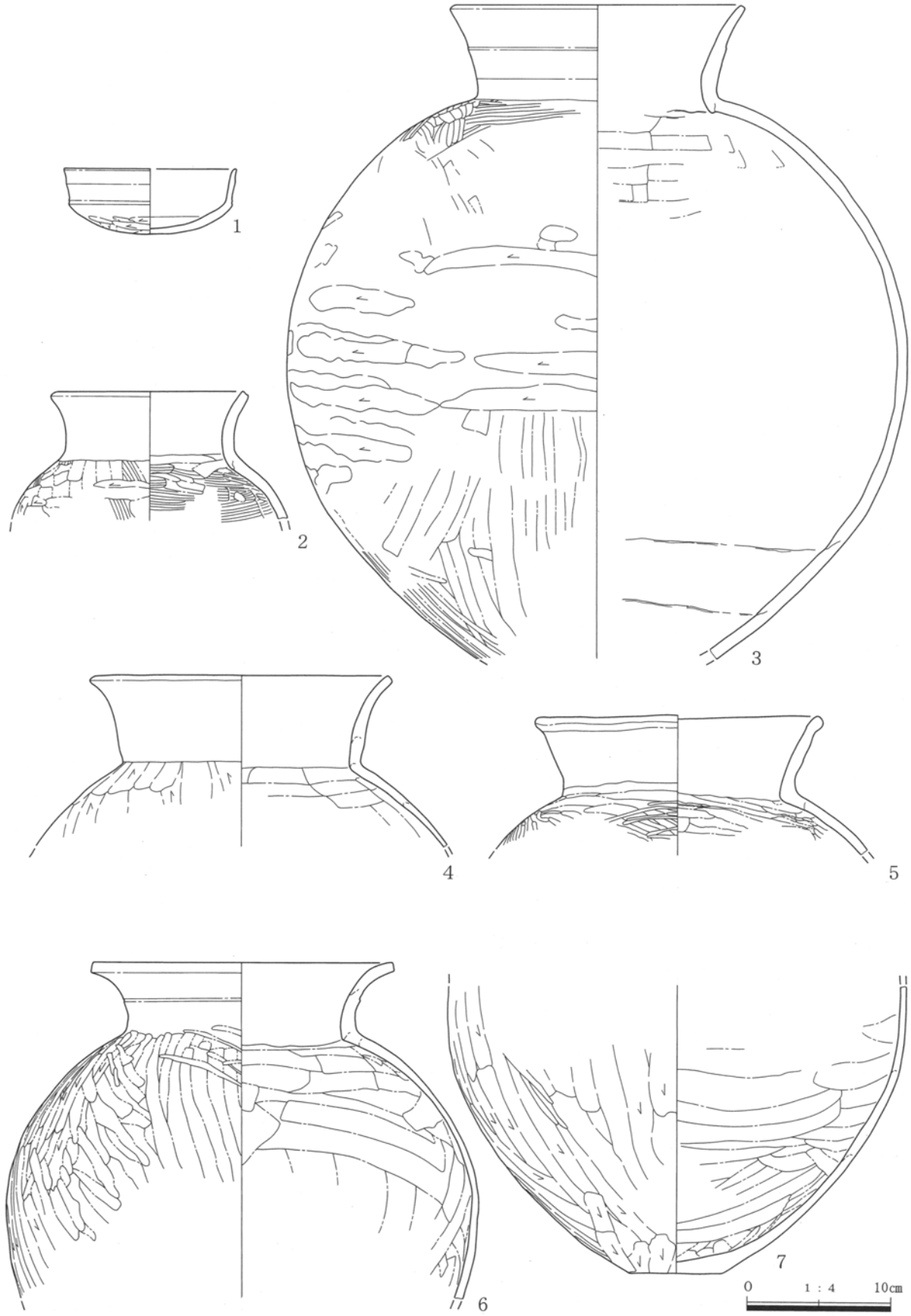
遺　物　底面直上から大破片を中心に折り重なるようにして多量の土器が出土した。須恵器大甕（９）・甕（８）、土師器壺（３・６）・甕（２・４・５・７）・杯（１）を資料化した。須恵器大甕（９）は潰れた状態で出土した。大形の土器にも完形近くまで復元できたものは多かった。これらの土器が完形の状態で据えられていたものか否かについては判断できなかった。これは、口縁部が土器片の中では上方から出土するものが多かったが、逆位となる場合がほとんどであったことによる。また、完形まで復元できたものが皆無であり、特に底部の復元状態が悪かったことから、完形土器が持ち込まれた可能性は低いと考えたい。



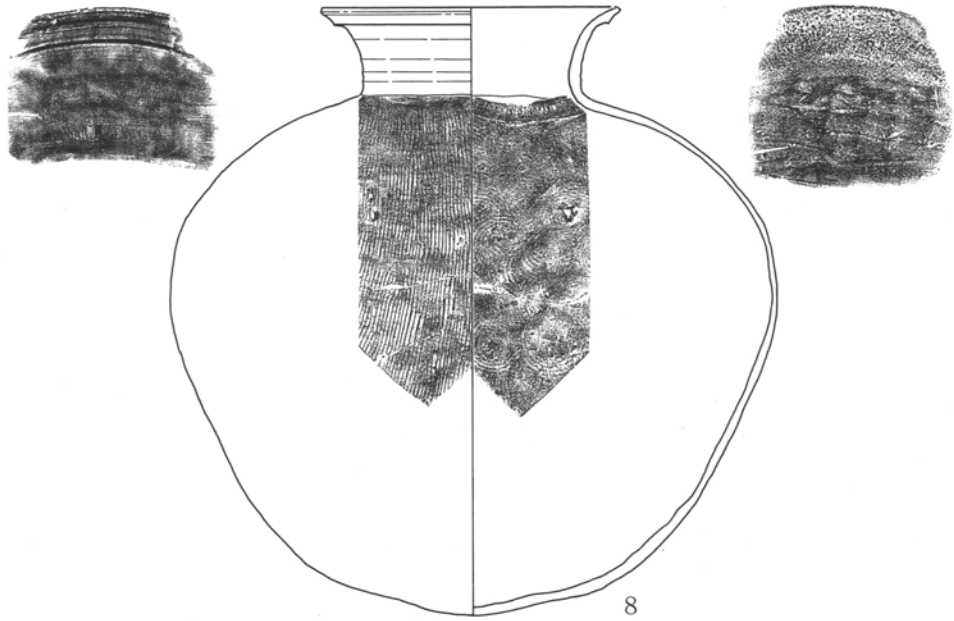
第87図　１号土坑

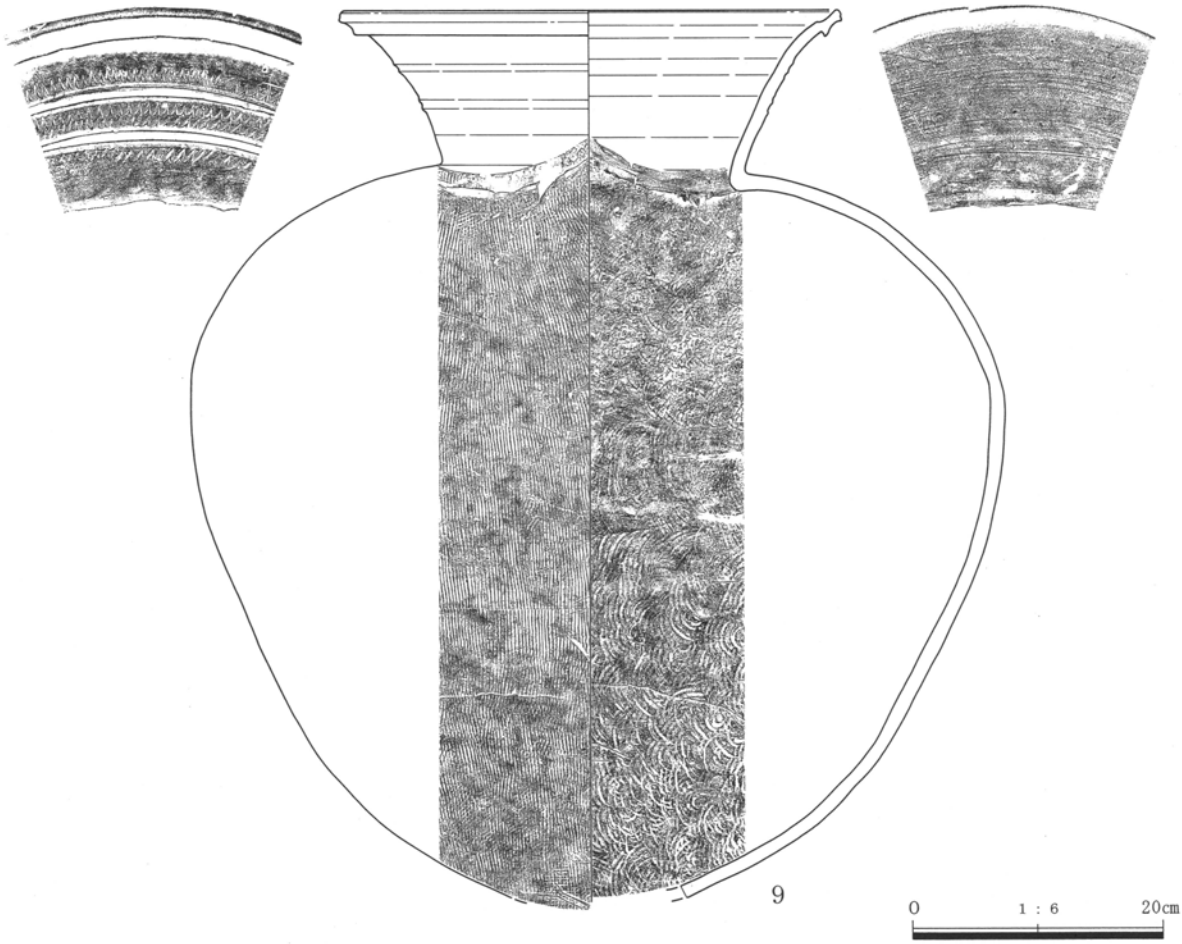
接合できた資料が多かったため、非掲載の土器は土師器10片のみである。（遺物観察表Ｐ24・25）

所　見　須恵器大甕２点のほか、土師器にも煮沸形態の土器を伴わず、住居で見られるセットとは明らかに異なる土器群である。祭祀的な性格が推測されるが、特殊遺物の出土はない。出土遺物の年代から６世紀後半の掘削と考えられ、３号住居との前後関係とも矛盾しない。



第88図　１号土坑 出土遺物（１）





第89図　１号土坑 出土遺物（２）

第４節　近世以降の遺構と遺物

（１）掘立柱建物

１号掘立柱建物（第90図）

位　置　Ｊ－21グリッド

写　真　ＰＬ－21

概　要　調査区南側寄りの地点で検出した。北東側1.5ｍに長軸方位をほぼ等しくした２号掘立柱建物が並んでいる。

重　複　なし

形　状　２間×２間（南列3.47ｍ、西列3.08ｍ）の東西棟である。南西隅のＰ７はやや東側に寄って位置するため、西列は「く」の字に弱く折れている。各辺の柱間のばらつきも大きい。

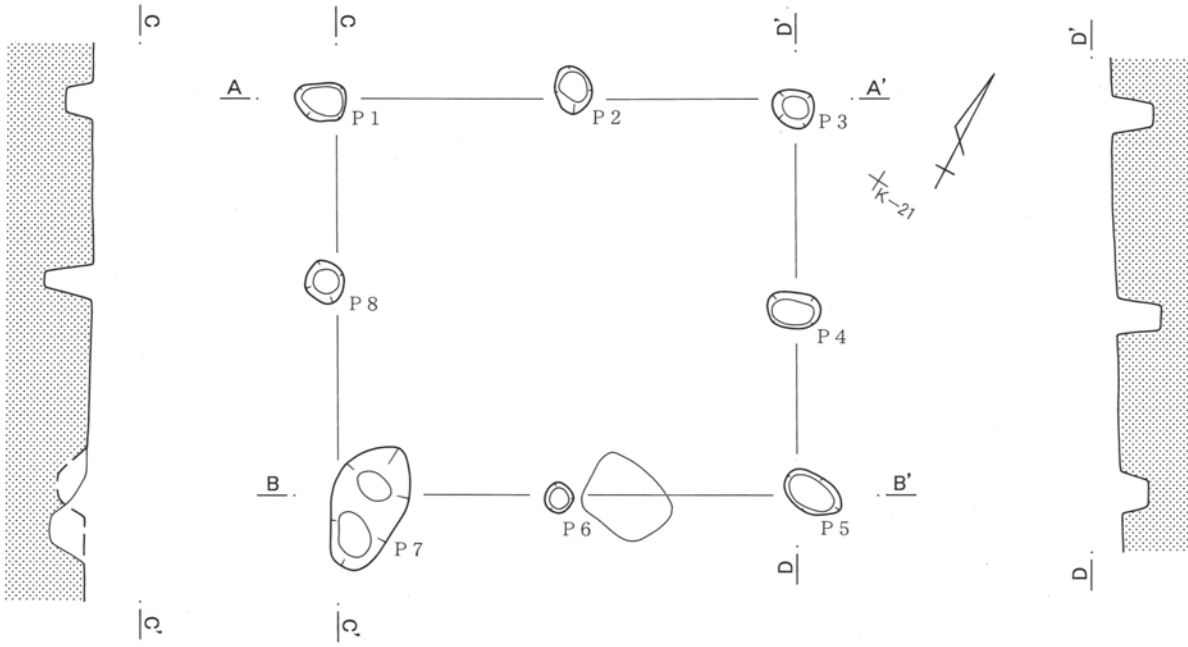
面　積　12.14㎡

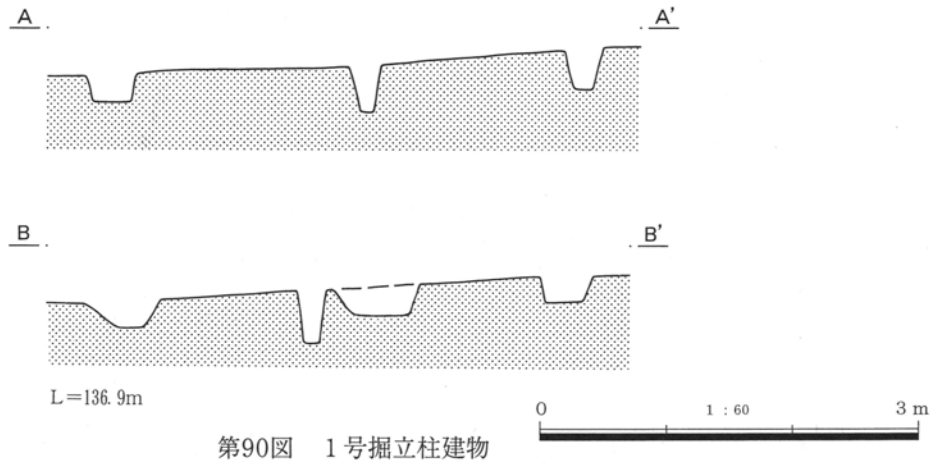
方　位　Ｎ－64°－Ｅ（南列）

柱　穴　柱穴の掘り方は円形を基本とするがＰ１、Ｐ２、Ｐ４、Ｐ５、Ｐ７は長円形。Ｐ７は２基の柱穴の重複と思われるが、前後関係の確認を欠いている。（個々の計測値は第６表を参照のこと）

遺　物　なし

所　見　年代を決定する根拠はないが井戸の掘削とほぼ同時期で、近世以降の所産と考えられる（２号掘立柱建物以下も同じと考える）。





第90図　１号掘立柱建物

２号掘立柱建物（第91図）

位　置　Ｋ－20グリッド

写　真　ＰＬ－21

概　要　調査区の南側寄りの地点で検出する。南西方向に１号掘立柱建物が位置する。

重　複　なし

形　状　２間×２間（北列4.17m、西列3.48m）の東西棟である。東列は中間の柱穴が検出されなかった。南列南西隅のＰ７はやや北側に寄っていた。

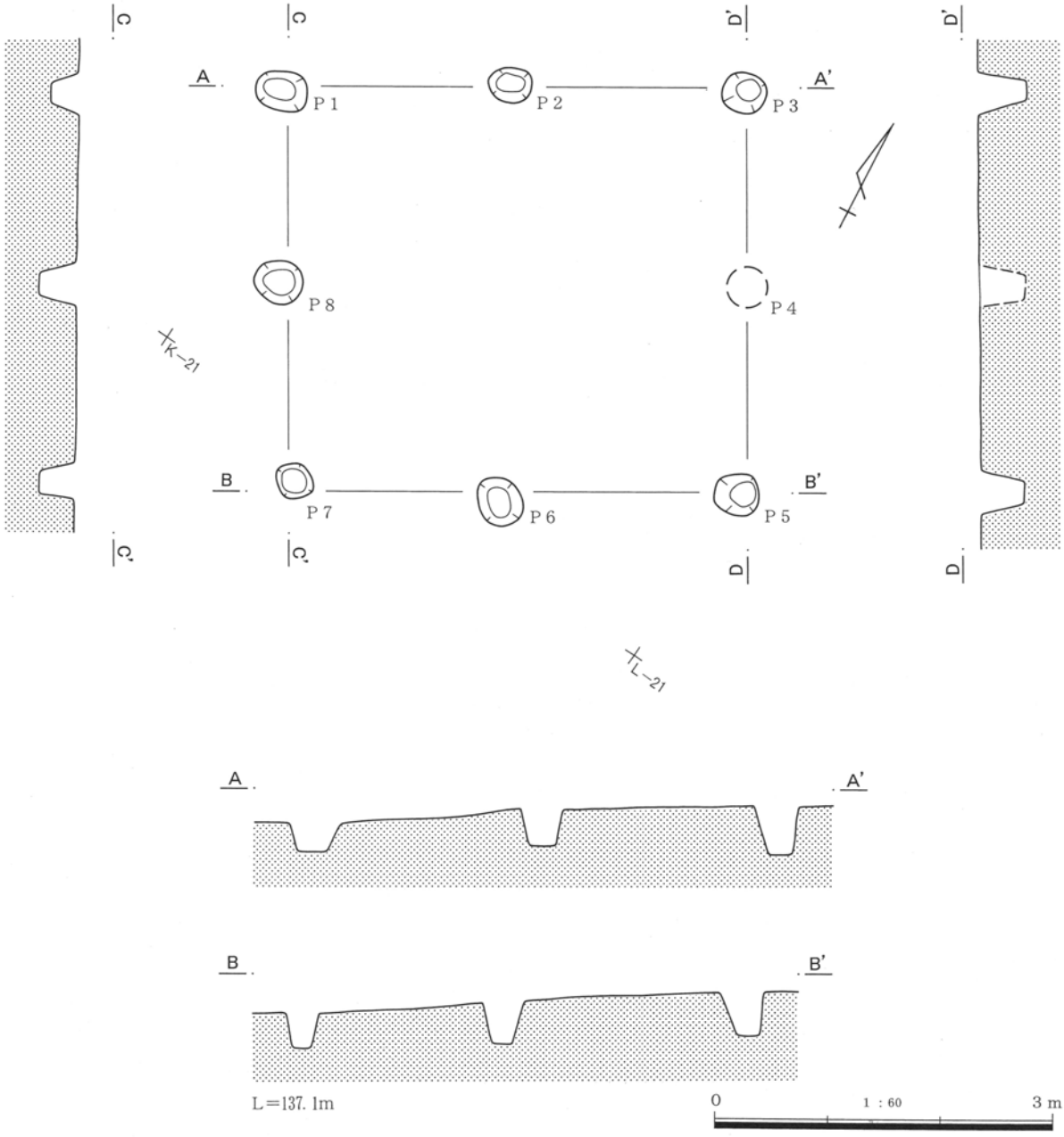
面　積　14.58m²

方　位　Ｎ－64°－Ｅ（北列）

柱　穴　柱穴の掘り方は円形を基本とするものと、長円形を呈する事例が認められた。Ｐ１が深さ24cmであった他はいずれも深さ30cmを超えている。Ｐ６・Ｐ８は、埋没土がよくつき固められていた。（個々の計測値は第６表を参照のこと）

遺　物　なし

所　見　年代を決定する根拠はない。



第91図　２号掘立柱建物

３号掘立柱建物（第92図）

位　置　Ｋ－18グリッド

写　真　ＰＬ－21

概　要　調査区の中央部よりやや南側の、緩やかな傾斜地に位置する。長軸の方向が１号・２号・４号掘立柱建物より北方向を向いている。

重　複　１号墳と重複し、これに後出する。

形　状　２間×２間以上（西列3.44m、南列2.70m）の南北棟であったと考えられる。１号墳より新しい遺構だが、柱穴の掘り方が１号墳の埋没土を掘り込んでいたため、遺構確認ができなかった。Ｐ２～Ｐ４の３本の柱穴については、想定される位置に復元した図を作成した。

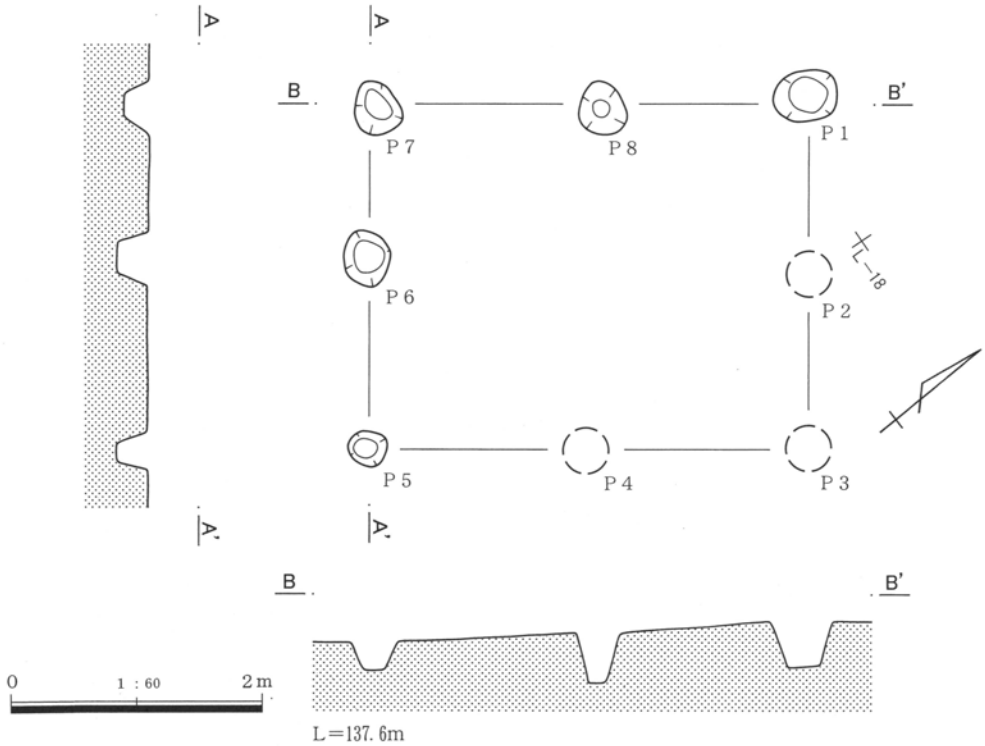
面　積　9.6㎡（推定）

方　位　Ｎ－42°－Ｅ（西列）

柱　穴　柱穴の掘り方は円形を基本とするもので他の事例よりも掘り方の直径は一回り大型のものであった。（個々の計測値は第６表を参照のこと）

遺　物　なし

所　見　年代を決定する根拠はない。



第92図　３号掘立柱建物

５号掘立柱建物（第93図）

位　置　Ｉ－13グリッド

写　真　ＰＬ－21

概　要　調査区の中央部分で検出された。当初複数棟の存在をも想定した横長の建物である。本遺跡の建物中、唯一南面やや西側を向いている。西側にある４号溝とは近似した長軸方向にあり、両者の関連も想定できる。

重　複　７号住居と重複し、これに後出する。

形　状　４間×１間（南列9.32m、西列3.85m）の東西棟と考えられるが、北東隅に想定されるＰ５は７号住居の埋没土を掘り込んでいたため検出できなかった。桁方向では北列Ｐ２とＰ３、南列のＰ８とＰ９で柱間が大きく開いている。また、梁行も西列が3.85mで、桁方向の柱間より間隔が広い。

面　積　36.65㎡（推定）

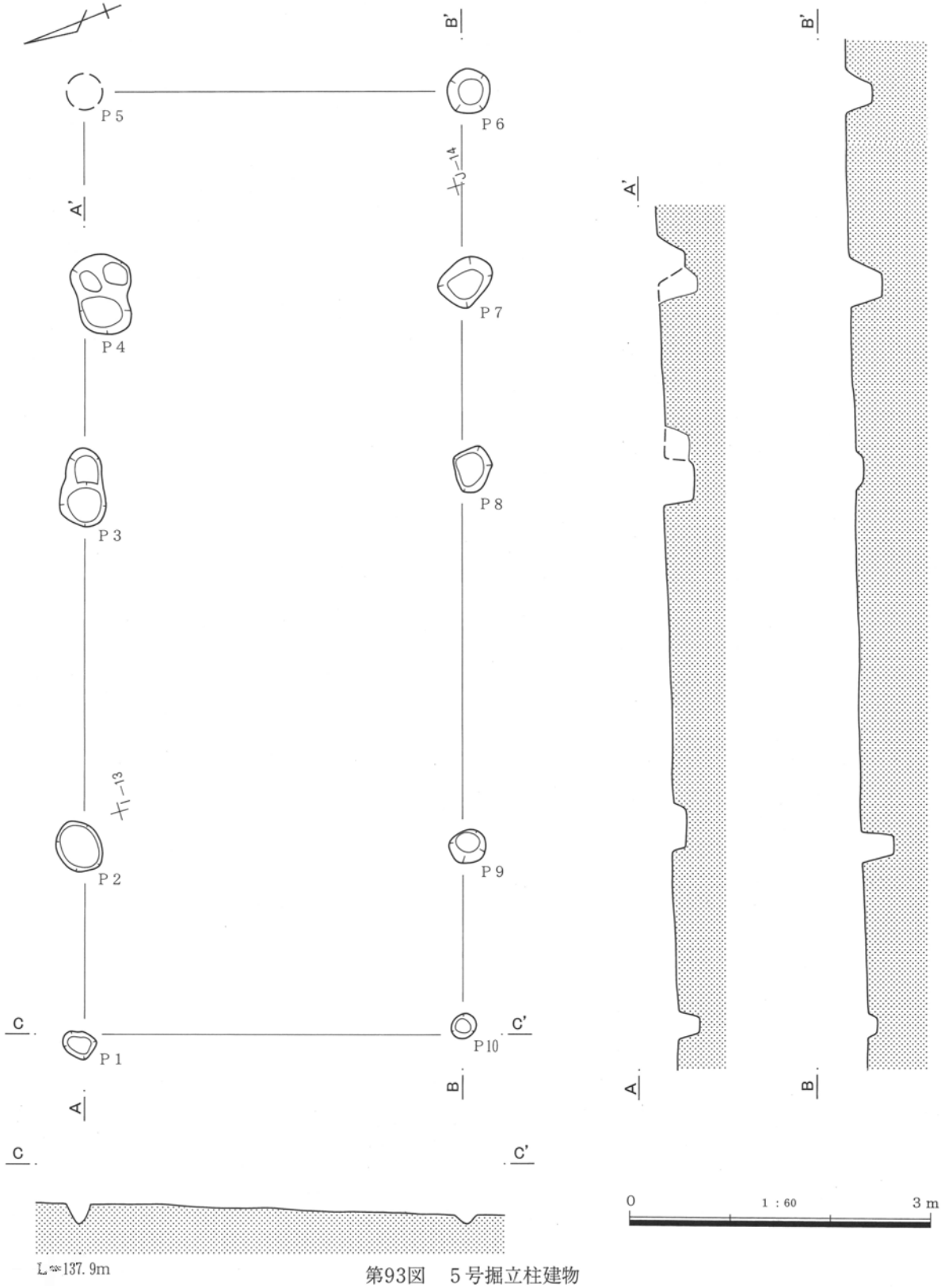
方　位　Ｎ－66°－Ｗ（南列）

柱　穴　柱穴の掘り方は円形を基本とするが、規模・形状にはばらつきが大きい。本遺跡で最も大型の建物だが、掘り方の深度に乏しい。西側のＰ１・Ｐ10が径・深さとも小規模で、庇となる可能性についても検討が必要であろう。Ｐ３・Ｐ４は複数の小穴

が重複し、建て替えの可能性がある。（個々の計測値は第６表を参照のこと）

遺　物　なし

所　見　直接年代を決定する根拠はない。北側に近接する７号井戸が同時存在の遺構なら、本建物にも18世紀以降の年代が想定できる。



第93図　５号掘立柱建物

４号掘立柱建物（第94図）

位　置　Ｌ－16グリッド

写　真　ＰＬ－21

概　要　調査区の中央部からやや南側に位置する。

重　複　１号墳、９号住居と重複し、これに後出する。

形　状　２間×２間（北列推定3.80m、東列3.78m）の東西棟と考えられるが、梁行、桁行がほぼ同規模の正方形に近い形状である。北西隅のＰ１は、９号住居の埋没土を掘り込んでいたため識別が困難で検出できず、想定復元した作図となっている。

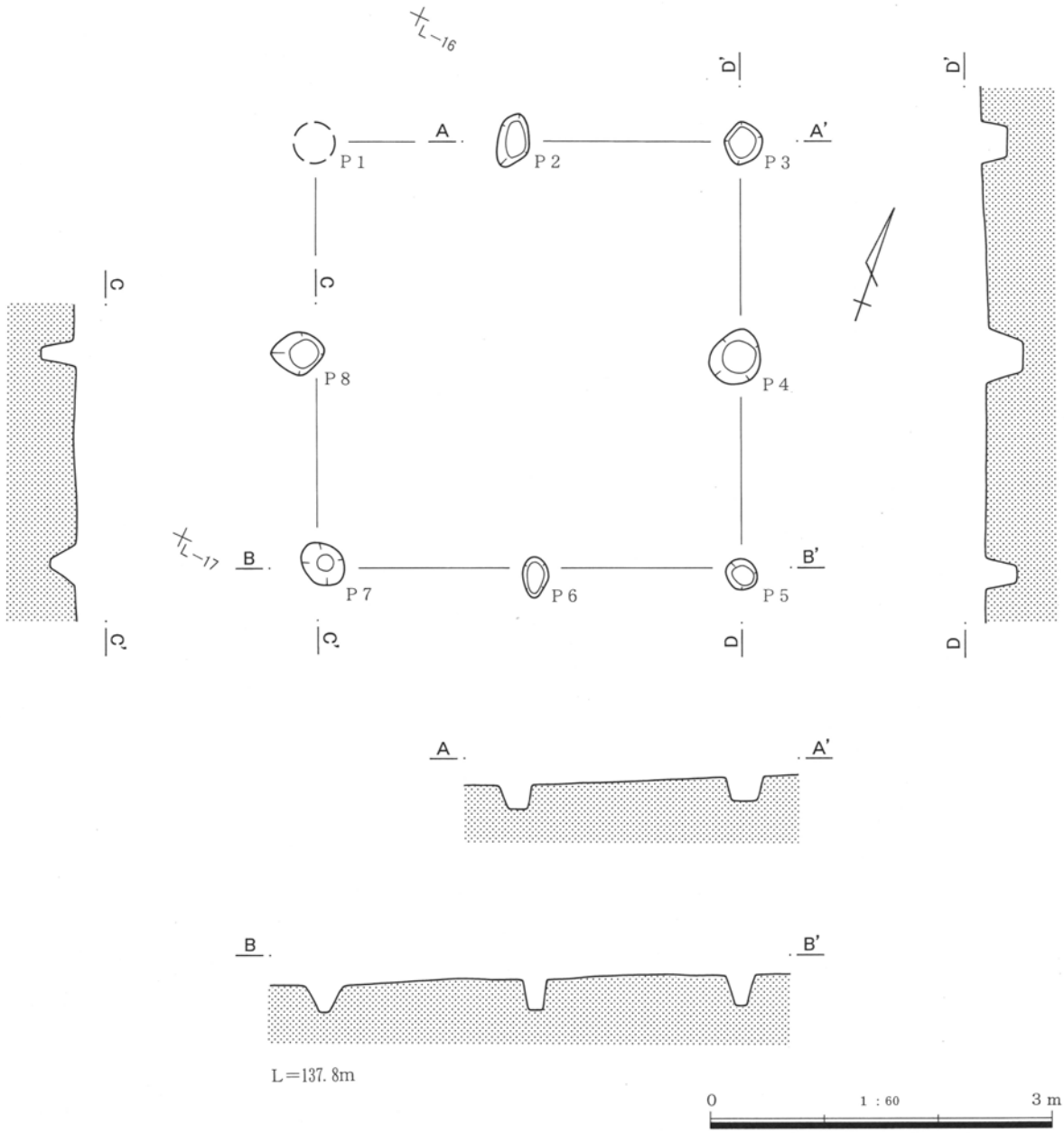
面　積　13.79m²

方　位　Ｎ－73°－Ｅ（南列）

柱　穴　柱穴の掘り方は円形を基本としているが、Ｐ２は長円形に近い平面形状を呈していた。（個々の計測値は第６表を参照のこと）

遺　物　なし

所　見　年代を決定する根拠はない。



第94図　４号掘立柱建物

６号掘立柱建物（第95図）

位　置　Ｏ－７グリッド

写　真　ＰＬ－21

概　要　調査区北側寄りの、遺構の乏しい地点で検出した。

重　複　なし

形　状　２間×２間（北列3.25m、西列2.78m）の、本遺跡唯一の総柱建物である。いずれの柱間もばらつきは少なく1.50m～1.60m前後であるが、Ｐ８とＰ１の間だけは1.32mと他よりも間口がやや狭い。

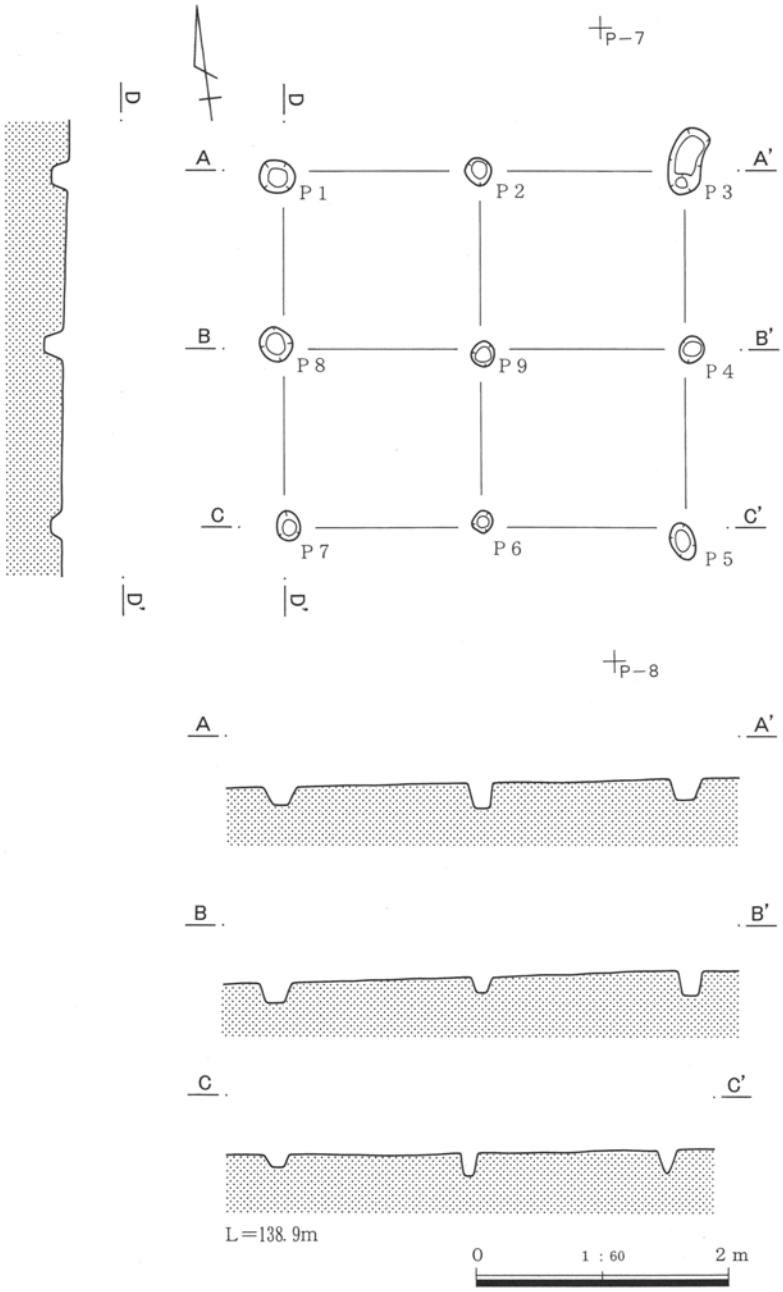
面　積　8.98m²

方　位　Ｎ－81°－Ｗ（北列）

柱　穴　柱穴の掘り方は円形を基本としている。北東隅のＰ３は複数の小穴が重複しているが、断面の観察を欠いている。規模は全体に小径で、残存深度はいずれも21cm以下であった。（個々の計測値は第６表を参照のこと）

遺　物　なし

所　見　年代を決定する根拠はない。総柱の建物であるが、倉庫を想定するには各柱穴の規模が貧弱である。



第95図　６号掘立柱建物

第６表　掘立柱建物計測表

１号掘立柱建物

桁・梁行の規模（m）	柱穴No	規模（cm） 長径	短径	深さ	形状	次の柱穴との間隔（m）
北辺（3.78）	1	40	31	20	長円	1.98
	2	37	29	36	長円	1.80
東辺（3.04）	3	33	30	32	円	1.62
	4	41	27	35	長円	1.43
南辺（3.47）	5	48	30	20	長円	1.98
	6	23	21	40	円	1.48
西辺（3.08）	7	〈68〉	60	19	長円	1.64
	8	32	28	36	円	Ｐ１へ1.40

２号掘立柱建物

桁・梁行の規模（m）	柱穴No	規模（cm） 長径	短径	深さ	形状	次の柱穴との間隔（m）
北辺（4.17）	1	47	36	24	長円	2.03
	2	40	31	33	長円	2.12
東辺（3.58）	3	38	36	42	円	－
	4	－	－	－	－	－
南辺（4.01）	5	40	37	38	円	2.20
	6	46	41	38	円	1.84
西辺（3.48）	7	34	32	31	円	1.76
	8	44	39	32	円	Ｐ１へ1.72

３号掘立柱建物

桁・梁行の規模（m）	柱穴No	規模（cm） 長径	短径	深さ	形状	次の柱穴との間隔（m）
北辺〈2.79〉	1	50	40	35	長円	－
	2	－	－	－	－	－
東辺〈3.53〉	3	－	－	－	－	－
	4	－	－	－	－	－
南辺（2.70）	5	32	28	23	円	1.51
	6	40	38	22	円	1.18
西辺（3.44）	7	44	36	21	長円	1.78
	8	42	38	39	円	Ｐ１へ1.66

４号掘立柱建物

桁・梁行の規模（m）	柱穴No	規模（cm） 長径	短径	深さ	形状	次の柱穴との間隔（m）
北辺〈3.80〉	1	－	－	－	－	－
	2	46	28	20	長円	2.02
東辺（3.78）	3	36	30	20	円	1.90
	4	50	46	31	円	1.88
南辺（3.70）	5	29	26	27	円	1.82
	6	36	24	26	長円	1.85
西辺〈3.68〉	7	42	33	21	長円	1.84
	8	48	38	28	長円	－

５号掘立柱建物

桁・梁行の規模（m）	柱穴No	規模（cm） 長径	短径	深さ	形状	次の柱穴との間隔（m）
北辺〈9.50〉	1	31	24	21	長円	2.00
	2	50	42	11	長円	3.40
	3	46	〈43〉	29	円	2.23
	4	〈36〉	〈32〉	25	円	－
東辺〈3.87〉	5	－	－	－	－	－
南辺（9.32）	6	44	43	24	円	1.92
	7	53	41	30	長円	1.83
	8	44	36	5	長円	3.72
	9	36	34	31	円	1.82
西辺（3.85）	10	26	23	8	円	Ｐ１へ3.85

６号掘立柱建物

桁・梁行の規模（m）	柱穴No	規模（cm） 長径	短径	深さ	形状	次の柱穴との間隔（m）
北辺（3.25）	1	28	26	15	円	1.62
	2	21	20	21	円	1.63
東辺（3.00）	3	26	－	16	円？	1.47
	4	22	18	19	円	1.54
南辺（3.13）	5	30	20	18	長円	1.60
	6	16	15	17	円	1.53
西辺（2.78）	7	22	18	9	円	1.45
	8	26	24	15	円	Ｐ１へ1.32
	9	20	18	10	円	Ｐ８へ1.63
						Ｐ４へ1.68

（２）井　　戸

７基の井戸を調査した。時期を推定できる出土遺物は18世紀以降に限られている。断面には調査段階での湧水点を↓で記した。

１号井戸（第96図）

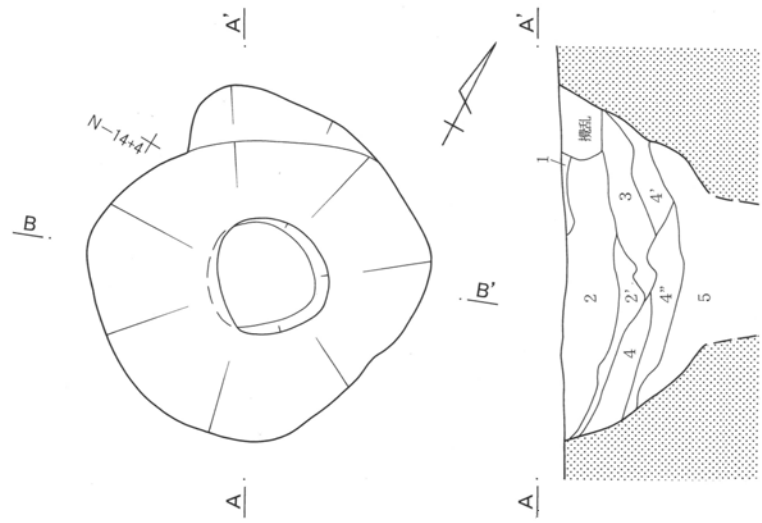
位　置　Ｎ－14グリッド　　**写　真**　ＰＬ－22

概　要　調査区中央部分で検出した。南西側約２ｍに３号井戸が近接している。

重　複　なし

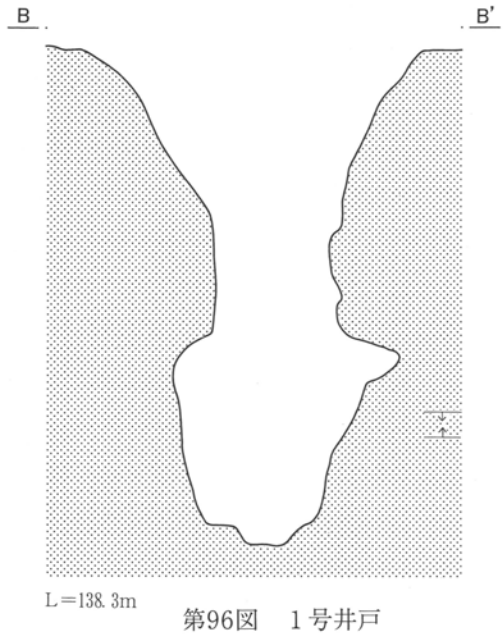
形　状　深さは3.92ｍであった。確認面における平面形は不整の円形で、長径2.63ｍ、短径2.37ｍを測る。断面形は深さ1.40ｍまでが外傾が著しく、朝顔型を呈している。上端から深さ1.60ｍの地点における直径は、0.91ｍを測り、同様の形状が深さ2.25ｍまで続いている。掘り込み面から深さ2.20～2.60ｍの地点は榛名八崎テフラ（Hr－HP）が堆積する層位で大きなあぐりをなしている。底面は、直径0.98ｍを測り、中央部のみ細く掘り下げている。埋没土は、上端から2.5ｍまでは暗褐色砂質土、2.8ｍまでは黒色砂質土、以下底面まではロームブロックと暗褐色砂質土が５～10㎝間隔で互層をなして堆積していた。いずれも自然に埋没した状況である。

湧水層は地表下3.00ｍ前後にある褐灰色火山灰層内にある。調査を実施した３月時における自然水位は地表下３ｍ、湧水量は１分間に約0.5ℓであった。



1．暗灰色砂壌土　締まりなし。
2．暗灰色砂壌土　１よりも黒味を増す。黒色土・ロームブロックを混入、締まりなし。2′は黒色土ブロックが増える。
3．ロームブロック・ソフトローム・黒色土ブロックの混土層　締まりなし。
4．暗灰褐色土　ローム粒を少量混入、灰色の砂粒を混入。4′は黒味増し、4″はロームの混入多い。
5．暗褐色土　ロームブロックを少量混入。黒色土と混土状を呈する。

0　1：60　2 m



第96図　１号井戸

長軸方位　N－44°－E

遺　物　なし

備　考　埋没土中から木片多数、木の葉、杉枝等が多数出土。礫も出土していた。

所　見　時期決定できる出土遺物はないが、近世以降に埋没した井戸と考えられる。

２号井戸（第97図）

位　置　M－16グリッド

写　真　PL－22

概　要　調査区中央部分で検出した。西側約３mに４号掘立柱建物が近接している。

重　複　なし

形　状　深さは6.20mを測った。確認面における形状は円形で、長径1.18m、短径1.16mを測った。断面形はいわゆる井筒形で、上位と下位でその直径に大差が認められない。直径は深さ2.00m地点で0.98m、深さ4.00m地点で0.81m、底面で0.65mである。底部北側寄りには直径15cm、深さ10cmの掘り込みがあった。壁面は安定しており、小さなあぐりがみられるものの大幅に原形をそこなっている部分はなかった。壁面には小さなえぐりこみが見られた。掘削もしくは底さらい時の昇降に利用した足場が残存したと考えられ、北側に10箇所、南側に９箇所掘り込まれていた。

埋没土は概ね深さ3.00mまでがロームブロックで、深さ5.00mまでが灰色粘性土を主体としたロームブロックとの混土層で、いずれも人為的な埋め戻し土と考えられる。深さ5.20m以下は黒色粘性土で、木の葉や枝等を多量に含む自然堆積層と考えられる。

湧水層は、深さ3.00m付近の灰褐色粘性土と褐灰色火山灰層の境界にあったが、湧水量はわずかであった。調査時水位面は深さ5.6mであった。

長軸方位　N－44°－E

遺　物　なし

所　見　出土遺物は認められないが、他の井戸と同様の様相であることから近世の井戸と考えたい。

３号井戸（第97図）

位　置　Ｍ－15グリッド

写　真　ＰＬ－22

概　要　調査区中央部分に位置する。北東側約２ｍに１号井戸が近接している。

重　複　なし

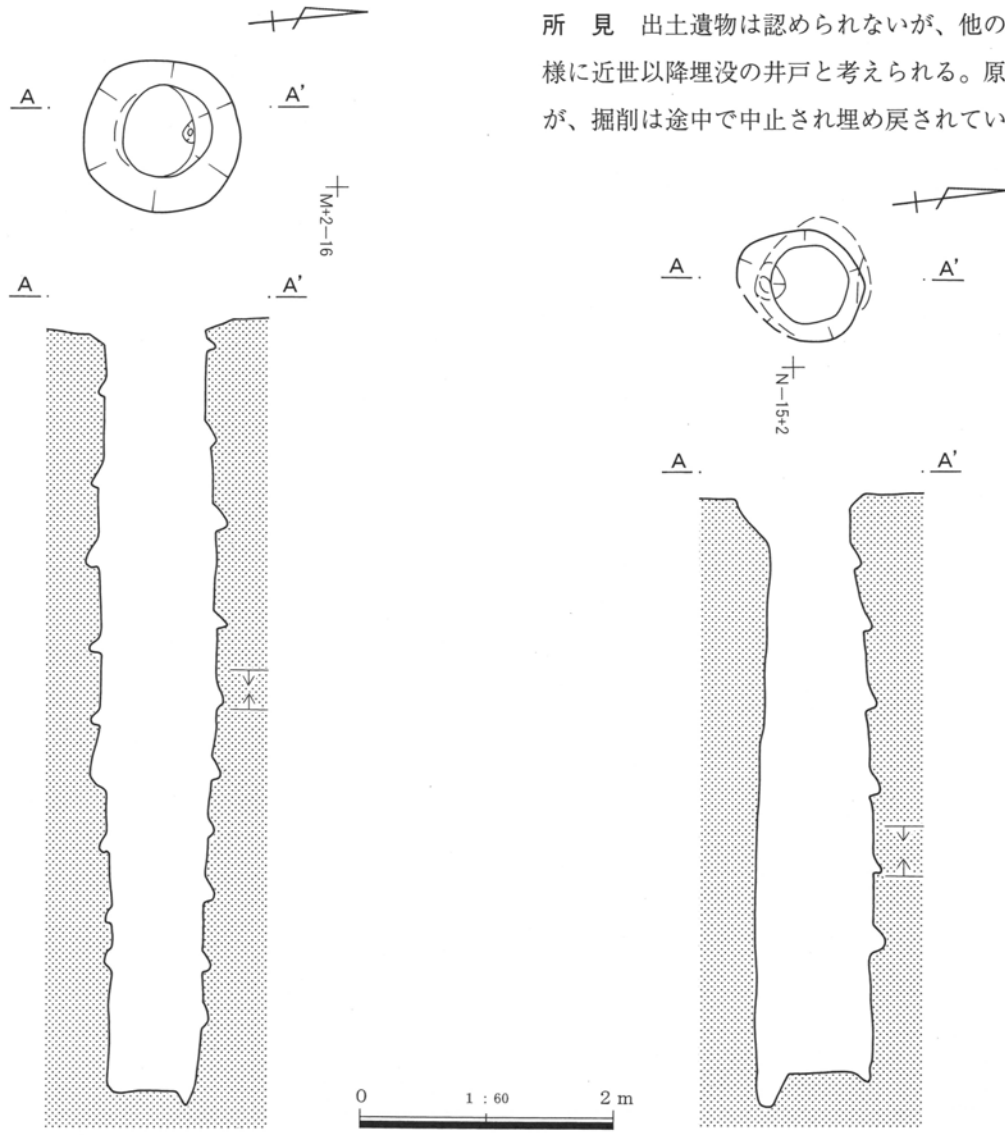
形　状　深さは4.80ｍを測った。確認面における形状は、南西部分がやや尖り気味の卵形である。規模は長径1.03ｍ×短径0.85ｍを測った。断面形は２号井戸同様の井筒形であった。直径は、深さ0.4ｍ地点で直径0.68ｍ、深さ2.00ｍ地点で直径0.85ｍ、底面で長径0.98ｍ×短径0.83ｍであった。また、底面には北側寄りに0.1ｍ、南側寄りで0.2ｍ更に掘り込まれた部分がある。壁面には掘削時昇降に利用したと考えられる足場が北側に６箇所、南西側に７箇所残されていた。

埋没土は、深さ2.50ｍまでが黒褐色の砂質土で自然埋没の状況であった。以下2.50ｍから3.00ｍまではロームブロックを主体に少量の黒褐色砂質土との混土層、3.00ｍから4.50ｍが青灰色粘性土に少量のロームブロック・黒褐色砂質土の混土層が堆積し、いずれも人為的に埋め戻された状況が見られた。深さ4.50ｍ以下は乳青灰色火山灰、黒斑入りの赤褐色火山灰の掘削土塊がそのまま残されていた。

長軸方位　Ｎ－42°－Ｅ

遺　物　なし

所　見　出土遺物は認められないが、他の井戸と同様に近世以降埋没の井戸と考えられる。原因不明だが、掘削は途中で中止され埋め戻されているようだ。



第97図　２号・３号井戸

４号井戸（第98・99図）

位　置　Ｐ－12グリッド

写　真　ＰＬ－22

概　要　調査区の中央の平坦面に位置する。南側には小穴群が近接している。

形　状　深さは4.57ｍを測った。確認面における形状は円形で、長径2.46ｍ、短径2.40ｍを測った。断面形は深さ1.03ｍに変換点を有し、これより上位はロート状に外傾著しく立ち上がっている。これ以下は筒状を呈し、深さ2.00ｍにおける直径は0.97ｍである。深さ2.20ｍから3.70ｍまでの間はあぐりで外方に張り出している。最大径は深さ2.77ｍの地点にあり、直径1.42ｍを測った。以下、深さ5.00ｍにおける直径が0.85ｍ、底面の直径が長径0.65ｍとなっている。底面近くの地山壁面中には角礫が多く、大胡火砕流の層に到達した深度で掘削を停止したものと考えられる。

埋没土は深さ2.50ｍまでが暗褐色砂質土、深さ2.50ｍから2.70ｍまでが黒色砂質土で自然堆積の状態であったが、深さ2.70ｍから4.00ｍまでの間は大型のロームブロックを主体とした黒褐色砂質土との混土層で、礫や遺物を含む層であった。これ以下の深さ4.00ｍから底面まではロームブロックを主体とした黒色砂質土が堆積し、木の葉や枝が腐植の進行した状態で含まれていた。

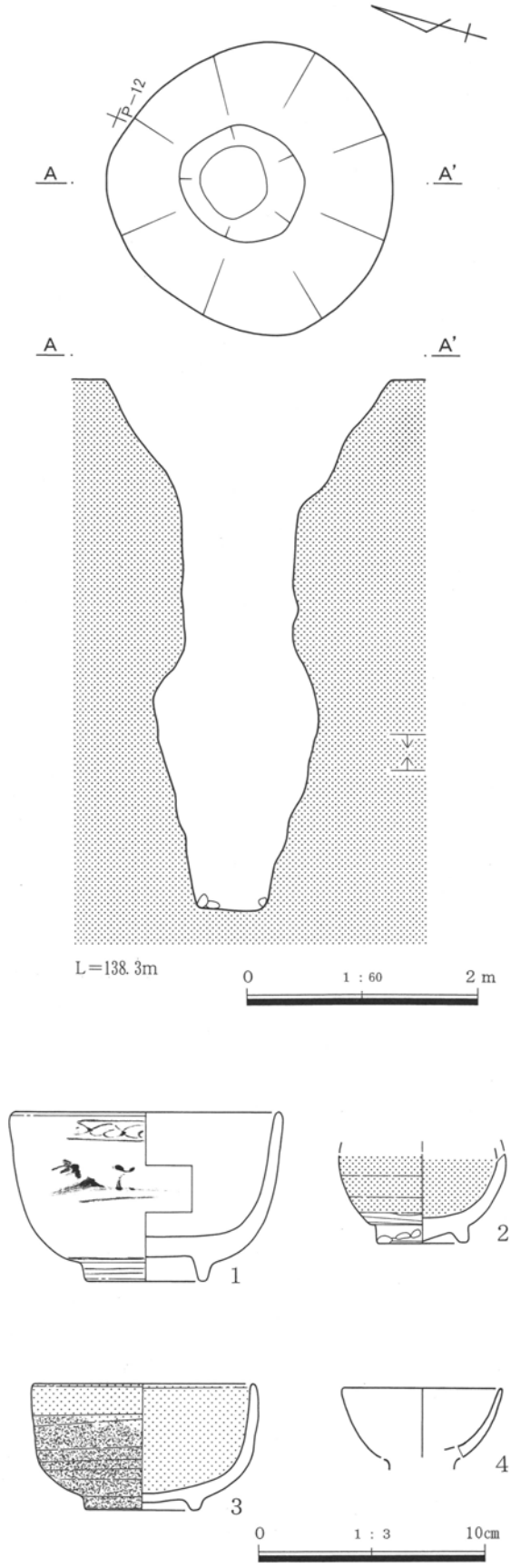
湧水層は、深さ3.30ｍ前後の灰褐色の粘性土とその下位の褐灰色火山灰層の境にある。

調査時の湧水量は１分間に約0.5ℓで、１号井戸と同様である。

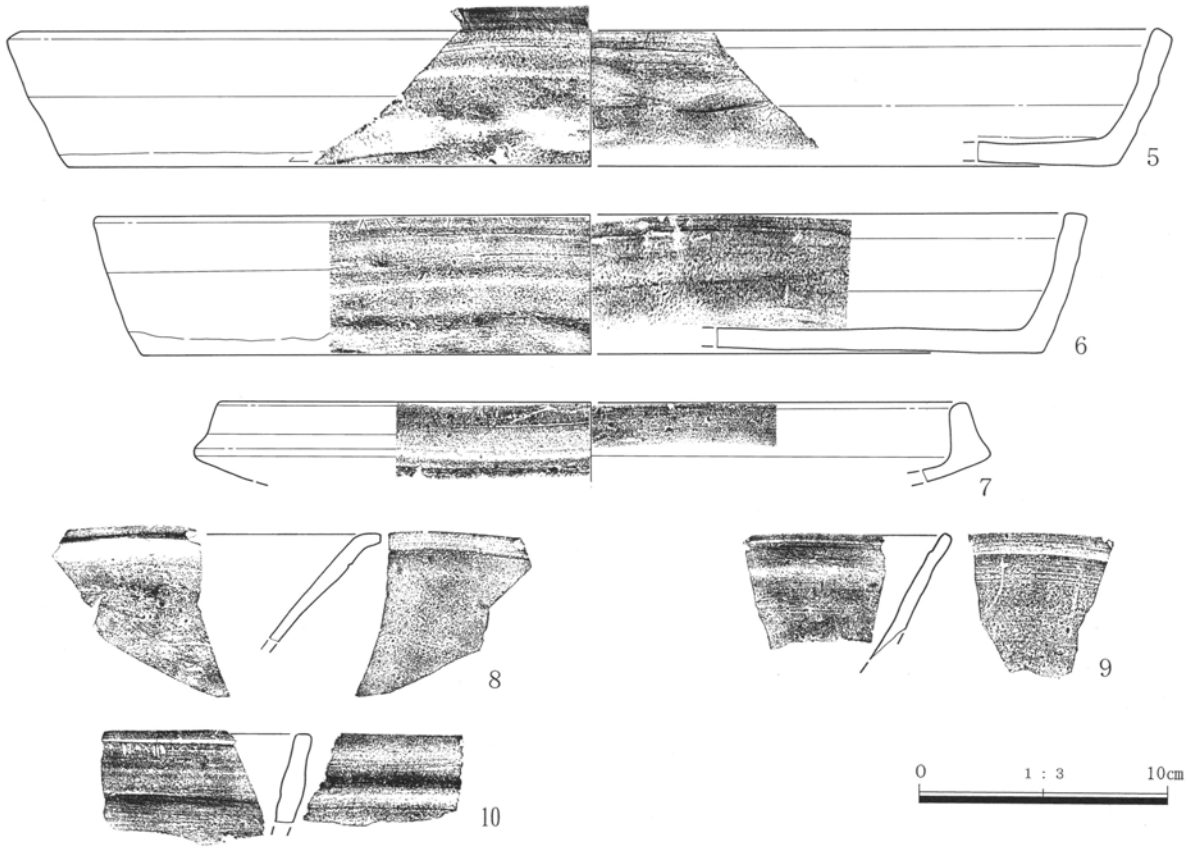
長軸方位　Ｎ－42°－Ｅ

遺　物　中層以下の埋没土中から陶磁器４片、軟質陶器６片を出土しており、全てを図示した。（遺物観察表Ｐ25）

所　見　出土遺物の特徴から近世以降掘削の井戸と考えられる。明治期以降の焙烙（７）の混入があるが、出土層位の記録を欠いている。



第98図　４号井戸と出土遺物（１）



第99図　４号井戸 出土遺物（２）

５号井戸（第100・101図）

位　置　Ｋ－９グリッド

写　真　ＰＬ－22

概　要　調査地の中心からやや北側に位置する。

重　複　なし。12号住居と接している。

形　状　深さは5.06m、長径2.38m、短径2.15mを測った。確認面における平面形は、円形を基本としているが、南西部分は断面の立ち上がりの傾斜が緩やかになり、外縁が外方に張り出している。断面形は深さ2.00m地点に変換点を有し、これより上位は斜め上方に外傾して立ち上がる。変換点より下位はいわゆる井筒型で、深さ2.00mで直径1.10m、深さ4.00mで直径0.88m、底面で直径0.7mを測る。

埋没土は深さ2.70mまでが黒褐色砂質土を主体にロームブロックを少量含む土層である。深さ2.70mから3.00mまでは中央部分に遺物、礫を含む黒褐色土が、壁際に地山の榛名八崎テフラ層中の軽石が崩落したものが堆積している。以下は3.30mから4.90mまでが黒褐色砂質土を主体に灰色粘性土を混じえた土粒が、4.90mから底面までの間は黒色粘性土が堆積していた。湧水層は、深さ2.90m前後の位置に堆積する灰褐色粘性土とその下層の褐灰色火山灰層である。

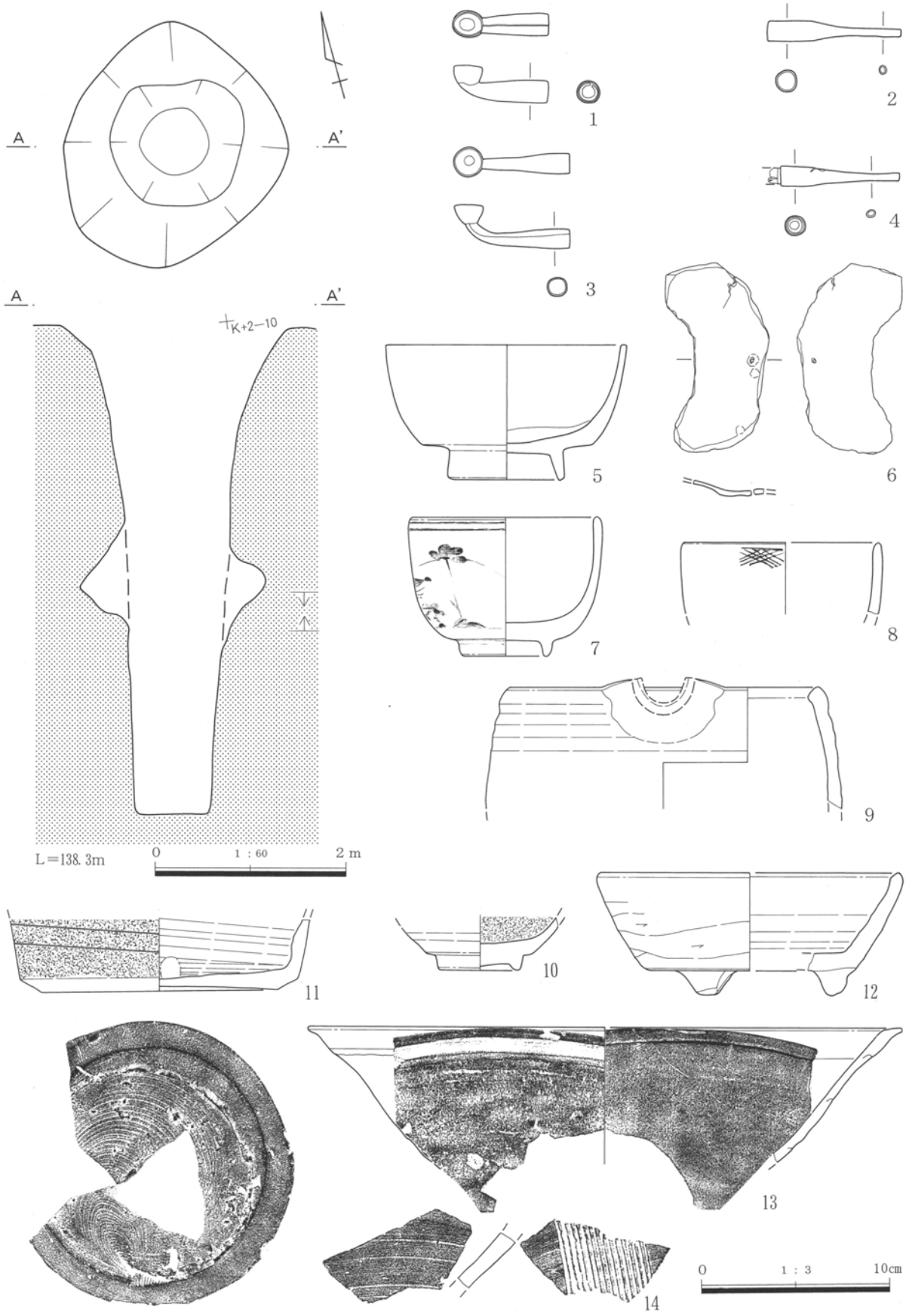
湧水層の上位は大きくえぐれ「タナ落ち」の状態を呈していた。

調査時の自然水位は深さ4.60m、湧水はわずかにじみ出る程度であった。

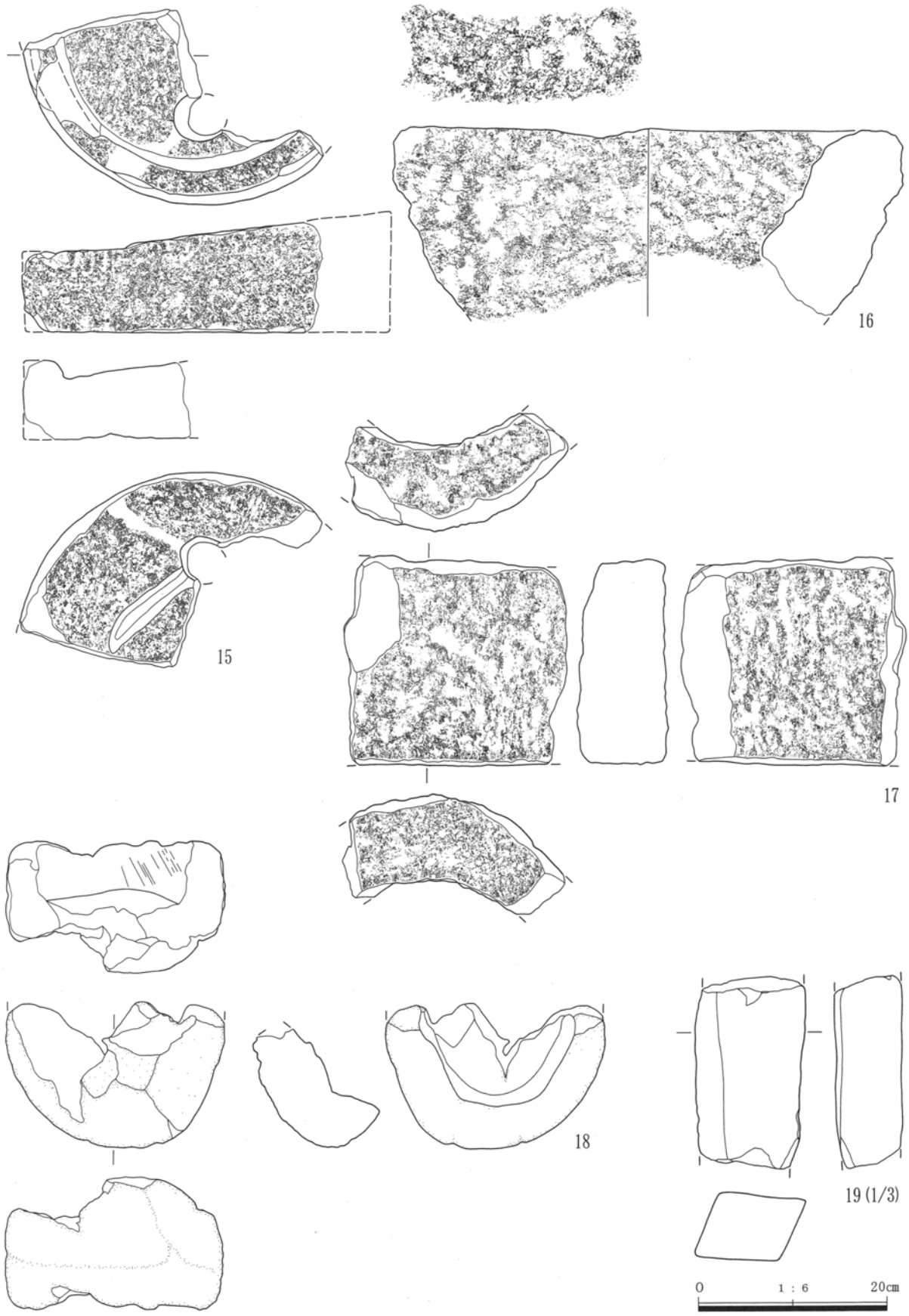
長軸方位　Ｎ－65°－Ｅ

遺　物　埋没土中から煙管（１～４）、木製漆椀（５・６）、陶磁器（７～10）、軟質陶器の香炉（12）・鍋（13）、石臼（15）、石鉢（16）、不明石製品（17・18）、砥石（19）が出土した。この他に土師器３片、須恵器１片、軟質陶器２片が非掲載である。（遺物観察表Ｐ26・27）

所　見　出土遺物の特徴から近世以降に埋没した井戸と考えられる。



第100図　５号井戸と出土遺物（１）



第101図　５号井戸 出土遺物（２）

６号井戸（第102図）

位　置　Ｋ－８グリッド　　**写　真**　ＰＬ－22

概　要　調査区の中央からやや北側寄りに位置する。南西側約５ｍに５号井戸がある。

重　複　なし

形　状　平面形は円形を基本としており、確認面での直径は0.98ｍであった。深さは4.20ｍを測る。断面形は、いわゆる井筒型を呈しており、深さ0.3ｍ地点の直径は0.83ｍ、深さ2.00ｍ地点で直径0.90ｍ、底面で長径0.90ｍ・短径0.78ｍとほぼ一定である。

壁面は安定しているが、深さ2.40ｍから3.20ｍ部分があぐりをなして直径が1.30ｍを超えている。この部分の地山には灰褐色粘性土とその下位に褐灰色の火山灰土が堆積しており、湧水層となっている。

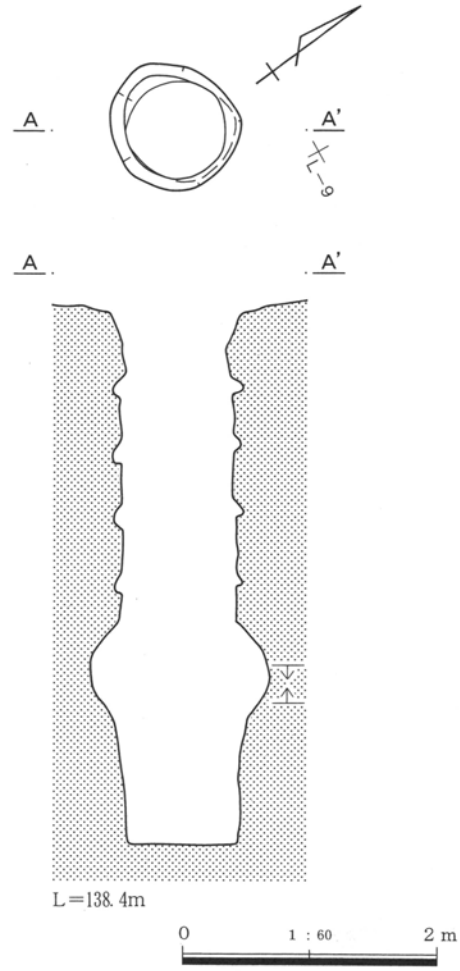
壁面には掘削・底さらい時の昇降用足場が南北両側に４箇所ずつ掘り込まれている。

埋没土は、深さ2.70ｍまでが黒色砂質土、2.27ｍから3.40ｍまでが黒色粘性土、以下が褐灰色粘性土と木の葉、杉の枝などの腐植物の堆積でいずれも自然堆積の状態であった。ただし、深さ2.70ｍ位から自然礫が30個出土している。調査時の自然水位は、深さ4.00ｍ、湧水量はにじみ出る程度であった。

長軸方位　Ｎ－79°－Ｅ

遺　物　なし

所　見　出土遺物はないが他井戸と同様の様相であることから近世の井戸と考えられる。



第102図　６号井戸

７号井戸（第103・104図）

位　置　Ｉ－12グリッド　　**写　真**　ＰＬ－22

概　要　調査区の中央やや北側寄り、５号掘立柱建物の北側に位置する。

重　複　なし

形　状　平面形はほぼ円形で、確認面における長径は0.75ｍ、短径0.69ｍを測る。深さは5.90ｍを測る。断面形は、いわゆる井筒型で、全体的に細い形状である。特に上位の径は細く、これ以下の深さ1.00～1.50ｍには若干膨らみを有し、下部にいたると再び細く掘削している。各深度での直径は、深さ1.0ｍで1.02ｍ、深さ2.0ｍで0.97ｍ、深さ５ｍで0.70ｍ、底面で0.57ｍである。壁面は安定しており、掘削時の昇降のための足場の掘り込みが残されている。ただし、深さ2.30ｍから3.00ｍの部分は湧水のため弱いあぐりをなしている。

埋没土は、深さ2.5ｍまでがロームブロックを少量含む黒褐色砂質土で、2.50ｍから3.70ｍまではロームブロック、灰色粘性土を含む黒色砂質土であった。いずれも人為的埋没状況を呈していた。深さ3.70ｍ以下には黒色砂質土が堆積していた。

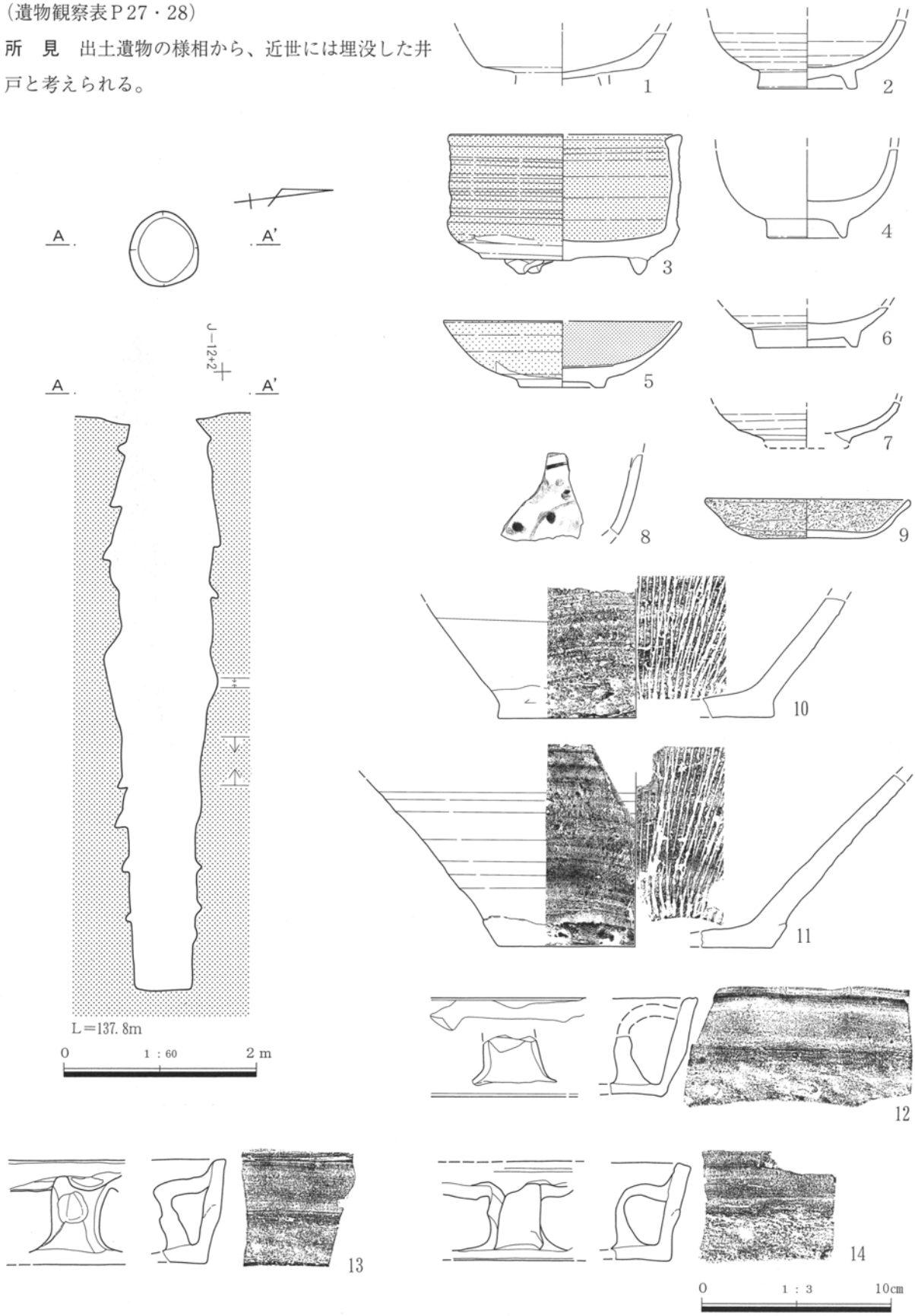
調査時の自然水位は、深さ5.40ｍであった。

長軸方位　Ｎ－82°－Ｅ

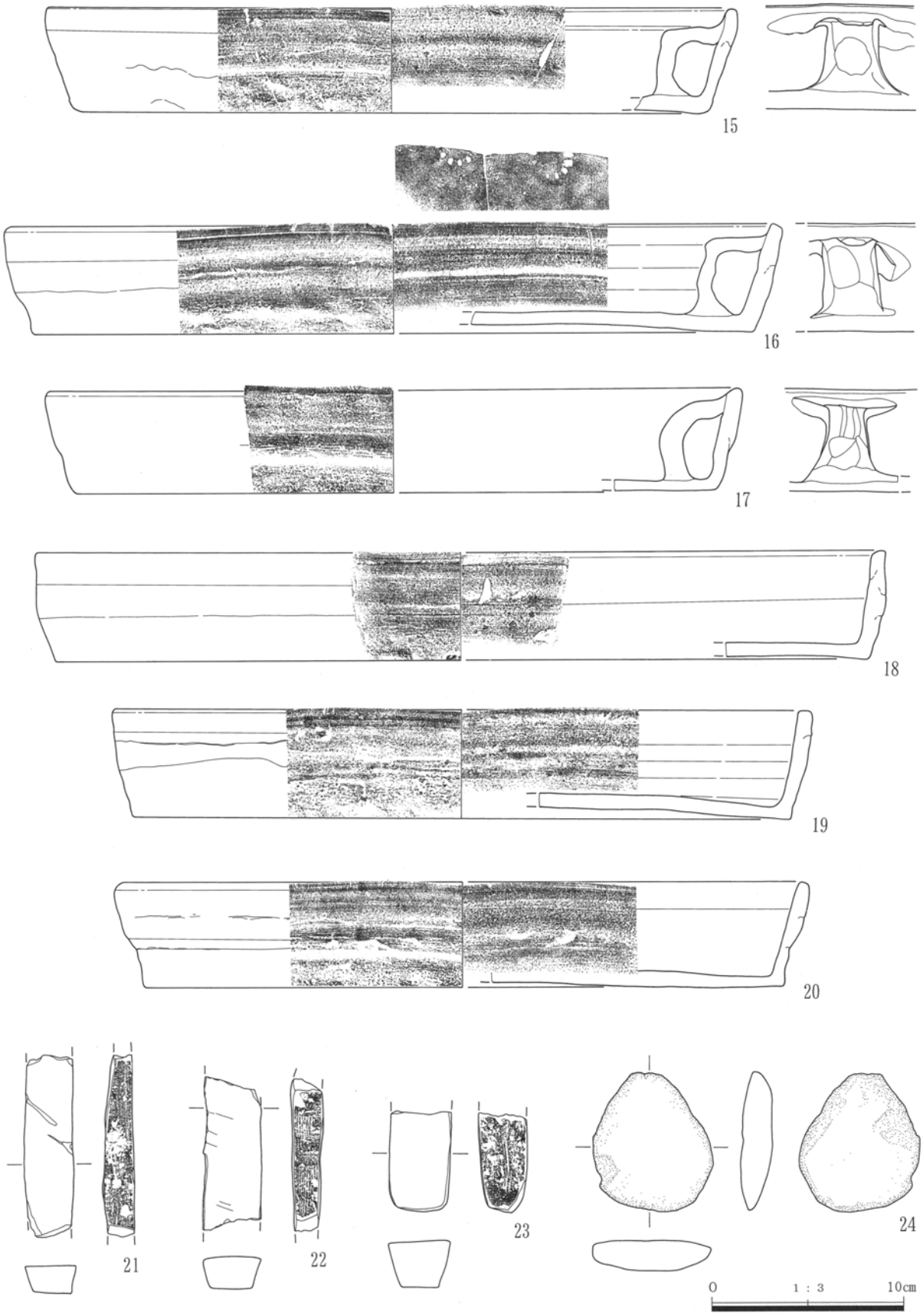
遺　物　埋没土中より木製漆椀（１）、陶器（２～11）、軟質陶器焙烙（12～20）、砥石（21～24）が出土した。その他土師器６片、軟質陶器11片が非掲載である。

（遺物観察表Ｐ27・28）

所　見　出土遺物の様相から、近世には埋没した井戸と考えられる。



第103図　７号井戸と出土遺物（１）



第104図　７号井戸 出土遺物（２）

（３）土　　坑

３号土坑（第105図）

位　置　Ｌ－21グリッド　　**写　真**　ＰＬ－23

概　要　北側に近接して４号土坑が存在する。

形　状　平面形は長円形を基本としているが、企画性をみいだせるものではない。南北方向に長軸を有する。壁面の立ち上がりは緩やかである。規模は、長さ1.28m、幅0.90m、深さ0.40mである。

埋没土　上層が黒褐色土、下層が暗褐色土と茶褐色土の混土層である。

方　位　Ｎ－４°－Ｗ（長軸）

遺　物　古墳時代の土師器５片を出土しているが、図示していない。

所　見　埋没土は古墳時代のものではない。出土遺物は年代決定の根拠となりえず、時期不明である。

４号土坑（第105図）

位　置　Ｌ－21グリッド　　**写　真**　ＰＬ－23

概　要　南側に３号土坑が近接して存在する。

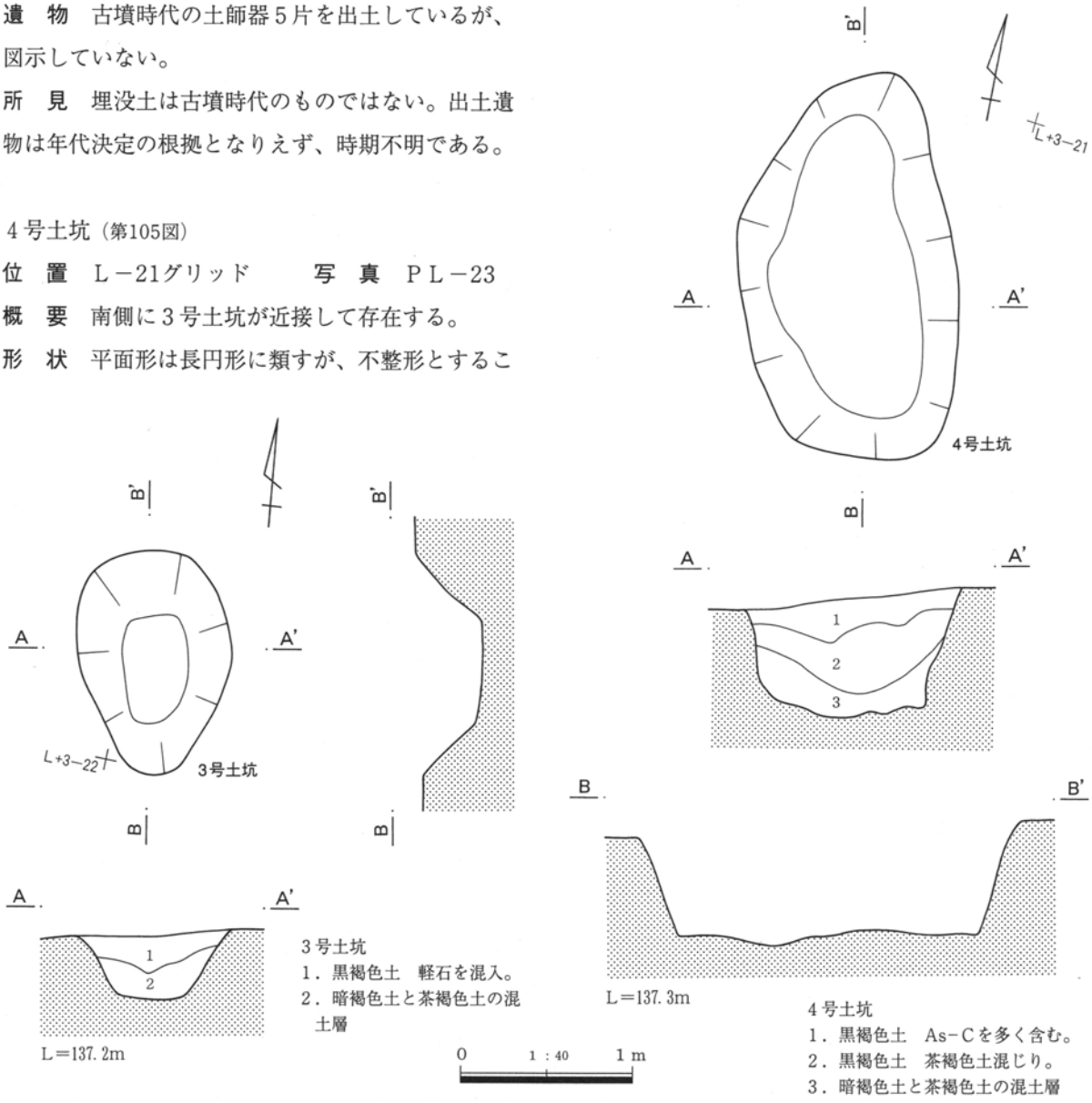
形　状　平面形は長円形に類すが、不整形とすることが妥当であろう。南北方向に長軸を有し、その規模は長さ2.23m、幅1.27m、深さ0.73mを測る。壁面の立ち上がりもあまり良好ではない。底面には凸凹が多く不整である。

埋没土　上・中層が黒褐色土、下層が暗褐色土と茶褐色土の混土層である。

方　位　Ｎ－19°－Ｗ（長軸）

遺　物　古墳時代の土師器９片を出土している。

所　見　埋没土は古墳時代の可能性があるが、出土遺物は年代決定の根拠とするには不充分である。



第105図　３号・４号土坑

５号土坑（第106図）

位　置　Ｅ－11グリッド　　**写　真**　ＰＬ－23

概　要　調査区の中央から西側寄りに位置する。

重　複　６号土坑と重複、これに先行する。

形　状　平面形は長方形を基本とするが東・西両壁の長さが異なり、南壁が若干斜行している。四隅もやや丸味を有する。東西方向に長軸を有し、規模は長さ1.82m、幅1.07m、深さ0.48mを測る。埋没土は人為的な埋め戻しが想定される堆積状況である。

方　位　Ｎ－70°－Ｅ

遺　物　甕（１）を資料化した。他に古墳時代土師器壺・杯９片を出土しているが非掲載である。（遺物観察表Ｐ28）

所　見　出土遺物は古墳時代前期の土器であるが、埋没土は後世のものと思われる。

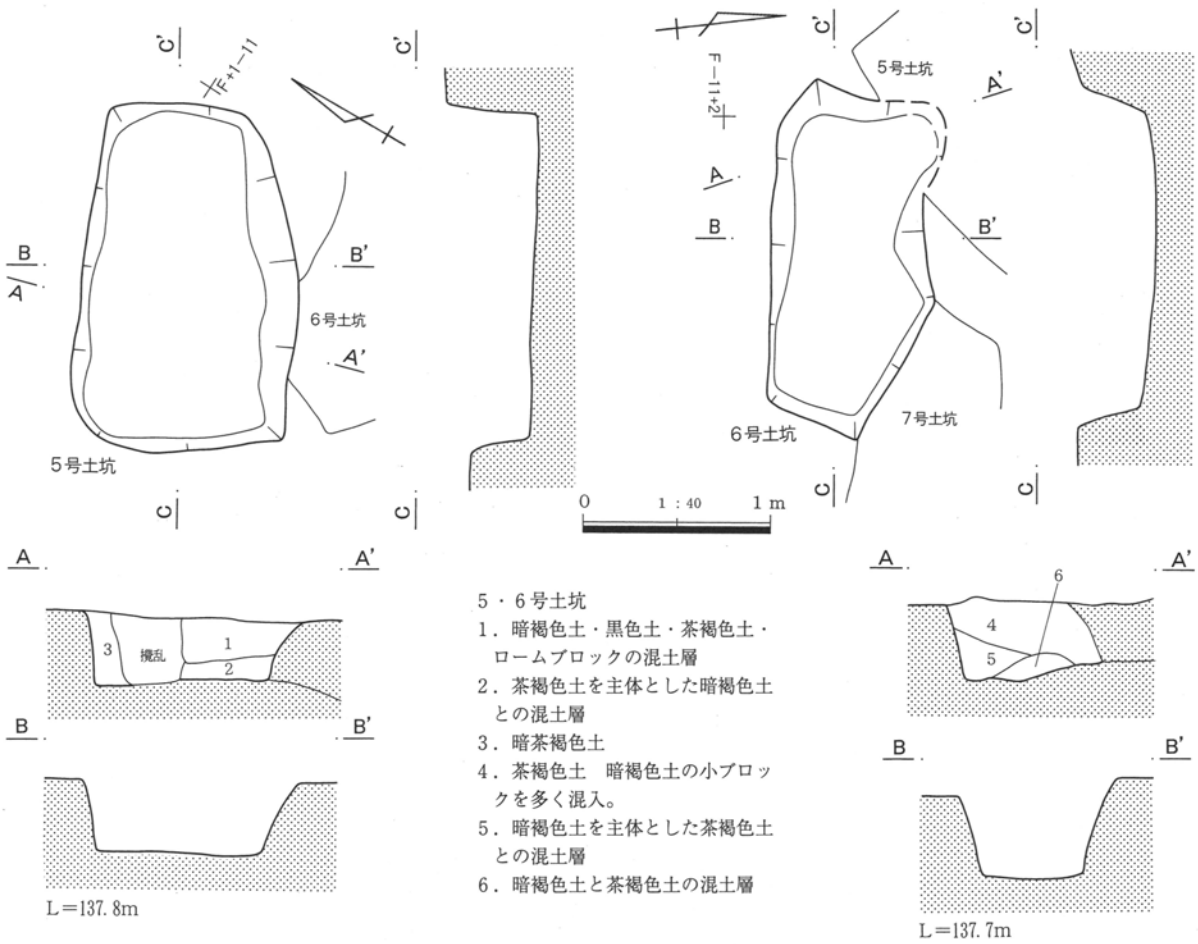
６号土坑（第106・107図）

位　置　Ｆ－11グリッド　**写　真**　ＰＬ－23

概　要　調査区の中央から西側寄りに位置する。

重　複　５号・７号土坑と重複する。５号土坑には後出するが、７号土坑との前後関係は不明である。南側に４号溝が接する。

形　状　平面形は長方形を基本とするが北壁は内外に出入りする。規模は長さ1.76m、幅0.78～0.84m、深さ0.44mを測る。埋没土は上・中層に茶褐色土を、下層に暗褐色土と茶褐色土の混土層が見られた。

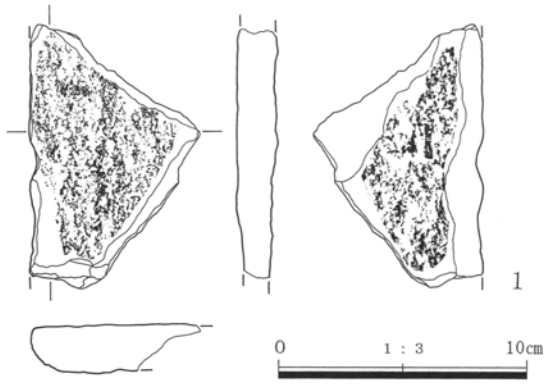


第106図　５号・６号土坑と出土遺物

方　位　N－76°－W

遺　物　縁泥片岩製板碑破片１点（１）を、埋没土から出土している。（遺物観察表Ｐ29）

所　見　中世以降の掘削である。



第107図　６号土坑 出土遺物

７号土坑（第108図）

位　置　F－11グリッド　　**写　真**　ＰＬ－23

概　要　調査区の中央から西側寄りに位置する。

重　複　南西側にある６号土坑と重複するが、前後関係は不明である。

形　状　平面形は東西に長軸を有する短冊状を呈するが、各辺とも不規則である。規模は長さ4.38m、幅0.85m、深さ0.38mである。埋没土の記録を欠く。

方　位　N－76°－W

所　見　出土遺物がなく、年代推定の根拠はない。

８号土坑（第108図）

位　置　F－11グリッド　　**写　真**　ＰＬ－23

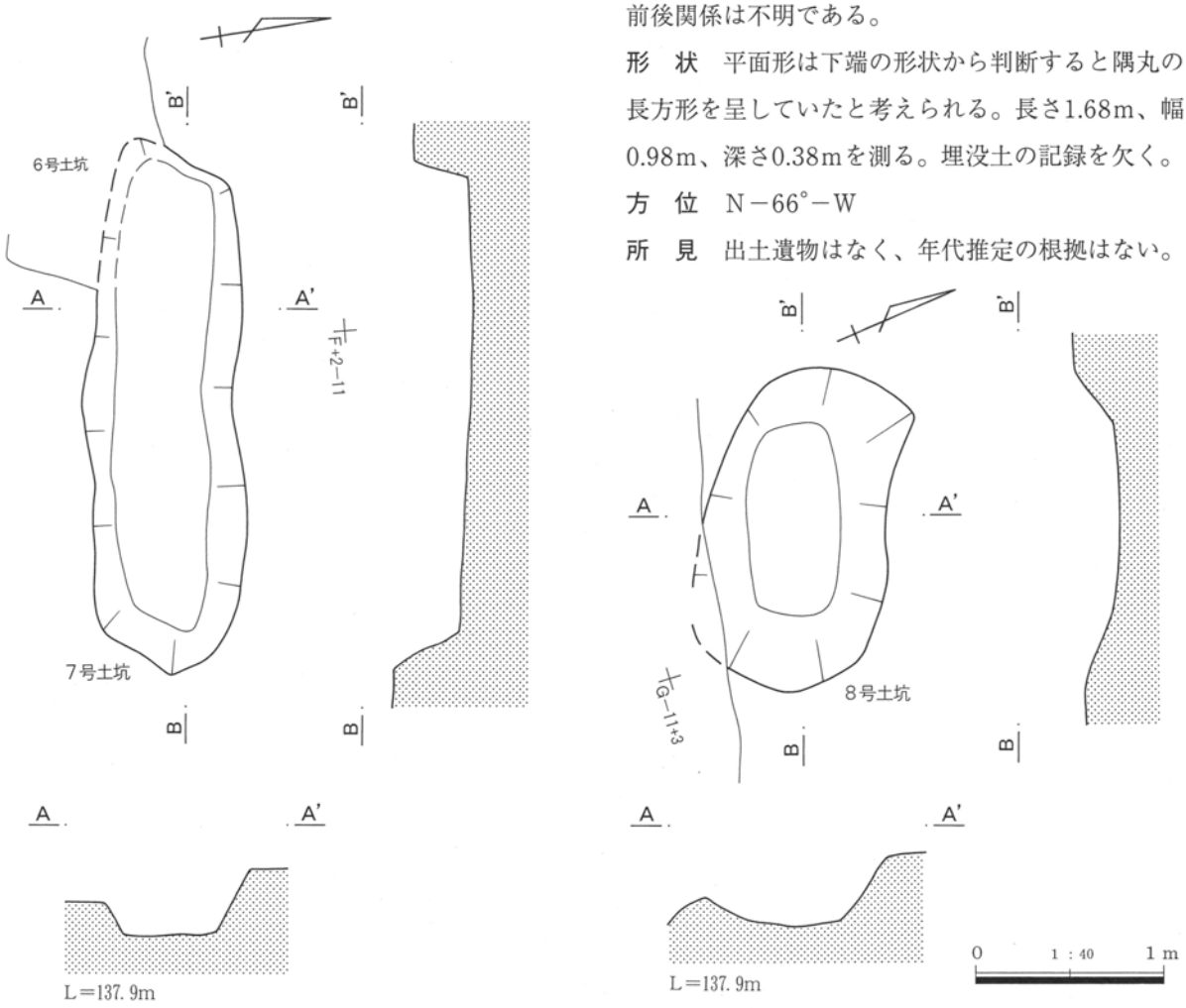
概　要　調査区の中央から西側寄りに位置する。

重　複　南側にある４号溝とわずかに重複するが、前後関係は不明である。

形　状　平面形は下端の形状から判断すると隅丸の長方形を呈していたと考えられる。長さ1.68m、幅0.98m、深さ0.38mを測る。埋没土の記録を欠く。

方　位　N－66°－W

所　見　出土遺物はなく、年代推定の根拠はない。



第108図　７号・８号土坑

10号土坑（第109図）

位　置　K－15グリッド　**写　真**　PL－23

概　要　調査区の中央、９号住居の北に接している。浅く不明瞭な遺構であった。

形　状　南西部分に一部乱れた部分があるが平面形は長円形を基本としたものと考えられる。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかであった。規模は、長さ1.62m、幅1.32m、深さ0.17mを測る。埋没土については記録を欠いている。

方　位　N－37°－E

遺　物　古墳時代の土師器甑（１）が中央の底面から６～10cm離れて出土し、1/2個体まで復元できた。杯（２）は埋没土内の出土である。この他に、土師器11片が非掲載である。（遺物観察表P29）

所　見　出土遺物は古墳時代のものであるが、土坑の掘削時期との関係は断定できない。

（４）　火葬跡

11号土坑（第109図）

位　置　T－３グリッド　**写　真**　PL－23

概　要　調査区北側寄りに位置する。

重　複　１号溝と重複、これに先行する。

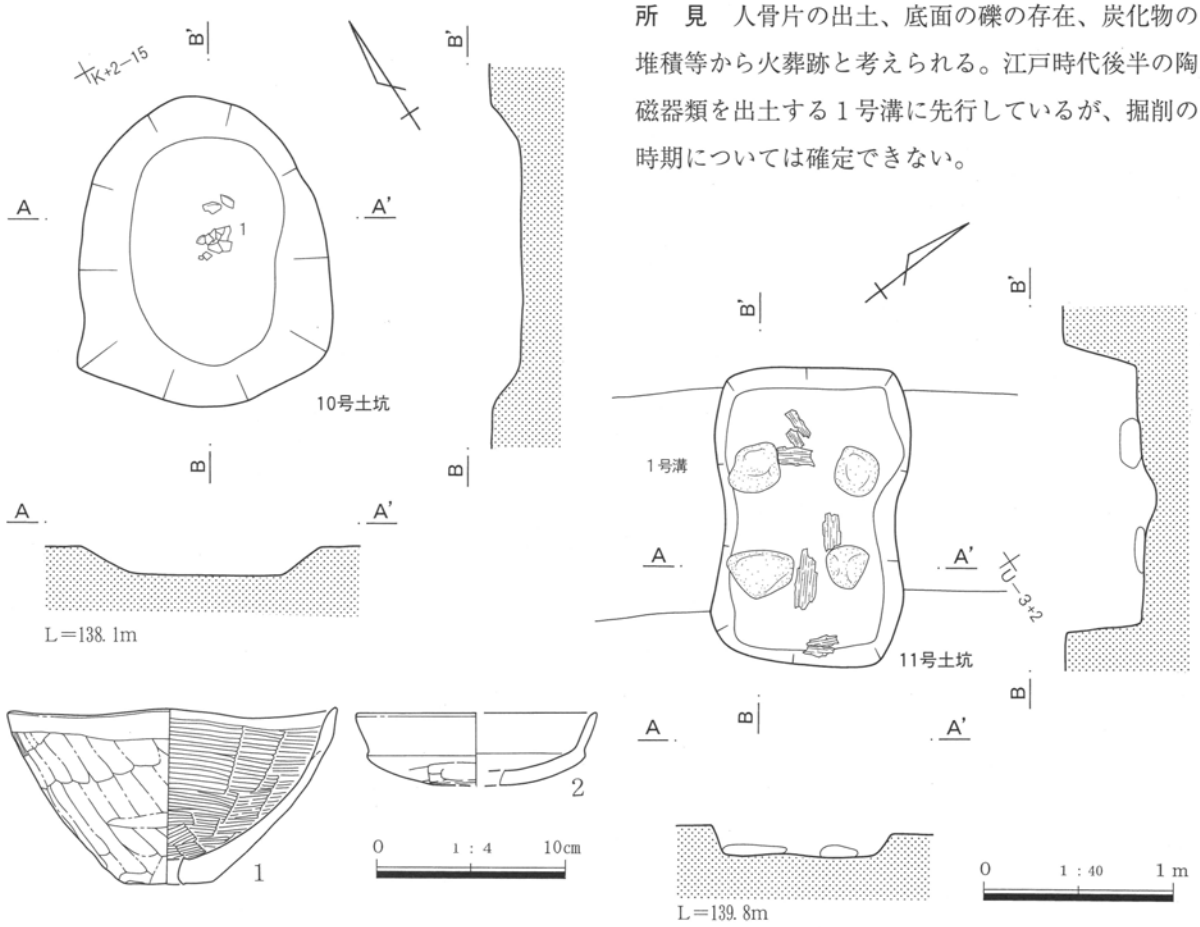
形　状　平面形は長方形を基本にしている。規模は長さ1.54m、幅1.03m、深さ0.47mを測る。底面は全体が火熱のため焼土化している。また、底面には４箇所に長軸20～25cmの礫を規則性を持って据え置き、焼き台としていた。通風のため底面中央を短軸方向に掘り窪めてある。

埋没土は暗褐色土で、上層にローム粒混じり、中層にローム粒を多量に含み、中・下層に炭化物を主体としたローム粒との混土層、下層に多量の炭化材・炭化物が堆積していた。

方　位　N－46°－E

遺　物　細片化した焼骨が出土している。

所　見　人骨片の出土、底面の礫の存在、炭化物の堆積等から火葬跡と考えられる。江戸時代後半の陶磁器類を出土する１号溝に先行しているが、掘削の時期については確定できない。



第109図　10号土坑と出土遺物・11号土坑

（５）溝

１号溝（第110～112図）

位　置　Ｕ－１～Ｒ－17グリッド

写　真　ＰＬ－24・46

概　要　調査区東側寄りを南北方向に延びて、隣接する谷津遺跡へとつながっている。

重　複　３号墳、11号土坑と重複する。いずれの遺構より後出する。

形　状　南北方向に延びる溝で、長さ86ｍにわたって検出した。南北両端とも、調査区域外に至って群馬県教育委員会調査区内に続き、両端ともさらに区域外へ伸びて限界が確認できていない。県教育委員会の調査では、本調査区境界から南方約30ｍ部分が、北側には13ｍ部分が延長して検出されている。

走向は西側に張る弧状を呈し、Ｒ－７グリッド付近を頂点として、これより北側はＮ－39°－Ｅ、これより南側はＮ－13°－Ｅである。

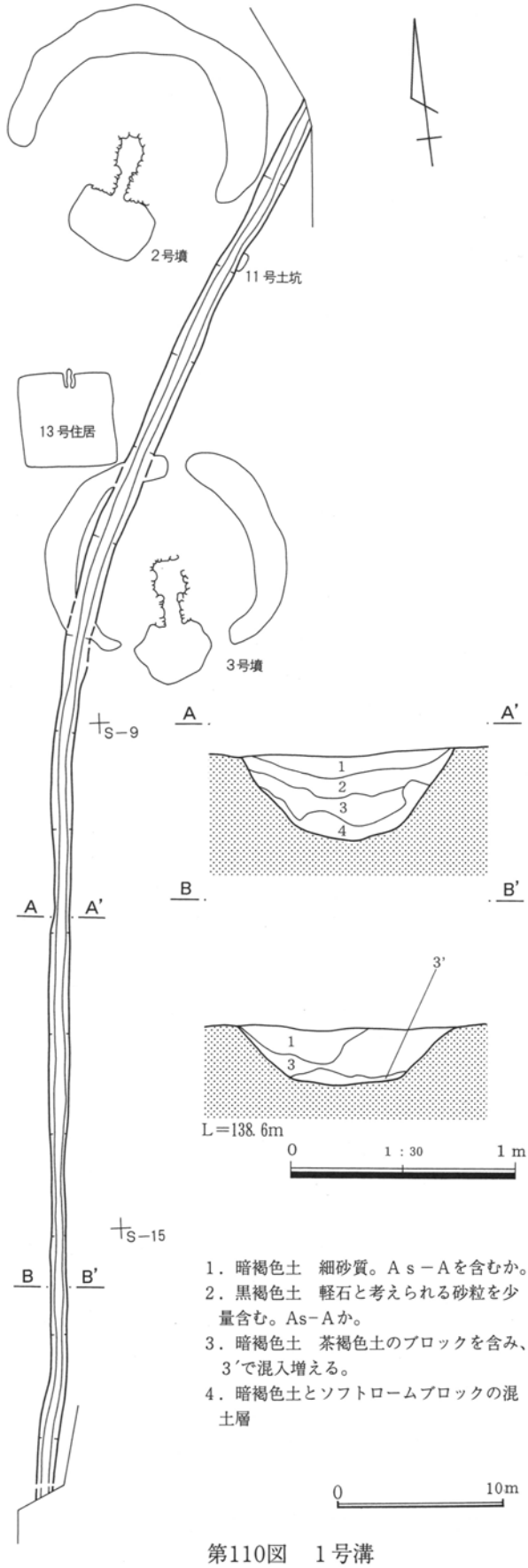
断面形は逆台形状を呈し、確認時の上幅は0.95～1.65ｍ、下幅は0.50～0.70ｍ、深さ0.17～0.59ｍを測った。底面レベルは地山の傾斜に沿って南側へ低くなっている。底面の標高は北端で139.53ｍ、南端で137.66ｍで、比高差は1.87ｍである。

埋没土は暗褐色土、黒褐色土が自然堆積していた。流水の痕跡は認められない。

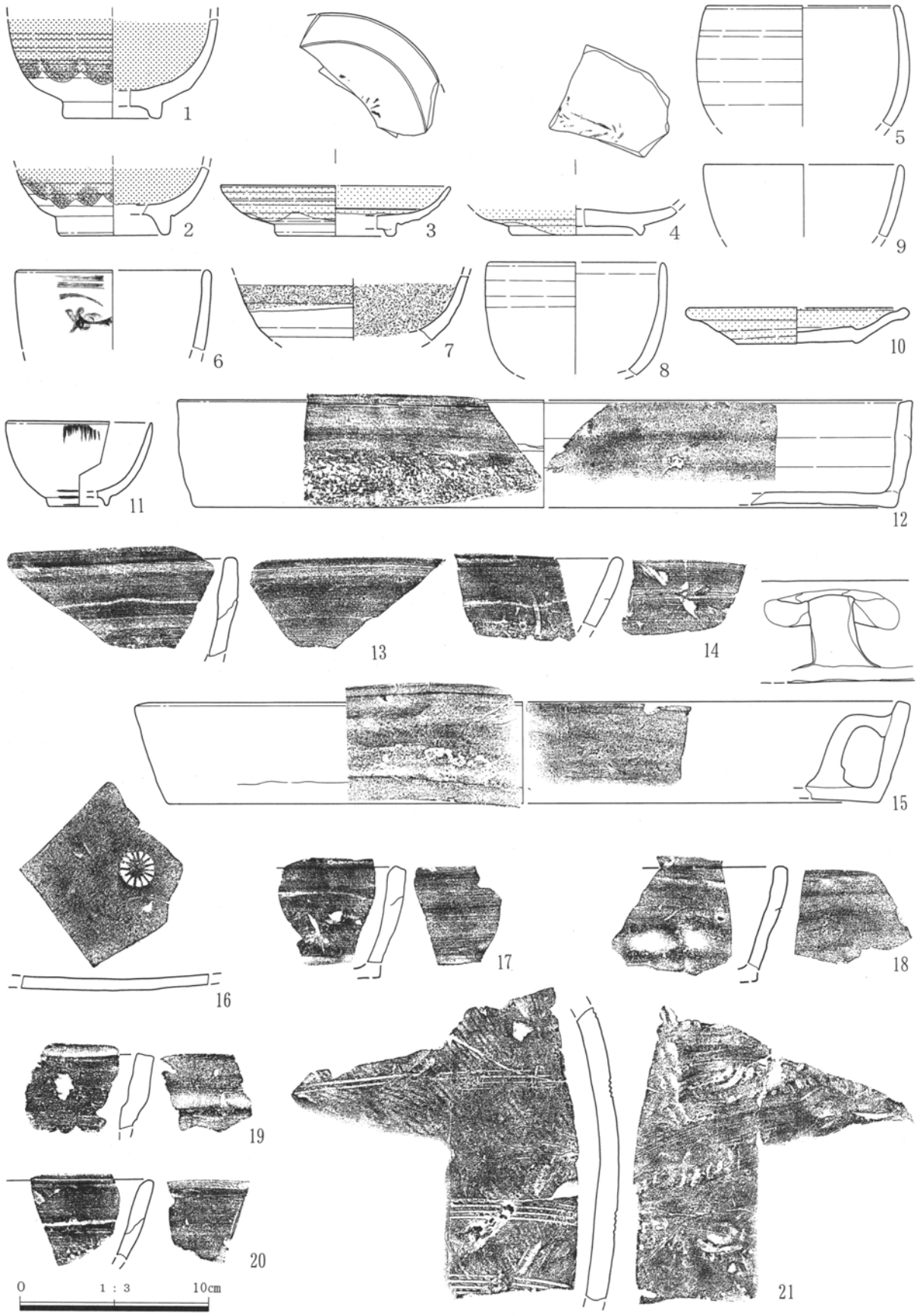
遺　物　埋没土中から多量の古墳時代の土師器・須恵器とともに、近世の遺物を出土した。大破片は少なかったが、陶磁器（１～11）、軟質陶器（12～21）、砥石（22～27）を図示した。

この他に土師器杯・甕59片、須恵器甕５片、軟質陶器59片が非掲載である。（遺物観察表Ｐ29・30）

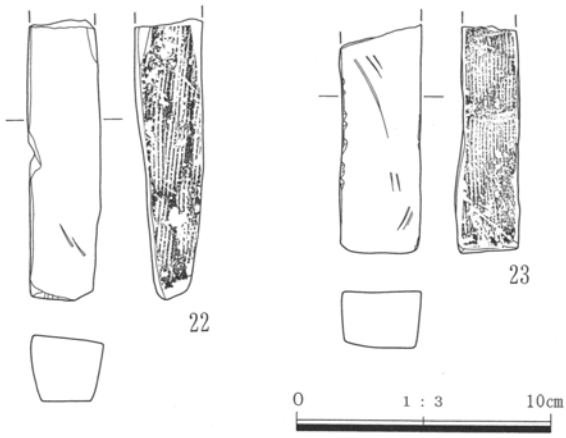
所　見　出土遺物の年代から近世以降の掘削が考えられる。地境的な溝と思われ、限られた調査範囲ではあるが、この溝の東側からは掘立柱建物や井戸など、近世と思われる遺構は確認されていない。



第110図　１号溝



第111図　１号溝 出土遺物（１）



２号溝（第113図）

位　置　Q－17・18グリッド

写　真　ＰＬ－24

概　要　調査区南東部分で検出された。西側10.0mの位置に、規模・埋没土の類似する３号溝が、ほぼ等しい走向で並んでいる。

重　複　なし

形　状　南北方向の溝である。わずかに弧をなすがほぼ直線を指向する。長さは4.30mを測る。確認面における上端の幅は0.58～0.90m、深さは0.28～0.50mである。埋没土は黒色土が堆積しており混入物の内容により細分できた。

方　位　N－15°－W

遺　物　埋没土から古墳時代の土師器甕・杯の破片11片が出土している。

所　見　本遺構は耕作あるいは土地区画等に起因して掘削されたものと考えられる。土師器片の出土はあるが、埋没土は古代の遺構と類似するが、締まりなく、近世以降の施設と考えたい。

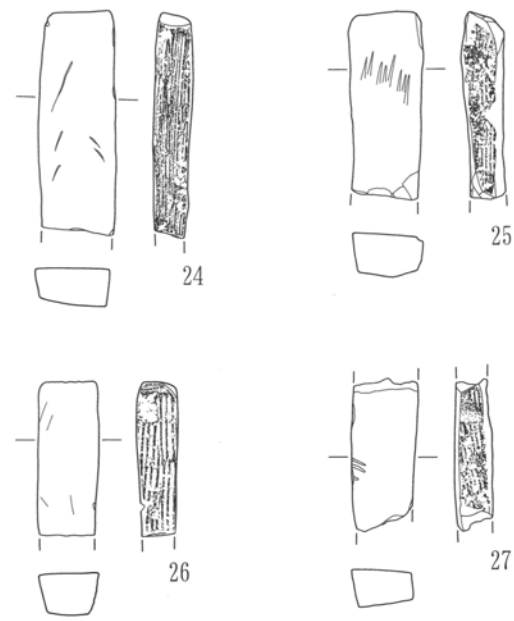
３号溝（第114図）

位　置　O－18・19グリッド

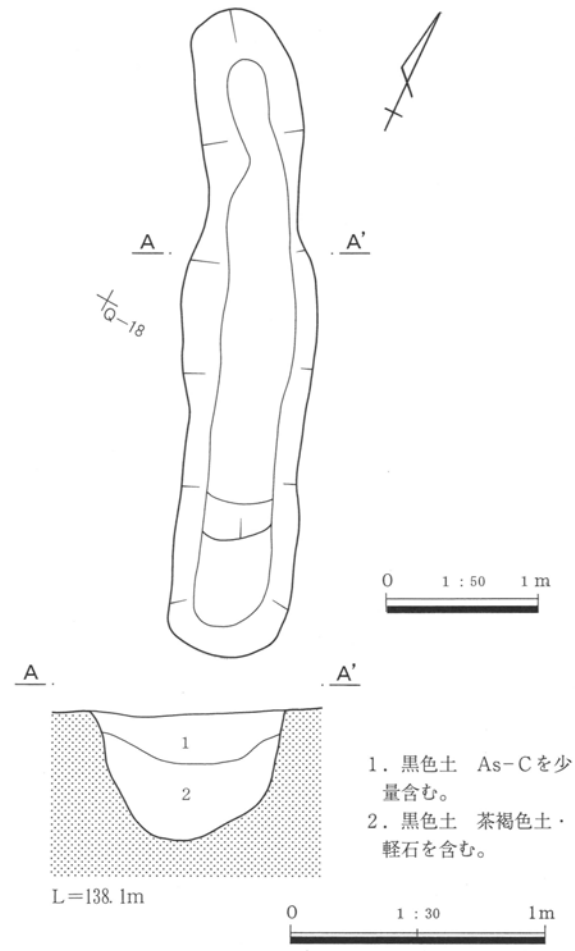
写　真　ＰＬ－24

概　要　調査区南東部分で検出された。東側10mに走向を同じくして２号溝が位置する。

重　複　なし



第112図　１号溝 出土遺物（２）



第113図　２号溝

形　状　南北方向の溝である。ほぼ直線を指向する。長さは4.10mを測る。確認面における上端の幅は0.68～0.82m、深さ0.28～0.50mで、中央部分から南側寄りは北側部分に比べ0.10～0.14m深い。

埋没土は大半が黒色土で、最下位に茶褐色土と黒色土の混土層が堆積していた。

方　位　N－14°－W

遺　物　埋没土中から古墳時代の甕を中心とした土師器52片、軟質陶器３片が出土しているが、図示に耐える遺物はなかった。

所　見　本遺構は２号溝と同時期の施設で、耕作あるいは土地区画等に起因して掘削されたものと考えられる。江戸時代以降の施設と考えたい

４号溝（第115・116図）

位　置　D～H－11グリッド

写　真　PL－24

概　要　調査区西側の、緩やかな傾斜地に位置する。長軸方向の同じ５号溝が北西側に並んでいる。５号～８号土坑が北側に近接する。

重　複　８号土坑とわずかに重複する。前後関係は不明である。

形　状　地山の傾斜にほぼ直行する東西方向の溝である。走向はほぼ直線を指向する。長さは18.0mを測る。東端から西端11.3mまでは南壁が外方に緩やかに開き、中位に変換点を有する。確認面における上端の幅は0.72～1.88m、深さ0.22～0.51mである。

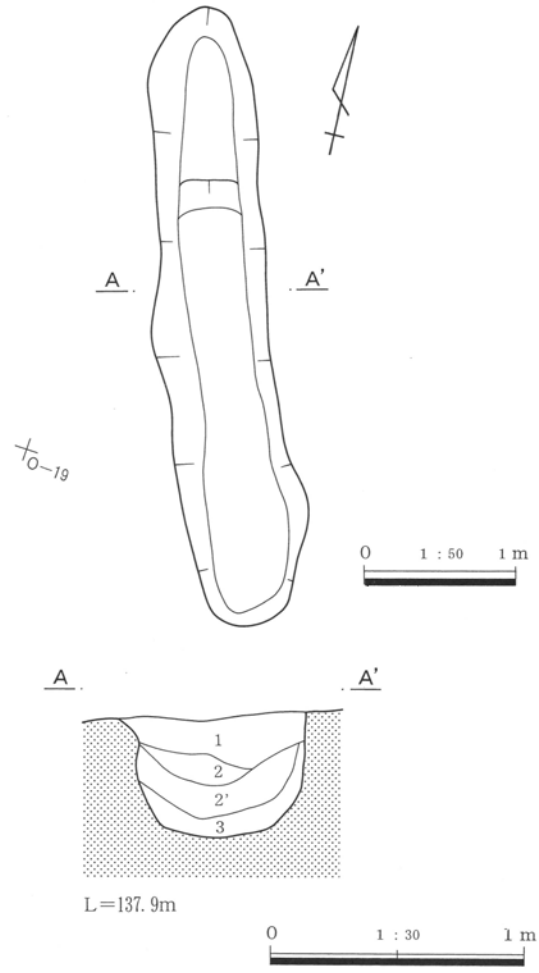
流水の痕跡は認められなかった。

方　位　N－73°－W

遺　物　埋没土中出土の陶磁器（１～８）、軟質陶器（９～11）、煙管（12）を図示した。

この他土師器13片、須恵器杯１片、角閃石安山岩礫片、軟質陶器３片が出土している。（遺物観察表P31）

所　見　本遺構は溝状の遺構で、耕作等の土地利用に起因して掘削されたと考えられる。出土遺物の年代から近世以降の溝と考えられる。



1．黒色土　As－Cを含む。
2．黒色土　茶褐色土を混入。2′では軽石も混じる。
3．茶褐色土と黒色土の混土層

第114図　３号溝

５号溝（第115図）

位　置　D・E－11グリッド

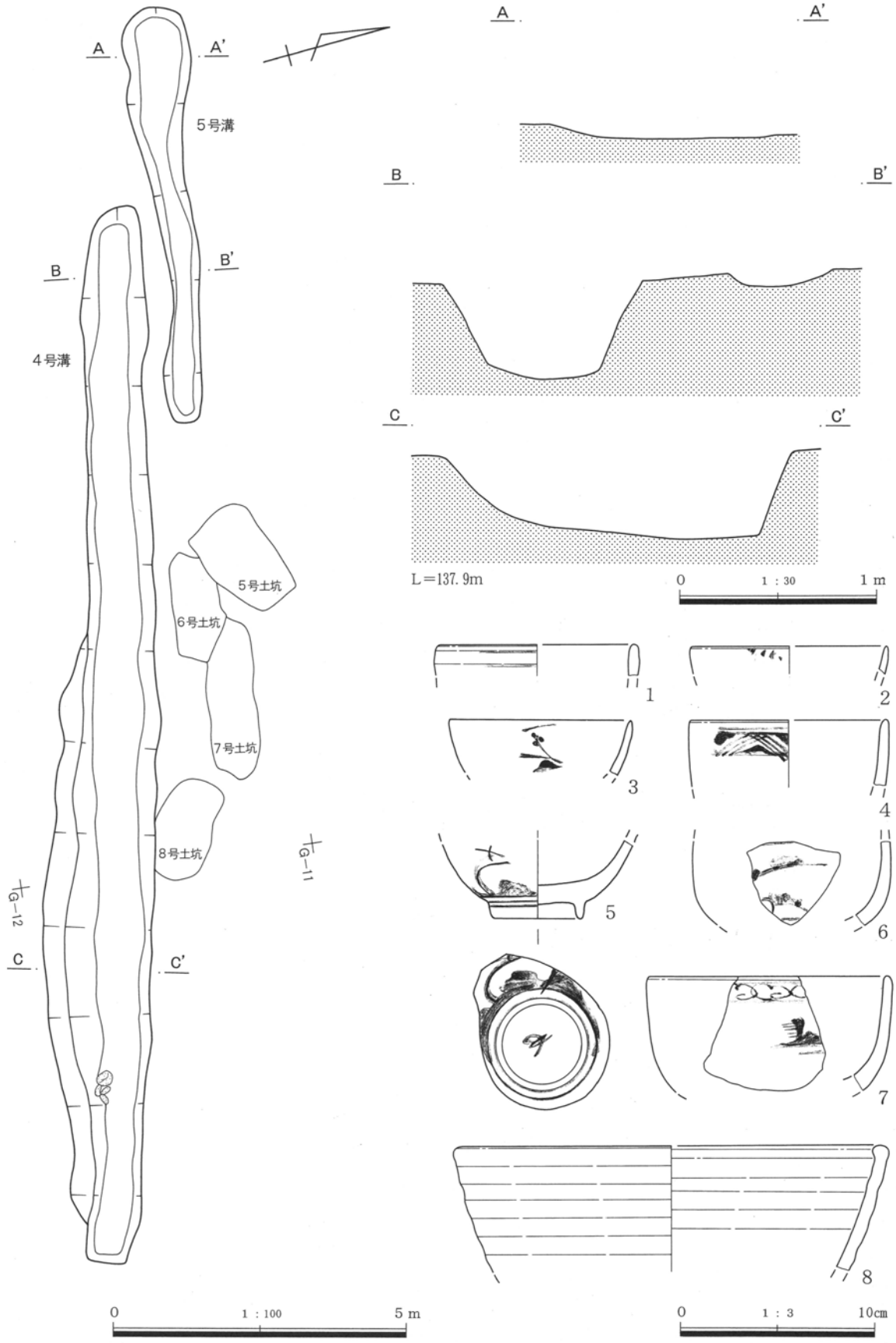
概　要　調査区西隅の緩やかな傾斜地に位置する。軸方向の同じ４号溝が南側に近接する。

重　複　なし

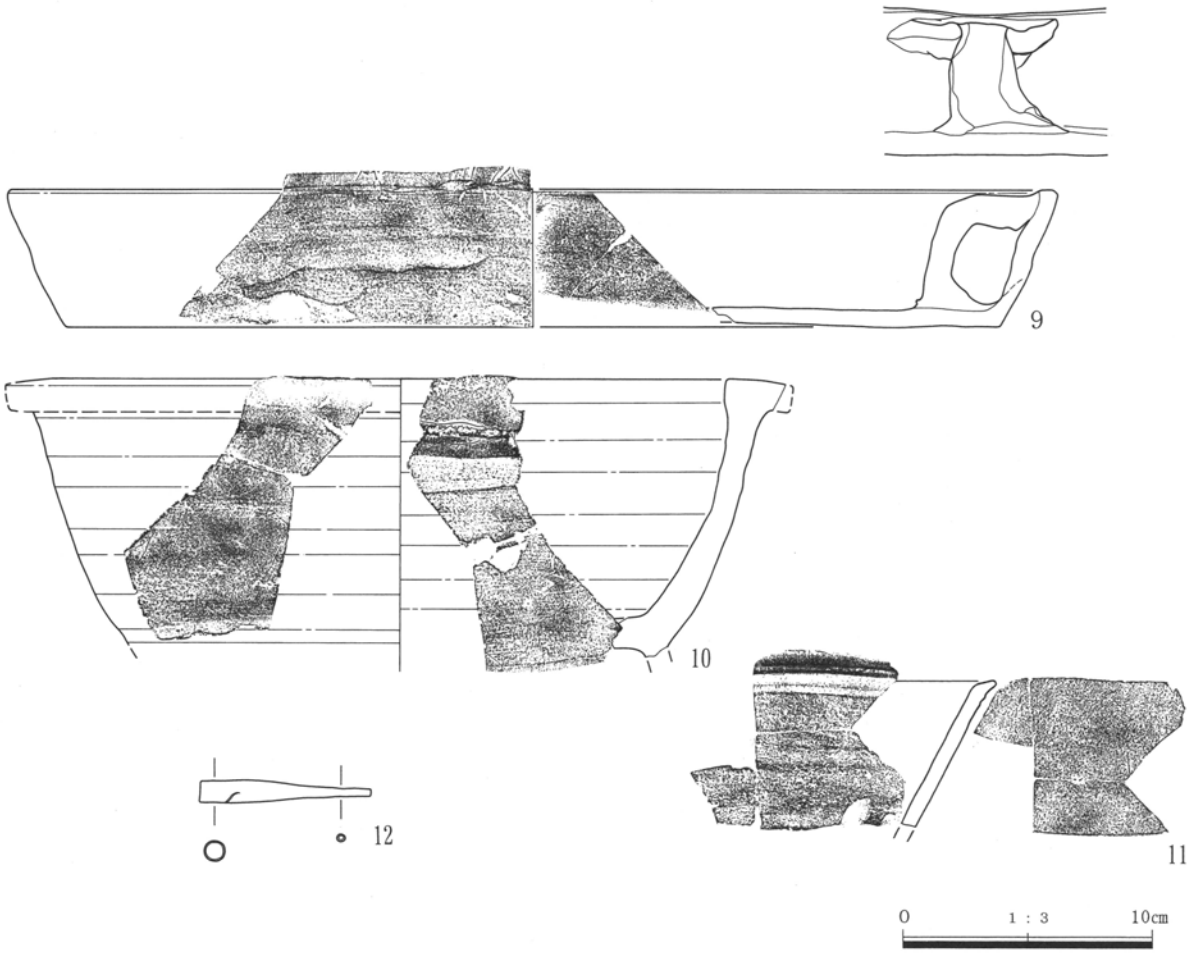
形　状　わずかに蛇行している。平行して並ぶ４号溝と比べ著しく浅い。長さは7.48mを検出したが、東西両側に延長すると思われる。確認面における上幅は、0.46～1.12m、深さ0.05～0.09mである。

方　位　N－78°－W

所　見　出土遺物はなく掘削時期は確定できないが、４号溝と近接する時期の施設と考えたい。



第115図　４号・５号溝と４号溝 出土遺物



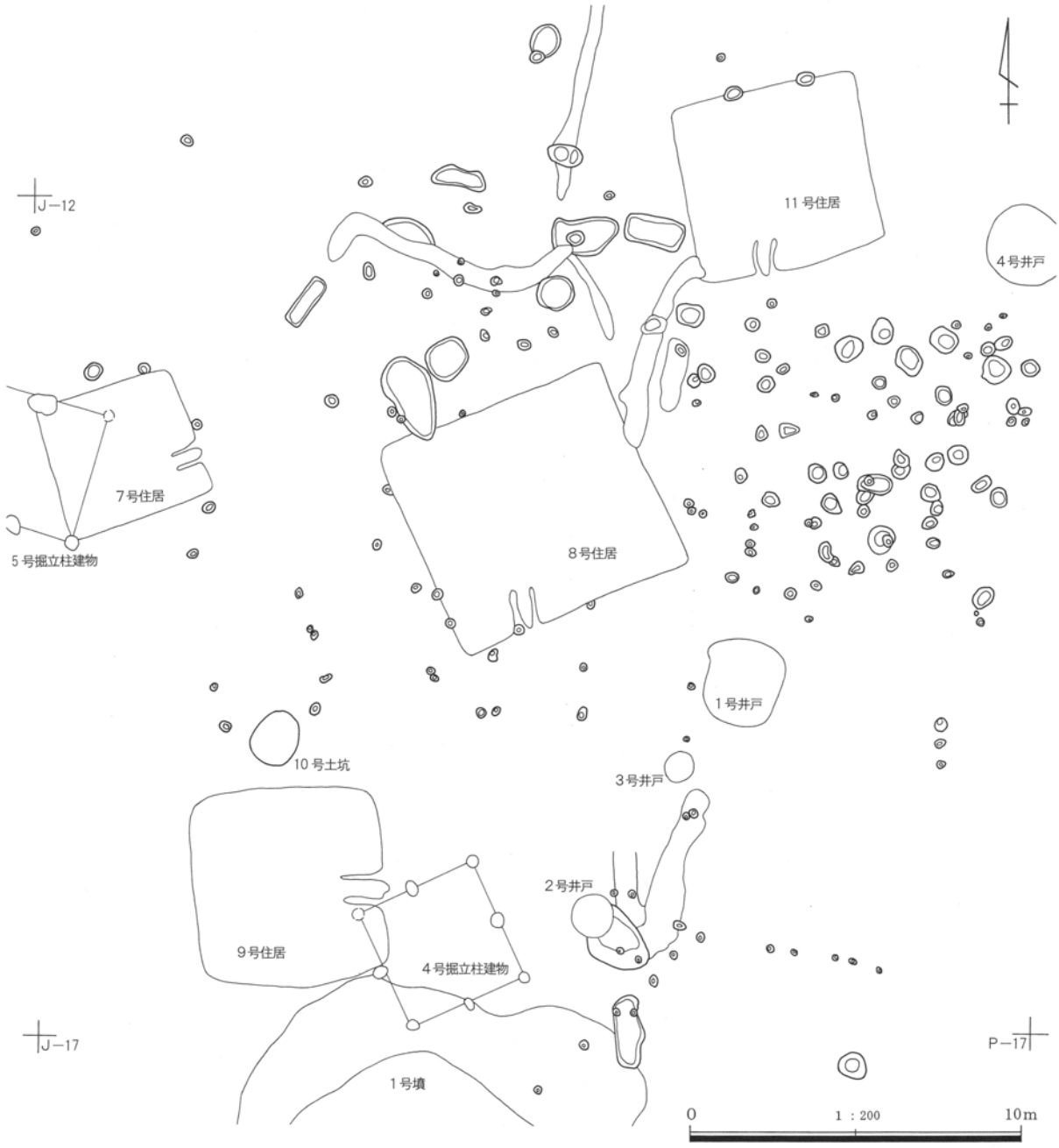
第116図　４号溝 出土遺物（２）

（６）小穴群（第117図）

調査区の中央東寄り、O－13グリッド周辺の約20m四方の区域では、多数のピット状・土坑状の掘り込みを調査している。周辺には１号・４号井戸があり、西側は近世遺物出土の多い一画であった。ここで掘立柱建物の復元を試みたが、確実な建物を把握することはできなかった。付近は調査前には果樹の植えられていた地点であり、各ピットの埋没土は表土に近く、これらの掘り込みを調査段階では撹乱と判断し、便宜上、小穴群と呼称した。この小穴群の中に建物跡が潜んでいる可能性もあるため、第117図に周辺を含めた全体の様相を示した。

小穴はこの一画だけでも100基以上あり、重複する竪穴住居などの上にもかなりの数が存在していたはずである。小穴の規模も径15cm前後のものから50cmを超えるものまで、まちまちである。一部で小穴の並ぶ柱列状配置が見られる。杭を打ち込んだ痕跡のような小規模小穴に多く見られるものだが、調査前の地割りに沿ったものであり、近世の施設と推定するには躊躇する。

この他にも北西部分や６号掘立柱建物周辺にも土坑状・ピット状の掘り込みが散見できるが、埋没土は小穴群と同様で、配置も規則的なものはない。



第117図　小穴群

（７）遺構外出土の遺物（第118図）

近世以降の遺物で、先行する時期の遺構に混入したと確定できる遺物や遺構に伴わない遺物をここで一括して扱った。陶磁器類は小破片中心に22点を図示した。他に鉄器３点、石製品２点がある。

古代の遺構に混入するものとして古墳出土の遺物がある。墳丘にゴミとして寄せられたものと考えられるが、３号墳出土遺物は重複する１号溝に伴う可能性がある。

遺構に伴わない遺物としてはM−13グリッドで採取された破片の多さが目立つ。近世の陶磁器については肥料として町場から持ち込まれる人糞尿に混じる可能性があるが、本遺跡の場合、全域に散るような状態ではなく、集中して出土していることから周辺に該期の遺構が存在していたものと考えたい。

出土遺物の傾向を概観すると、磁器の少なさが目立つようである。また、かわらけ・古銭が皆無なことから、墓域とは離れた地点との推定もできよう。

第118図　遺構外出土の遺物

第5章　分　析

第1節　前橋市泉沢谷津遺跡出土のイネ種子のＤＮＡ分析

佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所）
株式会社古環境研究所

1．はじめに

前橋市泉沢町、泉沢谷津遺跡（古墳時代＝５世紀後半から６世紀初め）の住居址から出土した稲種子のＤＮＡ分析をおこなった。ここではその結果を概説する。ＤＮＡ分析では、種のみならず亜種や品種の同定が可能であり、最近ではイネのモチ・ウルチ性の判別なども可能になりつつある。また、古墳時代は一般には甑の登場によってモチを蒸す文化が登場した時期ともいわれてきたが、確たる証拠はない。そこでここでは品種のほか、モチ・ウルチの判別を試みた。

2．分析材料と方法

分析に供したのは同住居址（２号住居）内床下土坑から出土した６粒のイネ種子である。これらはいずれも籾殻のはずれた玄米の状態で出土しており、またその表面は黒化していた。これら６粒の種子について、マクロレンズを装着したデジタルカメラで写真撮影を行い、その長さおよび幅を計測した（ＰＬ48、１）。

その後これらを１粒ずつすりつぶし全ＤＮＡを抽出した。ここで全ＤＮＡとは含まれるＤＮＡを核、葉緑体などと区別せずに抽出したものをいう。ＤＮＡ抽出法は中村ら（1995）のアルカリＳＤＳ抽出法によった。抽出されたＤＮＡは、以下の３つの領域について、ＰＣＲ法によって増幅させた。

１）　ランダムプライマーの一つであるCMNB－20によって増幅される領域。染色体上の位置は不明ながら、以前よりジャポニカ品種を温帯型と熱帯型に分けるのに使われてきた。

２）　葉緑体DNAのPS－ID領域。これはNakamura et al.(1997)によって開発された、種あるいは品種群を同定できる葉緑体ＤＮＡ領域の一部分である。

３）　核ＤＮＡにあり、アミロース合成にかかわる遺伝子座（Wx遺伝子座）の第２エクソン部分。

領域１）については、増幅されたＤＮＡ断片を電気泳動し、得られたバンドの位置により、当該イネ種子が熱帯ジャポニカに属するか温帯ジャポニカに属するかを判定した。領域２）および３）については、２回のＰＣＲ増幅後、ダイレクトシーケンス法により当該部分の塩基配列を明らかにした。

3．分析結果および考察

１）　種子の外部形態

６粒の種子の形態は表７に示すように、全体に表面はしっかり保存されていた。それぞれのサイズは表１のようで、長さは4.1㎜から5.2㎜、幅は2.6㎜から3.5㎜、さらに長幅比は1.29から1.77と、ひとつの遺構から出土した種子としては大きなばらつきを示した。なお形態的には供試サンプルは全体に丸みをおびているといえる。

第７表　炭化米サンプルのサイズ

No	長さ	幅	長幅比
1	4.6	2.6	1.77
2	4.5	3.5	1.29
3	5.2	3.4	1.53
4	4.1	2.6	1.58
5	5.0	3.0	1.67

２）　ＤＮＡ分析の結果

ＣＭＮＢ－20による増幅の結果をＰＬ48、２－１に示す。サンプル２、３、５および６が、温帯ジャポニカ系統と同じ位置のバンドを示した。これら４点については温帯ジャポニカ型の遺伝子をもっていたものと考えられる。なお、今回は熱帯ジャポニカの遺伝子を確認するＣＭＮＢ－22についても増幅をおこなったが、バンドは検出されなかった。このた

めこれらが熱帯ジャポニカの遺伝子をもつ（またはもたない）ことの確認はできなかった。よって、これら４粒の品種判定は保留する。

葉緑体ＤＮＡの一部であるPS-ID領域の増幅の結果をＰＬ48、２－２に示す。写真のように、供試６点のすべてにおいて、理論的に予測される位置にバンドを生じた。これらのＤＮＡ断片について配列決定を試みたが信頼性の高い結果は得られなかった。このため品種群の判定を保留する。

アミロース合成遺伝子は、アミロースを合成する遺伝子で、これが正常に機能した場合、その胚乳にはアミロースおよびアミロペクチンが合成され、いわゆるウルチとなる。一方この遺伝子の機能に障害が生じた場合は、アミロースは合成されずにモチ性ハイ乳となる。つまりこの遺伝子は胚乳のモチ・ウルチ性を決める遺伝子である。従来知られるモチ性遺伝子には、この遺伝子領域の第２エクソンの上流部分に23塩基対の挿入があるものが知られる。この場合、モチ遺伝子はその断片の長さ上、正常のウルチ遺伝子より23塩基分長いことになる。

アミロース合成遺伝子の第２エクソン部分の増幅の結果はＰＬ48、２－３に示すとおりで、サンプル３および５については、モチ遺伝子と同じサイズの断片が検出できた。よってこれらがモチイネであった可能性が指摘できる。ただし、他のサンプルについては、モチ遺伝子、ウルチ遺伝子に相当するサイズの断片が検出できなかった。これらについてはモチであったかウルチであったかの判定はできなかった。

今回のサンプル中２粒がモチ性胚乳をもっていた可能性が指摘できたことになるが、もしこれが事実であるなら、この報告は世界初のＤＮＡ分析によるモチ性胚乳の検出例となる。今後この結果を確定するための追試をおこないたい。

参考文献

Nakamura, I., N. Kameya, Y. Kato, S. Yamanaka, H. Jomori and Y. I. Sato (1997) : A proposal for identifying the short ID sequence which ad dresses the plastid subtype of higher plants. Breed. Sci. 47, 385-388.

中村郁郎（1995）ＤＮＡフィンガープリント法.「植物遺伝育種学実験法」朝倉書店．p.113－117

第２節　泉沢谷津遺跡10号住居跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生（株式会社パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは、５世紀後半の焼失住居跡10号住居跡から出土した炭化材８点の樹種同定結果を報告する。当遺跡は、赤城山南麓端部の標高140ｍの台地上に立地し、縄文時代から近世の遺構が検出されている。古墳時代は、樹種調査を行ったこの住居跡を含め１３軒の竪穴住居跡があり、鉄製鎌や多量の炭化米が出土した事から、農耕集落であったことが想定されている。そして、これらの住居跡に重複はみられず、すべて焼失住居跡である事から、集落の存続は比較的短い期間の同時期であったと考えられている。このような集落で、どのような樹種が建築材として利用されていたのかを明らかにする。

２．方法

同定は、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の３方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、３断面を５㎜角以下の大きさに整え、直径１㎝の真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った（ＰＬ47）。

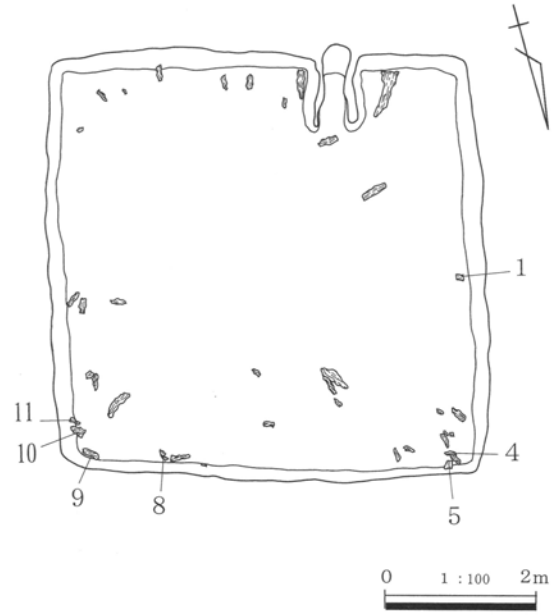
同定した炭化材は、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

３．結果

同定結果の一覧を、次頁の第８表に示した。

炭化材８試料は、クヌギ節（№４・５・９・10・11・№ナシ）６点、コナラ節（№１・８・№ナシ）３点であった。

№ナシの試料には、クヌギ節とコナラ節の材片が保存されていた。



炭化材の出土位置

炭化材の横断面の大きさは、放射方向の長さが4.5～9.5㎝、接線方向の幅が３㎝前後あり、樹芯部は外れていて、いずれも比較的大きな材の破片であった。クヌギ節やコナラ節の材組織には、広放射組織があり、この部分で放射方向に割れ易い。炭化材は、炭化後に自然に広放射組織の部分で割れて一部が残存したのかも知れないが、横断面の観察からは太い幹材を分割・製材して利用していた可能性も高いと思われる。№４は横断面において、年輪線を斜めに横切る滑らかな一線で裁ち切られていたので、この面は加工面であるかもしれない。材組織からは、年輪幅が１㎜前後の非常に狭いぬか目材が多く、年輪数も50～70以上が数えられる試料が複数あった。材組織からも、樹齢の古い大木を利用していた可能性が伺えた。ただし№８は、直径７㎝の樹芯部を含む節部の材であった。

材組織記載

コナラ属コナラ亜属クヌギ節　Quercus subgen. Quercus sect. Cerris　ブナ科　ＰＬ47　1a-1c（№10）2（№４）3（№ナシ）

年輪の始めに大型の管孔が１～２層配列し、その後は厚壁で孔口が丸い小型の管孔が単独で放射方向

に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にチロースが発達している。放射組織はほぼ同性、単列と集合状があり、道管との壁孔は大きくて交互状や柵状に配列している。

クヌギ節はクヌギとアベマキが属し、いずれの種も暖帯の山林に普通の落葉高木で、二次林の主要樹ともなる。

コナラ属コナラ亜属コナラ節　Quercus subgen. Quercus sect. Prinus　ブナ科　ＰＬ47　4(№10) 5a-5c(№８)

年輪の始めに大型の管孔が１～２層配列し、その後は薄壁で孔口は角形の小型の管孔が火炎状や放射状に配列する環孔材。放射断面と接線断面の材組織は、前述のクヌギ節と同様である。

コナラ節はカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワが属し、暖帯から温帯に生育する落葉高木で、クヌギ節と共に二次林要素でもある。

４．まとめ

関東一円の古墳時代の住居跡炭化材樹種は、クヌギ節とコナラ節が多いことはよく知られているが、当住居跡の調査でも同様な傾向が確認された。

10号住居跡では、クヌギ節（６試料）がコナラ節（３試料）より多く利用されていたようである。また、両樹種ともに、年輪幅が狭いぬか目材が多く、年輪数が50～70年輪以上数えられる樹齢の多い材が使われていた。丸木の形状で出土した材は１試料（№８）だけで節部材であったが、それ以外の炭化材は横断面の形状から比較的太い材を分割して利用した可能性が類推された。

クヌギ節とコナラ節は、人為作用により形成される二次林の主要樹種である事から、この２分類群の出土は二次林の成立や拡大の推察に使われる事が多い。しかし、当住居跡の炭化材の観察からは、成長が良好な二次林に生育していた材よりは、自然林に長年生育していた材ではないかと推測された。

第８表　炭化材同定結果一覧

資　料	樹　種	残存横断面（cm） 放射径×接線径	備　　考
№１	コナラ節	5.0×3.5	年輪幅は１㎜前後
№４	クヌギ節	4.5×3.0	28年輪以上あり
№５	クヌギ節	7.5×3.5	年輪幅は１～２㎜、58年輪ほどあり
№８	コナラ節	直径　7.0	節部、芯持ち材
№９	クヌギ節	8.0×3.0	年輪幅は１㎜前後、約72年輪あり
№10	クヌギ節	6.0×3.5	
№11	クヌギ節	4.5×3.0	35年輪以上あり
№ナシ	クヌギ節	9.5×4.0	年輪幅は１㎜前後、65年輪以上あり
	コナラ節	7.0×3.0	70年輪以上あり

第６章　成果と問題点

第１節　古墳について

泉沢谷津遺跡の調査では３基の円墳を調査した。東側に隣接する谷津遺跡で２基、両遺跡の北側に続く台地上でも荒砥北部遺跡調査会により10基の古墳が調査されている。また、台地東縁には１基が現存する。調査区の設定状況からすると台地上の全面に20基前後の古墳が分布していたことが予想される。

群の形成状況は、先行して造営された古墳を避けるような占地状況が遺跡調査会調査区部分で一部見られたものの、古墳の密集度は、荒砥二之堰遺跡のように一定の範囲内に押し込められたような状況ではなかった。ただし、古墳群の形成が散漫な荒砥地区の西側、荒砥川流域や宮川流域にあっては、本遺跡における群集状況は稀少な存在である。垂直分布の面から見ても本遺跡は、荒砥地区内では高標高地に形成された群集墳の一つとして位置づけられる。なお、本遺跡より高標高地にも古墳は築造されるものの、その分布はより散在的な傾向となる。このことは居住域、生産域の状況と関連づけて考えられよう。

本遺跡周辺では４世紀から５世紀後半の住居や方形周溝墓が検出されており、古墳時代前期には周辺域の開発が着手されていたと考えられる。しかし、５世紀後半から６世紀前半に今回報告した集落が形成された後は再び調査地に集落が形成されることはなかった。

調査が周辺に広く及んでいないため推測の域を出ないが、農耕適地が狭く、更なる耕地拡大を図ることが困難であったことから７世紀代の集落の形成は、沖積地の下流方向に移動したものと考えられる。そして、沖積地の最奥部で、谷頭に近い調査地周辺が墓域化したもののと推測される。

本遺跡調査の古墳は、１号墳では完周するものの総じて周堀の掘り込みが浅く、平面台形の前庭状部分のみに深い掘り込みが見られた。このような状況は、横穴式石室の構築に先立って地山を掘削し、平面長方形の掘り方土坑を設けることとともに、赤城山南麓の後期から終末期に形成される古墳群に特徴的に見られる様相である。

３基の古墳は、いずれも輝石安山岩乱石積みの横穴式石室を主体部に有していた。石室の規模は、１号墳で全長3.08m、２号墳、3.71m、３号墳、3.85mといずれも４mに満たず、小型である。特に、１号墳は小型である。この状況は、悉皆的な作業を経ての結論ではないが、荒砥地区における７世紀代に築造された横穴式石室の規模の平均値をやや下回っているものと考えられる。例えば、熊の穴・上横俵遺跡の調査事例26基（この中には全長３m以下が６基含まれるが）の平均が3.75mである。下境Ｉ遺跡の20基の平均が4.07mで、荒砥二之堰遺跡の11基の平均が4.48mとなっている。

石室の構築状況を見ると、一辺が１mを超えるような大型石材の使用は奥壁のみで、側壁や羨道部においては認められない。また、石室内に転落した石材にも大型石材は見られなかった。

３基とも奥壁の中央に大型礫を据え、その左右、両側壁の間隙に小礫を積んでいる。側壁の石材は、奥壁の大型礫よりやや小型の礫が使用されている。各石材は、最大面を石室内側に向けて横積みされている。これは、採取してきた石材を有効利用しようした意図の表れと見ることができよう。

１・２号墳は、羨道入口・玄室入口に柱状の礫を立て、羨門・玄門構造を意識した造りとなっている。玄室の平面プランは長方形で、胴張りが見られない形状である。３号墳は、前二者と異なり、羨道入口の石積みが多石構成で、開口部正面から見て、扁平な礫を横積みしている。

本遺跡で調査した古墳の構築年代については、前庭状遺構の存在や石室の構築状況、埴輪が周辺の古墳を含め全く採取されていないことなどから７世紀後半の年代が付与されると考えられるが、構築年代

を直接限定できる明確な遺物を伴っていない。特に石室内の遺物が皆無であることが年代の特定を困難にしている。

２号墳出土の土師器は古墳群に先行する集落に伴う土器である。須恵器長頸壺３は前庭状の掘り込み内の遺物であるが、７世紀後半の所産で唯一古墳構築の年代に迫ることのできる遺物である。

１号墳においては前庭状掘り込み部から出土した完形の須恵器杯１が最も有効な遺物と思われる。７世紀末から８世紀初頭にかけての追葬あるいは追加儀礼に伴う遺物と考えられる。２の須恵器甕は頸部外面に補強帯の巡るもので、杯１の年代観と矛盾しない。

３号墳出土の土師器杯４も８世紀の所産と考えられ、追葬・追加儀礼に伴う遺物と考えたい。須恵器長頸壺１は下半部のみの残存であるが、７世紀後半の製品となる可能性がある。

最後に石室の使用石材について注目してみたい。本遺跡の古墳で使用された石材は、輝石安山岩の河原石が主体であった。この状況は東接する谷津遺跡、あるいは遺跡調査会調査分の谷津遺跡における調査古墳においても同様であった。

使用された輝石安山岩は、赤城山南麓では一般的に入手できる石材である。本遺跡の場合は、西方約500mの位置を南流する荒砥川で転石を採取したものと考えられる。荒砥川河川敷では現在も泉沢町周辺までは奥壁に使用している円礫と同規模の河原石を含めた円礫の堆積が観察できる。古墳時代の荒砥川と現在の状況が必ずしも同一であるとは断定できないが、本遺跡の石室使用石材が荒砥川流路から採取されたと考えることは妥当と思われる。

本遺跡の他にも荒砥川流域には輝石安山岩の河原石を石室石材に使用した古墳が分布している。具体的に古墳名を列記すると、荒砥川左岸では向原古墳（荒砥川流路からの直線距離、1.0km。以下同じ）、御殿山古墳（0.15km）、荒砥諏訪西遺跡３区１・２号墳（0.1km未満）、荒砥宮田遺跡２区１号墳（0.2km）、柳久保遺跡１・２号墳（0.75km、割れ石使用石室と混在）、熊の穴・上横俵遺跡の４基（1.4km、割れ石使用古墳が主体）、下境Ⅰ遺跡（2.3km、割れ石使用古墳が主体）、荒砥下押切Ⅱ遺跡１号古墳（2.0km）、右岸の大胡地区では上の山遺跡漏れ４・５号墳（0.4km）、西小路古墳群（0.2km）などがある。いずれも７世紀代の築造であろう。これらの古墳は、荒砥川の流路から直線距離にして2.3m以内に位置している。

このような河原石使用古墳とは別に、荒砥地区の東部を中心に、横穴式石室の石材に輝石安山岩の割れ石（一部、割り石）を使用する古墳群が多数形成され、荒砥地域全体では数的に主体を占めている。これらの割れ石は、赤城山の流れ山頂部ないしは中心部に分布する安山岩塊から採取できるとされる。

河原石使用石室と割れ石使用石室における各々の構造とその変遷についての比較は、今後、詳細な検討作業が必要であるが、現時点では、規模、平面プランなどで両者を区分できるような特徴は認め難い。むしろ、羨道入口・玄室入口の立柱構造の採用などは県内の横穴式石室全体の変化の中で、両者に共通している点である。

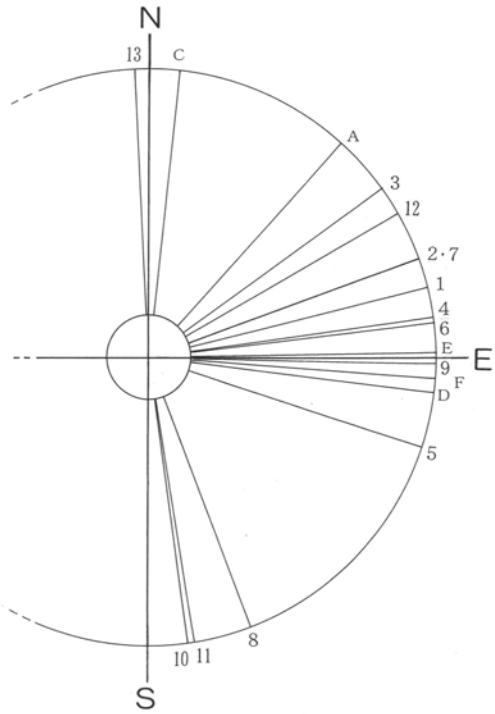
小規模古墳の場合、遠距離から石材供給をする事例は、凝灰岩や角閃石安山岩などを除き少数である。基本的には古墳の造営に際し、奥壁や天井石などの大型石材の他は近接地から石室構築に足る自然石を入手していたと考えられる。それが荒砥川流域の場合は２km余の範囲であったことが想定される。東側地域ではそれより近接地の流れ山から割れ石を入手できる環境にあったのであろう。

使用石材の相違は、単に石材入手の利便性にのみ起因したものであろうか。古墳築造における使用石材を共有する範囲の検討が、小地域をさらに細分するような地域区分を把握するための基礎資料にならないだろうか。今回はその点について深く踏み込むことができなかったが、今後、本遺跡周辺における竪穴式住居の諸属性、出土土器の様相などに検討を加えることにより、古墳時代における地域区分を抽出することを今後の課題として本項を終わりたい。

第２節　古墳時代集落の消長

泉沢谷津遺跡では13軒、東側に隣接する谷津遺跡では６軒の古墳時代竪穴住居を調査した。竈部分まで全掘できなかった谷津遺跡Ｂ号住居以外は、いずれも竈を有している。出土遺物の年代から、集落は５世紀後半から６世紀中頃までの比較的短期に営まれ、１例の重複も見られない。古墳群が構築される前に姿を消し、古墳が築かれなくなっても集落は再び現れない。

このような集落と後期古墳群との消長関係は下触牛伏遺跡、荒砥二之堰遺跡などの赤城山南麓には多数見られる。古墳の造営に伴い、集落の遷地がなされたものと推定されている。しかしながら、最後の竪穴住居と最初の古墳との間に時間幅が100年近くの年代差があり、隔たりが大き過ぎるようである。周辺により新しい竪穴住居とより古い古墳の存在も推定するべきであろうが、短絡的に集落の撤退を古墳の造築のみに結びつけるべきではないのかもしれない。奈良時代以降になっても集落が戻ってこないのは、古墳時代の規制が律令期になっても引き継がれることの証左となろう。



第119図　住居の軸方向

竪穴住居に注目すると、泉沢谷津遺跡の場合、竈の位置が多様である。（第119図　グラフ参照）

谷津遺跡の報告書データは本遺跡と照合するため、竈のある壁を基準として図上で再計測した。大別して北竈（２軒）・南竈（３軒）・東から北東にかけての竈（13軒）に分類される。このうち北側・南側にカマドのある住居は古手の遺物を伴っている。占地も標高138m以上の台地中央に近い部分に限られており、この地域に最初に築かれた竪穴住居と考えられそうである。特に北竈の13・谷津遺跡Ｃ号住居は軸方向が近接し、南東隅に貯蔵穴を持ち、付近で柱穴配置が歪む特徴が共通する２軒である。また、南竈の８号・11号住居は軸方向がやや異なるが、住居内から向かって左側の竈脇に貯蔵穴があり、他に例のない２軒である。併せて南竈の10号住居は竈両脇に貯蔵穴のある、唯一の例である。２軒の住居を一つの単位とする住居群がこの地に最初に築かれた集落と考えられそうである。その他の住居はすべて東よりの竈と竈に向かって右側の貯蔵穴という点が共通している。集落が安定して、竪穴住居の規格が一定する過程が想定できよう。

集落の占地も台地縁辺部寄りへ移動・拡散している。

第３節　その他の遺構について

火葬跡　本遺跡で１基のみ調査した火葬跡（９号土坑）は直接時期を決定できる遺物を伴っていない。江戸時代、18世紀後半頃の遺物を伴う１号溝に大半を壊されていることより、江戸時代中期以前の遺構であることまでしか時期が限定できない。

火葬跡の調査例は徐々であるが増加している。藤岡市大御堂遺跡、太田市大舘馬場遺跡、北橘村長久保大畑遺跡などでは複数の１遺跡から調査例がある。確実に時期を決定できる根拠を持たないが、いずれも中世の施設と推定されている。

本遺跡は単独の調査例である。後出する18世紀後

半以降の１号溝が古墳の合間を抜け、古墳周堀の上を通過していることより、開削時に古墳が存在していたことが分かる。火葬跡は墳丘の陰に作られたものであろう。

本遺跡の建物群は、隣接している井戸から18世紀後半の陶磁器類を出土していて、江戸時代後期の集落があったと想定できる。火葬跡は集落に近接して存在する施設とは思われないが、集落から死角となる古墳の陰に築いたのであれば、火葬跡がこの時期の施設となる可能性もあろう。

近世の遺物には秉燭・花生・仏飯器などの仏具が見られない。また、カワラケや銅銭など、墓地と関連する遺物も出土していない。火葬後の背景を推定するための資料はきわめて乏しい。

なお、遺構外の遺物として板碑や16世紀後半の陶器皿など江戸時代以前の遺物もわずかに出土している。本遺跡の葬跡が中世の施設である可能性は残っている。

掘立柱建物と井戸　本遺跡で調査した６棟の掘立柱建物と７基の井戸を見ると、井戸と建物が近接しているという前提で、両者のセットとなる可能性があるのは４号建物と２号井戸、５号建物と７号井戸の２組だけである。井戸の配置は１～４号井戸と５～７号井戸がそれぞれ直線的に並んでいる。前者はＮ－35°－Ｅ、後者Ｎ－30°－Ｅ前後の軸方向を示している。個別の建物に配置されるより、道沿いに掘削されたような印象を受ける。農業用井戸の存在を想定したいが、出土遺物の多い５号井戸と７号井戸を対比すると、７号井戸が掘立柱建物に隣接しているのに、５号井戸は付近に遺構がないなど、明確な分類の基準が見つからない。

掘立柱建物は１号・２号の２軒の建物が軸方向を同じにして近接しているが、他の建物に配置の規則性は見つからない。同時期に存在した建物群とは考えにくい状況を呈している。

第４節　炭化米について

古墳時代の２号住居内土坑から出土した炭化米について、整理段階での観察所見を記したい。

炭化米は被熱のため膨らんだり弾けたものが多数見られたが、籾の状態で確認できたものも多かった。特に籾が並んで見え、稲穂の状態で収蔵されていたものもあることが確認できる。個々の炭化米についてはノゲが見られるものもあった。

一部の資料について計測的・定量的な分析を試みた。炭化米の一部を、収納箱ごとに計量したものが次の表である。調査現場で取り上げた遺物収納用箱10箱の炭化米にＡからＪまでのナンバーを付けた。このうちＡからＦの６箱については篩いにかけ、米・土・その他に選別した。６箱中の炭化米は重量で17.065kgになる。これをＡ～Ｄまでの各50ｇずつあわせた計200ｇの粒数は26.057粒になる。ＡからＦまでで222万粒粒を超える炭化米量が想定される。これに未計量のＧ～Ｊの資料を前述のデータ（68％が炭化米）から米の量を類推すると、さらに19.4kgの炭化米が加わることになる。総量は36.5kg、粒数で475万粒を超える。

次に各箱より100粒のサンプルを選び、計測を行った。サンプルは無作為に選択したが、破損の状態の大きいものや、籾の付いているものは除外した。マイクロメーターを使用し１／100㎜単位まで計測したが、壊れやすい対象のため、やや大きめのデータとなっている可能性がある。137頁以降に計測値を示し、このうち長さ・幅に問題のなさそうな727粒の計測値を第９表に長さ／幅で示した。

第９表より、長さ3.9から５㎜、幅2.5から3.1㎜の大きな範囲内に分布の中心が見られる。この他に長さ3.1から4.0㎜、幅1.7から4.0㎜の分布がある。中心の分布より長粒な未熟米と思われるグループである。未熟米が多量に含まれていたＥは米の量は全体の約３％だが、計測では10％を占めるため、表では未熟米の多さが目立ってしまった。

タとなっている可能性がある。136頁以降に計測値を示し、このうち長さ・幅に問題のなさそうな727粒の計測値を表12に長さ／幅で示した。

表12より、長さ3.9から５㎜、幅2.5から3.1㎜の大きな範囲内に分布の中心が見られる。この他に長さ3.1から4.0㎜、幅1.7から4.0㎜の分布がある。中心の分布より長粒な未熟米と思われるグループである。未熟米が多量に含まれていたＥは米の量は全体の約３％だが、計測では10％を占めるため、表では未熟米の多さが目立ってしまった。

第９表　炭化米　長さ／幅　対比表

長さ（㎜）

	1.60～	1.70～	1.80～	1.90～	2.00～	2.10～	2.20～	2.30～	2.40～	2.50～2.59	2.60～2.69	2.70～2.79	2.80～2.89	2.90～2.99	3.00～3.09	3.10～3.19	3.20～	3.30以上	合計
5.30以上													・	・	・		・・・		6
5.20～5.29		○ 5点										・	・		・・				4
5.10～5.19		・ 1点									・	・		・・・		・	・・・		9
5.00～5.09										・	・・		・・・	○	・・・・	・・		・	18
4.90～4.99											・・	○	○・・	○・・・	○・	・・・		・	32
4.80～4.89									・	・・・	・・	・・・・	○○	○○ ・・	○○	・・・・			46
4.70～4.79									・	・・・	○ ・・・	○ ・・・	○○ ・・・	○ ・・・・	○○ ・・・・	・・	・・・		61
4.60～4.69								・	・	○ ・・・	○	○○ ・・・	○ ・・・・	○○○○	○ ・	○	・		69
4.50～4.59						・			・	○ ・	○○ ・	○○	○○○ ・	○○○	○ ・・	・・		・・	71
4.40～4.49								・	・・・	○ ・・・・	○○○ ・	○○○ ・・・・	○○ ・・・	○○○○	○	・・			82
4.30～4.39							・・		・・・	○○	○ ・・・・	○○○ ・・・・	○○○ ・・・	○○ ・・・・	○	・		・	82
4.20～4.29									・・	○ ・・	○○○ ・・	○○○ ・	○○	○ ・・・・	・・	・			64
4.10～4.19			・				・	・	・・・・	○	○・・・	○○・	○・・・	○	・	・・			47
4.00～4.09				・				・・・	・・・	○・・・・	・・・・	・・・・	○・	・・・	・	・・			35
3.90～3.99	・・		・		・		・・	○	・・・	・・	・・・	○	・・	・					27
3.80～3.89		・	・・	○		・・			・・		・	・	・						15
3.70～3.79				・	・・	・・		・・	・・										9
3.60～3.69			・	○・		・・	・		・	・				・					13
3.50～3.59		・	・・	・・・		・・・	・												10
3.40～3.49			・	・・・		・・・・	・		・										10
3.30～3.39				・・		・													3
3.20～3.29		・・	・・		・・														6
3.10～3.19		・	・		・・	・・													6
3.00～3.09																			
2.90以下		・			・														2
合　計	2	6	11	21	8	17	8	13	28	63	89	111	118	126	64	27	10	5	727

■ 長さ／幅　おおよそ1.7
▨ 長さ／幅　おおよそ1.5

幅（㎜）

第10表　炭化米計測表（１）

サンプルＡ　　単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	4.67	2.95	2.10	1.58	E	26	4.50	2.95	2.01	1.53	E	51	4.70	2.80	2.00	1.68	EH	76	4.20	2.70	2.00	1.56	E
2	4.20	3.10	2.10	1.35	A	27	4.23	2.91	2.25	1.45		52	4.45	2.80	2.15	1.59	EH	77	3.90	2.45	1.70	1.59	
3	4.43	2.50	1.69	1.77		28	4.05	2.53	1.95	1.60		53	4.24	2.88	1.85	1.47		78	3.90	2.65	1.85	1.47	E
4	5.00	2.80	1.73	1.79		29	4.65	3.10	2.02	1.50		54	4.50	2.80	2.11	1.61		79	4.25	2.61	1.97	1.63	E
5	4.11	2.52	1.64	1.63	F	30	3.85	2.85	1.96	1.35		55	4.32	3.00	1.90	1.44		80	3.95	2.50	1.62	1.58	
6	4.60	3.10	2.10	1.48	AH	31	4.33	2.91	2.00	1.49		56	4.48	2.95	1.85	1.52		81	4.45	2.75	2.10	1.62	
7	4.50	2.80	2.00	1.61		32	4.37	2.59	1.85	1.69	E	57	4.55	3.01	2.10	1.51		82	4.73	2.84	1.90	1.67	
8	4.33	2.84	2.17	1.52		33	4.46	2.93	1.90	1.52		58	4.40	2.40	1.85	1.83	A	83	4.91	2.80	2.13	1.75	
9	4.20	2.60	1.60	1.62		34	4.10	2.50	1.95	1.64		59	4.00	2.65	2.10	1.51		84	4.31	2.83	1.95	1.52	
10	4.00	2.80	1.91	1.43	A	35	4.60	2.84	1.96	1.62		60	3.90	2.45	1.70	1.59		85	4.50	2.75	1.85	1.64	
11	4.60	3.00	2.70	1.53	A	36	4.45	3.00	2.15	1.48	AE	61	4.90	2.85	2.15	1.72		86	4.12	2.56	1.60	1.61	E
12	4.41	2.92	2.13	1.51		37	5.08	3.18	2.10	1.60		62	4.75	2.90	2.40	1.64		87	4.05	2.33	1.65	1.74	
13	3.63	2.90	2.20	1.25		38	4.56	2.65	1.83	1.72		63	4.20	2.45	1.85	1.71		88	3.97	2.20	1.80	1.80	E
14	4.63	2.82	200	1.64	E	39	4.60	3.00	2.20	1.53	E	64	4.60	2.65	2.00	1.74	EH	89	4.19	2.70	1.75	1.55	
15	4.90	3.00	2.08	1.63	D	40	4.40	2.70	1.80	1.63	E	65	4.35	2.95	1.90	1.47		90	4.34	2.54	1.70	1.71	
16	4.37	2.90	2.10	1.51		41	4.35	2.52	1.80	1.73		66	4.55	2.84	2.10	1.60	A	91	4.95	3.16	2.01	1.57	E
17	4.56	2.53	2.20	1.80	E	42	4.50	2.90	1.92	1.55		67	4.40	2.72	1.95	1.62		92	4.80	3.00	2.02	1.60	E
18	4.60	3.00	2.30	1.53	D	43	4.05	3.10	2.13	1.31		68	4.25	2.87	1.92	1.48	EF	93	4.40	2.80	2.00	1.57	
19	4.40	2.61	2.10	1.69	E	44	4.80	2.71	1.90	1.77		69	3.95	2.45	1.90	1.61	FG	94	4.25	2.55	1.70	1.67	
20	4.20	2.70	2.00	1.56	E	45	4.37	2.90	2.20	1.51		70	3.95	2.80	1.90	1.41		95	4.15	2.65	1.85	1.57	G
21	4.30	2.87	2.10	1.50		46	4.55	2.50	1.95	1.82	E	71	4.64	2.70	1.90	1.72		96	4.15	2.65	1.95	1.57	
22	4.73	2.90	2.06	1.63	E	47	4.18	2.57	1.80	1.63		72	4.27	3.02	2.20	1.41	D	97	4.25	2.75	2.10	1.55	
23	4.74	2.95	2.00	1.61		48	4.10	2.83	2.10	1.45	E	73	4.15	2.85	2.00	1.46		98	3.70	2.45	1.65	1.51	D
24	4.16	2.77	2.17	1.50	EF	49	4.53	2.49	1.85	1.82		74	4.15	2.72	1.85	1.53		99	3.65	2.15	1.55	1.70	E
25	4.15	4.15	2.00	1.69	DI	50	5.15	3.20	2.14	1.61	A	75	4.60	3.00	2.20	1.53		100	3.70	2.15	1.85	1.72	EF

長さ計　434.95g
幅　計　272.00g
厚み計　197.77g

サンプルＢ　　単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	5.25	2.78	2.25	1.89		26	4.80	2.45	1.85	1.96	A	51	4.60	2.77	1.80	1.66		76	4.88	2.95	1.90	1.65	
2	4.95	2.96	2.10	1.67		27	4.40	2.85	2.32	1.54	E	52	4.00	2.75	1.75	1.45	AF	77	4.30	2.70	1.90	1.59	A
3	4.35	2.72	1.75	1.60		28	4.55	2.70	1.90	1.69	E	53	4.30	2.80	1.70	1.54	A	78	4.20	2.71	1.95	1.55	E
4	4.73	2.80	1.96	1.69		29	3.90	2.30	1.95	1.70		54	4.35	2.90	1.70	1.50	A	79	4.14	2.45	1.70	1.69	
5	4.76	2.64	2.15	1.80	E	30	5.05	2.95	2.10	1.71	A	55	4.40	2.30	1.90	1.91	A	80	4.25	2.45	2.00	1.73	
6	4.71	2.80	2.23	1.68		31	4.95	3.40	2.25	1.46		56	4.20	2.80	1.85	1.50	E	81	4.60	2.70	1.90	1.70	
7	4.00	3.00	1.95	1.33	AE	32	4.46	3.10	1.95	1.44		57	4.21	2.50	1.60	1.68		82	4.65	2.70	2.05	1.72	
8	4.35	3.05	2.13	1.43	E	33	4.50	3.30	2.22	1.36		58	4.40	2.61	1.80	1.69	F	83	4.30	2.60	1.75	1.65	A
9	4.36	3.17	1.90	1.38	E	34	4.49	2.96	1.90	1.52		59	4.00	2.55	2.33	1.57	E	84	4.42	2.75	1.65	1.61	
10	4.62	2.73	1.90	1.69		35	4.30	2.84	1.70	1.51		60	4.05	2.55	1.70	1.59		85	5.00	2.65	1.85	1.89	
11	5.00	3.17	2.00	1.58		36	4.30	2.75	2.08	1.56		61	4.21	2.85	1.90	1.48		86	4.60	2.80	1.95	1.64	E
12	4.33	2.94	1.95	1.47		37	4.22	2.40	1.46	1.76	A	62	4.28	2.94	2.20	1.46	D	87	4.50	3.00	1.90	1.50	AE
13	4.25	2.65	2.00	1.60	A	38	4.70	2.61	2.10	1.80		63	4.50	2.96	1.80	1.52		88	4.05	2.60	1.95	1.56	
14	4.75	3.05	2.21	1.56		39	4.15	2.60	2.10	1.60	A	64	5.00	2.83	2.08	1.77		89	4.35	2.75	1.99	1.58	
15	4.66	2.83	1.97	1.65		40	4.65	2.90	2.00	1.60		65	4.70	2.75	2.00	1.71		90	4.25	2.50	1.70	1.70	
16	4.25	2.65	1.70	1.60		41	4.40	2.75	1.85	1.60		66	4.80	2.80	2.15	1.71	E	91	4.66	3.10	2.13	1.50	D
17	4.25	2.64	1.90	1.61		42	4.45	2.93	1.69	1.52		67	4.55	2.65	1.85	1.72		92	4.29	3.00	2.05	1.43	
18	4.10	2.98	2.05	1.38	A	43	4.50	2.70	1.92	1.67	DF	68	4.95	2.85	2.03	1.74		93	4.85	3.15	1.96	1.54	B
19	4.71	3.07	2.13	1.53		44	3.90	2.70	2.40	1.44	E	69	4.60	2.90	1.95	1.59	E	94	4.50	2.65	2.05	1.70	
20	4.40	2.80	1.95	1.57		45	4.34	2.90	2.20	1.50	E	70	4.20	3.00	1.95	1.40		95	4.40	2.50	1.85	1.76	
21	4.60	2.90	2.11	1.59		46	4.40	2.90	2.45	1.52		71	4.44	3.10	2.05	1.43		96	4.40	2.35	1.80	1.87	I
22	4.39	2.60	1.90	1.69		47	4.20	2.65	1.92	1.58		72	4.20	2.80	2.02	1.50		97	4.30	2.61	1.63	1.65	
23	4.70	2.88	1.80	1.63		48	4.60	2.70	1.85	1.70		73	4.15	2.65	1.70	1.57	A	98	4.95	3.00	1.91	1.65	
24	4.40	2.50	1.80	1.76		49	4.17	2.77	1.96	1.51		74	4.15	2.80	2.05	1.48	F	99	4.20	2.50	1.95	1.68	
25	4.20	2.40	1.60	1.75	DI	50	3.95	2.34	1.91	1.69		75	4.30	2.60	1.80	1.65	EF	100	4.15	3.10	2.04	1.34	D

長さ計　434.90g
幅　計　274.10g
厚み計　196.48g

備考凡例
A：籾殻等の付着物あり
B：一部護穎つき
C：一部枝梗つき
D：焼け膨れ
E：弱い焼け膨れ
F：基部やや欠く
G：頂部やや欠く
H：側部やや欠く
I：表面の剥離すすむ
M：未熟米
X：米以外の可能性

欠損や付属物のある計測部分は斜体

炭化米計測表（２）

サンプルＣ

単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	4.84	2.73	2.05	1.77		26	4.58	2.75	1.87	1.67		51	4.09	2.96	1.98	1.38	D	76	4.40	2.91	2.04	1.51	E
2	4.83	3.01	2.28	1.60		27	4.90	3.02	2.01	1.62		52	4.13	2.97	1.94	1.39	E	77	4.12	2.79	2.20	1.48	
3	4.35	2.78	2.09	1.56		28	4.50	3.05	2.03	1.48		53	4.68	2.58	1.82	1.81	E	78	4.18	2.92	2.22	1.43	
4	4.96	2.90	1.85	1.71		29	4.25	2.73	1.88	1.56	DI	54	4.53	2.73	1.87	1.66	D	79	4.51	2.75	1.89	1.64	
5	4.39	2.80	1.69	1.57	F	30	4.28	2.70	1.54	1.59	D	55	4.95	2.90	2.27	1.71	A	80	4.27	2.73	2.03	1.56	
6	4.75	3.07	2.30	1.55		31	4.88	3.16	2.19	1.54		56	4.29	2.94	3.06	1.46	E	81	3.98	2.75	1.92	1.45	
7	4.38	2.54	1.62	1.72	E	32	4.31	3.01	1.99	1.43		57	4.66	2.80	2.33	1.66	A	82	4.05	2.95	1.97	1.37	D
8	4.70	2.77	1.90	1.70	E	33	4.05	2.76	1.85	1.47	E	58	4.30	2.90	1.90	1.48	E	83	4.19	2.75	2.23	1.52	D
9	4.18	3.19	1.99	1.31		34	4.51	2.97	1.92	1.52	AE	59	4.27	2.96	2.20	1.53	E	84	4.10	2.62	2.02	1.56	E
10	4.33	2.61	1.90	1.66		35	4.05	2.90	1.79	1.40	E	60	4.90	2.79	1.96	1.76		85	3.95	2.48	1.83	1.59	E
11	4.47	2.90	2.01	1.54		36	4.18	2.80	2.00	1.49	E	61	4.43	2.90	1.99	1.53		86	4.85	2.83	2.00	1.71	EI
12	4.53	3.01	2.31	1.50	E	37	3.69	3.08	2.54	1.20	I	62	4.07	3.17	1.89	1.28	E	87	4.60	2.86	2.13	1.61	
13	4.88	2.77	1.93	1.76		38	4.51	3.00	2.42	1.50	AI	63	4.62	2.75	2.18	1.68		88	4.32	3.18	2.18	1.36	
14	4.57	3.03	2.24	1.49		39	4.57	2.80	2.02	1.63		64	4.50	3.10	2.94	1.45	AD	89	4.49	3.00	2.29	1.50	
15	4.15	2.69	1.63	1.54		40	4.43	2.66	1.89	1.67		65	4.44	3.03	2.20	1.47		90	4.62	2.69	1.83	1.72	
16	4.27	2.76	2.03	1.55		41	4.10	2.73	2.01	1.50	EFG	66	4.03	2.35	1.69	1.71		91	4.50	2.90	1.91	1.55	
17	4.90	2.85	1.83	1.72	H	42	3.90	2.84	2.00	1.37		67	4.38	2.94	2.01	1.49	E	92	4.15	2.85	1.71	1.46	
18	5.04	3.00	2.06	1.68		43	4.22	2.58	1.95	1.64		68	4.72	3.01	1.97	1.57		93	4.41	2.74	2.01	1.61	
19	4.53	2.71	1.79	1.67	E	44	4.62	2.91	1.96	1.59		69	4.58	2.98	2.13	1.54	E	94	4.20	2.97	1.81	1.41	E
20	4.80	2.88	2.04	1.67		45	4.30	2.80	1.83	1.54	A	70	4.27	2.87	1.88	1.49		95	4.31	2.80	1.88	1.54	
21	4.57	3.00	2.14	1.52		46	3.71	2.69	1.82	1.38	I	71	4.69	2.49	1.90	1.88		96	4.33	2.77	1.85	1.56	
22	4.50	3.04	2.03	1.48	AE	47	4.65	2.98	2.06	1.56		72	4.49	2.86	1.97	1.57		97	4.45	3.04	2.29	1.46	
23	4.96	2.90	1.95	1.66		48	4.32	2.92	1.91	1.48		73	4.29	2.72	1.77	1.58		98	5.45	3.16	2.13	1.72	EI
24	4.03	2.89	1.93	1.39		49	4.66	3.17	2.17	1.47		74	4.34	2.90	1.95	1.50		99	4.75	2.75	2.46	1.73	E
25	3.99	2.96	1.93	1.35		50	5.04	3.30	2.30	1.53	E	75	4.57	2.73	1.86	1.67	H	100	5.00	2.75	1.87	1.79	

長さ計　435.10g
幅　計　269.40g
厚み計　193.15g

サンプルＤ

単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	4.10	2.72	1.92	1.51	EH	26	4.52	2.68	2.03	1.69	E	51	4.81	2.53	1.80	1.90		76	4.35	3.06	1.93	1.42	
2	4.67	2.90	2.00	1.61	F	27	4.34	2.57	1.59	1.69	F	52	4.29	2.64	2.14	1.63	E	77	4.66	2.91	2.07	1.60	E
3	4.91	2.60	1.70	1.89		28	4.20	2.74	1.58	1.53	F	53	4.79	3.17	2.13	1.51		78	4.60	3.18	2.16	1.45	
4	4.38	3.00	1.95	1.46		29	4.50	2.80	1.58	1.61	E	54	5.34	3.09	2.21	1.73		79	4.05	2.70	2.10	1.50	
5	4.06	2.51	1.91	1.62		30	3.67	2.79	1.50	1.32	E	55	3.90	2.30	1.55	1.70		80	4.33	2.73	1.94	1.59	
6	4.59	2.79	1.95	1.65	E	31	4.10	2.71	1.82	1.51	E	56	4.09	2.83	1.96	1.45		81	3.80	2.64	1.85	1.44	
7	4.04	2.46	1.84	1.64	E	32	3.50	2.80	2.13	1.25	X	57	4.34	2.51	1.78	1.73		82	4.13	2.81	2.00	1.47	
8	4.52	2.85	1.90	1.59		33	4.60	2.58	1.80	1.78		58	4.65	2.78	2.03	1.67		83	4.50	2.95	2.11	1.53	
9	4.27	2.79	2.10	1.53		34	4.20	3.00	2.00	1.40	EI	59	4.64	2.57	1.88	1.81	E	84	4.40	2.73	1.66	1.61	
10	4.48	2.77	1.92	1.62		35	4.10	2.84	1.77	1.44	E	60	4.39	2.29	1.66	1.92		85	4.66	2.75	1.84	1.69	
11	4.79	2.78	1.90	1.72		36	4.80	3.00	2.00	1.60		61	4.88	3.20	2.01	1.53	E	86	4.63	3.05	2.05	1.52	E
12	4.33	2.64	1.78	1.64		37	4.57	2.93	2.08	1.56	E	62	4.50	2.82	1.86	1.60		87	4.50	2.90	2.00	1.55	
13	4.66	3.00	2.10	1.55		38	3.74	2.71	1.91	1.38	E	63	4.40	2.95	2.05	1.49		88	4.10	2.61	1.85	1.57	
14	4.44	2.67	2.08	1.66		39	4.09	2.94	2.17	1.39		64	4.75	2.78	2.31	1.71	E	89	4.03	2.45	1.95	1.64	
15	4.75	3.03	2.10	1.57		40	4.20	3.20	2.00	1.31	EF	65	4.17	2.95	2.31	1.41	E	90	4.40	2.86	2.23	1.54	AD
16	4.40	3.10	2.25	1.42	DI	41	4.80	3.15	2.10	1.52	E	66	4.29	2.90	2.09	1.48		91	4.30	2.80	1.91	1.54	E
17	4.15	2.85	1.90	1.46		42	4.50	3.00	2.34	1.50		67	4.42	2.79	1.84	1.58		92	4.55	2.66	1.72	1.71	E
18	4.21	3.10	2.00	1.36		43	4.30	2.95	1.90	1.46	E	68	4.23	2.81	1.90	1.51		93	3.90	2.77	1.87	1.41	
19	4.21	2.91	1.89	1.45	E	44	5.33	3.32	2.30	1.61	A	69	4.20	2.99	2.00	1.40	A	94	4.15	2.50	1.58	1.66	
20	4.60	2.77	1.80	1.66		45	4.50	3.10	2.42	1.45		70	4.45	2.60	2.03	1.71	A	95	3.90	2.28	1.54	1.71	
21	4.51	2.82	1.50	1.60		46	4.50	2.86	2.17	1.57		71	4.55	2.95	1.84	1.54		96	4.40	2.62	1.90	1.68	
22	4.80	3.17	2.15	1.51	D	47	4.46	2.90	2.00	1.54	E	72	4.73	2.80	1.90	1.69		97	3.44	2.45	1.77	1.40	
23	4.60	2.90	1.80	1.59		48	4.13	2.50	1.96	1.65	DI	73	4.56	3.11	1.90	1.47	E	98	4.41	2.90	2.00	1.52	
24	4.30	2.79	1.78	1.54		49	4.42	2.82	2.19	1.57		74	4.74	2.99	1.90	1.59		99	4.16	2.78	1.87	1.50	
25	4.25	2.80	2.00	1.52	EF	50	4.39	2.80	1.93	1.57		75	4.26	2.82	2.13	1.51	E	100	4.60	2.90	2.10	1.59	

長さ計　432.85g
幅　計　265.40g
厚み計　179.38g

炭化米計測表（３）

サンプルＥ

単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	4.80	2.90	1.95	1.66		26	3.50	2.22	1.65	1.58		51	3.60	1.95	1.25	1.85		76	4.15	1.72	1.20	2.41	H
2	4.44	2.67	2.10	1.66		27	4.50	2.92	1.85	1.54	A	52	3.50	1.85	1.55	1.89		77	3.80	1.70	0.90	2.24	DI
3	4.30	2.75	1.95	1.56		28	3.47	2.14	1.45	1.62	M	53	3.10	1.75	1.25	1.77	M	78	3.91	1.65	1.35	2.37	E
4	3.95	2.45	1.85	1.61	E	29	3.62	2.27	1.75	1.59		54	3.60	1.90	1.30	1.89	E	79	2.70	1.70	1.20	1.59	EF
5	4.15	2.90	1.90	1.43	E	30	3.10	1.90	1.55	1.63	FM	55	3.25	1.85	1.35	1.76	EM	80	2.92	1.50	1.20	1.95	EFM
6	5.04	2.90	2.16	1.74	E	31	4.15	2.35	1.75	1.77	EF	56	2.70	1.90	1.50	1.42	F	81	3.50	1.65	1.45	2.12	EF
7	4.87	2.90	2.08	1.68		32	3.70	1.95	1.25	1.90	M	57	3.30	1.95	1.40	1.69	F	82	2.89	1.75	1.20	1.65	F
8	4.65	2.90	1.90	1.60		33	3.80	1.97	1.44	1.93		58	3.60	1.90	1.25	1.89		83	3.72	1.75	1.45	2.13	H
9	4.30	2.92	1.95	1.47	E	34	3.85	1.83	1.30	2.10	M	59	3.40	1.92	1.30	1.77	F	84	2.95	2.00	1.40	1.48	
10	4.20	2.63	1.70	1.60		35	3.15	2.10	1.60	1.50		60	3.45	1.75	1.00	1.97	F	85	3.40	1.65	1.30	2.06	E
11	3.98	3.08	2.05	1.29	X	36	3.80	2.40	1.67	1.58		61	3.60	1.96	1.41	1.84		86	3.10	1.63	1.10	1.90	EHM
12	4.01	2.90	2.25	1.38	E	37	4.41	2.81	1.84	1.57		62	3.80	1.95	1.70	1.95		87	2.40	1.75	1.00	1.37	EFM
13	4.72	2.71	2.05	1.74		38	3.96	1.95	1.16	2.03	EM	63	3.15	2.00	1.25	1.58	F	88	2.75	2.30	1.35	1.20	E
14	3.97	2.86	2.09	1.39	DI	39	4.42	2.91	1.80	1.52		64	3.80	1.90	1.40	2.00		89	3.90	1.61	1.15	2.42	
15	4.85	3.00	1.85	1.62	EH	40	3.10	1.90	1.45	1.63	EF	65	3.30	2.00	1.51	1.65	EFH	90	2.80	1.70	1.35	1.65	E
16	4.27	2.90	1.86	1.47		41	4.00	1.90	1.30	2.11		66	3.64	1.90	1.35	1.92	G	91	3.22	1.55	1.30	2.08	H
17	4.12	2.36	1.56	1.75		42	3.70	1.65	1.25	2.24	X	67	2.80	1.75	1.40	1.60	DI	92	3.70	1.65	1.35	2.24	H
18	4.00	3.05	1.90	1.31		43	3.56	1.66	1.09	2.14	FM	68	3.65	1.50	1.35	2.43	G	93	2.35	1.65	1.30	1.42	X
19	4.41	2.53	1.65	1.74		44	2.40	1.65	1.30	1.45	F	69	3.81	2.15	1.45	1.77		94	2.72	1.40	1.20	1.94	DF
20	4.28	2.60	1.55	1.65		45	3.20	1.80	1.25	1.78	M	70	3.60	1.85	1.35	1.95		95	2.50	1.70	1.10	1.47	I
21	3.60	2.50	1.70	1.44	E	46	2.90	2.00	1.45	1.45	EIM	71	3.20	2.15	1.30	1.49	E	96	3.20	1.75	1.15	1.83	M
22	4.33	3.05	1.98	1.42	A	47	3.15	1.80	1.45	1.75	E	72	3.48	1.88	1.15	1.85		97	3.05	2.00	1.35	1.53	F
23	3.60	2.31	1.73	1.56	F	48	3.95	1.80	1.40	2.19		73	3.52	1.90	1.15	1.85		98	3.00	1.83	1.55	1.64	G
24	3.25	2.00	1.45	1.63	X	49	2.90	1.90	1.40	1.53	FM	74	3.25	1.77	1.20	1.84		99	3.80	1.95	1.55	1.95	
25	4.05	2.80	2.30	1.45	E	50	3.40	1.95	1.45	1.74		75	3.50	2.40	1.50	1.46	E	100	3.85	1.70	1.40	2.26	

長さ計　352.20g
幅　計　206.45g
厚み計　150.25g

サンプルＦ

単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	4.44	2.90	1.92	1.53	E	26	4.30	3.90	1.95	1.10	E	51	4.35	2.50	1.77	1.74		76	4.31	2.83	2.05	1.52	
2	3.69	2.69	1.75	1.37		27	4.36	2.74	1.90	1.59		52	4.45	2.63	1.65	1.69		77	3.57	1.93	1.10	1.85	M
3	4.78	3.05	2.06	1.57	E	28	4.46	2.80	1.85	1.59		53	4.21	2.75	1.65	1.53	AB	78	3.39	1.95	1.30	1.74	
4	4.10	2.75	1.95	1.49		29	4.21	2.51	1.70	1.68		54	3.79	2.09	1.54	1.81		79	3.74	2.03	1.32	1.84	
5	4.25	2.73	2.23	1.56		30	4.47	3.25	2.08	1.38	AB	55	3.94	2.65	1.95	1.49	E	80	3.79	2.18	1.40	1.74	
6	4.65	2.55	2.20	1.82	E	31	4.08	2.53	1.87	1.61		56	3.90	2.68	1.95	1.46	A	81	3.40	1.60	1.00	2.13	FM
7	3.78	2.43	1.82	1.56		32	3.85	1.99	1.40	1.93		57	4:12	2.96	2.25	1.39	E	82	3.52	1.70	1.00	2.07	
8	4.35	2.55	1.65	1.71		33	3.71	2.25	1.45	1.65	F	58	3.70	2.44	1.70	1.52		83	3.60	1.90	1.10	1.89	
9	3.40	2.27	1.53	1.50		34	4.17	1.86	1.20	2.24	M	59	3.44	2.13	1.36	1.62		84	3.21	1.92	0.80	1.67	GM
10	4.10	2.70	1.81	1.52		35	4.20	2.85	1.75	1.47		60	3.75	2.30	1.35	1.63		85	4.62	3.07	2.04	1.50	
11	4.20	2.79	2.15	1.51	E	36	4.08	2.86	2.02	1.43		61	4.24	2.87	1.76	1.48	AE	86	4.75	2.59	1.80	1.83	
12	3.90	2.30	1.40	1.70		37	4.06	2.70	1.92	1.50		62	4.60	2.90	1.90	1.59		87	4.00	2.88	1.86	1.39	
13	3.50	2.10	1.35	1.67		38	4.40	2.65	1.85	1.66		63	3.62	2.46	1.40	1.47	F	88	4.26	2.63	1.71	1.62	
14	3.60	2.45	1.90	1.47		39	4.42	2.55	1.75	1.73		64	4.28	2.65	1.72	1.62		89	3.42	2.18	1.50	1.57	
15	3.54	1.70	1.35	2.08	X	40	4.08	2.71	1.96	1.51	FG	65	4.18	2.40	1.80	1.74		90	4.47	3.40	2.30	1.31	D
16	3.78	2.80	1.40	1.35	E	41	4.77	2.87	1.92	1.66	F	66	3.40	2.13	1.36	1.60		91	4.75	2.86	1.82	1.40	E
17	4.64	2.68	1.93	1.73		42	3.58	2.10	1.44	1.70		67	3.37	1.95	1.30	1.73	M	92	3.40	1.90	1.35	1.19	
18	3.10	2.15	1.25	1.44	F	43	3.54	1.70	1.18	2.08	DIM	68	4.27	2.74	1.80	1.56		93	3.70	2.60	1.30	1.42	FG
19	4.45	2.61	1.90	1.70		44	4.35	2.43	1.54	1.79		69	4.42	2.99	1.87	1.48		94	3.50	1.96	1.30	1.79	
20	3.85	1.83	1.20	2.10	H	45	3.30	2.12	1.30	1.56	FM	70	4.18	2.80	1.92	1.49		95	3.15	2.10	1.40	1.50	
21	4.00	2.30	1.40	1.74		46	3.15	2.04	1.00	1.55	M	71	3.20	1.90	0.90	1.68	FM	96	3.20	1.90	1.20	1.68	FM
22	4.56	2.54	1.70	1.80		47	3.53	2.15	1.35	1.64		72	4.17	2.64	1.70	1.58		97	3.64	1.95	1.30	1.87	
23	4.25	2.61	1.90	1.63	E	48	4.75	2.97	2.14	1.60		73	3.96	2.30	1.73	1.72		98	3.60	1.50	0.80	2.40	ABM
24	3.75	2.32	1.50	1.62		49	3.35	2.12	1.43	1.58		74	3.85	1.85	1.20	2.08	A	99	3.48	1.99	1.30	1.75	
25	4.89	2.95	2.10	1.66	A	50	4.56	2.93	2.13	1.56		75	3.54	1.80	1.30	1.97		100	3.90	2.05	1.60	1.90	E

長さ計　395.40g
幅　計　229.60g
厚み計　155.18g

備考凡例
A：籾殻等の付着物あり
B：一部護穎つき
C：一部枝梗つき
D：焼け膨れ
E：弱い焼け膨れ
F：基部やや欠く
G：頂部やや欠く
H：側部やや欠く
I：表面の剥離すすむ
M：未熟米
X：米以外の可能性

欠損や付属物のある計測部分は斜体

炭化米計測表（４）

サンプルG

単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	4.99	2.76	2.00	1.81		26	4.89	2.84	2.10	1.72		51	4.56	2.70	1.99	1.69		76	4.94	2.96	1.99	1.67	
2	4.34	*2.90*	1.76	*1.50*	E	27	4.38	2.81	1.59	1.56		52	4.60	2.97	2.17	1.55		77	4.33	2.84	2.83	1.52	
3	4.78	2.89	1.77	1.65		28	4.72	*3.26*	1.98	*1.45*	E	53	4.90	3.02	*2.24*	1.62	E	78	3.99	2.52	1.27	1.58	
4	4.21	2.73	1.71	1.54		29	4.76	3.06	*2.33*	1.56	E	54	4.83	2.81	2.03	1.72		79	4.82	2.96	2.04	1.63	
5	4.47	2.99	1.81	1.49		30	4.60	2.93	2.15	1.57		55	4.49	2.68	1.76	1.68	A	80	*4.72*	2.54	1.61	*1.86*	AB
6	5.38	3.27	*1.97*	1.65	E	31	4.25	2.75	1.89	1.55		56	4.12	2.77	2.04	1.49		81	4.59	3.05	*2.25*	1.50	AE
7	4.25	2.60	2.04	1.63		32	4.99	3.00	2.35	1.66		57	4.59	*2.61*	1.84	*1.76*	A	82	4.59	2.64	1.86	1.74	
8	4.36	2.73	1.91	1.60		33	4.72	3.01	2.08	1.57		58	4.72	2.57	1.98	1.84		83	4.81	2.62	2.08	1.84	
9	4.62	2.71	2.10	1.70		34	4.85	3.08	1.93	1.57		59	*4.46*	2.81	2.00	*1.59*	AB	84	4.49	2.44	1.73	1.84	
10	4.91	2.61	1.82	1.88		35	4.94	2.89	2.06	1.71		60	4.27	2.60	1.96	1.64		85	4.10	2.75	*1.80*	1.49	A
11	5.07	2.61	1.88	1.94		36	5.31	3.20	2.18	1.66		61	4.02	2.50	1.99	1.61		86	4.62	2.95	2.05	1.57	
12	4.02	2.53	1.79	1.59	A	37	4.11	2.49	*1.88*	1.65	E	62	*6.33*	*3.02*	2.32	*2.10*	ABC	87	5.17	2.60	2.04	1.99	
13	4.86	2.98	2.08	1.63		38	4.70	2.85	1.98	1.65		63	4.72	2.94	2.03	1.61		88	4.35	2.82	1.90	1.54	
14	4.97	2.92	1.79	1.70		39	4.76	2.63	2.02	1.81		64	*5.51*	2.65	1.64	*2.08*	ABC	89	4.76	2.72	2.09	1.75	
15	4.55	*2.92*	2.01	*1.56*	H	40	3.98	2.75	*1.96*	1.45	E	65	4.47	2.67	1.94	1.67		90	4.60	3.28	*2.59*	1.40	E
16	4.42	*3.08*	2.55	*1.44*	E	41	4.94	2.91	2.01	1.70		66	4.16	3.08	1.92	1.35		91	4.68	2.90	1.91	1.61	
17	4.94	2.90	1.96	1.70		42	5.14	3.22	2.17	1.60		67	4.40	2.67	1.91	1.65		92	4.92	2.85	1.85	1.73	
18	4.85	3.00	2.03	1.62		43	4.47	2.98	2.18	1.50		68	4.87	2.72	1.89	1.79		93	4.10	*2.43*	1.59	*1.69*	AB
19	4.51	2.88	1.93	1.57		44	4.88	3.02	2.10	1.62		69	*4.72*	*2.45*	1.95	*1.93*	AB	94	4.39	2.78	2.00	1.58	
20	5.08	2.95	2.00	1.72		45	4.86	3.02	2.08	1.61		70	4.59	2.90	2.09	1.58		95	4.44	2.96	2.04	1.50	
21	4.51	2.17	1.90	2.08		46	4.50	2.87	1.78	1.57		71	4.51	2.95	1.99	1.53		96	4.76	2.96	1.94	1.61	
22	4.89	2.95	*2.27*	1.66	E	47	4.85	2.91	2.04	1.67		72	4.86	2.95	2.14	1.65		97	4.55	2.93	2.21	1.55	
23	4.66	3.00	2.23	1.55		48	4.85	2.84	2.18	1.71		73	4.73	3.07	1.77	1.54		98	4.47	2.85	1.77	1.57	
24	4.54	2.82	2.03	1.61		49	4.63	*2.51*	*2.09*	*1.84*	A	74	4.85	3.05	2.12	1.59		99	4.10	2.91	1.87	1.41	
25	*4.76*	2.65	1.88	*1.80*	F	50	4.74	2.65	1.89	1.79		75	4.90	3.14	2.37	1.56		100	4.46	2.85	1.88	1.56	

長さ計　465.69g
幅　計　283.44g
厚み計　199.49g

サンプルH

単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	4.37	3.36	1.96	1.30		26	4.89	2.84	2.10	1.72		51	4.50	2.99	1.97	1.51		76	4.74	2.65	1.77	1.79	
2	4.60	2.64	1.86	1.74		27	4.38	2.81	1.59	1.56		52	4.35	2.47	1.61	1.76		77	4.54	2.68	1.82	1.69	撮影
3	4.41	2.75	1.82	1.60		28	4.72	3.26	1.98	1.45		53	*4.15*	2.78	1.87	*1.49*		78	4.51	2.72	1.80	1.66	
4	4.02	2.64	1.79	1.52		29	4.76	3.06	2.33	1.56	A	54	4.63	2.37	1.73	1.95		79	4.49	2.66	1.97	1.69	
5	4.68	2.96	*1.97*	1.58	E	30	4.60	2.93	2.15	1.57		55	4.31	2.74	1.74	1.57		80	4.21	2.64	1.80	1.59	
6	4.48	2.81	1.97	1.59		31	4.25	2.75	1.89	1.55		56	4.43	2.96	2.03	1.50		81	4.12	2.26	1.85	1.82	撮影
7	4.45	2.99	1.79	1.49		32	4.99	3.00	2.35	1.66		57	4.24	2.68	1.90	1.58		82	4.18	2.42	1.60	1.73	
8	4.08	2.44	1.59	1.67		33	4.72	3.01	2.08	1.57		58	4.51	2.83	2.05	1.59		83	4.14	2.79	1.88	1.48	
9	4.24	2.44	1.70	1.74		34	4.85	3.08	1.93	1.57		59	4.38	2.83	1.88	1.55		84	4.55	2.69	2.09	1.69	
10	4.23	2.66	1.75	1.59		35	4.94	2.89	2.06	1.71		60	4.31	2.49	1.74	1.73		85	4.32	*3.01*	*2.09*	*1.44*	AB
11	4.33	2.70	1.84	1.60		36	5.31	3.20	2.18	1.66		61	4.55	*2.33*	1.75	*1.95*	A	86	4.53	2.61	1.72	1.74	
12	4.88	2.96	2.11	1.65		37	4.11	*2.49*	1.88	*1.65*	E	62	4.46	2.52	1.66	1.77		87	4.34	2.81	1.79	1.54	
13	4.77	2.62	1.84	1.82		38	4.70	2.85	1.98	1.65		63	4.39	2.77	1.92	1.58		88	4.47	2.57	1.93	1.74	
14	4.74	2.83	1.91	*1.67*	A	39	4.76	2.63	2.02	1.81		64	4.54	3.10	1.97	1.46		89	4.17	2.68	1.94	1.56	
15	4.91	2.79	1.97	1.76		40	3.98	2.75	1.96	1.45		65	*4.45*	2.71	1.73	*1.64*	AB	90	4.05	2.53	1.72	1.60	
16	4.46	2.66	1.93	1.68		41	4.94	2.91	2.01	1.70	撮影	66	4.48	2.87	1.97	1.56		91	4.37	2.84	1.99	1.54	
17	4.49	2.69	1.87	1.67		42	5.14	3.22	2.17	1.60		67	4.07	2.75	1.86	1.48		92	4.34	2.75	2.01	1.58	
18	4.81	2.51	1.71	1.92		43	4.47	2.98	2.18	1.50		68	4.31	2.75	1.79	1.57		93	4.38	2.51	1.69	1.75	
19	4.34	2.63	1.72	1.65		44	4.88	3.02	2.10	1.62		69	4.76	2.79	1.93	1.71		94	4.51	2.65	1.72	1.70	
20	3.70	2.19	1.48	1.69		45	*4.86*	3.02	2.08	*1.61*	F	70	4.79	2.75	1.93	1.74		95	4.33	2.66	1.82	1.63	
21	3.64	2.14	1.51	1.70		46	4.50	*2.87*	1.78	*1.57*	E	71	4.94	2.87	1.89	1.72		96	4.13	2.75	1.76	1.50	
22	4.29	2.81	1.83	1.53		47	4.85	2.91	2.04	1.67		72	4.36	2.88	1.91	1.51		97	*4.51*	2.35	1.53	*1.92*	F
23	3.82	2.18	1.55	1.75		48	4.85	2.84	2.18	1.71		73	4.01	2.82	1.87	1.42		98	*4.40*	2.63	1.88	*1.67*	F
24	3.98	2.09	1.47	1.90		49	4.63	2.51	*2.09*	1.84	E	74	4.48	2.88	2.05	1.56		99	4.52	2.87	1.95	1.57	
25	4.28	2.74	1.90	1.56		50	4.74	2.65	*1.89*	1.79	A	75	4.35	2.71	1.95	1.61		100	4.62	2.83	2.09	1.63	

長さ計　441.43g
幅　計　269.99g
厚み計　185.69g

炭化米計測表（５）

サンプルＩ

単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	5.25	3.05	1.99	1.72		26	4.79	2.87	2.06	1.67		51	4.55	2.94	1.71	1.55	A	76	4.43	3.08	2.10	1.44	AG
2	5.32	2.90	2.14	1.83		27	5.02	2.89	2.28	1.74	H	52	4.37	2.27	1.62	1.93		77	4.78	2.92	1.94	1.64	ABC
3	5.14	2.74	1.94	1.88	ABC	28	5.49	3.11	1.74	1.77	ABC	53	4.86	2.87	2.04	1.69		78	4.22	2.33	1.60	1.81	FH
4	4.52	3.21	2.21	1.41	A	29	4.86	2.94	1.92	1.65	A	54	4.65	3.05	1.85	1.52	E	79	4.39	2.91	1.95	1.51	
5	5.61	2.77	1.90	2.03	ABC	30	4.32	3.19	1.68	1.35	AB	55	5.05	3.08	2.08	1.64		80	4.98	2.88	1.85	1.73	
6	5.00	2.73	2.13	1.83	ABC	31	4.46	2.56	1.73	1.74	AB	56	4.24	2.91	2.00	1.46	E	81	4.80	2.60	1.95	1.85	H
7	4.51	2.86	1.93	1.58	A	32	4.71	3.04	2.13	1.55		57	4.46	3.33	1.92	1.34	D	82	4.47	2.74	1.78	1.63	
8	4.25	2.74	2.07	1.55		33	5.13	2.79	1.84	1.84	A	58	4.88	2.64	1.72	1.85	A	83	5.57	2.98	1.80	1.87	AB
9	5.17	3.07	2.17	1.68	A	34	4.62	3.12	2.21	1.48		59	4.96	3.21	2.02	1.55	AB	84	4.64	2.64	1.58	1.76	EH
10	4.78	2.81	1.95	1.70		35	5.17	3.12	2.17	1.66		60	4.65	3.10	2.10	1.50		85	5.03	2.92	2.02	1.72	
11	4.60	2.84	2.03	1.62		36	4.57	2.89	1.81	1.58		61	4.99	3.31	2.47	1.51	AG	86	4.27	2.66	1.70	1.61	G
12	4.45	2.79	1.73	1.59	AB	37	5.05	2.65	1.81	1.91	ABC	62	5.38	2.59	1.88	2.08	AB	87	5.52	2.91	1.86	1.90	AB
13	4.53	2.66	1.81	1.70		38	5.22	3.08	2.14	1.69		63	4.42	2.80	2.07	1.58	AG	88	5.14	2.90	2.04	1.77	
14	5.44	2.60	1.64	2.09	ABC	39	4.16	2.56	1.87	1.63	A	64	4.74	2.95	2.00	1.61		89	4.52	2.84	1.74	1.59	
15	5.12	3.20	1.98	1.60		40	4.61	2.90	2.18	1.59		65	5.05	2.56	1.76	1.97	A	90	4.27	2.73	1.82	1.56	E
16	4.52	2.53	2.22	1.79		41	4.94	2.79	2.21	1.77	A	66	5.21	2.81	2.04	1.85		91	4.86	3.07	2.09	1.58	A
17	4.49	2.57	2.06	1.75	E	42	4.51	2.57	1.58	1.75	A	67	4.77	3.36	2.20	1.42	D	92	5.16	2.93	1.96	1.76	A
18	4.59	3.42	2.29	1.34		43	5.31	2.87	2.18	1.85		68	4.84	3.13	2.24	1.55		93	4.34	2.60	1.64	1.67	F
19	4.46	2.75	1.96	1.62		44	4.63	2.74	1.77	1.69	FH	69	4.05	3.32	2.16	1.22	E	94	4.56	2.53	1.61	1.80	A
20	4.50	2.68	1.77	1.68	AF	45	5.06	2.89	1.82	1.75	A	70	5.18	3.25	2.13	1.59	E	95	4.33	2.59	1.81	1.67	
21	4.54	2.71	1.98	1.68		46	5.17	3.06	1.72	1.69	AB	71	4.29	2.80	1.67	1.53	D	96	4.60	2.90	1.85	1.59	A
22	4.67	2.75	1.96	1.70		47	4.08	2.67	1.76	1.53		72	4.63	3.06	1.99	1.51	A	97	4.78	3.01	2.33	1.59	E
23	4.93	3.08	1.92	1.60	E	48	4.38	3.07	2.03	1.43	A	73	4.71	3.07	2.07	1.53		98	4.46	2.70	1.81	1.65	
24	4.60	2.58	1.67	1.78		49	5.22	2.68	1.56	1.95	ABC	74	4.21	2.77	2.00	1.52		99	4.49	2.93	1.97	1.53	E
25	5.07	2.96	1.90	1.71	A	50	5.02	3.09	1.94	1.62		75	5.09	2.89	1.98	1.76	EH	100	4.47	2.90	1.69	1.54	A

長さ計　475.87g
幅　計　284.68g
厚み計　193.70g

サンプルＪ

単位 mm

	長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考		長さ	幅	厚み	長/幅	備考
1	5.30	3.13	1.80	1.69	A	26	4.80	2.55	1.92	1.88		51	4.14	2.87	2.02	1.44	E	76	4.29	2.55	2.08	1.68	
2	4.55	2.90	1.88	1.57	A	27	4.33	2.74	1.85	1.58	A	52	4.30	2.59	1.91	1.66	H	77	4.98	3.70	1.90	1.35	AB
3	4.69	3.22	2.00	1.46	A	28	5.27	2.97	2.01	1.77	A	53	4.58	2.83	2.10	1.62		78	4.16	2.86	1.84	1.45	A
4	4.44	2.70	1.85	1.64	AB	29	4.68	2.98	2.09	1.57		54	4.32	2.87	1.86	1.51		79	4.21	2.96	2.09	1.42	
5	4.72	3.14	2.02	1.50		30	5.01	3.01	1.90	1.66	A	55	4.90	2.79	1.74	1.76		80	4.21	2.60	1.55	1.62	
6	4.85	2.83	2.17	1.71		31	4.49	2.76	1.81	1.63		56	4.48	3.05	1.96	1.47	EI	81	4.13	2.92	2.09	1.41	E
7	4.39	2.85	1.87	1.54		32	4.74	2.82	2.92	1.68		57	4.53	2.55	1.96	2.31		82	4.85	2.80	2.00	1.73	
8	4.84	2.84	1.80	1.70	A	33	5.08	2.97	1.97	1.71	A	58	4.99	3.01	2.27	1.66	E	83	4.85	2.77	1.89	1.75	E
9	3.76	2.85	2.18	1.32	A	34	4.33	2.67	2.21	1.62	E	59	5.03	2.99	2.06	1.68		84	3.90	3.09	1.94	1.26	I
10	4.93	3.10	2.24	1.59		35	5.37	2.90	1.82	1.85	AB	60	4.56	2.69	1.67	1.70	EI	85	3.94	2.69	2.04	1.46	E
11	4.16	2.29	2.63	1.82	AE	36	4.66	3.07	1.83	1.52	A	61	3.83	2.73	1.61	1.40		86	4.20	2.72	1.82	1.54	E
12	4.79	2.63	1.91	1.82	AE	37	4.44	2.86	1.90	1.55	A	62	4.78	2.53	1.76	1.89		87	4.64	2.77	1.87	1.68	
13	4.25	2.50	1.61	1.70	A	38	4.23	2.97	2.29	1.42	E	63	4.71	3.25	2.11	1.45	A	88	4.61	3.08	2.10	1.50	G
14	3.88	2.66	1.49	1.46	A	39	4.34	2.69	2.36	1.61	AE	64	4.83	2.92	1.97	1.65		89	4.72	2.99	2.00	1.58	E
15	4.62	2.54	1.87	1.82		40	4.84	3.19	2.38	1.52	E	65	4.34	2.98	1.80	1.46	A	90	4.44	2.68	2.16	1.66	
16	4.63	3.52	1.93	1.32	E	41	4.33	2.96	2.33	1.46		66	4.90	2.77	2.07	1.77	I	91	4.24	2.77	1.64	1.53	A
17	4.39	2.59	1.96	1.69	A	42	4.60	2.93	1.82	1.57	A	67	4.11	2.61	1.83	1.57	EI	92	4.62	2.83	1.93	1.63	
18	4.66	2.98	1.81	1.56	E	43	4.98	2.73	2.05	1.82	A	68	4.71	2.86	2.02	1.65		93	4.07	3.20	2.28	1.27	E
19	4.45	3.04	2.01	1.46	E	44	4.63	2.54	1.56	1.82	A	69	4.49	2.58	1.92	1.74		94	4.33	2.90	2.25	1.49	E
20	4.48	2.89	2.04	1.55	DI	45	4.62	2.87	1.72	1.61		70	4.76	3.21	2.30	1.48		95	4.52	3.25	1.87	1.39	A
21	4.40	2.83	1.82	1.55	EF	46	4.52	2.55	2.42	1.77	AE	71	4.74	2.42	1.77	1.96		96	4.53	2.80	1.99	1.62	AE
22	5.02	2.65	1.94	1.89	H	47	3.81	2.44	1.52	1.56		72	4.27	2.89	2.09	1.48	E	97	4.69	3.01	1.90	1.56	E
23	5.03	3.06	2.25	1.64		48	4.60	2.90	2.11	1.59		73	5.28	2.77	2.17	1.91	H	98	4.66	2.67	2.25	1.75	A
24	4.47	3.03	2.14	1.48	E	49	4.95	2.98	1.99	1.66	AE	74	4.34	2.91	1.77	1.49	A	99	4.44	2.45	2.14	1.81	
25	4.27	2.45	2.26	1.74	A	50	3.97	3.03	1.90	1.31	EI	75	5.06	2.67	1.92	1.90	A	100	4.34	2.98	1.96	1.46	

長さ計　445.14g
幅　計　284.68g
厚み計　198.40g

備考凡例
A：籾殻等の付着物あり
B：一部護穎つき
C：一部枝梗つき
D：焼け膨れ
E：弱い焼け膨れ
F：基部やや欠く
G：頂部やや欠く
H：側部やや欠く
I：表面の剥離すすむ
M：未熟米
X：米以外の可能性

欠損や付属物のある計測部分は斜体

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	いずみさわやついせき
書名	泉沢谷津遺跡
副書名	昭和59年度県営圃場整備事業荒砥北部地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第359集
編著者名	石坂　茂・飯田陽一・徳江秀夫
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2005年9月28日
作成法人ID	21005
郵便番号	377－8555
電話番号	0279－52－2511
住所	群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784－2
遺跡名ふりがな	いずみさわやついせき
遺跡名	泉沢谷津遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししいずみさわまちあざやつ
遺跡所在地	群馬県 前橋市 泉沢町 字谷津
市町村コード	10201
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	36° 24′ 08″
東経(日本測地系)	139° 29′ 44″
北緯(世界測地系)	36° 23′ 56″
東経(世界測地系)	139° 09′ 54″
調査期間	19841201－19850324
調査面積	8,300m²
調査原因	土地改良事業
種別	集落／墳墓／その他
主な時代	縄文／古墳／江戸
遺跡概要	集落－縄文－竪穴住居1－土坑1＋古墳－竪穴住居13－土坑1＋ 近世－掘立柱建物6－井戸7／ 墳墓－古墳－円墳3／ その他－時期不明－火葬跡1－土坑7－溝5
特記事項	古墳時代住居の床下土坑から多量の炭化米出土

群馬県埋蔵文化財調査事業団
財団法人

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第359集

泉沢谷津遺跡 《本　文　編》

昭和59年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告

平成17年９月21日　印刷
平成17年９月28日　発行

編集・発行／群　馬　県　教　育　委　員　会
〒371-8570　前橋市大手町１丁目１番１号
電　話（027）223－1111（代表）

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555　勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電　話（0279）52－2511（代表）
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印　刷／株式会社開文社印刷所

©2005